須玖岡本遺跡４

―坂本地区３・４次調査の報告―

福岡県春日市岡本所在遺跡の調査

春日市文化財調査報告書　第61集

２０１１

春 日 市 教 育 委 員 会

須玖岡本遺跡４

―坂本地区３・４次調査の報告―

福岡県春日市岡本所在遺跡の調査

春日市文化財調査報告書　第61集

２０１１

春 日 市 教 育 委 員 会

３次調査区（北から）

巻頭図版２

４次調査区全景（南東から）

４次調査１号竪穴状遺構（北から）

４次調査２号竪穴状遺構と１号溝（北西から）

巻頭図版４

３次調査出土銅鏃鋳型

３次調査出土鞴送風管

４次調査出土銅剣鋳型

４次調査出土銅矛鋳型

４次調査出土鞴送風管

４次調査出土銅矛中型

４次調査出土坩台

序

奴国の故地に比定されている福岡平野には、多数の弥生遺跡が存在します。特に、平野南部に位置する本市には、須玖岡本遺跡をはじめ弥生時代の著名な遺跡が密集しており、奴国の中心地であったと推定されています。

ここに報告します須玖岡本遺跡坂本地区は、平成２年度の発掘調査によって青銅器工房跡であることが明らかになった弥生時代の重要な遺跡です。その後、平成11年度まで都合６次にわたる調査を実施した結果、青銅器工房跡が広範囲に分布する状況が確認され、全国でも最大規模の青銅器生産遺跡として広く知られることになりました。

本書は須玖岡本遺跡坂本地区の３次及び４次調査の結果をまとめた報告書です。重要な遺跡の調査報告書としては決して充実した内容とはいえませんが、弥生文化研究の一資料として活用され、広く一般の方々にも御利用いただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査において御尽力、御協力をいただきました方々や、遺構、遺物等に関しまして御指導、御助言を賜りました多くの方々に深甚の謝意を表します。

平成23年３月31日

春日市教育委員会

教育長　**山　本　直　俊**

例　　言

1　本書は、平成４年１月10日から同年３月17日及び平成４年９月21日から平成５年１月６日にかけて春日市教育委員会が実施した須玖岡本遺跡坂本地区３次及び４次の発掘調査報告書である。

2　本遺跡は１次の発掘調査以来須玖坂本遺跡と呼称してきたが、平成15年度に須玖岡本遺跡の範囲に含めることとなったため、名称が須玖岡本遺跡坂本地区に変更になった。また、この名称変更に伴い、各調査次数を下記のとおり変更した。

従前の名称	現在の名称
須玖坂本遺跡１次調査	須玖岡本遺跡坂本地区１次調査
須玖坂本遺跡２次調査	須玖坂本Ｂ遺跡１次調査
須玖坂本遺跡３次調査	須玖岡本遺跡坂本地区２次調査
須玖坂本遺跡４次調査	須玖岡本遺跡坂本地区３次調査
須玖坂本遺跡５次調査	須玖岡本遺跡坂本地区４次調査
須玖坂本遺跡６次調査	須玖岡本遺跡坂本地区５次調査
須玖坂本遺跡試掘調査	須玖岡本遺跡坂本地区６次調査

3　遺構については、実測を丸山康晴、吉田佳広、篠原浩之（現朝倉市教育委員会）が行い、製図を池田由紀、牧平佳恵、伊東ひかり、須崎葉津子が行った。

4　遺物については、実測を平田定幸、吉田佳広、井上義也、牧野幸子、柳智子、坂田邦彦（現鳥取市教育委員会）、早瀬智美、吉富千春が行い、製図を平田、井上、牧野、柳、吉富が行った。

5　遺構写真は、丸山、吉田が担当し、空中写真は㈲空中写真企画に委託した。遺物写真については㈲文化財写真工房（岡紀久夫）に撮影を委託した。

6　本書に使用した５万分の１地形図は、国土交通省国土地理院発行の『福岡』である。

7　本書の遺構実測図に用いた方位は、座標北である。基準点測量は㈱アジア航測に委託した。

8　本書の執筆は平田、吉田、井上、牧野、柳が担当し、編集は執筆者の協力を得て平田が行った。

本 文 目 次

Ⅰ **はじめに**……1
1　調査に至る経過……1
2　調査の組織……1
Ⅱ **位置と環境**……3
Ⅲ **３次調査の内容**……8
1　調査の概要……8
2　遺　構……8
（1）土　坑……8
（2）溝……11
（3）掘立柱建物跡……17
（4）ピット……19
（5）包含層……19
3　遺　物……20
（1）土　器……20
（2）土製品……30
（3）青銅器生産関連遺物……30
①　石製鋳型等……30
②　中　型……35
③　坩堝／取瓶……35
④　輸送風管……38
⑤　銅滓・銅片……39
（4）ガラス製品生産関連遺物……39
（5）玉　類……40
（6）鉄　器……40
（7）石　器……41
（8）軽　石……47
（9）瓦……47
Ⅳ **４次調査の内容**……50
1　調査の概要……50
2　遺　構……50
（1）土　坑……50

（２）竪穴状遺構……55
（３）溝……55
（４）掘立柱建物跡……61
（５）ピット……65
（６）包含層……65
３　遺　物……65
（１）土　器……65
（２）土製品……81
（３）青銅器生産関連遺物……89
①　石製鋳型等……89
②　中　型……95
③　真土質土製品……98
④　坩堝／取瓶等……101
⑤　坩　台……104
⑥　鞴送風管……104
⑦　銅滓・銅片……107
（４）ガラス製品生産関連遺物……107
（５）鏡　片……108
（６）玉　類……109
（７）鉄　器……109
（８）石　器……109
（９）石製品……119
(10) 軽　石……119
Ⅴ　**まとめ**……120

図　版　目　次

巻頭図版１　　３次調査区（北から）
巻頭図版２　　４次調査区全景（南東から）
巻頭図版３　　４次調査１号竪穴状遺構（北から）
　　４次調査２号竪穴状遺構と１号溝（北西から）
巻頭図版４　　３次調査出土銅鏃鋳型
　　３次調査出土鞴送風管

４次調査出土銅剣鋳型
４次調査出土銅矛鋳型
４次調査出土鞴送風管
４次調査出土銅矛中型
４次調査出土坩台
図　版１　須玖岡本遺跡周辺航空写真（1991年撮影）
図　版２　須玖岡本遺跡周辺航空写真（北から、1979年撮影）

３　次　調　査

図　版３（１）３次調査区（西から）
（２）３次調査区全景（北から）
図　版４（１）３次調査区東半
（２）３次調査区西半（東から）
図　版５（１）３次調査区北東部（南から）
（２）３次調査区東部（南西から）
図　版６（１）土坑（北東から）
（２）１・２号溝Ⅰ区（南から）
図　版７（１）１号溝Ⅰ区遺物出土状態
（２）１号溝Ⅱ区遺物出土状態
図　版８（１）１号溝Ⅱ区北端断面土層（南東から）
（２）１号溝Ⅱ区遺物出土状態
（３）１号溝Ⅱ区遺物出土状態
図　版９（１）１号溝Ⅲ区北端断面土層
（２）１号溝Ⅳ区西端断面土層
（３）１・２・４号溝Ⅱ区北端断面土層（南東から）
図　版10（１）２号溝銅鏃鋳型出土状態
（２）４号溝Ⅲ区西端断面土層
図　版11（１）８号溝遺物出土状態（北から）
（２）８号溝遺物出土状態（西から）
図　版12（１）ピット23鋳型出土状態
（２）ピット26鉄器出土状態
（３）遺構検出時銅片出土状態
図　版13　土坑出土土器及び１号溝出土土器①
図　版14　１号溝出土土器②
図　版15　２号溝出土土器

図　版16　　３・４・７・８号溝出土土器
図　版17　　８号溝出土土器
図　版18（１）掘立柱建物跡・ピット出土土器
（２）土製品
図　版19　　石製鋳型等①
図　版20　　石製鋳型等②
図　版21　　石製鋳型等③
図　版22　　中　型
図　版23　　坩堝／取瓶・鞴送風管
図　版24（１）銅滓・銅片
（２）ガラス製品生産関連遺物
（３）小　玉
図　版25（１）鉄　器
（２）石　器①
図　版26　　石　器②
図　版27　　石　器③
図　版28（１）軽　石
（２）瓦

４　次　調　査

図　版29（１）４次調査区全景（北から）
（２）４次調査区全景（東から）
図　版30（１）４次調査区全景（南東から）
（２）４次調査区西部～中央部（南東から）
図　版31（１）１号土坑遺構検出時（北東から）
（２）１号土坑調査状況（北西から）
（３）１号土坑完掘状態（南西から）
図　版32（１）１号竪穴状遺構（南東から）
（２）１号竪穴状遺構床面遺物出土状態（北東から）
（３）１号竪穴状遺構断面土層（北から）
図　版33（１）１号竪穴状遺構断面Ｂ－Ｂ’土層北半
（２）１号竪穴状遺構断面Ｂ－Ｂ’土層南半
図　版34（１）１号竪穴状遺構断面Ｄ－Ｄ’土層東半
（２）１号竪穴状遺構断面Ｄ－Ｄ’土層西半
図　版35（１）１号竪穴状遺構上層土器出土状態

（２）１号竪穴状遺構銅矛鋳型出土状態
（３）１号竪穴状遺構鞴送風管出土状態
（４）１号竪穴状遺構石戈出土状態
図　版36（１）２号竪穴状遺構と１号溝（南から）
（２）２号竪穴状遺構と１号溝（北西から）
図　版37（１）１号溝Ⅴ区土器出土状態
（２）１号溝Ⅴ区土器出土状態
図　版38（１）２号掘立柱建物跡Ｐ５断面土層
（２）２号掘立柱建物跡Ｐ６断面土層
（３）ピット27鏡片出土状態
（４）表土下中型出土状態
（５）包含層銅片出土状態
（６）包含層銅片出土状態
図　版39　１・２号土坑出土土器及び１号竪穴状遺構出土土器①
図　版40　１号竪穴状遺構出土土器②
図　版41　１号竪穴状遺構出土土器③
図　版42　１号竪穴状遺構出土土器④
図　版43　１号竪穴状遺構出土土器⑤
図　版44　１号竪穴状遺構出土土器⑥
図　版45　１号竪穴状遺構出土土器⑦
図　版46　１号竪穴状遺構出土土器⑧
図　版47　１号竪穴状遺構出土土器⑨
図　版48　１号竪穴状遺構出土土器⑩及び２号竪穴状遺構出土土器
図　版49　１・２・４・７号溝出土土器
図　版50　７号溝及び１～５・７号掘立柱建物跡出土土器
図　版51　ピット出土土器及び包含層出土土器①
図　版52（１）包含層出土土器②
（２）土製品
図　版53　石製鋳型等①
図　版54　石製鋳型等②
図　版55　石製鋳型等③
図　版56（１）石製鋳型等④
（２）真土質土製品
図　版57　中　型①

図　版58　　中　型②
図　版59　　中　型③
図　版60　　坩堝／取瓶等①
図　版61（１）坩堝／取瓶等②
　　（２）坩　台
図　版62（１）鞴送風管
　　（２）銅滓・銅片
図　版63（１）ガラス製品生産関連遺物
　　（２）鏡　片
　　（３）小　玉
図　版64（１）鉄　器
　　（２）石　器①
図　版65　　石　器②
図　版66　　石　器③
図　版67　　石　器④

挿　図　目　次

第１図　須玖岡本遺跡と周辺の遺跡群……4
第２図　須玖岡本遺跡坂本地区周辺遺跡分布図……5
第３図　須玖岡本遺跡坂本地区位置図……6
第４図　須玖岡本遺跡坂本地区１～６次調査遺構配置図……9
第５図　３次調査遺構配置図……10
第６図　土坑実測図……11
第７図　溝断面土層図①……12
第８図　溝断面土層図②……14
第９図　溝断面土層図③……15
第10図　１・２号掘立柱建物跡実測図……18
第11図　３・４号掘立柱建物跡実測図……19
第12図　土坑出土土器実測図……20
第13図　１号溝出土土器実測図……21
第14図　２号溝出土土器実測図……22
第15図　３・４・７号溝出土土器実測図……23

第16図　８号溝出土土器実測図①……23
第17図　８号溝出土土器実測図②……24
第18図　掘立柱建物跡出土土器実測図……25
第19図　ピット出土土器実測図①……25
第20図　ピット出土土器実測図②……30
第21図　土製品実測図……30
第22図　石製鋳型等実測図①……31
第23図　石製鋳型等実測図②……32
第24図　中型実測図①……34
第25図　中型実測図②……35
第26図　坩堝／取瓶・輸送風管実測図……37
第27図　銅滓・銅片実測図……39
第28図　ガラス製品生産関連遺物実測図……40
第29図　小玉実測図……40
第30図　鉄器実測図……41
第31図　石器実測図①……42
第32図　石器実測図②……43
第33図　石器実測図③……44
第34図　石器実測図④……45
第35図　軽石実測図……47
第36図　瓦実測図……48
第37図　４次調査遺構配置図……51
第38図　１号土坑実測図……53
第39図　２・３・４号土坑実測図……54
第40図　１号竪穴状遺構実測図……56
第41図　２号竪穴状遺構・１号溝実測図……57
第42図　１号溝断面土層・土器出土状態実測図……60
第43図　４号溝実測図……61
第44図　１・３号掘立柱建物跡実測図……62
第45図　２号掘立柱建物跡実測図……63
第46図　４・５号掘立柱建物跡実測図……64
第47図　６・７号掘立柱建物跡実測図……65
第48図　１・２号土坑出土土器実測図……66
第49図　１号竪穴状遺構上層出土土器実測図①……67

第50図　１号竪穴状遺構上層出土土器実測図②……68
第51図　１号竪穴状遺構上層出土土器実測図③……69
第52図　１号竪穴状遺構上層出土土器実測図④……70
第53図　１号竪穴状遺構中層出土土器実測図①……71
第54図　１号竪穴状遺構中層出土土器実測図②……72
第55図　１号竪穴状遺構下層出土土器実測図①……73
第56図　１号竪穴状遺構下層出土土器実測図②……74
第57図　１号竪穴状遺構下層出土土器実測図③……75
第58図　１号竪穴状遺構下層出土土器実測図④……76
第59図　２号竪穴状遺構出土土器実測図……77
第60図　１・２・４・７号溝出土土器実測図……78
第61図　掘立柱建物跡出土土器実測図……79
第62図　ピット出土土器実測図……80
第63図　包含層出土土器実測図①……80
第64図　包含層出土土器実測図②……81
第65図　土製品実測図……81
第66図　石製鋳型等実測図①……90
第67図　石製鋳型等実測図②……91
第68図　石製鋳型等実測図③……92
第69図　石製鋳型等実測図④……93
第70図　中型実測図①……96
第71図　中型実測図②……97
第72図　中型実測図③……98
第73図　真土質土製品実測図 ……101
第74図　坩堝／取瓶等実測図① ……102
第75図　坩堝／取瓶等実測図② ……103
第76図　坩台実測図 ……105
第77図　鞴送風管実測図 ……106
第78図　銅滓・銅片実測図 ……107
第79図　ガラス製品生産関連遺物実測図 ……108
第80図　鏡片実測図 ……109
第81図　小玉実測図 ……109
第82図　鉄器実測図 ……110
第83図　石器実測図① ……111

第84図　石器実測図②……112
第85図　石器実測図③……113
第86図　石器実測図④……114
第87図　石器実測図⑤……115
第88図　石器実測図⑥……116
第89図　石製品実測図……119
第90図　軽石実測図……119
第91図　３次調査青銅器鋳造関連遺物出土分布図……122
第92図　４次調査青銅器鋳造関連遺物出土分布図……123

表　目　次

表１　３次調査出土土器観察表……26
表２　３次調査出土石製鋳型等一覧表……33
表３　３次調査出土中型観察表……36
表４　３次調査出土坩堝／取瓶観察表……38
表５　３次調査出土銅滓・銅片一覧表……39
表６　３次調査出土石器一覧表……46
表７　４次調査出土土器観察表……82
表８　４次調査出土石製鋳型等一覧表……94
表９　４次調査出土中型観察表……99
表10　４次調査出土坩堝／取瓶等観察表……104
表11　４次調査出土銅滓・銅片一覧表……108
表12　４次調査出土石器一覧表……117

Ⅰ　はじめに

1　調査に至る経過

須玖岡本遺跡坂本地区の発掘調査は、平成２年に須玖岡本遺跡周辺の重要遺跡確認緊急調査として行った１次調査をもって嚆矢とする。この調査において、かつて無い夥しい量の青銅器鋳造関連遺物が出土し、当地が他に類を見ない弥生時代の一大青銅器生産遺跡であることを明らかにした。続く２次調査では遺跡が東へと広がり、溝で囲繞された青銅器工房が連続して配置された状況が確認された。

一方、これまで水田として利用されていたため、大きく損なわれることなく本来の地形が保持されていた坂本地区周辺だが、１・２次調査地点については調査後に共同住宅が建設され、これ以降、宅地化が急速に進行し始め、このままでは遺跡全体の消滅さえ危惧される状況を呈して来た。本市においては当地一帯が埋蔵文化財の最重要区域のひとつであるとの認識から、遺跡の保護を進めていくためにも坂本地区における遺構群の範囲を確定し、その内容を把握することが急務となっていた。

今回報告する３次調査は、１・２次調査により確認された青銅器工房群の広がりと内容を把握するために発掘調査を行ったものである。調査に当たっては、まず、周辺の地権者に対して遺跡の重要性を説明し、発掘調査への協力を求める交渉を行った。その結果、１次調査地点の西に連続する休耕田の所有者に同意を得ることができた。３次調査は国・県の補助を受けた重要遺跡確認緊急調査として、平成４年１月10日から同年３月17日に実施し、確認された遺構は、調査終了直後に埋め戻しを行っており、現在も良好な状態で残存している。

また、４次調査は１次調査地点の北に接する水田において実施したものである。平成４年３月に地権者から文化課に対して住宅建設の計画が提示された。これまでの発掘調査の成果から、当地に青銅器工房跡が遺存することは明らかであるため、建設計画の変更を地権者に求めたが、地権者の開発に対する意志は固く建設準備が進められていった。このことを受け、同年５月に試掘調査を実施したところ、対象地全体に溝・土坑等の遺構が良好な状態で確認された。この後も地権者と保存の交渉を行ったが、地権者の同意を得ることはできず、最終的には平成４年９月21日から平成５年１月６日にかけて、発掘調査を実施した。調査後、共同住宅が建設されたが、遺跡の埋め戻しに際しては、出来るだけ遺構を損なわないよう慎重に行っており、駐車場部分については、現在も遺構が保護された状況にある。

2　調査の組織

春日市教育委員会が発掘調査を実施した平成３・４年度及び報告書作成の主要な業務を行った平成22年度の調査体制は以下のとおりである。

発掘調査（平成３年度）

教育長	三原英雄
教育部長	西田　譲
文化課長	矢野文一
文化財係長	鬼倉芳丸
主事	坂本智明
	筒井清昭
技師	丸山康晴
	平田定幸
	中村昇平
	吉田佳広
嘱託	池田洋子

発掘調査（平成４年度）

教育長	三原英雄
教育部長	糸山邦茂
文化課長	岩瀬憲二
文化財係長	鬼倉芳丸
主事	坂本智明
	筒井清昭
技師	丸山康晴
	平田定幸
	中村昇平
	吉田佳広
補助員	篠原浩之

報告書作成（平成22年度）

教育長		山本直俊
社会教育部長		古賀俊光
文化財課長		西尾純司
管理係長		居石正明
管理担当	主査	福間義彦
	主事	山田ひとみ
	主事	佐伯廣宣（７月～）
文化財課長補佐兼文化財係長		平田定幸
文化財担当	主査	中村昇平
	主査	吉田佳広
	主任	井上義也
	嘱託	牧野幸子、柳智子、松田千恵（～６月）、上原あい（７月～）

発掘調査に際しては、地権者をはじめ地元の方々に多大な御理解・御協力をいただきました。厚くお礼申し上げます。

なお、発掘調査及び整理作業においては、福岡大学名誉教授小田富士雄氏、西南学院大学名誉教授唐木田芳光氏、國學院大學教授柳田康雄氏、福岡大学教授武末純一氏、九州大学教授岩永省三氏、愛媛大学准教授吉田広氏ほか多くの方々に、御指導並びに御教示をいただきました。ここに記して深甚の謝意を表します。

Ⅱ　位置と環境

須玖岡本遺跡坂本地区は、福岡県春日市岡本１丁目78番外に所在する。

当地は奴国の故地に比定されている福岡平野の南端に占地し、脊振山塊から北東へ派生した春日丘陵が平野部へと移行するその境付近に位置する。標高は19m前後を測り、昭和30年代以前はこのあたりから北方の低地一帯には水田が広がっていた。

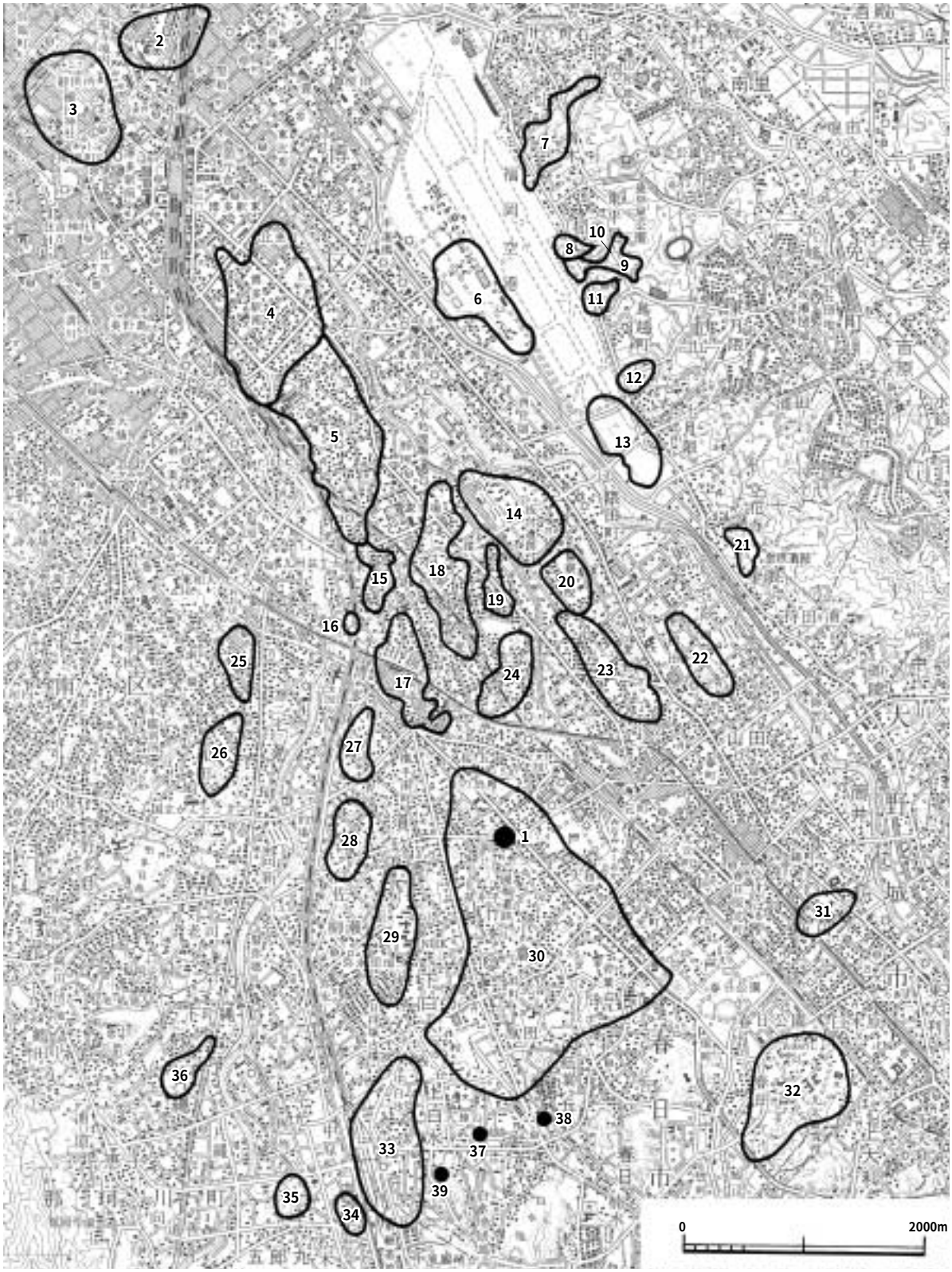
福岡平野では例年多数の遺跡が発掘調査され、多大な成果がもたらされているが、旧石器、縄文時代の特筆すべき遺跡は少ない。旧石器、縄文時代の遺跡は平野の各所に散見されるものの小規模で出土遺物の量が僅少な場合が多く、獲得経済段階における人々の生活は、この地域ではさほど活発な状況ではなかったものと推定される。

ところが、弥生時代になると、福岡平野は、列島における先進地としての地位を占めることとなった。特に、平野を潤す那珂川と御笠川との間に形成された台地や丘陵上には、板付遺跡や比恵遺跡群、那珂遺跡群、須玖遺跡群など全国的に著名な遺跡が連続している。また、平野の東側を区切る月隈丘陵上にも金隈遺跡や月隈遺跡などの大規模な遺跡が点在しており、奴国時代の繁栄を垣間見ることができる(1)。

数多く分布する福岡平野の弥生遺跡の中にあって、須玖遺跡群は遺跡の規模や出土遺物の質、量が卓越した内容を示している。平野南部に位置するこの遺跡群は、多数の副葬品を有する王墓が発見された須玖岡本遺跡を中核として、南北約２㎞にわたって間断なく集落跡が展開している(2)。また、当遺跡群では、青銅器や鉄器、ガラス玉類を製作した工房跡の相次ぐ発見に伴い、それらの製作に関係した各種遺物が集中的に出土していて(3)、まさしく奴国の王都と呼ぶに相応しい様相を呈している。特に須玖岡本遺跡周辺には全国で初めて弥生時代の青銅器工房跡が発見された須玖永田遺跡や、ガラス工房跡の存在が確認された須玖五反田遺跡、多数の青銅器鋳造関連遺物が出土している須玖坂本遺跡Ｂ地点など、青銅器やガラス等の生産に関係した資料を多数出土する遺跡が密集している。

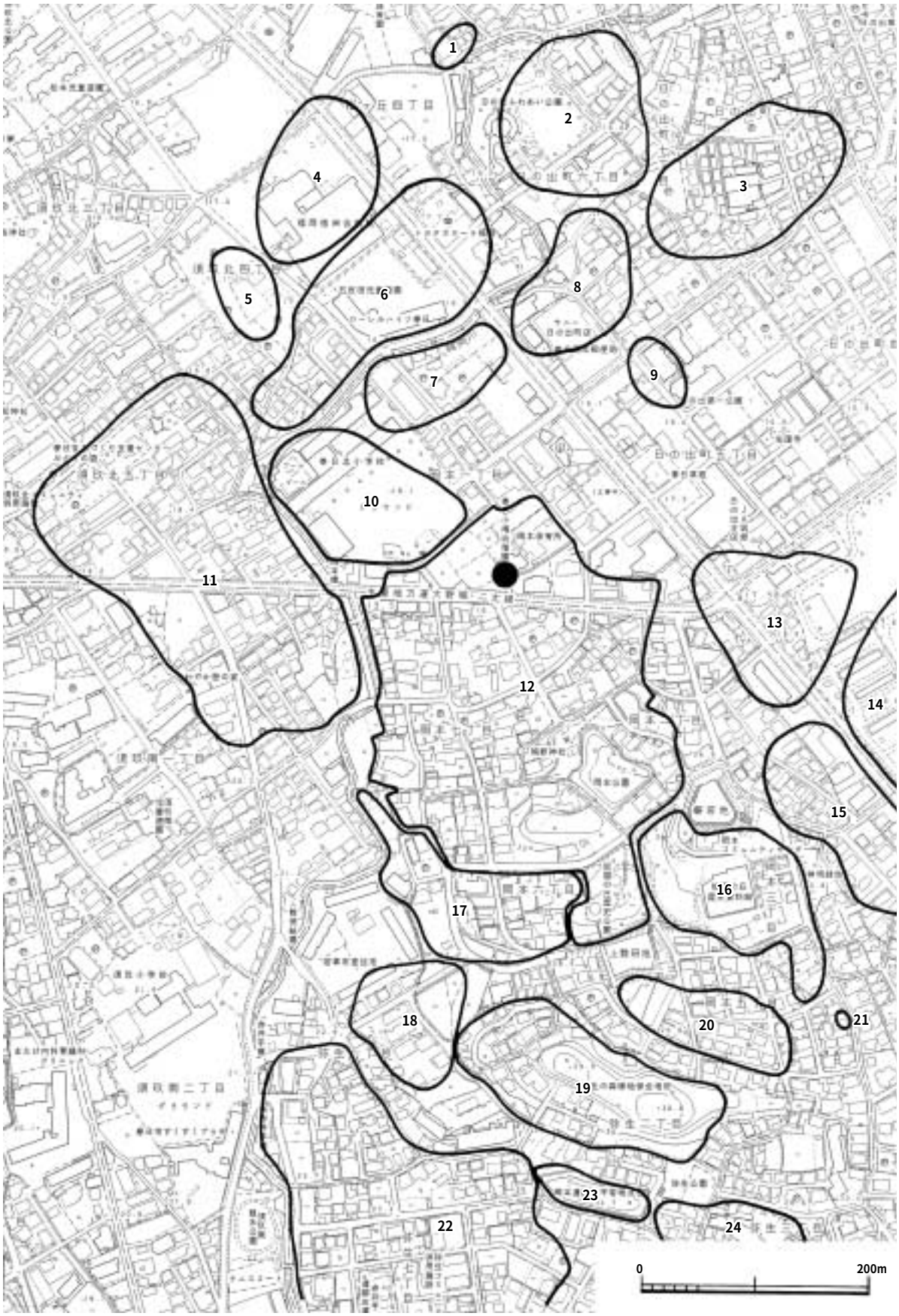
須玖遺跡群の北部に位置する須玖岡本遺跡には、王墓に隣接してその北～北西側に副葬品を高い比率で出土する弥生時代中・後期の墳墓群があり、奴国の首長層の墓地とみることができる。坂本地区はこの王墓を中心とした墳墓群の北東側隣接地に当たり、坂本地区の調査で明らかになった大規模な青銅器工房群は、奴国の首長層によって直接統轄されていたと推察されよう。

一方、福岡平野における古墳時代の主要遺跡は、弥生時代とはやや異なった分布内容を示す。古墳時代の初期には平野中央部の那珂台地に全長80mの那珂八幡古墳が築造され、その周辺には弥生時代から継続した古墳時代の大規模な集落が存在する。その後、那珂川流域には安徳大塚古墳や貝徳寺古墳、日拝塚古墳、東光寺剣塚古墳、下白水大塚古墳などの前方後円墳が相次いで築造された。他方、集落跡の状況を見ると須玖遺跡群では弥生時代が終わると突如として著しい縮小傾向が看取され、かわって那珂川に面した低地や台地上に新たな集落が出現する。古墳時代になると平野の中枢は須玖遺



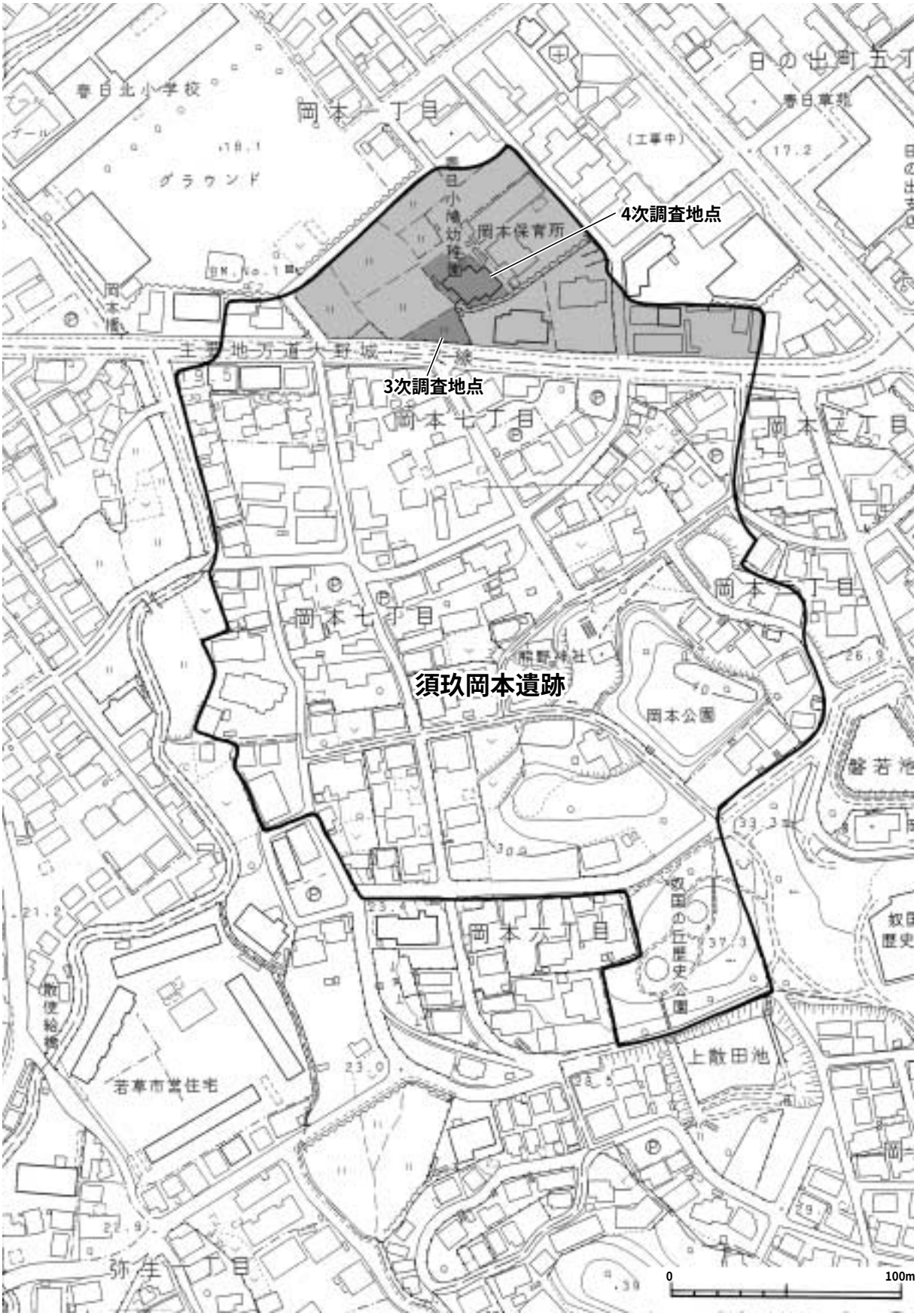
1	**須玖岡本遺跡**	2	堅粕遺跡	3	博多遺跡群	4	比恵遺跡群	5	那珂遺跡群
6	雀居遺跡	7	席田青木遺跡群	8	久保園遺跡	9	席田大谷遺跡群	10	赤穂の浦遺跡
11	宝満尾遺跡	12	天神森遺跡群	13	下月隈Ｃ遺跡群	14	板付遺跡	15	五十川遺跡群
16	井尻Ａ遺跡群	17	井尻Ｂ遺跡群	18	諸岡Ａ遺跡群	19	諸岡Ｂ遺跡群	20	高畑遺跡
21	金隈遺跡	22	仲島遺跡	23	麦野Ａ遺跡群	24	笹原遺跡群	25	大橋Ｅ遺跡
26	三宅Ｂ遺跡	27	横手遺跡群	28	曰佐遺跡群	29	曰佐原遺跡群	30	須玖遺跡群
31	石勺遺跡	32	御供田遺跡群	33	上白水遺跡群	34	中原塔ノ元遺跡群	35	松木遺跡群
36	観音堂遺跡群	37	天神山水城跡	38	大土居水城跡	39	ウトグチ瓦窯跡		

第１図　須玖岡本遺跡と周辺の遺跡群（1/50,000）



● **須玖岡本遺跡坂本地区**
1 比恵尻 2 須玖楠町 3 須玖黒田 4 須玖唐梨
5 智者ケ本 6 須玖五反田 7 須玖永田Ｂ 8 須玖永田Ａ 9 水町
10 須玖坂本Ｂ 11 須玖タカウタ 12 須玖岡本 13 須玖尾花町 14 上平田・天田
15 野添 16 須玖盤石 17 岡本ノ上 18 草野 19 平若Ａ
20 上散田 21 岡本ノ辻 22 赤井手 23 須玖岡本（平若Ｂ） 24 平若Ｃ

第２図　須玖岡本遺跡坂本地区周辺遺跡分布図（1/5,000）



第３図　須玖岡本遺跡坂本地区位置図（1/2,500）

跡群が所在する南部域から中央部、或いは西部域へと移動したものと考えられる。

また、古墳時代の後期には、福岡平野南方の牛頸山山麓及びそこから派生した丘陵部で須恵器生産が開始され、９世紀まで継続して操業された。その痕跡は九州最大規模を誇る須恵器窯跡群である牛頸窯跡群の調査によって辿ることができる(4)。牛頸窯跡群の存在は福岡平野が古墳時代以降も九州における中心的位置を占めていたことを示唆するものといえよう。

７世紀後半には白村江の敗戦に起因する防衛施設として福岡平野と筑紫平野を結ぶ地峡部に水城が築堤された。これと一連をなす施設は、春日丘陵周辺にも造営され、天神山、大土居水城跡として現存する。また、水城と前後する時期には、春日丘陵の西南部にウトグチ瓦窯が操業された。この周辺に当窯で焼成された瓦を用いた建物が存在したと想定されるが、現在のところその痕跡は明らかとはなっていない。

８世紀には大宰府と鴻臚館の前身である筑紫館を結ぶ官道が整備され、春日公園内遺跡や先ノ原遺跡などの発掘調査でその痕跡が確認されている。これらの調査結果からするとこの官道は須玖岡本遺跡のすぐ東側を通っていたものと推定され、当遺跡内に散見される８世紀代の遺構、遺物については、官道との関連性を指摘できよう(5)。

註１　春日市教育委員会　2003『伯玄社遺跡』春日市文化財調査報告書第35集
２　平田定幸　2000「奴国」小田富士雄編『倭人伝の国々』学生社
３　春日市教育委員会編　1994『奴国の首都　須玖岡本遺跡』吉川弘文館
４　大野城市教育委員会　2008『牛頸窯跡群』大野城市文化財調査報告書第77集
５　春日市教育委員会　2003『春日市埋蔵文化財年報10』
　　春日市教育委員会　2008『春日市埋蔵文化財年報15』

Ⅲ　３次調査の内容

１　調査の概要

須玖岡本遺跡坂本地区３次調査地点は、１次調査地点の西側に隣接する202㎡を対象として実施した。遺構面の標高は18.20ｍを測り、１・２次調査地点とほぼ同コンタライン上に位置している。

３次調査では調査区外に排土置き場が確保できなかったため、まず、対象地の東半部を調査し、その後に残る西半部の反転調査を行った。発掘調査に際しては、初めに重機を使用して耕作土の除去を行った。弥生土器、須恵器、土師器、陶磁器などが混在する厚さ５㎝ほどの遺物包含層が露出してからは、人力により作業を進めた。遺物包含層には銅矛中型や銅滓など小片で出土する青銅器生産関連遺物が多く含まれるため、遺構検出の段階から特にこれらの遺物を見逃すことのないよう慎重に作業を進め、できる限り出土位置の記録に努めた。従前の発掘調査の状況から予想されたとおり、当地では多数の溝状遺構とピットが複雑に重複しており、遺構の新古関係については判別困難なものが多かった。

検出した遺構としては、土坑１基、溝16条、掘立柱建物跡４棟及び多数のピットがある。基本的に暗黄褐色の粘質土層に掘り込まれており、１・２次調査と同様の状況が確認された。

出土遺物としては、土器、土製品、石器、鉄器のほか、石製鋳型や中型、坩堝／取瓶、銅滓など多数の青銅器生産関連遺物が存在する。

２　遺　構

３次調査では、土坑１基、溝16条、掘立柱建物跡４棟及び多数のピットを検出した。調査で確認できた遺構の新古関係は次に示した（古→新）とおりである。

溝１←溝11

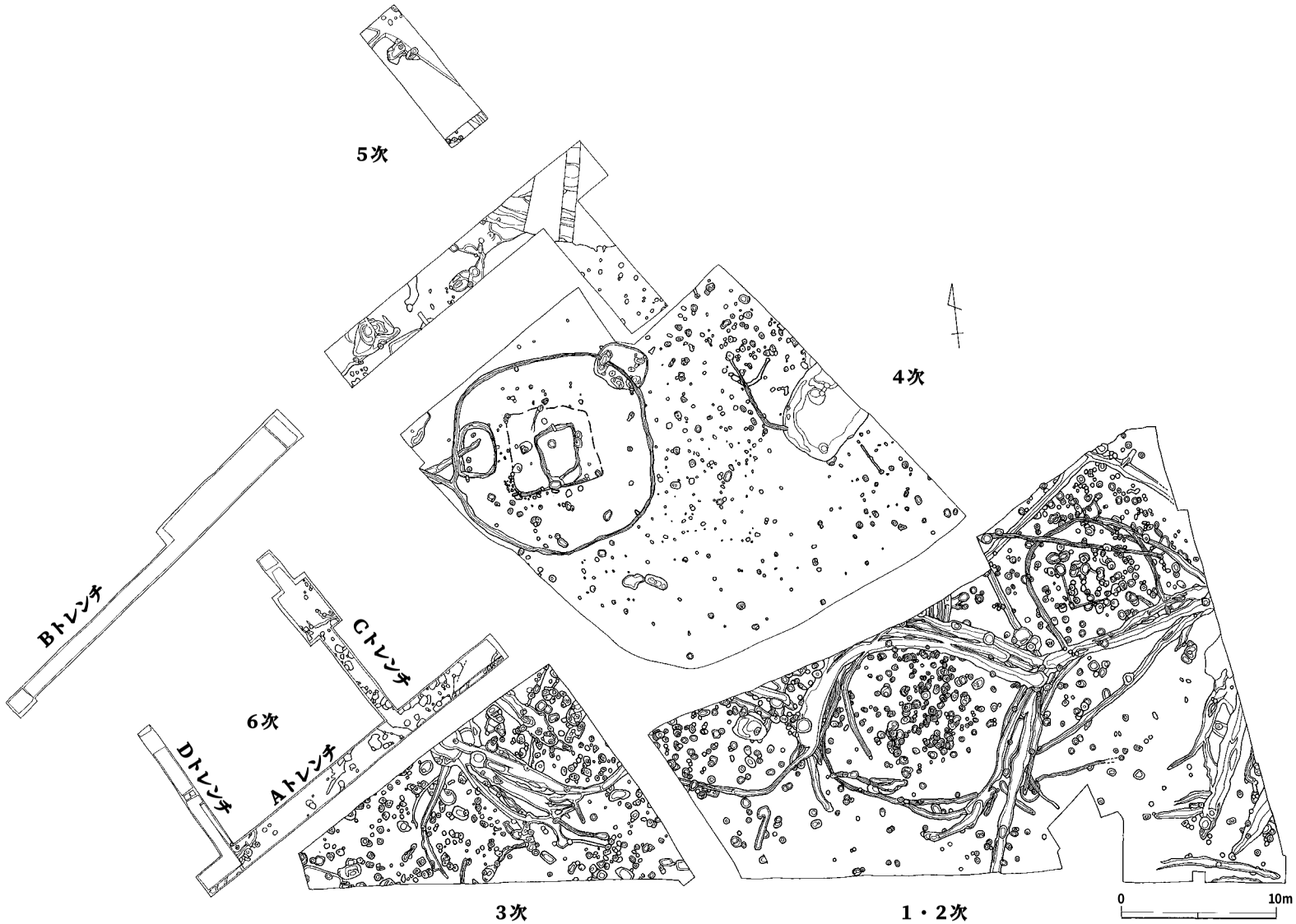
溝２←溝10←掘立２→掘立３

Ｐ９→溝４

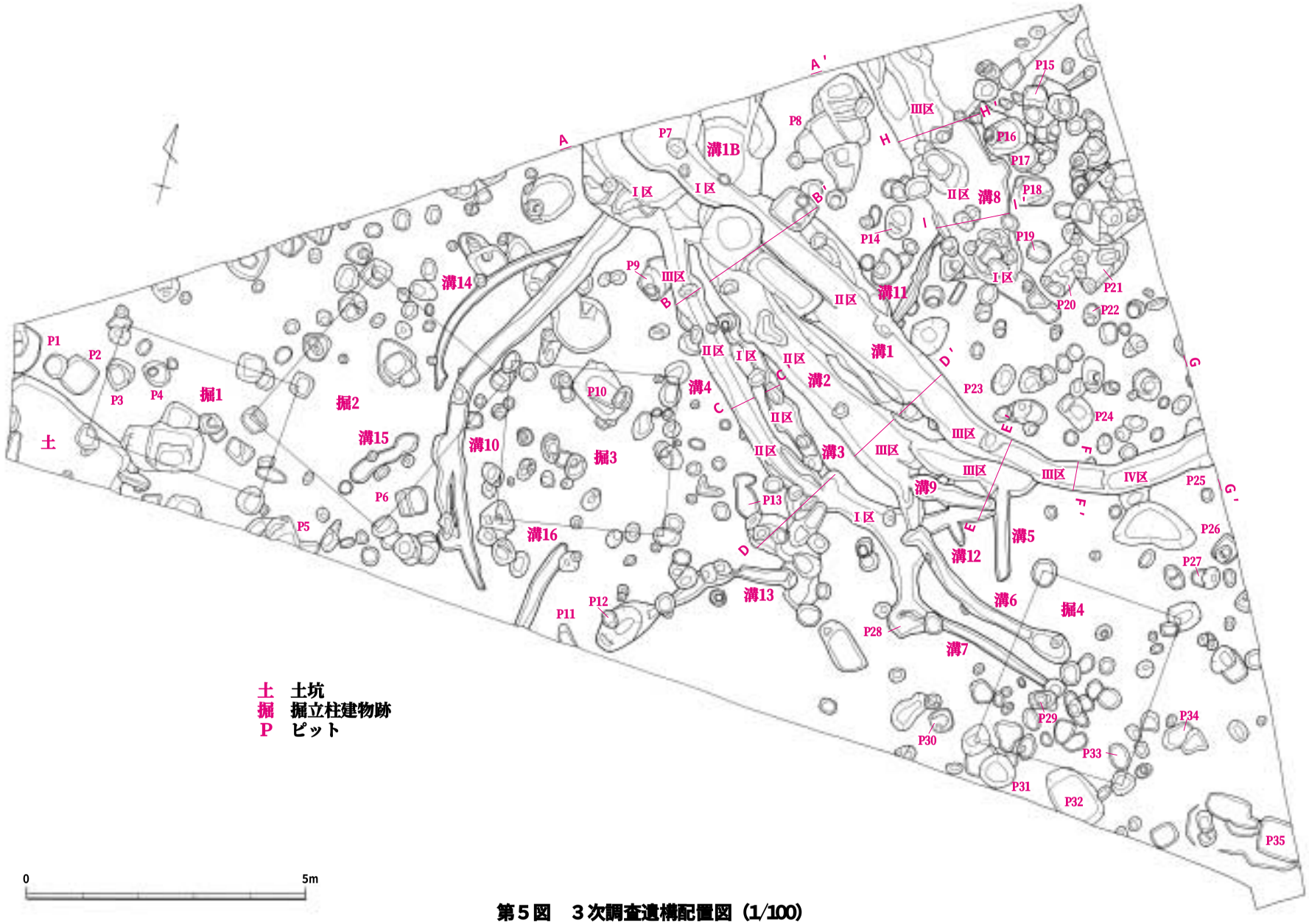
Ｐ12←溝13

（１）土　坑（図版６－⑴、第６図）

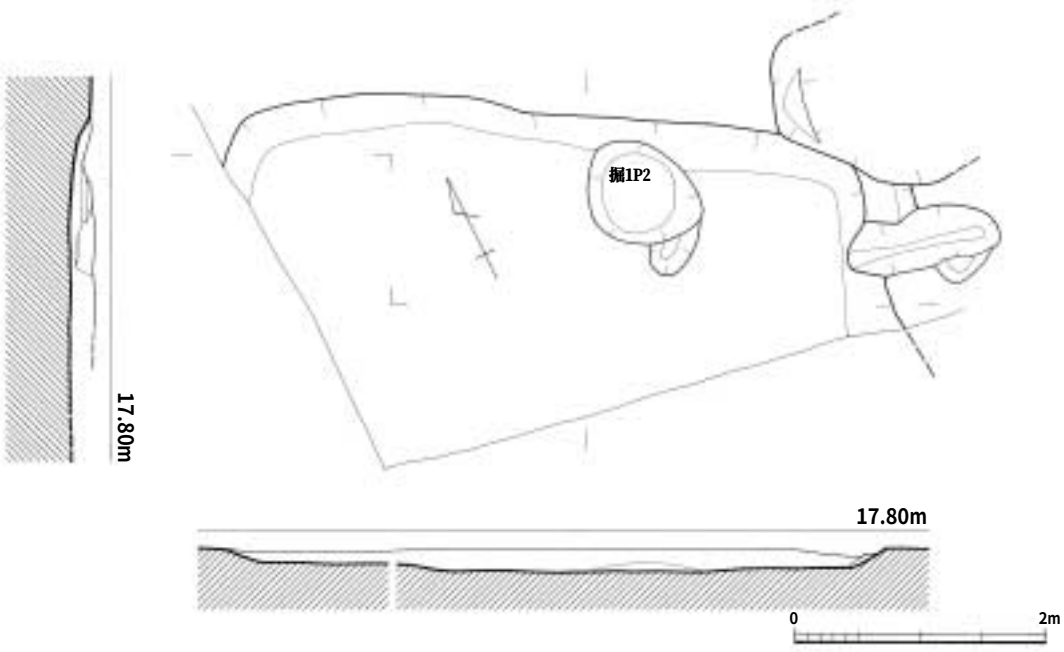
調査区の西端部に位置する。１号掘立柱建物跡Ｐ２と重複するが新古関係は不明である。調査区外にのびるため遺構の規模は不明だが、東西約5.5m、南北３ｍ以上の方形または長方形を呈するものと見られる。現存での深さは約15㎝で、底面は平坦である。



第４図　須玖岡本遺跡坂本地区１～６次調査遺構配置図（1/400）



第５図　３次調査遺構配置図（1/100）



第６図　土坑実測図（1/60）

当遺構からは弥生時代中期の土器が出土したが、いずれも小片である。

（２）　溝

調査区の東半部を中心に16条の溝を検出した。溝の形状は直線的なものと湾曲するものがあり、幅20～100㎝前後のものが重複する状況は、１・２次調査における検出状況と同様である。溝底のレベルは概ね北側に向かって低くなる状況が看取される。青銅器生産関連遺物の多くは、これらの溝から出土している。

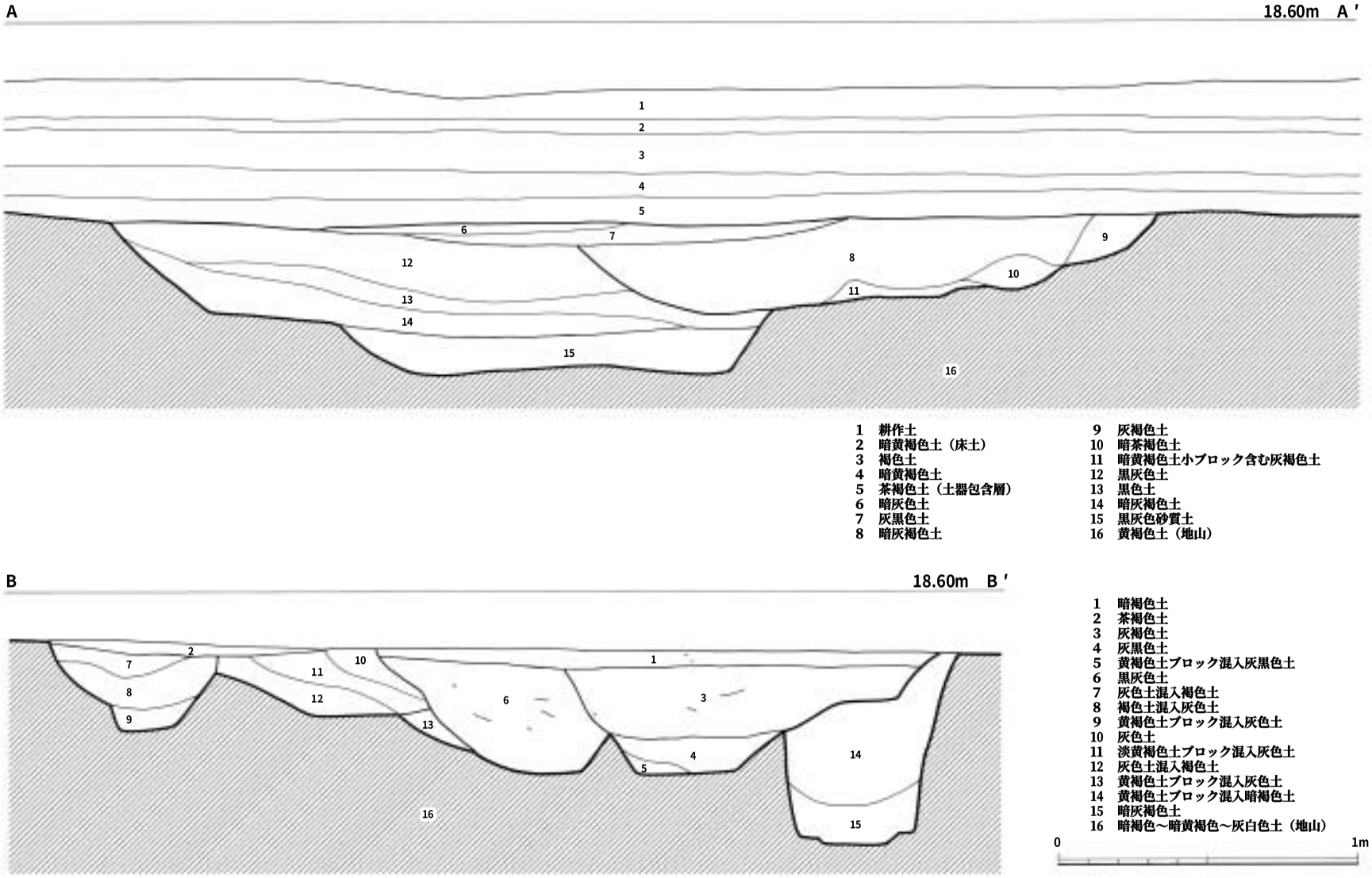
１号溝（図版６－⑵～９－⑶、第７～９図）

調査区東部に位置する。調査区北辺から２号溝の東側に並行・重複しながら直線的にのび、途中湾曲して調査区東辺へ抜ける。出土遺物は土層Ａ－Ｂ間をⅠ区、Ｂ－Ｄ間をⅡ区、Ｄ－Ｆ間をⅢ区、Ｆ－Ｇ間をⅣ区として取り上げた。Ⅰ区の東半を１号溝Ｂとしたが、これは別遺構の可能性もある。遺構の新古関係としては11号溝を切る。２号溝より新しい可能性が高い。長さ13ｍを検出した。溝幅は遺構検出面で45～100㎝、底面では28～80㎝を測る。断面形状は逆台形を呈し、深さは15～45㎝を測る。溝底面の傾斜は僅かに北側に低くなっている。Ⅱ区東側の下層から炭化物を検出した。

砥石・石包丁等の石器、鉄斧・鉄鏃等の鉄器、中型・鋳型・坩堝／取瓶・銅滓等の鋳造関連遺物が多く出土している。

２号溝（図版９－⑶～10－⑴、第７・８図）

調査区中央部に位置する。１号溝の西側に並行・重複しており、長さ10ｍを検出した。南西側に３



第７図　溝断面土層図①（1/20）

～６号、９号、10号溝が重複する。遺構の新古関係では10号溝に切られるが、他の遺構との関係は明瞭でない。幅約70～100㎝。深さは25～30㎝を測る。底面は北側に低くなっている。出土遺物は土層Ａ－Ｂ間をⅠ区、Ｂ－Ｄ間をⅡ区、Ｄより東側をⅢ区として取り上げている。

砥石・石包丁等の石器、鉄器、中型・鋳型・坩堝／取瓶・銅滓等の鋳造関連遺物が出土した。

３号溝（第７・８図）

調査区中央部に位置する。２号溝と４号溝の間に約3.4ｍの長さを検出した。幅約30～40㎝、深さ８～14㎝を測る。底面のレベルはほぼ水平である。出土遺物の取り上げは土層Ｃから北側をⅠ区、南側をⅡ区とした。

Ⅰ区から中型・銅矛鋳型等の鋳造関連遺物が出土している。

４号溝（図版９－⑶・10－⑵、第７・８図）

調査区中央部に２・３・５～７・９・12号溝と重複して検出した。ピット９を切る。３号溝より新しい可能性が高いが、他の遺構との新古関係は不明である。２号溝Ⅰ区から南東方向へ湾曲してのび、長さ約8.5ｍを測る。溝幅は50㎝前後で概ね一定し、深さは８～25㎝を測る。底面は北側に低くなっている。出土遺物は土層Ｄから東をⅠ区、Ｄ－Ｂ間をⅡ区、Ｂと２号溝の間をⅢ区として取り上げた。

砥石、鉄器、中型・鋳型・ガラス付着容器等の鋳造関連遺物が出土した。

５号溝

４号溝の東側に位置する。２号溝の東端付近から南方に約1.7ｍ直線的にのび、西側は４・９号溝に接している。遺構の新古関係は不明である。幅25㎝、深さ約10㎝を測る。

出土遺物は僅少だが中型が１点出土している。

６号溝

調査区南東部に位置する。２号溝Ⅲ区から南東方に湾曲してのびる。長さ4.4ｍを検出した。途中４号溝と交差し、７・９号溝、４号掘立柱建物跡と重複するが各遺構との新古関係は不明である。溝幅約30㎝、深さ３～12㎝を測る。溝底面は北西方に少し傾斜している。

中型２点、砥石等が出土しているが出土遺物は僅少である。

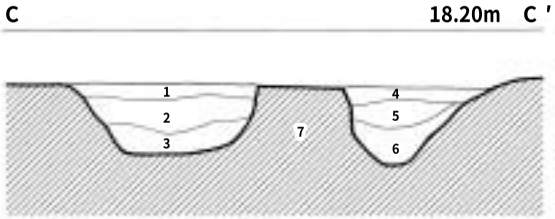
７号溝

調査区南東部に位置する。４号溝と６号溝が交差する部分から南方へのび、東へ屈曲する。東部は４号掘立柱建物跡と重複する。長さ3.3ｍを検出し、溝幅は15～70㎝を測る。深さは３～10㎝で、溝底面は北西方に低くなる。

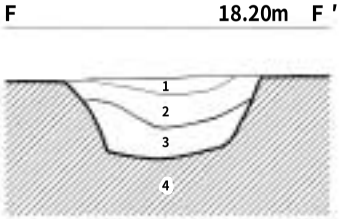
出土遺物として図示できるものは土器小片１点のみである。

８号溝（図版11－⑴・⑵、第９図）

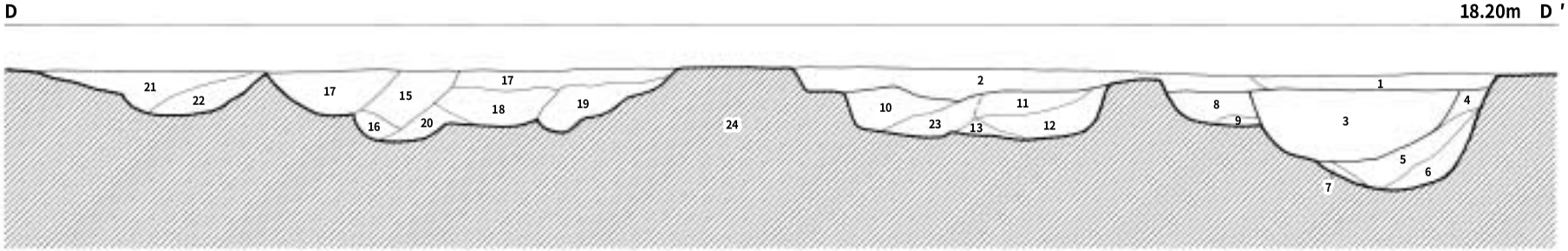
調査区北東部に位置する。調査区北辺から南東方にのび、約5.7ｍを検出した。出土遺物は土層Ⅰから南をⅠ区、Ｈ－Ⅰ間をⅡ区、土層Ｈから北をⅢ区として取り上げた。調査時はⅢ区で溝が北東方に屈曲しているものと判断したが、この部分については別の遺構である可能性もあろう。溝幅は最大



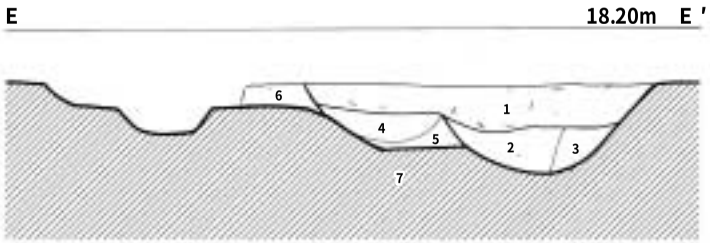
1 茶褐色土（土器小片含む）
2 暗茶褐色土（土器小片含む）
3 灰色砂混入茶褐色土
4 １と同じ
5 灰褐色土（土器小片含む）
6 暗黄褐色砂混入灰色砂
7 黄褐色土（地山）



1 茶褐色土
2 暗茶褐色土
3 暗灰褐色土
4 暗黄褐色土（地山）

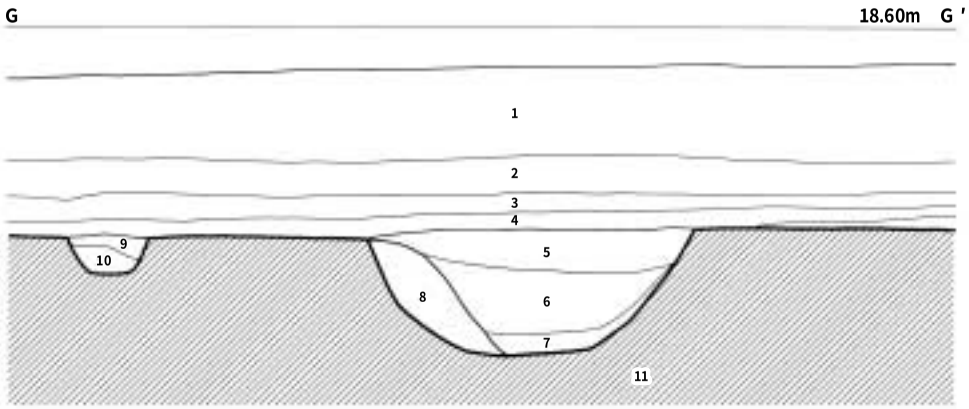


1 茶褐色土
2 暗茶褐色土
3 暗灰褐色土
4 黄褐色土
5 暗茶褐色土
6 黄褐色土ブロック混入暗茶褐色土
7 灰褐色土
8 灰黒色土
9 黄褐色土ブロック混入灰黒色土
10 ３と同じ
11 ９と同じ
12 ８と同じ
13 ９と同じ
14 暗褐色土
15 ８と同じ
16 ３と同じ
17 暗褐色土
18 ３と同じ
19 茶褐色土
20 茶褐色土
21 暗褐色土
22 淡黄褐色土混入暗灰色土
23 ８と同じ
24 暗黄褐色土～黄褐色土（地山）

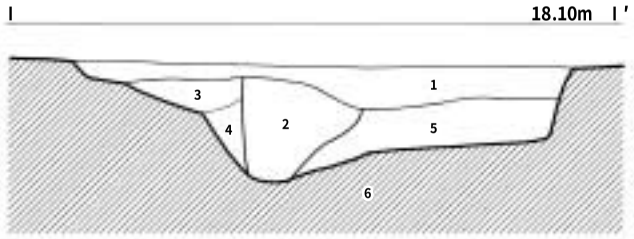


1 灰色砂混入茶褐色土（土器小片を多数含む）
2 暗茶褐色土（土器ほとんど含まず）
3 灰色土
4 ２と同じ
5 暗茶褐色土に黄褐色土小ブロックを含む
6 灰色土混入茶褐色土
7 明黄褐色土（地山）

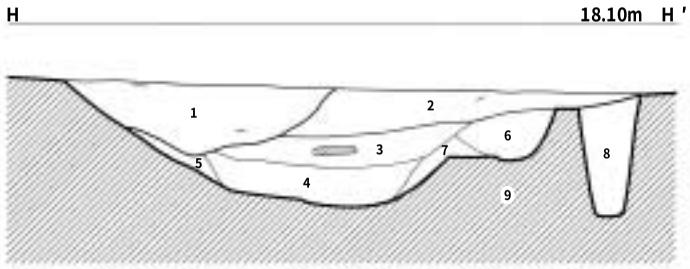
第８図　溝断面土層図②（１/20）



1　耕作土
2　暗黄褐色土（床土）
3　黄褐色土
4　茶褐色土粒混入褐色土
5　暗灰褐色土
6　黒灰色土
7　黄褐色土ブロック混入暗茶褐色土
8　茶褐色土
9　茶褐色土
10　灰褐色土
11　黄褐色土～淡黄褐色土（地山）



1　茶褐色土
2　暗灰褐色土
3　暗茶褐色土
4　淡黄灰色砂
5　淡黄灰色砂
6　暗黄褐色（地山）



1　暗灰褐色土
2　茶褐色土
3　暗茶褐色土
4　暗褐色土
5　黄灰色砂
6　４と同じ
7　５と同じ
8　ピット
9　暗黄褐色～黄褐色（地山）

第９図　溝断面土層図③（1/20）

部で140㎝を測る。深さは５～35㎝で、平均的には20㎝前後である。溝底面に凹凸が多いため判然としないが、傾斜は概ね北側へ低くなっている。11号溝と重複するが新古関係は不明である。

当遺構からは弥生時代中期後半の土器がまとまって出土している。また、石器、鉄器、ガラス小玉のほか、銅矛中型・鋳型等の青銅器生産関連遺物が多数出土した。

９号溝（第８図）

２号溝の南東側に位置する。北部が２号溝Ⅲ区、南部が４号溝Ⅰ区、東西が５号・６号溝と接しているが、各遺構との新古関係は不明である。長さ1.６ｍを検出した。溝幅約35㎝、深さ13～18㎝を測る。

出土遺物はごく少量の弥生土器片のみである。

10号溝

調査区中央部に位置する。２号溝Ⅰ区から南西方にのび、南半が湾曲して２条に分岐する。長さ7.８ｍを検出した。14号溝、２号掘立柱建物跡と重複する。２号溝に切られ、２号掘立柱建物跡Ｐ２を切っている。14号溝との新古関係は不明である。幅15～60㎝、深さ３～18㎝を測る。北側に向かって幅は広く、底面は低くなっている。

出土遺物は僅少だが、上層から銅矛中型が１点出土している。

11号溝

調査区北東部に位置する。溝の両端が１号溝と８号溝に接し、長さ1.８ｍを検出した。幅約20㎝、深さ６㎝を測る。底面はほとんど傾斜していない。１号溝に切られるが、８号溝との新古関係は不明である。

出土遺物はごく少量の弥生土器片のみである。

12号溝

調査区南東部に位置する。４号溝の東端部付近から南東に僅かに突出した溝で、長さ47㎝、幅約20㎝を測る。新古関係は不明である。

出土遺物はごく少量の弥生土器片のみで、図示し得るものはない。

13号溝

調査区の中央からやや南寄りの位置に検出した。長さ3.７ｍの東西方向に走る溝で、やや湾曲する。深さは６～12㎝を測る。両端に向かって溝底面が低くなっている。西端部は広がり、15㎝の段差がつく。ピット12に切られる。

出土遺物は少量の弥生土器片のみで、図示し得るものはない。

14号溝

調査区の中央からやや北西寄りの位置に検出した。10号溝の北端付近から南西方にのびる湾曲した溝で、長さ3.９ｍを検出した。２号掘立柱建物跡と重複するが各遺構との新古関係は不明である。幅20㎝前後、深さ約４㎝を測る。溝底面は北側が僅かに低くなっている。

出土遺物は僅少で、図示し得るものはない。

15号溝

10号溝の西側に位置する。２号掘立柱建物跡に重複して長さ1.4ｍを検出した。幅30㎝前後、深さ約４㎝を測る。

出土遺物はごく少量の弥生土器片のみで、図示し得るものはない。

16号溝

10号溝の南側に位置する。調査区南辺からのびる溝で約1.7ｍを検出した。幅28㎝、深さ３～６㎝を測り、僅かに湾曲している。溝底面はほぼ水平である。

出土遺物はごく少量の弥生土器片のみで、図示し得るものはない。

（３）掘立柱建物跡

掘立柱建物跡は４棟を検出した。これらの掘立柱建物跡の柱穴は、その他のピットとともに複雑に重複するため、発掘調査時に確認ができておらず、整理作業を行う過程で抽出したものである。

１号掘立柱建物跡（第10図）

調査区西部に位置し、１号土坑、２号掘立柱建物跡と重複する。Ｐ２を１号土坑の底面で検出しているが、新古関係については確認できていない。１間×１間の４本柱の建物で、桁行方向はＮ－84°－Ｗである。桁行3.3ｍ、梁間2.1ｍを測る。柱穴は径35～50㎝前後で、隅丸方形乃至不整楕円形を呈する。深さは20～25㎝を測る。

出土遺物は弥生土器小片と黒曜石砕片のみで、図示し得るものはない。

２号掘立柱建物跡（第10図）

調査区西部に位置し、10・14・15号溝、１・３号掘立柱建物跡と重複する。Ｐ２が10号溝に、Ｐ３が３号掘立柱建物跡Ｐ４に切られる。２間×１間の６本柱の建物で、桁行3.5ｍ、梁間3.0ｍを測る。桁行方向はＮ－26°30′－Ｅである。各柱穴は概ね隅丸方形を呈し、深さは20～40㎝を測る。Ｐ４～６は段掘りになっている。

主要な遺物としては、Ｐ４から出土した弥生後期の高坏脚部片及びＰ６から出土した坩堝／取瓶片や砥石があげられる。

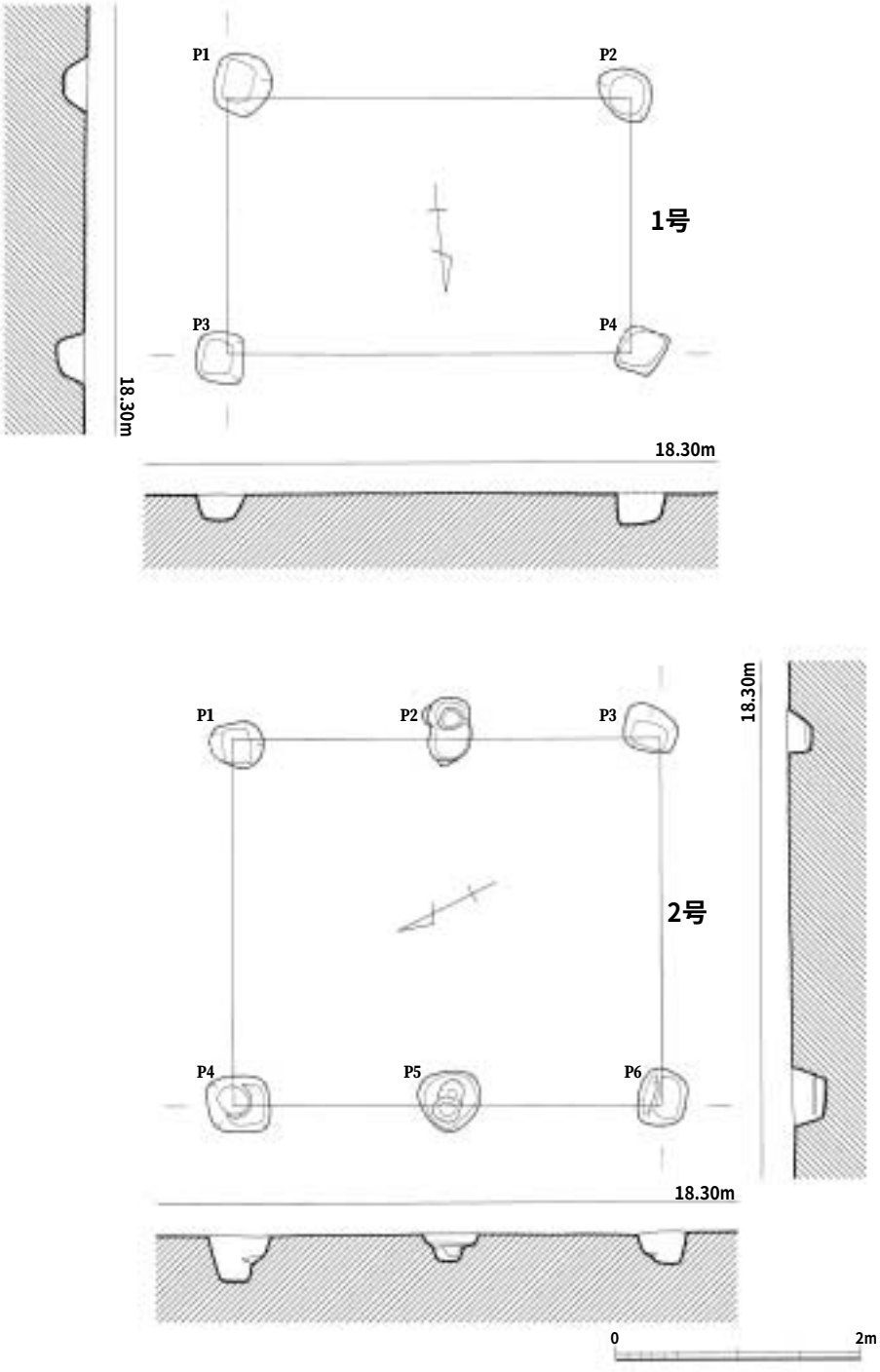
３号掘立柱建物跡（第11図）

調査区中央部に位置し、10号溝の東側に検出した。Ｐ４が２号掘立柱建物跡Ｐ３を切る。１間×１間の４本柱の建物で、桁行方向はＮ－82°－Ｅである。桁行3.0ｍ、梁間2.85ｍを測る。柱穴の形状は不整楕円形で、深さは20～30㎝を測る。

出土遺物は弥生土器小片と黒曜石砕片のみで、図示し得るものはない。

４号掘立柱建物跡（第11図）

調査区南東部に位置し、６・７号溝の東部が重複する。１間×１間の４本柱の建物で、桁行3.15～3.3ｍ、梁間2.6～2.75ｍとプランがやや歪である。桁行方向はＮ－５°－Ｅである。各柱穴の平面形



第10図　１・２号掘立柱建物跡実測図（1/60）

は円形もしくは不整楕円形で、深さは12～22㎝を測る。

出土遺物は弥生土器小片のみで、図示し得るものはない。

（４）ピット

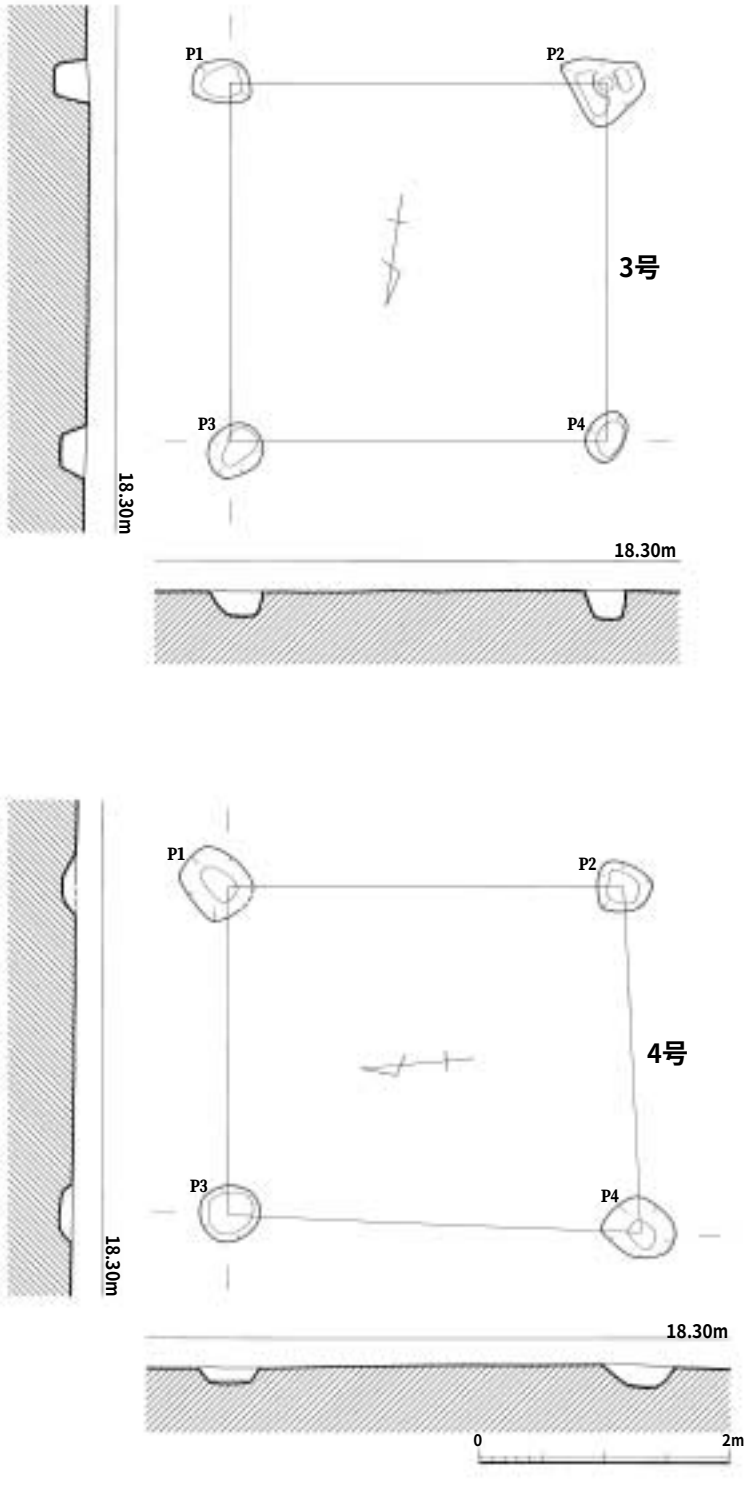
（図版12－(1)・(2)）

調査区全体に多数のピットを検出した。掘立柱建物跡として取り上げたもの以外にも建物の柱穴が少なからず存在すると考えられる。特に調査区北東部において密集するピット群は溝の配置、青銅器生産関連遺物の出土状況等から青銅器工房が存在していた可能性が高い。

土器小片を含め遺物が出土したピットは331個あったが、本報告において図示した遺物が出土したピット（以下、Ｐと記す）には第５図の遺構配置図に番号を付している。

（５）包含層（図版12－(3)）

調査区には厚さ約15㎝の耕作土の下に褐色土、暗黄褐色土、茶褐色土が堆積していた。この直下が黄褐色土の地山で遺構検出面である。褐色土及び暗黄褐色土層内には殆ど遺物が認められなかったが、遺構検出面直上の茶褐色土層には青銅器生産関連遺物を含む多種の遺物が包含されていた。



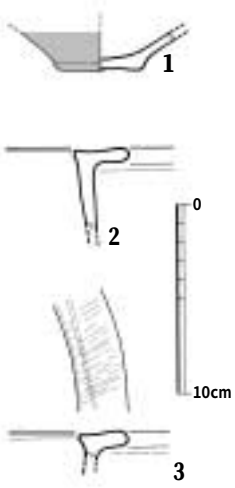
第11図　３・４号掘立柱建物跡実測図（1/60）

3　遺　物

（1）土　器（図版13～18－(1)、第12～20図）

土坑出土土器（1～3）

1は丹塗壺の底部で、外面には僅かにヘラミガキが残存する。2は甕の口縁部で、内端が鳥嘴状に突出する。3は甕の口縁部で、上面には鋭利な工具による線刻を有す。



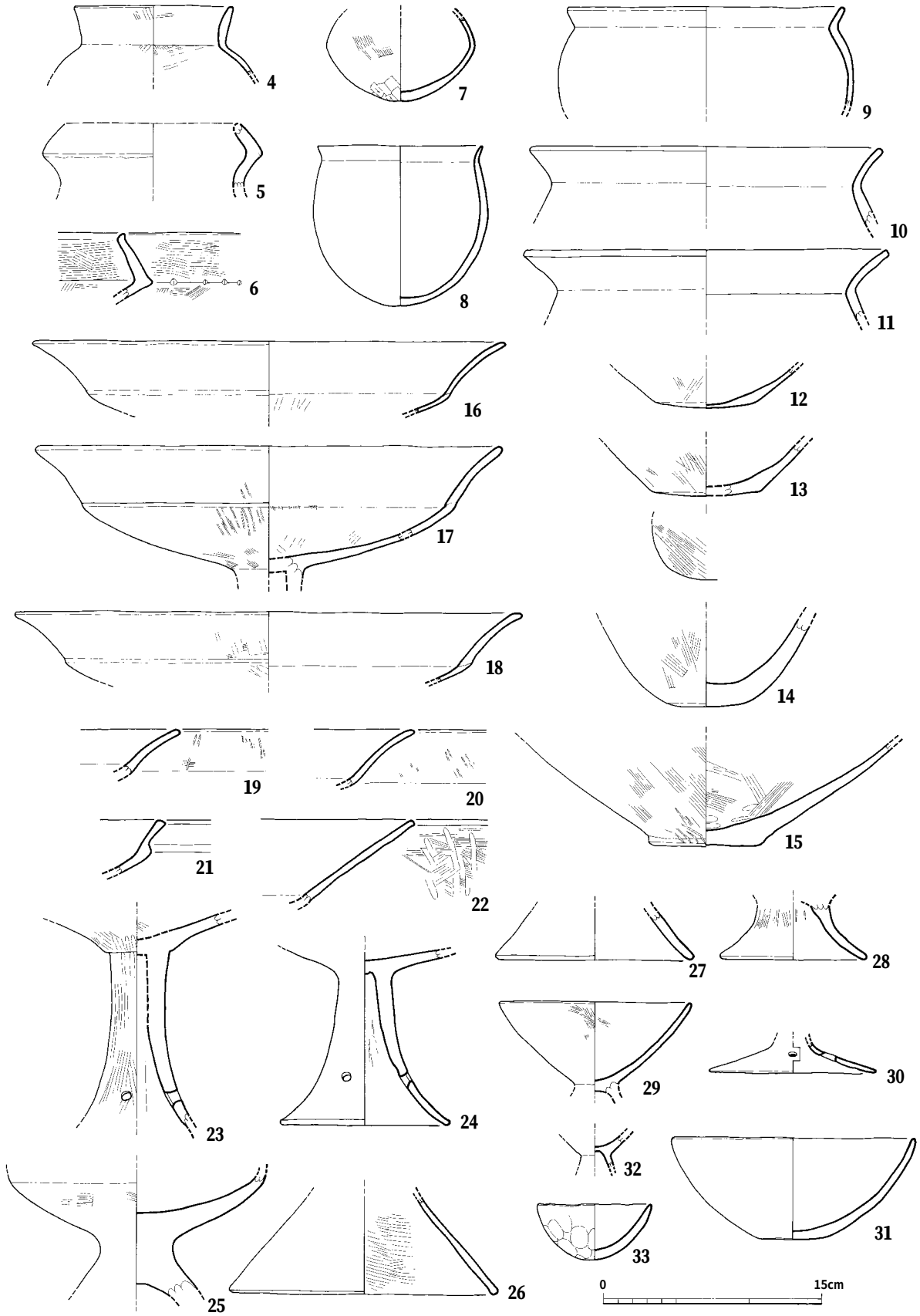
第12図
土坑出土土器
実測図（1/4）

1号溝出土土器（4～33）

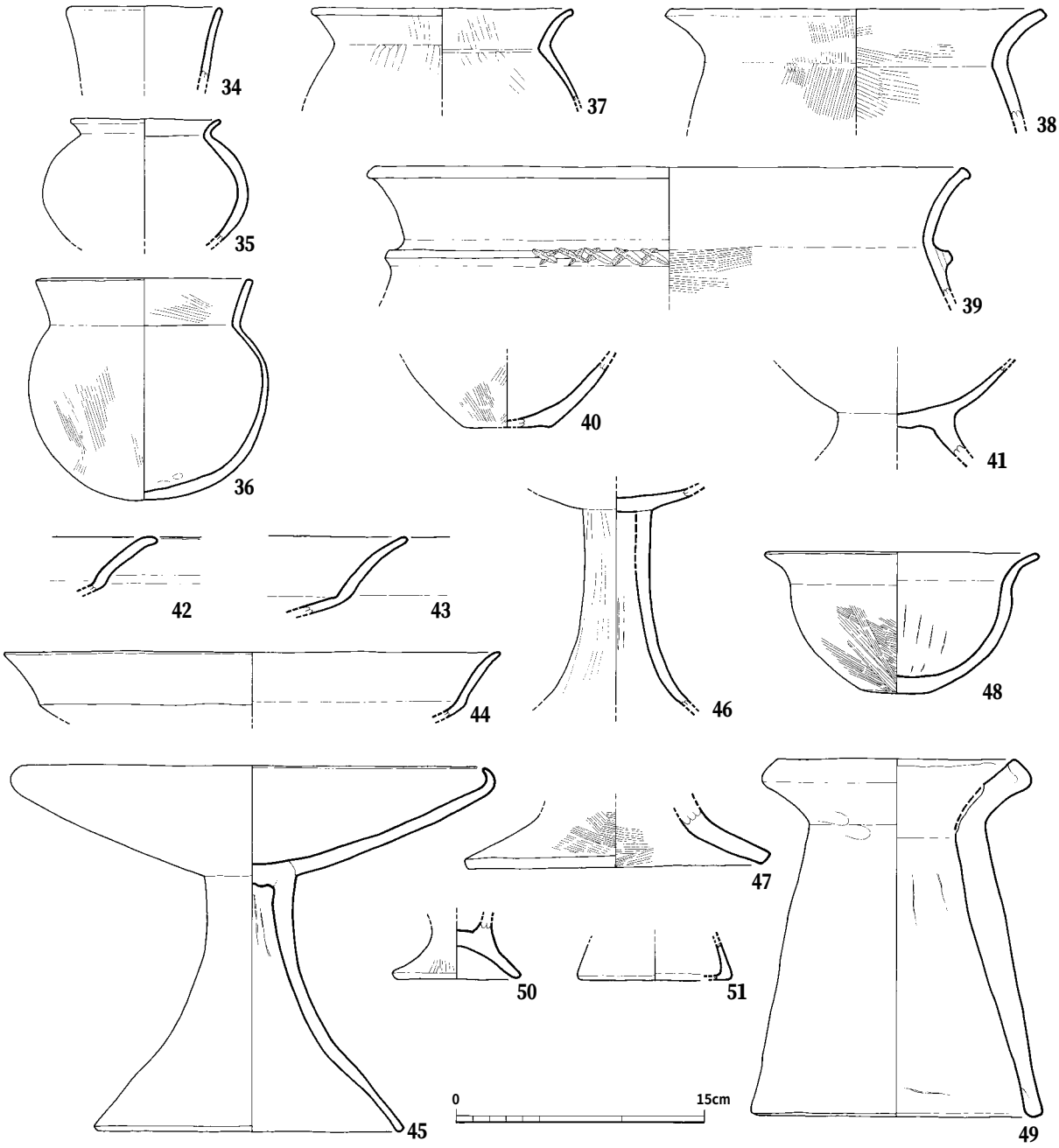
4～7は壺。4は口縁部がやや外傾する資料で、外面にはわずかにヘラミガキが残る。5・6は複合口縁壺の口縁部。5は残存部から短い頸部を持つと推測できる。6は端部を外側につまみ出し、屈曲部に刻み目を施す資料。7は小形品の下半部で、底部付近にヘラケズリを施すため尖底に近い。8～11は甕。8は小形品で、丸底に近いが、僅かに底部が残存する。9～11は口縁部の断面形が「く」字状を呈し、9はやや丸みを持つ胴部を有すと考えられる。12～15は底部で、12・13は甕、14・15が壺であろう。12～14の底部は凸レンズ状を呈す。平底の15は大形品と推測でき、体部と底部の境にはタタキ目が残存する。16～25は高坏。16～20は屈曲部から口縁部が外反し、端部を丸く調整するもの。21は短い口縁部を持つ資料で、端部は面を持つ。小片のため疑問も残る。22は屈曲部から長く直線的に延びる口縁部片。23・24は高坏の脚部で、三方にスカシ孔を有す。24の脚端部は丸く仕上げる。25は坏部下半と脚部上部が残存する資料。肉厚で粗雑な感がある。26・27は高坏の脚裾部片と考えられる資料で、端部は丸みを有す。28～32は脚台部ないしは脚台を有す資料。28は「八」字に広がる脚台部で、甕等の底部から剥落したもの。29は脚台付の鉢で、脚台は欠損する。30は脚付鉢の脚部と思われる資料で、円孔が確認できる。胎土は精良。31は鉢。底部はほぼ完形で、全体の1／2強が残存する。底部からやや内湾し、口縁部へと自然に移行する。32はミニチュアの高坏や器台と推測できる資料。胎土は精良。33は手捏様の小形の鉢。外面に指頭痕が見られる。

2号溝出土土器（34～51）

34～37は小形の壺。34は長頸壺の口縁部片で、やや外傾し、端部を丸く調整する。35は短い口縁部と扁球形の体部を持つ資料。36は完形品で、底部は丸底を呈す。胎土に角閃石を含むため、搬入品の可能性がある。37は形態は甕に近いが、調整にヘラミガキを多用するため壺とした。38～41は甕。38・39は断面が「く」字を呈する口縁部で、39は口縁下に「×」字状の刻み目を施す突帯を付す。40は平底をなす底部。41は台付甕の脚台部付近であろう。42～46は高坏。42～44は体部から口縁部が屈曲し、短く外反する資料。45は全形を図上復元できる資料で、口縁部が強く内湾し、端部は尖り気味に仕上



第13図　１号溝出土土器実測図（1/4）



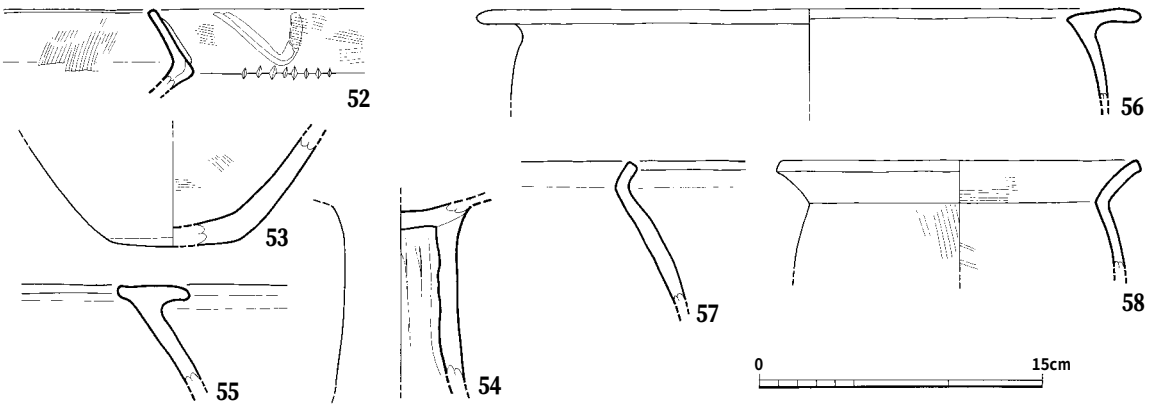
第14図　２号溝出土土器実測図（1/4）

げる。46は脚柱部で内面にはシボリ痕が確認できる。47は「八」字を呈する裾部。低平で、内外面はハケ目で調整し、端部には面を持つ。疑問も残るが高坏の脚裾か。48は鉢で、半球状の体部から口縁部を短く外反させるもの。底部は凸レンズ状を呈する。49は器台で、くびれ部は上位に位置し、短い口縁部を持つ。器肉は全体的に厚いが、裾部がもっと薄い。50は手捏ね様の土器の脚台部。51はいわゆるジョッキ形土器の底部付近で、器肉は薄い。

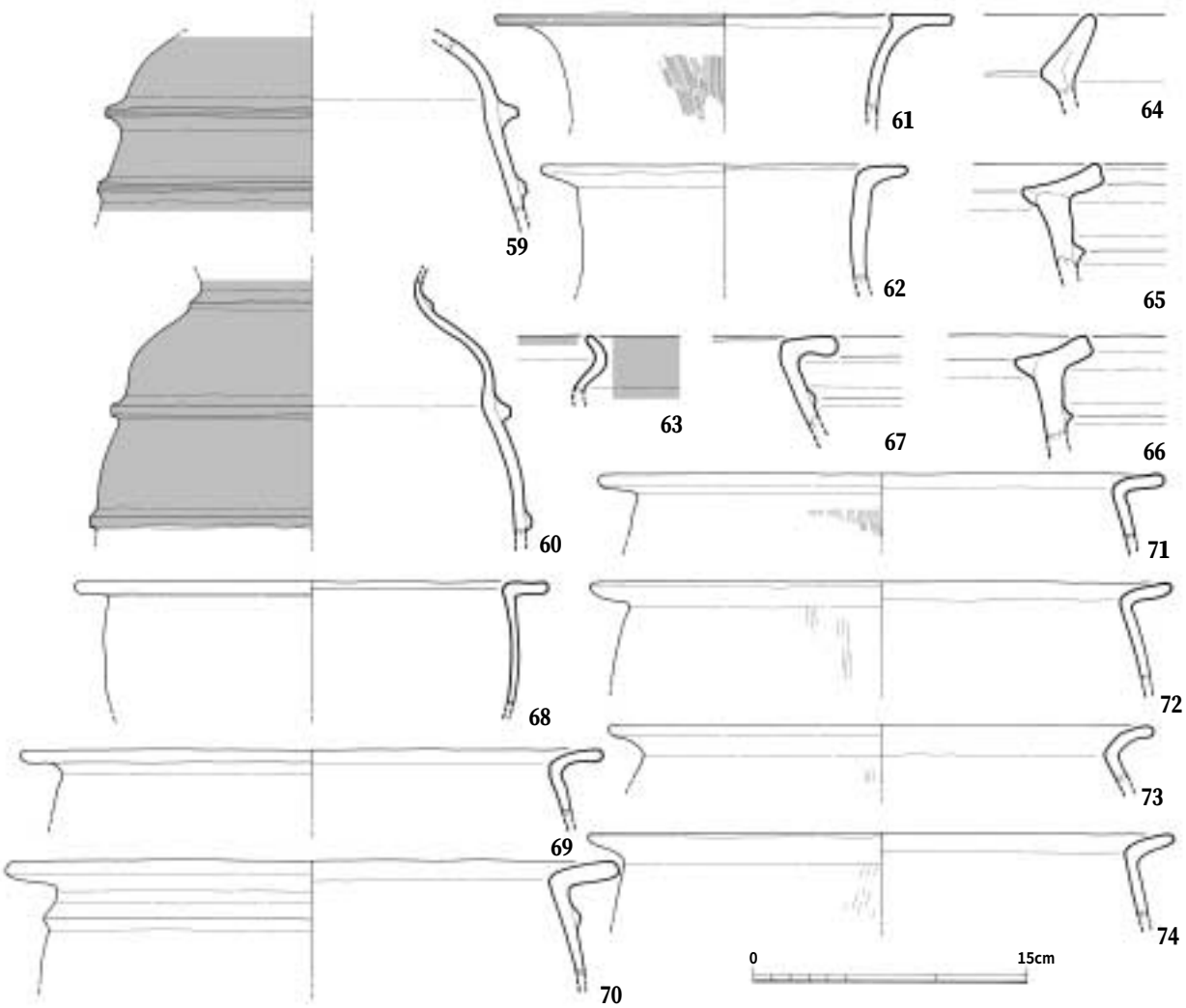
３号溝出土土器（52～56）

52は複合口縁壺の口縁部で、口縁部の外面に鉤形の浮文、屈曲部に刻み目を施す。浮文の剥離した

跡にはハケ目が確認できることから、口縁部のハケ目調整後に浮文を付したことが分かる。53は凸レンズ状を呈する底部の資料。54は高坏の脚柱部で内面には絞り痕を持つ。55・56は甕の口縁部で混入品と考えられる資料。55は上面がほぼ水平で、外端をやや垂下させるもの。56は断面形が逆「L」字の口縁部で、やや内傾する。



第15図　３・４・７号溝出土土器実測図（1/4）　３号（52~56）　４号（57）　７号（58）



第16図　８号溝出土土器実測図①（1/4）

４号溝出土土器（57）

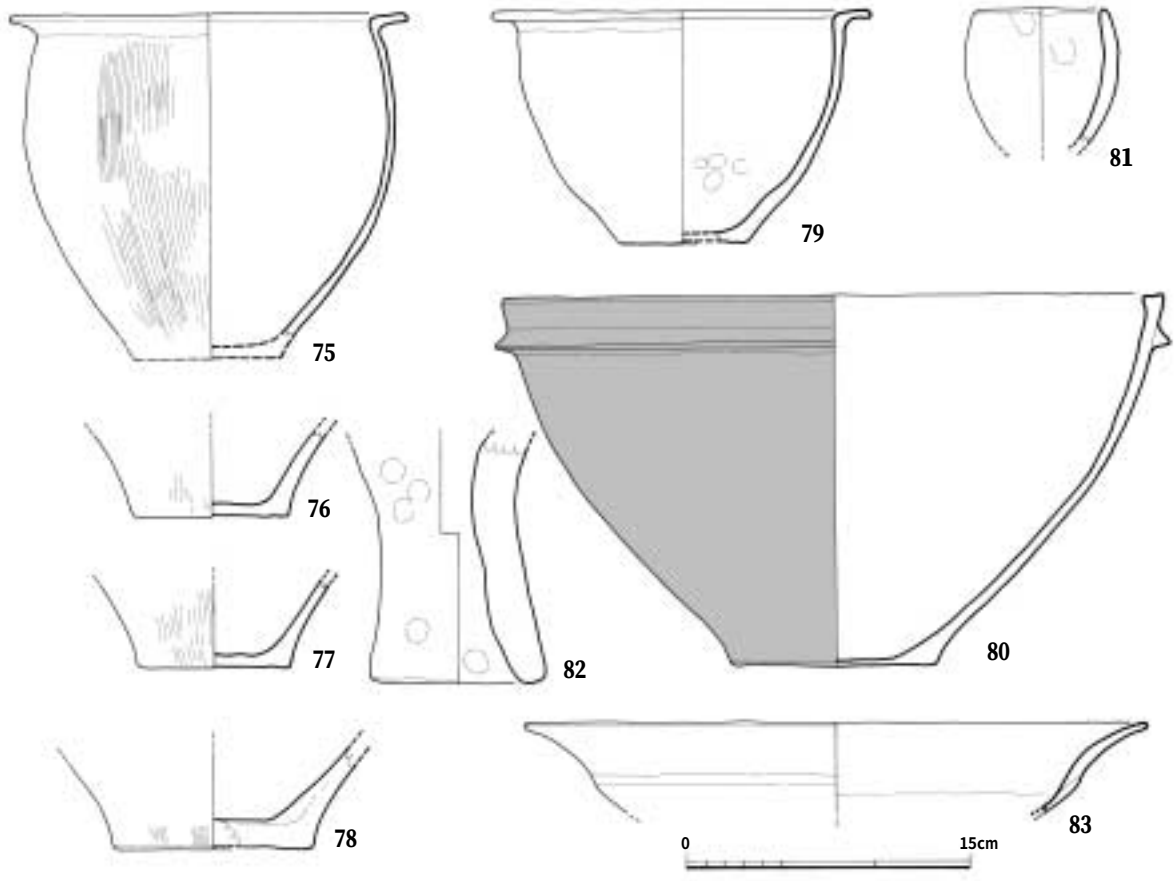
57は壺の破片資料。体部が張り、短い口縁部を持つ。

７号溝出土土器（58）

58は甕で、口縁部は断面形が「く」字を呈し、端部には面を持つ。胴部外面や口縁部内面はハケ目を施すが、胴部内面にも僅かにハケ目が残存する。

８号溝出土土器（59～85）

59～63は壺。59・60は瓢形土器のくびれ部付近の資料で、外面を丹塗する。59はくびれ部に高めの「M」字突帯、その下位に「M」字突帯を貼り付ける。60は頸部に三角突帯、くびれ部とその下位に台形突帯を貼り付ける。61・62は壺の口縁部で、瓢形土器の可能性もあろう。61はやや外反気味の頸部を有し、口縁部の断面は鋤先状を呈する。62は直立する頸部と逆「L」字状に屈曲する口縁部を有す資料。63は袋状口縁壺の口縁部で、内外面は丹を施す。64～75は甕。口縁部の断面形は、64～66が匙面状、その他は逆「L」字状を呈し、69～75は内傾する。また、65～67・70は口縁下に三角突帯を付す。76～78は平底を呈する甕ないし壺の底部資料。79～81は鉢。79は口縁部が逆「L」字の資料で、２/３程度が残存する。80は体部から直接口縁部へと移行する大形の鉢で、口縁端部は内側を肥厚させる。口縁下に突帯を有すが、断面形は三角形～台形と一定しない。外面には丹を施す。81は手捏ね様の小形品。体部はやや内湾し、口縁部へといたる。82は器台で、口縁部は欠損する。全体的に肉厚



第17図　８号溝出土土器実測図②（1/4）

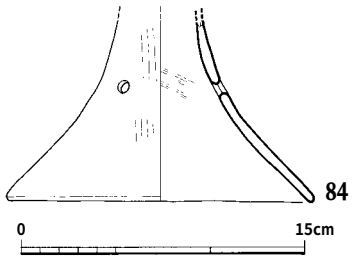
なつくりで、くびれ部はやや上位にある。83は混入品と考えられる弥生時代後期の高坏。口縁部は屈曲部から大きく外反する。

２号掘立柱建物出土土器（84）

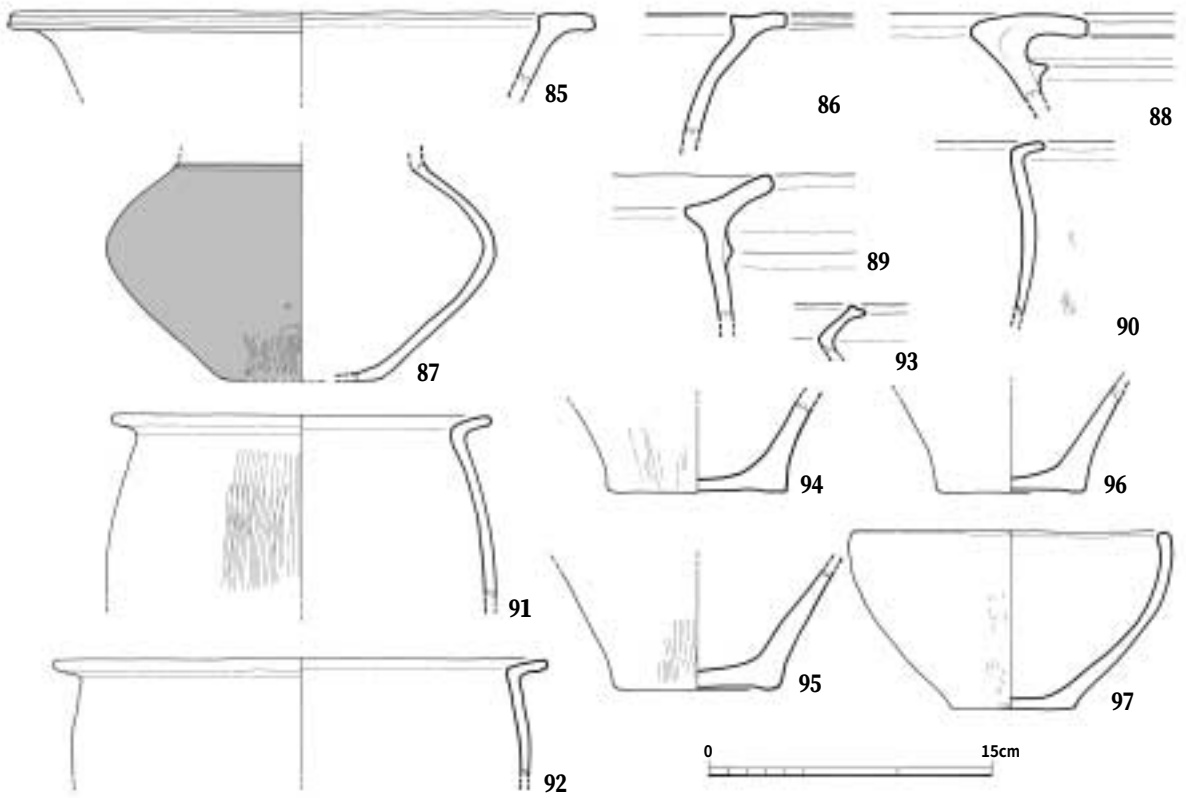
Ｐ４から出土した高坏の脚部で、円形のスカシ孔が２つ残存する。なお、図化していないが、同一個体と考えられる坏部片も出土している。

ピット出土土器（85～101）

85はＰ24、86はＰ32、87はＰ１、88・89はＰ31、90はＰ14、91・92はＰ18、93はＰ19、94はＰ19、95はＰ８、96はＰ35、97はＰ11、98～100はＰ31、101はＰ10から出土した。85～87は壺の破片資料。85・86は口縁部で、上面は、85はほぼ水平、86は強くなでることにより窪ませる。87は壺の下半部。頸部と体部の境には突帯を一条付し、外面は体部下半にハケ目が認められるが、丹を施す。88～93は甕の口縁部で、88・89は口縁下に突帯を１条付す。90～92は断面形が逆「Ｌ」字を呈し、内傾する資料。93は口縁部の小片で、端部を内外に肥厚させるもの。94～96は底部で、95はやや上げ底気味ではあるが、平底の範疇でよかろう。97はほぼ完形の鉢。平底で、体部は内湾し、口縁部端部は丸く仕上げる。98は須恵器の坏蓋で、残存部からツマミが付くことが分かる。99・100は土師器の椀。99は体部が丸みを有す資料。



第18図　掘立柱建物跡
出土土器実測図（1/4）



第19図　ピット出土土器実測図①（1/4）

表１　３次調査出土土器観察表

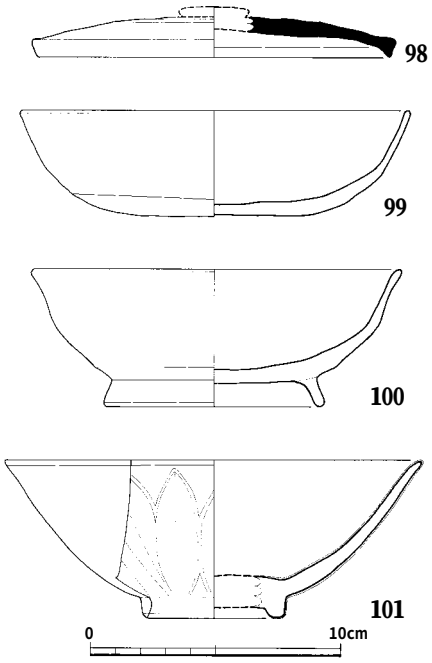
（　）は復元値

番号	挿図 図版	種別	出土位置	法量(㎝) ①口径②器高③底径	残存状態	調整及び特徴	備　考
1	第12図 図版13	底部	１号土坑	③4.5	底部完存	調整は外面ミガキ、内面ナデ。 胎土は細砂粒をわずかに含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに淡赤褐色～赤褐色。	丹塗り
2	第12図 図版13	甕	１号土坑	－	口縁部小片	調整は不明。胎土は粗・細砂粒を含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに淡黄褐色。	
3	第12図 図版13	甕	１号土坑	－	口縁部小片	調整は外面不明、内面ヨコナデ。胎土は細砂粒を含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに淡赤褐色。	
4	第13図 図版13	壺	１号溝 Ⅰ区下層	①(10.8)	口縁部１/４	調整は外面ミガキわずかに残る、内面ハケ目後ナデ？。 胎土は細砂粒をわずかに含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに黄褐色。	
5	第13図 図版13	壺	１号溝 Ⅱ区最下層	①(11.8)	口縁部１/４	調整は外面ナデ、内面不明。 胎土は粗・細砂粒を含み、赤色粒を含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに黄褐色。	
6	第13図 図版13	壺	１号溝 Ⅲ区下層	－	口縁部小片	調整は内外面ともにハケ目。胎土は細砂粒を含む。 焼成は良好。色調は外面淡赤褐色、内面淡黄褐色。	
7	第13図 図版13	壺	１号溝 Ⅰ区最下層	体部最大径10.15	口縁部欠失	調整は外面ハケ目後ナデ？、内面ナデ？、底部ヘラケズリ。 胎土は細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は外面赤褐色、内面黄褐色。	
8	第13図 図版13	甕	１号溝	①(11.3)　②11.0 ③2.3	口縁部２/３ 欠失	調整は不明。胎土は粗・細砂粒を多く含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに赤褐色。	
9	第13図 図版13	甕	１号溝 Ⅱ区下層	①(19.0)	口縁部１/４	調整は不明。胎土は粗砂粒を含む。焼成は良好。 色調は外面淡黄褐色～淡赤褐色、内面淡黄褐色。	
10	第13図 図版13	甕	１号溝 Ⅰ区最下層	①(24.2)	口縁部１/４	調整は不明。胎土は粗砂粒をやや多く含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに淡黄褐色。	
11	第13図 図版13	甕	１号溝 Ⅲ区下層	①(24.7)	口縁部１/６	調整は内外面ともにナデ。胎土は粗・細砂粒を多く含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに赤褐色。	
12	第13図 図版13	底部	１号溝 Ⅲ区上層	③6.9	底部完存	調整は外面ハケ目、内面ナデ？。胎土は細砂粒を含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに淡黄褐色。	
13	第13図 図版13	底部	１号溝 Ⅱ区下層	③(7.4)	底部１/４	調整は外面ハケ目、内面ナデ。 胎土は粗砂粒をやや多く含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに暗赤褐色。	
14	第13図 図版13	底部	１号溝 Ⅲ区上層	③(5.4)	底部一部 欠失	調整は外面ハケ目、内面ナデ。胎土は粗・細砂粒を含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに淡黄褐色。	
15	第13図 図版13	底部	１号溝 Ⅱ区下層	③7.9	底部一部 欠失	調整は外面タタキ後ハケ目、内面ハケ目。 胎土は粗・細砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面淡黄褐色、内面赤褐色。	
16	第13図 図版13	高坏	１号溝 Ⅱ区上層	①(32.4)	口縁部１/８	調整は外面不明、内面わずかにミガキ残る。 胎土は粗・細砂粒を含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡黄褐色。	
17	第13図 図版14	高坏	１号溝 Ⅱ区上層	①(32.0)	坏部１/３	調整は内外面ともにミガキ残る。胎土は粗・細砂粒を含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに淡黄褐色。	
18	第13図 図版14	高坏	１号溝	①(34.7)	口縁部１/12	調整は外面わずかにミガキ残る、内面不明。 胎土は細砂粒をわずかに含む。焼成は良好。 色調は外面黄褐色、内面灰褐色。	
19	第13図 図版14	高坏	１号溝 Ⅰ区最下層	－	口縁部小片	調整は外面わずかにミガキ残る、内面不明。 胎土は細砂粒をわずかに含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡黄褐色。	
20	第13図 図版14	高坏	１号溝 Ⅰ区最下層	－	口縁部小片	調整は外面わずかにミガキ残る。胎土は精良。 焼成は良好。色調は内外面ともに淡赤褐色。	
21	第13図	高坏	１号溝 Ⅲ区上層	－	口縁部小片	調整は不明。胎土は粗砂粒を多く含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに淡黄褐色。	
22	第13図 図版14	高坏	１号溝 Ⅱ区上層	－	口縁部小片	調整は外面ハケ目、内面不明。胎土は細砂粒を含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに黄褐色。	
23	第13図 図版14	高坏	１号溝	－	柱状部完存	調整は外面ミガキ、内面ナデ。 胎土は細砂粒をわずかに含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに黄褐色。	
24	第13図 図版14	高坏	１号溝 Ⅰ区	③11.65	脚部完存	調整は不明。胎土は粗・細砂粒をやや多く含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに淡黄褐色。	
25	第13図 図版14	高坏	１号溝 Ⅱ区上層	－	柱状部完存	調整は外面にわずかにハケ目残る、内面不明。 胎土は粗・細砂粒を多く含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに黄褐色。	
26	第13図 図版14	高坏	１号溝 Ⅱ区上層	③(18.4)	脚裾部１/４	調整は外面不明、内面ハケ目。胎土は精良。 焼成は良好。色調は内外面ともに淡黄褐色。	

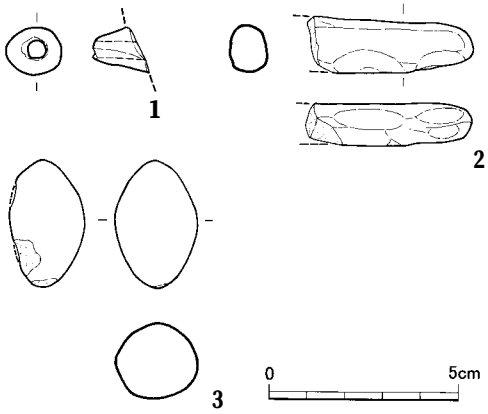
番号	挿図 図版	種別	出土位置	法量(cm) ①口径②器高③底径	残存状態	調整及び特徴	備　考
27	第13図 図版14	高坏?	1号溝 Ⅱ区最下層	③(13.6)	脚裾部1/2	調整は内外面ともにナデ?。 胎土は粗・細砂粒をやや多く含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに淡黄褐色	
28	第13図 図版14	脚部	1号溝	③(10.1)	裾部一部 欠失	調整は外面ハケ目残る、内面ナデ。 胎土は粗・細砂粒をわずかに含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに赤褐色。	
29	第13図 図版14	脚台 付鉢	1号溝	①13.1　②6.3	全体の2/3	調整は内外面ともにわずかにハケ目残る。 胎土は粗・細砂粒をやや多く含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに淡茶褐色。	
30	第13図 図版14	脚台 付鉢	1号溝 Ⅲ区上層	③10.5	脚裾部1/4	調整は不明。胎土は精良。 焼成は良好。色調は内外面ともに淡黄褐色。	
31	第13図 図版14	鉢	1号溝 Ⅱ区上層	①(16.5)　②7.05	口縁部1/2 欠失	調整は不明。胎土は粗・細砂粒を多く含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに淡黄褐色。	
32	第13図 図版14	手捏	1号溝 Ⅲ区下層	くびれ部径2.0	くびれ部 完存	調整は不明。胎土は精良。 焼成は良好。色調は内外面ともに淡黄褐色。	
33	第13図 図版14	手捏	1号溝	①7.8　②3.9	口縁部1/2 欠失	調整は内外面ともにナデ。胎土は粗・細砂粒を含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに赤褐色。	
34	第14図 図版15	壺	2号溝 Ⅲ区下層	①(9.1)	口縁部1/4	調整は外面不明、内面ナデ?。 胎土は粗砂粒を含む。焼成は良好。 色調は外面淡茶褐色、内面淡茶褐色～暗茶褐色。	
35	第14図 図版15	壺	2号溝 Ⅲ区下層	①(9.0)	口縁部1/2	調整は不明。胎土は粗砂粒をやや多く含む。 焼成は良好。 色調は外面淡赤褐色～黄灰色、内面淡黄褐色。	
36	第14図 図版15	壺	2号溝	①13.1 ②13.45	完形	調整は内外面ともにハケ目残る。 胎土は粗･細砂粒･角閃石を多く含む。焼成は良好。 色調は外面黒灰色、内面淡黄褐色。	
37	第14図 図版15	壺	2号溝 Ⅰ区上層	①(15.8)	口縁部1/8	調整は外面ミガキ、内面ヘラナデ。 胎土は粗・細砂粒をわずかに含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに淡赤褐色。	
38	第14図 図版15	甕	2号溝 Ⅰ区上層	①(23.0)	口縁部1/6	調整は内外面ともにハケ目。胎土は細砂粒をわずかに含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに黄褐色。	
39	第14図 図版15	甕	2号溝 Ⅰ区上層	①(36.4)	口縁部1/3	調整は外面ナデ、内面ハケ目。胎土は粗・細砂粒を含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに赤褐色。	
40	第14図 図版15	底部	2号溝 Ⅰ区上層	③(5.1)	底部1/2	調整は外面ハケ目、内面不明。胎土は粗・細砂粒を含む。 焼成は良好。色調は外面赤褐色、内面淡黄褐色。	
41	第14図 図版15	脚台 付甕	2号溝	くびれ部径7.2	くびれ部 完存	調整は外面不明、内面ナデ?。 胎土は粗・細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡黄褐色～淡赤褐色。	
42	第14図	高坏	2号溝	—	口縁部小片	調整は不明。胎土は細砂粒をわずかに含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに黄褐色。	
43	第14図 図版15	高坏	2号溝 Ⅱ区下層	—	口縁部小片	調整は不明。胎土は粗砂粒をわずかに含む。焼成は良好。 色調は外面淡茶褐色、内面淡茶褐色～暗茶褐色。	
44	第14図 図版15	高坏	2号溝 Ⅲ区下層	①(30.0)	口縁部1/6	調整は不明。胎土は細砂粒を含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに赤褐色。	
45	第14図 図版15	高坏	2号溝	①(27.9)　②22.1 ③(18.3)	坏部・底部 2/3欠失	調整は不明。胎土は粗・細砂粒を含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに黄褐色～灰白色。	
46	第14図 図版15	高坏	2号溝 Ⅰ区下層	—	坏部・裾部 欠失	調整は外面ミガキ、内面ナデ。胎土は精良。 焼成は良好。色調は内外面ともに赤褐色。	
47	第14図 図版15	脚部	2号溝	③17.6	脚裾部完存	調整は内外面ともにハケ目。胎土は細砂粒を多く含む。 焼成は良好。 色調は外面茶褐色、内面淡赤褐色～茶褐色。	
48	第14図 図版15	鉢	2号溝	①(16.55)　②8.6 ③4.2	口縁部3/5 欠失	調整は外面ハケ目、内面ナデ。 胎土は粗・細砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面淡赤褐色、内面淡黄色～淡赤褐色。	
49	第14図 図版15	器台	2号溝 Ⅰ区下層	①(内径14.0　外径16.2) ②21.6	全体の1/4	調整は内外面ともにナデ?。胎土は粗・細砂粒を多く含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに淡黄褐色。	
50	第14図 図版15	手捏	2号溝 Ⅲ区下層	③7.75	裾部完存	調整は外面ハケ目、内面ナデ?。 胎土は粗・細砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面淡赤褐色～暗茶褐色、内面淡赤褐色。	
51	第14図	ｼﾞｮｯｷ形 土器?	2号溝 Ⅰ区上層	③(9.4)	底部1/6	調整は不明。胎土は精良。 焼成は良好。色調は内外面ともに黄白色。	
52	第15図 図版16	壺	3号溝 Ⅰ区下層	—	口縁部小片	調整は内外面ともにハケ目。外面刻み目あり。 胎土は粗・細砂粒を含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに淡黄褐色。	

番号	挿図 図版	種別	出土位置	法量(cm) ①口径②器高③底径	残存状態	調整及び特徴	備　考
53	第15図 図版16	底部	3号溝 Ⅰ区下層	③(7.2)	底部1/4	調整は内外面ともにナデ。胎土は粗・細砂粒を含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに黄褐色。	
54	第15図 図版16	高坏	3号溝 Ⅰ区下層	—	柱状部1/2	調整は不明。胎土は粗砂粒をやや多く含む。 焼成は良好。色調は外面黄褐色、内面赤褐色。	
55	第15図 図版16	甕	3号溝 Ⅰ区上層	—	口縁部小片	調整は不明。胎土は粗砂粒を含む。焼成は良好。 色調は外面淡赤褐色～暗茶褐色、内面淡茶褐色。	
56	第15図 図版16	甕	3号溝 Ⅱ区下層	①(内径27.1　外径35.0)	口縁部1/5	調整は不明。胎土は粗・細砂粒を多く含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに黄褐色。	
57	第15図 図版16	壺	4号溝 Ⅰ区上層	—	口縁部小片	調整は不明。胎土は粗砂粒を多く含む。 焼成は良好。色調は外面赤褐色、内面淡黄褐色。	
58	第15図 図版16	甕	7号溝 上層	①(18.6)	口縁部1/6	調整は内外面ともにハケ目わずかに残る。 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面淡茶褐色～黒褐色、内面淡茶褐色。	
59	第16図 図版16	瓢形 土器	8号溝 Ⅱ区下層	—	胴部1/6	調整は外面ヨコナデ、内面不明。胎土は精良。焼成は堅緻。 色調は内面淡黄褐色～褐色。	丹塗り
60	第16図 図版16	瓢形 土器	8号溝 Ⅲ区上層	—	胴部1/5	調整は不明。胎土は粗・細砂粒をやや多く含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに赤褐色。	丹塗り
61	第16図 図版16	壺	8号溝 Ⅱ区上層	①(内径20.1　外径25.0)	口縁部1/6	調整は外面ハケ目、内面不明。胎土は粗・細砂粒を含む。 焼成は良好。色調は外面暗茶褐色、内面淡赤褐色。	
62	第16図 図版16	壺	8号溝 Ⅱ区上層	①(20.0)	口縁部1/4	調整は外面ヨコナデ、内面ナデ。 胎土は細砂粒をわずかに含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに茶褐色。	
63	第16図 図版16	壺	8号溝 Ⅲ区上層	—	口縁部小片	調整は内外面ともにナデ？。胎土は精良。 焼成は良好。色調は内面赤褐色～暗茶褐色。	丹塗り
64	第16図 図版16	甕	8号溝 Ⅱ区下層	—	口縁部小片	調整は不明。胎土は粗・細砂粒を多く含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに淡黄褐色。	
65	第16図 図版16	甕	8号溝 Ⅱ区最下層	—	口縁部小片	調整は外面ヨコナデ、内面不明。胎土は細砂粒を含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに茶褐色。	
66	第16図 図版16	甕	8号溝 Ⅲ区上層	—	口縁部小片	調整は外面ヨコナデ、内面ナデ？。胎土は粗・細砂粒を含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに茶褐色。	
67	第16図 図版16	甕	8号溝 Ⅱ区上層	—	口縁部小片	調整は外面ヨコナデ？、内面ナデ？。 胎土は粗砂粒をやや多く含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに淡赤褐色。	
68	第16図 図版17	甕	8号溝 Ⅲ区最下層	①(25.9)	口縁部1/4	調整は不明。胎土は粗・細砂粒をやや多く含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに淡赤褐色。	
69	第16図 図版17	甕	8号溝 Ⅲ区上層	①(31.8)	口縁部1/6	調整は不明。胎土は粗・細砂粒をやや多く含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに淡赤褐色～暗茶褐色。	
70	第16図 図版17	甕	8号溝 Ⅰ区下層	①(33.5)	口縁部1/5	調整は不明。 胎土は粗・細砂粒をやや多く含み、赤色粒を含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに淡赤褐色。	
71	第16図 図版17	甕	8号溝 Ⅲ区下層	①(31.0)	口縁部1/6	調整は外面ハケ目、内面ナデ。胎土は粗・細砂粒を含む。 焼成は良好。色調は外面暗茶褐色、内面淡赤褐色。	
72	第16図 図版17	甕	8号溝 Ⅱ区上層	①(31.8)	口縁部1/6	調整は外面ハケ目、内面は不明。 胎土は粗・細砂粒を多く含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに淡赤褐色。	
73	第16図 図版17	甕	8号溝 Ⅲ区上層	①(29.7)	口縁部1/5	調整は外面ハケ目、内面不明。 胎土は粗・細砂粒を含む。焼成は良好。 色調は外面茶褐色～淡赤褐色、内面黄褐色。	
74	第16図 図版17	甕	8号溝 Ⅱ区上層	①(32.0)	口縁部1/8	調整は外面ハケ目、内面ナデ。胎土は粗・細砂粒を含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに淡赤褐色。	
75	第17図 図版17	甕	8号溝 Ⅱ区下層	①21.0	底部欠失	調整は外面ハケ目、内面ナデ。 胎土は粗・細砂粒をやや多く含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに赤褐色。	
76	第17図 図版17	底部	8号溝 Ⅱ区下層	③(8.2)	底部5/6	調整は外面ハケ目、内面ナデ？。 胎土は粗・細砂粒をやや多く含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに淡黄褐色。	
77	第17図 図版17	底部	8号溝 Ⅱ区上層	③8.0	底部のみ	調整は外面ハケ目、内面ナデ。胎土は粗砂粒を含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに赤褐色。	
78	第17図 図版17	底部	8号溝 Ⅱ区下層	③(10.6)	底部2/3	調整は外面ハケ目後ナデ、内面不明。 胎土は粗・細砂粒を含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡黄褐色。	

番号	挿図 図版	種別	出土位置	法量(cm) ①口径②器高③底径	残存状態	調整及び特徴	備　考
79	第17図 図版17	鉢	8号溝 Ⅲ区下層	①(20.0)　③(7.0)	全体の2/3	調整は不明。胎土は粗・細砂粒をやや多く含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに赤褐色～黄褐色。	
80	第17図 図版17	鉢	8号溝 Ⅱ区下層	①(34.8)　②19.65 ③11.0	全体の1/2	調整は内面ナデ。胎土は細砂粒を含む。 焼成は良好。色調は内面淡黄褐色。	丹塗り
81	第17図 図版17	鉢	8号溝 Ⅱ区上層	①(5.8)	口縁部～胴部 1/3	調整は内外面ともにナデ？。胎土は粗･細砂粒を含む。 焼成は良好。色調は外面淡茶褐色、内面淡灰褐色。	
82	第17図 図版17	器台	8号溝 Ⅲ区下層	③9.0	下半部完存	調整は内外面ともにナデ。胎土は粗･細砂粒を多く含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに赤褐色。	
83	第17図 図版17	高坏	8号溝 Ⅱ区下層	①(32.8)	口縁部1/6	調整は不明。胎土は粗・細砂粒を多く含む。 焼成は良好。色調は外面淡赤褐色、内面赤褐色。	
84	第18図 図版18	高坏	2号掘立柱建物 P4	③(16.2)	脚裾部1/2	調整は外面ミガキ？、内面わずかにハケ目。 胎土は細砂粒をわずかに含む。焼成は良好。 色調は外面赤褐色、内面淡黄褐色。	
85	第19図 図版18	壺	ピット24	①(31.0)	口縁部1/8	調整は外面ナデ、内面不明。 胎土は粗・細砂粒をわずかに含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに赤褐色。	
86	第19図 図版18	壺	ピット32	－	口縁部小片	調整は内外面ともにナデ。胎土は粗･細砂粒を含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに赤褐色。	
87	第19図 図版18	壺	ピット1	③(8.4)	底部～胴部 1/2	調整は外面ハケ目、内面ナデ。 胎土は粗・細砂粒をわずかに含む。焼成は良好。 色調は内面暗灰褐色。	丹塗り
88	第19図 図版18	甕	ピット31	－	口縁部小片	調整は内外面ともにナデ。胎土は粗･細砂粒を含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに淡黄褐色。	
89	第19図 図版18	甕	ピット31	－	口縁部小片	調整は外面ヨコナデ、内面不明。胎土は粗・細砂粒を含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに淡黄褐色。	
90	第19図 図版18	甕	ピット14	－	口縁部小片	調整は外面わずかにハケ目残る、内面不明。 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面淡赤褐色～暗茶褐色、内面黄褐色。	
91	第19図 図版18	甕	ピット18	①(20.0)	口縁部1/4	調整は外面ハケ目､内面ナデ。胎土は細砂粒を含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに赤褐色。	
92	第19図	甕	ピット18	①(26.0)	口縁部1/6	調整は外面ナデ？､内面ナデ。胎土は細砂粒を含む。 焼成は良好。色調は外面淡黄褐色、内面黄褐色。	
93	第19図	甕	ピット19	－	口縁部小片	調整は不明。胎土は細砂粒を含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに黄褐色。	
94	第19図	底部	ピット10	③9.2	底部完存	調整は外面ハケ目､内面不明。胎土は細砂粒を含む。 焼成は良好。色調は外面黄褐色、内面淡赤褐色。	
95	第19図	底部	ピット8	③(8.6)	底部1/4	調整は外面ハケ目、内面不明。胎土は粗・細砂粒を含む。 焼成は良好。色調は外面赤褐色、内面淡黄褐色。	
96	第19図 図版18	底部	ピット35	③7.8	底部完存	調整は不明。胎土は細砂粒を含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに黄褐色。	
97	第19図 図版18	鉢	ピット11	①16.2　②9.45　③6.4	ほぼ完形	調整は外面ナデ？、内面ナデ。 胎土は粗・細砂粒をやや多く含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに淡赤褐色。	
98	第20図 図版18	坏蓋	ピット31	①(14.0)	口縁部1/3	調整は外面回転ナデ後一部回転ヘラケズリ､内面ナデ、 口縁部回転ナデ。胎土は細砂粒をわずかに含むが精良。 焼成は良好。色調は内外面ともに暗青灰色～暗褐色。	
99	第20図 図版18	椀	ピット31	①(15.4)　②4.25	全体の2/3	調整は外面ヨコナデ､底部ヘラ切離し後ナデ､内面ナデ。 胎土は細砂粒をわずかに含む。焼成は良好。 色調は外面淡黄褐色、内面黒灰色。	
100	第20図 図版18	椀	ピット31	①(14.8)　②5.5 ③高台径8.6	口縁部1/12 底部完存	調整は外面ヨコナデ、底部ナデ、内面ナデ。 胎土は細砂粒をわずかに含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡灰褐色。	
101	第20図	青磁椀	ピット10	①(16.7)　②6.35 ③高台径5.7	全体の1/12	調整は内外面ともに釉付着、外面連弁文あり。 胎土は精良。焼成は良好。色調は内外面ともにオリーブ色。	龍泉窯系



第20図　ピット出土土器実測図②（1/3）



第21図　土製品実測図（1/2）

100は口縁部が外反し、高台を貼り付ける資料。101は龍泉系青磁椀の破片資料で、外面に鎬蓮弁文を描く。胎土は硬質で淡灰色を呈し、オリーブ色の釉が施される。底部を欠損するため、見込み文様の有無は不明だが、Ⅱ－ｂ類ないしⅡ－ｃ類であろう(1)。

註１　太宰府市教育委員会　2000『大宰府条坊跡ＸＶ－陶磁器分類編－』太宰府市の文化財第49集

（２）土製品（図版18－(2)、第21図）

１は２号溝から出土した。焼成前の穿孔があり、４次調査から出土したミニチュア注口土器（第65図－１）の注口部に似る。残存長1.2㎝、穿孔幅0.5㎝弱、胎土は細砂粒を含み、淡赤褐色を呈す。

２はＰ33から出土した棒状土製品で、遺構検出時に出土した。匙状土製品の柄部であろうか。最大長1.5㎝程度、残存幅4.3㎝で、断面は楕円形である。胎土は粗砂粒を多く含み、淡黄褐色を呈す。摩滅のために調整不明である。

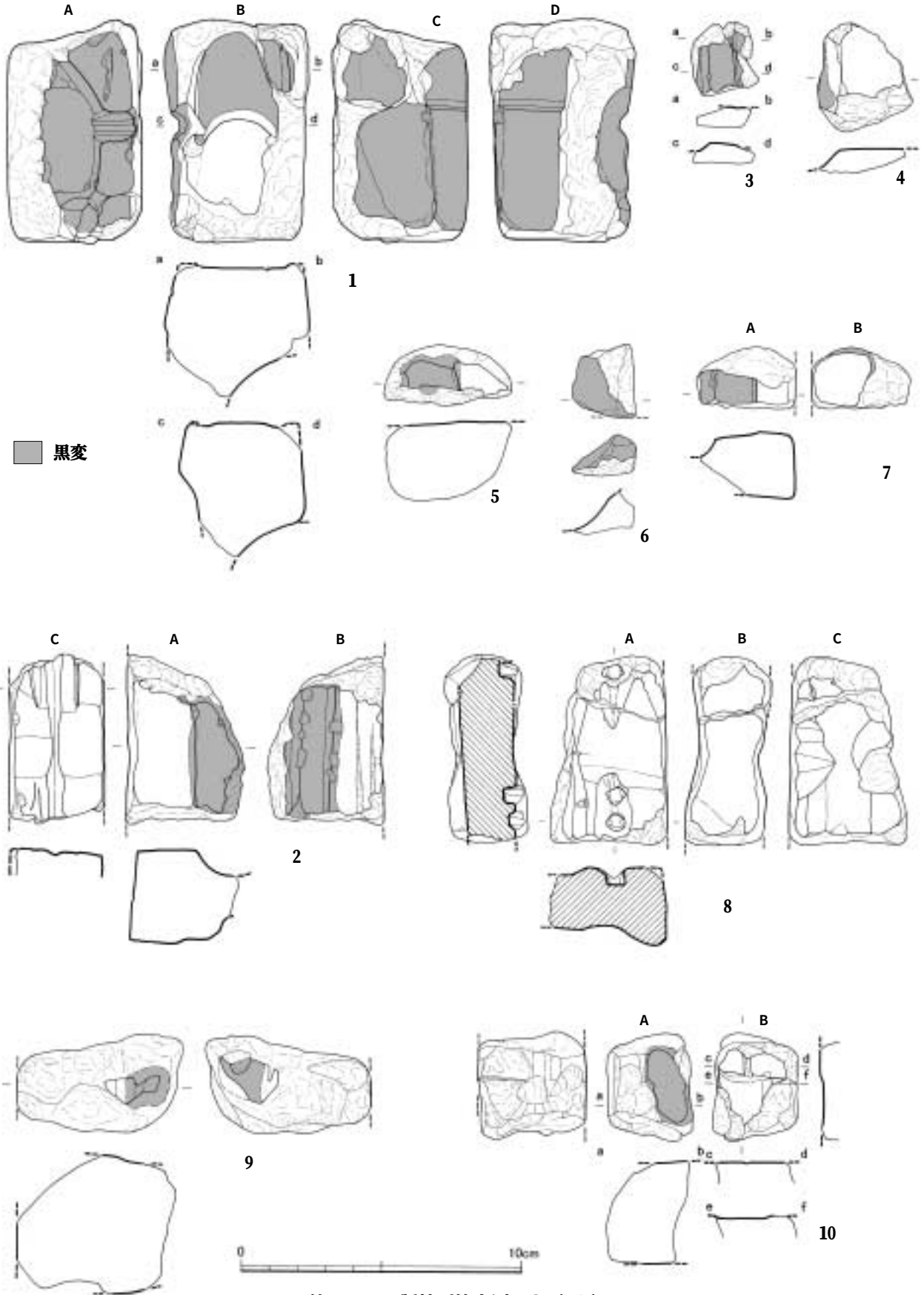
３は投弾形土製品で、２号溝から出土した。一部欠損するが、全長3.25㎝、最大幅2.15㎝、重さは11.04ｇを測る。胎土は細砂粒を含み、淡赤褐色を呈す。

（３）青銅器生産関連遺物

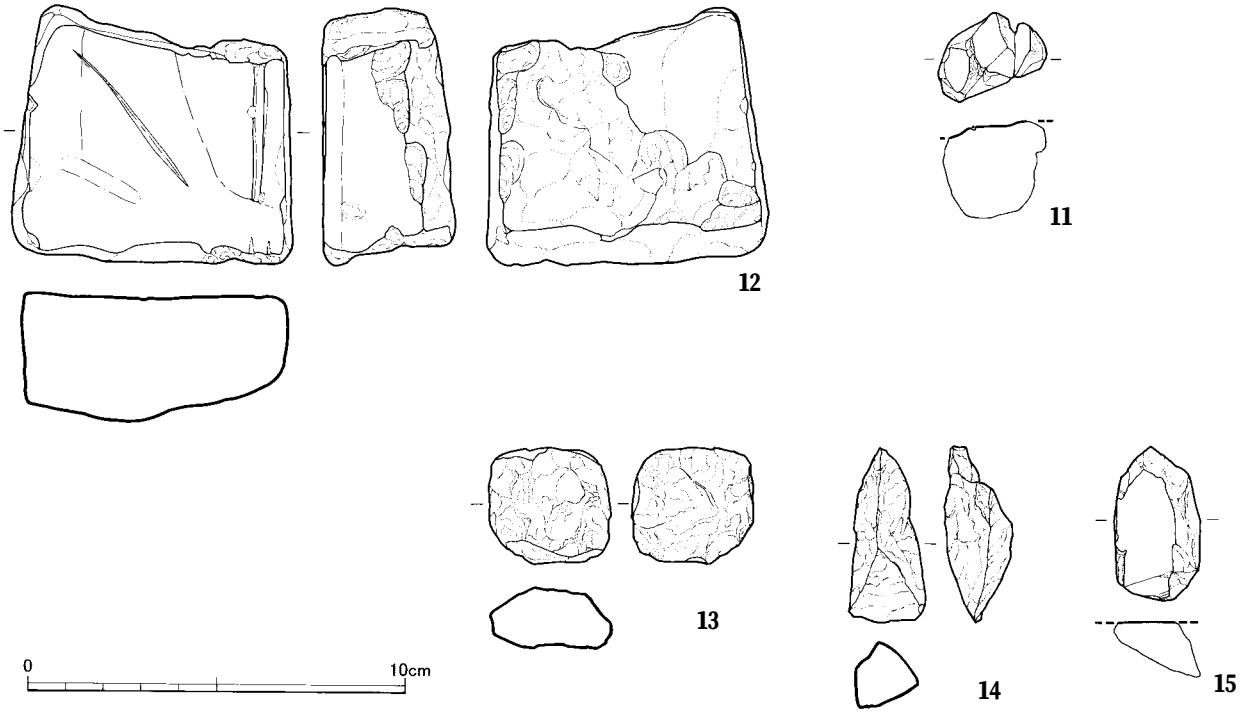
①　石製鋳型等（図版19～21、第22・23図）

３次調査では青銅器の型が彫り込まれた石英長石斑岩製鋳型のほか、同種の石材で青銅器の型は確認できないものの黒変した部分が認められるなど鋳型の可能性を含む資料や、鋳型の製作・加工時に生じたと考えられる石英長石斑岩片が出土している。ここではこれらをまとめてとりあげることとする。なお、資料の出土位置や計測値等、詳細については、一覧表を付しているので参照されたい。

１は３面に青銅器の型が残存し、このほかの１面も型は確認できないが全体的に黒変していることから、４面を鋳型に使用したものと考えられる。Ａ面に彫り込まれた青銅器の型は、現在のところ器種を特定できない。型の一端には幅１㎝ほどの湯口とも考え得る溝が存在するが、型はこの溝の延長線を介して左右対称とはなっていない。Ｂ面には扁平な凹基鏃の型が彫り込まれている。先端部が欠



第22図　石製鋳型等実測図①（1/2）



第23図　石製鋳型等実測図②（1/2）

失しており型の全長は明らかではないが、５㎝前後と推定される。C面には型は確認することができないが、ほぼ全面的に黒変していることからこの面も鋳型として使用されたものと判断される。D面は銅矛の袋部であろうか。段が付くことから節帯部分と考えられる。

２は２面に黒変した型が存在する。A面は銅矛の型で、袋部のみが残存する。型は著しく熱を受けた痕跡が残り、破断面を観察すると２㎜程度石材の内部に黒変が及んでいる。B面は武器類の型と思われるが、器種を判別できない。B面の黒変はA面に比べるとかなり淡く、石材内部には及んでいない。また、黒変は見受けられないが、C面にも型らしき彫り込みが存在する。中央部を砥石として使用されたようで、型は判然としないが、連鋳式銅鏃鋳型の可能性が考えられる。

３～７は小片で、武器類鋳型の一部と推定される資料。３は脊及び樋の部分と考えられる。矛あるいは戈の鋳型であろう。４は矛の鋳型と考えられるが、残片であることから特定はできない。かすかに黒変した部分が存在する。５も武器類鋳型の一部と考えられるが、小片のため詳細は不明。型は黒変する。６も器種を明らかにできない。かすかに黒変が認められる。銅矛鋳型の湯口となるハバキ部分の可能性が考えられよう。７のA面には脊から側縁の一部が残存しており、剣の鋳型と思われる。型には黒変が認められる。また、B面にも型は残存しないが、黒変した部分が存在することから、本来この面も鋳型として使用された可能性が高い。

８はA面に鋳型と思われる彫り込みが見受けられるが、砥石に転用されているらしく、本来の型を明確に把握できない。幅1.3㎝、深さ５㎜ほどの溝が彫り込まれ、その中にさらに径６㎜前後の小穴が穿たれている。小穴は３ヵ所残存する。そして、小穴にはいずれも２方に切り込みが付されており、

表２　３次調査出土石製鋳型等一覧表

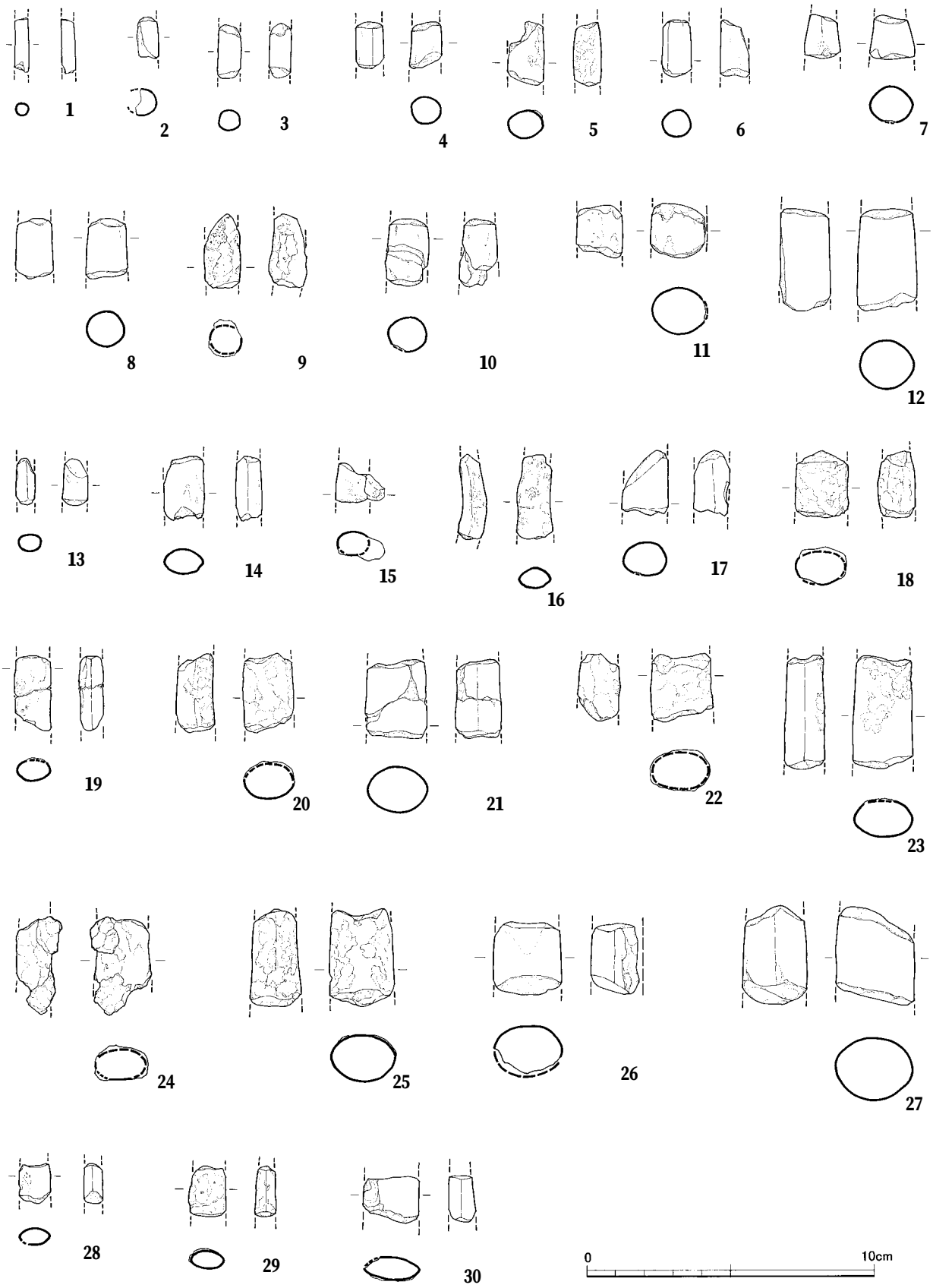
番号	挿図 図版	種　別	法量(㎝)	出土位置	備　考
1	第22図 図版19	鏃＋矛？＋不明	7.95×5.15×4.80	２号溝	３面に型
2	第22図 図版19	矛＋武器類＋鏃？	6.05×4.15×3.40	３号溝　Ⅰ区	３面？に型
3	第22図 図版19	矛？	2.65×2.40×0.85	１号溝　Ⅰ区上層	樋部分
4	第22図 図版19	矛？	3.90×3.40×0.90	１号溝　Ⅱ区　上層	
5	第22図 図版19	武器類	2.20×4.55×2.85	調査区北東部 遺構検出時	
6	第22図 図版19	矛？	2.60×2.25×1.45	２号溝　Ⅰ区　上層	湯口？
7	第22図 図版19	剣？	2.20×3.55×2.40	遺構検出時	
8	第22図 図版20	不明	6.70×4.20×2.85	ピット23	
9	第22図 図版20	不明	3.50×5.90×5.00	遺構検出時	
10	第22図 図版20	不明	3.90×3.10×3.85	１号溝　上層	
11	第23図 図版21	―	2.35×2.85×2.60	８号溝	
12	第23図 図版21	―	6.80×7.45×3.50	１号溝	
13	第23図 図版21	―	3.05×3.20×1.65	８号溝　Ⅱ区　上層	石片
14	第23図 図版21	―	4.65×2.00×1.75	１号溝　Ⅳ区　下層	石片
15	第23図 図版21	―	4.05×2.25×1.45	ピット20	石片

これは製品に孔を作り出すための中型を受ける装置であった可能性が考えられる。また、Ａ面には小穴が穿たれた溝に並行して同様な溝が彫り込まれているが、これには小穴は存在しない。一方、Ｃ面にも溝状の浅い彫り込みがみられるが、これが青銅器の型か否かは判断できない。

９・10は器種を全く推定できないが、鋳型の一部と見做すことができる資料。９は２面に黒変した型の一部が残存しており、かろうじて鋳型の残片と識別できる。詳細は不明である。10はＡ面に黒片した部分が確認され、Ｂ面も平坦に整形されており、鋳型片と認識できる。Ｂ面には浅い彫り込みが存在するが、これが青銅器の型かどうかは判別できない。

11・12は鋳型の一部である可能性が高い資料。11は青銅器の型らしき彫り込みが残存するが、小片で且つ破損が著しいため、鋳型片とは断定できない。12は横断面形が蒲鉾状に近い形状に整形、加工されており、武器類鋳型の特徴を備えている。本来は鋳型であった可能性が高いが、上面が砥石に使用されているため青銅器の型は現存せず、鋳型とは確定できない。

13～15は石英長石斑岩片で、鋳型の製作時や再加工時等に生じたものであろう。15には研磨された面が存在する。鋳型の出土数からするとこのような石片の出土数は極めて少ない。

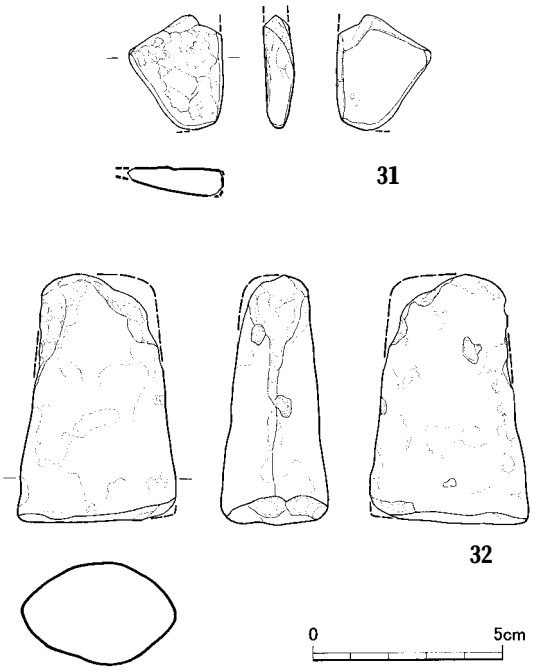


第24図　中型実測図①（1/2）

② **中　型**（図版22、第24・25図）

３次調査では中型が80片以上出土しているが、細片が多く、図示し得たのは32点である。胎土は微砂粒からなる真土製で、１㎜前後の砂粒を僅かに含む例も見受けられる。出土した中型の中には、銅鋤先及び小銅鐸中型と推定されるものが各１点ずつ存在するが、その他は形状からみてすべて銅矛中型と考えられる。

なお、中型の出土位置や計測値など詳細については、観察表に示したとおりである。



第25図　中型実測図②（1/2）

銅矛中型　１～30は銅矛中型であろう。銅矛中型は断面の形状が円形に近いもの（１～12）と、やや扁平で楕円形を呈するもの（13～27）及び著しく扁平なもの（28～30）があり、これは銅矛の型式に対応するものと考えられる。

断面形が円形に近いものは、断面形の厚さの数値を幅の数値で割った値が１～0.8程度を示す。１は幅が５㎜前後と狭く、先端部付近と考えられるが、銅矛以外の中型である可能性も考慮すべき資料といえる。７・９は多数の気孔が観察され、硬化、変形し、明瞭に使用された痕跡を留めており、鋳造過程における失敗を示唆している。２・４・５・９・10には黄褐色の付着物が認められ、これについてもやはり使用されたことを示すものと判断される。

やや扁平で断面形が楕円形を呈するものは、厚さの数値を幅の数値で割った値が0.8～0.6の範囲におさまっている。この中には13・17のようにやや軟質で使用の痕跡が明らかでないものが存在するが、気孔や付着物が認められ、硬化していて明瞭に使用された痕跡を窺うことができる資料が多い。27は幅が2.75㎝と広く、湯口付近の破片と推定される。

断面形が著しく扁平なものは、厚さの数値を幅の数値で割った値が0.6以下で、最も扁平な30は0.44を示す。いずれも硬化しており、付着物と気孔が観察され、使用された痕跡を留めている。

銅鋤先中型　31は板状を呈しており、銅鋤先の中型と推定される。被熱により硬化していて、付着物、気孔が認められ、やや変形する。

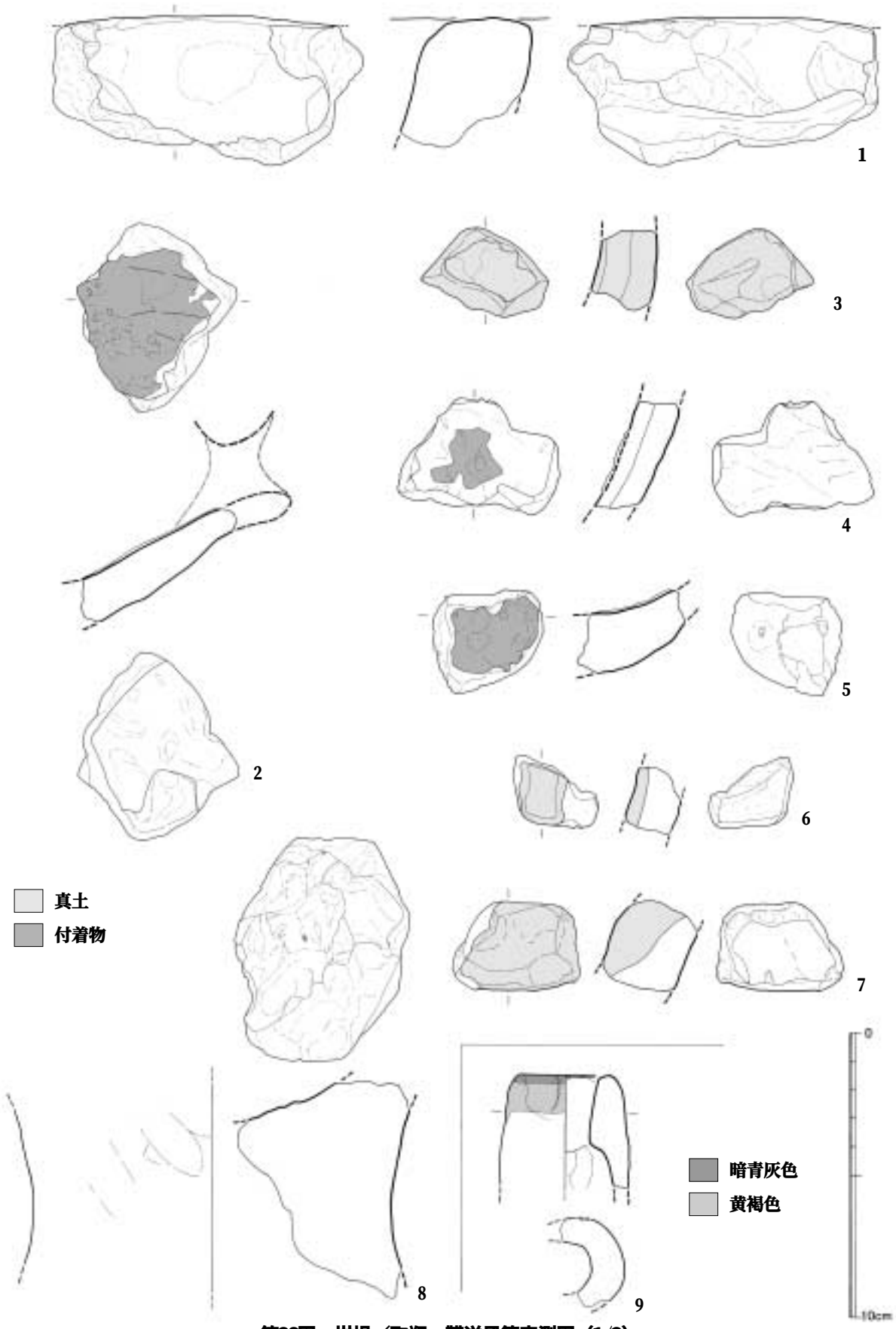
小銅鐸中型　32は小銅鐸の中型であろう。現存長は6.6㎝を測る。断面形は扁平な銅矛中型と同様に凸レンズ状を呈し、両側縁は稜をなす。付着物及び気孔はなく、やや軟質である。舞に当たる部位の中央は欠失しているため、型持ちとなる突起が作り出されていたか否かは確認できない。

③ **坩堝／取瓶**（図版23、第26図）

１・２次調査で出土した坩堝／取瓶と同様な遺物が、３次調査でも出土している。資料はすべて小

表３　３次調査出土中型観察表　（計測値の幅と厚さは断面図の位置の数値）

番号	挿図 図版	種別	出土位置	計測値(㎝、ｇ)				表面の色調	付着物の有無 付着物の色調	特　徴	備　考
				長さ	幅	厚さ	重さ				
1	第24 図版22	銅矛	遺構検出時	1.95	0.50	0.50	0.60	淡灰色	無	硬化 気孔あり	
2	第24 図版22	銅矛	ピット８	1.45	0.75	1.00	0.80	灰白色	有 黄褐色	やや硬化	
3	第24 図版22	銅矛	１号溝	1.85	0.80	0.75	1.20	淡黄灰色	無	やや軟質	
4	第24 図版22	銅矛	遺構検出時	1.60	1.15	1.00	1.80	淡黄灰色	有 黄褐色	やや硬化	
5	第24 図版22	銅矛	遺構検出時	2.25	1.25	1.00	1.40	淡黄灰色	有 黄褐色	硬化 気孔あり	
6	第24 図版22	銅矛	ピット６	2.00	1.05	1.05	1.90	灰白色	無	やや硬質 気孔あり	
7	第24 図版22	銅矛	ピット24	1.55	1.55	1.25	1.10	淡黄灰色	無	硬化 多数の気孔あり	変形する
8	第24 図版22	銅矛	遺構検出時	2.15	1.50	1.35	4.10	黄灰色～暗灰色	無	やや軟質	
9	第24 図版22	銅矛	ピット20 遺構検出時	2.55	1.30	1.35	3.20	青灰色	有 黄褐色	硬化 多数の気孔あり	変形する
10	第24 図版22	銅矛	ピット３	2.35	1.50	1.35	3.20	淡黄灰色～暗灰色	有 淡黄褐色	やや軟質	
11	第24 図版22	銅矛	４号掘立柱建物 Ｐ１	1.90	1.90	1.60	4.40	淡黄灰色	無	やや軟質	
12	第24 図版22	銅矛	遺構検出時	3.60	2.10	1.70	14.20	黄灰色	無	やや硬質	胎土は粘土質
13	第24 図版22	銅矛	ピット４	1.60	0.85	0.65	0.80	灰黒色	無	やや軟質	
14	第24 図版22	銅矛	遺構検出時	2.25	1.45	0.95	2.80	灰白色	有 黄褐色	硬化 気孔あり	
15	第24 図版22	銅矛	遺構検出時	1.40	1.70	0.90	1.40	灰白色	有 黄褐色	硬化 多数の気孔あり	
16	第24 図版22	銅矛	調査区中央部 遺構検出時	2.90	1.15	0.75	3.10	淡青灰色	有 黄褐色、灰白色	硬化 気孔あり	変形する
17	第24 図版22	銅矛	ピット20	2.25	1.60	1.20	3.30	淡黄灰色～淡灰黒色	無	やや軟質	
18	第24 図版22	銅矛	遺構検出時	2.35	1.90	1.30	5.40	暗灰白色	有 淡黄褐色	硬化 気孔あり	
19	第24 図版22	銅矛	１号溝 Ⅲ区上層	2.60	1.30	0.80	2.60	淡黄灰色	有 淡黄褐色､茶褐色	硬化 気孔あり	
20	第24 図版22	銅矛	遺構検出時	2.75	1.75	1.35	6.70	淡青灰色	有 暗茶褐色､灰白色	硬化 気孔あり	変形する
21	第24 図版22	銅矛	２号溝	2.80	2.15	1.65	8.70	赤紫色	無	やや硬化	
22	第24 図版22	銅矛	８号溝 Ⅲ区下層	2.40	2.10	1.40	6.80	黒褐色	有 赤褐色、黄褐色	著しく硬化 多数の気孔あり	変形する
23	第24 図版22	銅矛	遺構検出時	3.95	2.05	1.40	12.40	暗灰白色	有 黄褐色	硬化 気孔あり	
24	第24 図版22	銅矛	１号溝 Ⅲ区上層	3.40	1.85	1.30	9.00	淡青灰色	有 淡黄褐色､灰黒色	著しく硬化 多数の気孔あり	
25	第24 図版22	銅矛	ピット28	3.40	2.30	1.60	13.90	暗青灰色	有 茶褐色、灰白色	硬化 気孔あり	
26	第24 図版22	銅矛	遺構検出時	2.55	2.35	1.70	10.40	淡灰黒色	無	やや硬質	胎土は粘土質
27	第24 図版22	銅矛	ピット29	3.45	2.75	2.20	19.70	黄灰色	無	やや硬質	
28	第24 図版22	銅矛	８号溝	1.40	1.10	0.65	0.90	青灰色	有 黄褐色	やや硬化 気孔あり	
29	第24 図版22	銅矛	遺構検出時	1.75	1.30	0.75	1.60	灰白色	有 赤紫色、黄褐色	硬化 気孔あり	
30	第24 図版22	銅矛	調査区南東部 遺構検出時	1.60	1.95	0.85	2.70	淡青灰色	有 暗茶褐色	硬化 気孔あり	
31	第25 図版22	銅鋤先	１号溝	3.00	2.45	0.75	4.00	黄灰色	有 黄褐色	硬化 気孔あり	変形する
32	第25 図版22	小銅鐸	２号溝	6.60	4.10	2.75	51.80	黄灰色～暗黄灰色	無	やや軟質	



第26図　坩堝／取瓶・輸送風管実測図（1/2）

表４　３次調査出土坩堝／取瓶観察表

番号	挿図 図版	出土位置	調整・色調・付着物等		胎　土	焼成	備　考
			外　面	内　面			
1	第26図 図版23	調査区南東部 遺構検出時	調整はナデ 色調は黄褐色	調整はナデ 被熱により淡赤褐色～淡黄灰色に変色	粗砂粒を含む	良好	口縁部
2	第26図 図版23	２号溝 Ⅰ区上層	調整は不明 色調は赤褐色	調整は不明 全面に灰黒色､淡黄灰色の付着物あり	細砂粒を含む	良好	注口部分か？
3	第26図 図版23	ピット８	調整はナデ？ 色調は黄灰色	調整はナデ 被熱により青灰色に変色、硬化	真土質	良好	
4	第26図 図版23	１号溝 Ⅲ区上層	調整は不明 色調は灰褐色	調整はナデ？ 被熱により青灰色に変色、硬化 灰黄色の付着物あり	細砂粒を含む	良好	
5	第26図 図版23	１号溝 Ⅱ区上層	調整は不明 色調は赤褐色	調整は不明 被熱により暗灰色に変色、硬化 灰黒色、黄灰色の付着物あり	細砂粒を含む	良好	
6	第26図 図版23	10号溝	調整は不明 色調は赤褐色	調整は不明 被熱により淡青灰色に変色､やや硬化 真土が塗られている	細砂粒を含む	良好	
7	第26図 図版23	ピット31	調整はナデ 色調は赤褐色	調整はナデ 色調は淡黄灰色～淡赤褐色 真土が塗られている	細砂粒を含む	良好	
8	第26図 図版23	２号掘立柱建物 Ｐ６	調整はナデ 色調は淡赤褐色	調整は不明 被熱により赤褐色～赤紫色に変色､硬化 青緑色の付着物あり	粗砂粒を含む	良好	底部～脚台部

片であり、天地、傾きを確定できないものが多い。なお、ここに図示した遺物の詳細については、表４に示している。

１は口縁部であろう。極めて厚手のつくりで、上面はほぼ水平である。胎土には粗砂粒を含み、硬く焼け締まっている。外面は黄褐色を呈し、被熱の痕跡は見受けられないが、内面は付着物こそ認められないものの淡赤褐色乃至淡黄灰色に変色しており、被熱の痕跡が窺われる。２は注口部分と推定される小片である。比較的薄手で、胎土には細砂粒を含んでいる。焼成は良好。外面は赤褐色を呈し、被熱の痕跡は認められない。内面には破片の全面に灰黒色及び淡黄灰色の付着物が認められ、著しく硬化し、気孔が観察される。３の胎土は中型と同様なきめの細かい砂質の土が使用されている。外面は黄灰色を呈し、強い熱を受けた痕跡は観察されない。内面は青灰色に硬化しており、被熱の痕跡が明瞭に残されている。４の内面も被熱によって青灰色に硬化しており、付着物が観察される。５は底部付近の資料と推定される。外面は赤褐色を呈する。内面には灰黒色及び黄灰色の付着物があり、著しく硬化している。６・７は小片で部位は特定できないが、ともに内面には厚く真土が貼られている。６の内面は被熱により淡青灰色に変色する。８は底部から脚台部にかけての資料。内底面の一部が残っており、青緑色の付着物が観察される。胎土には粗砂粒を含み、焼成は良好。外面は淡赤褐色を呈し、著しい被熱の痕跡は認められない。

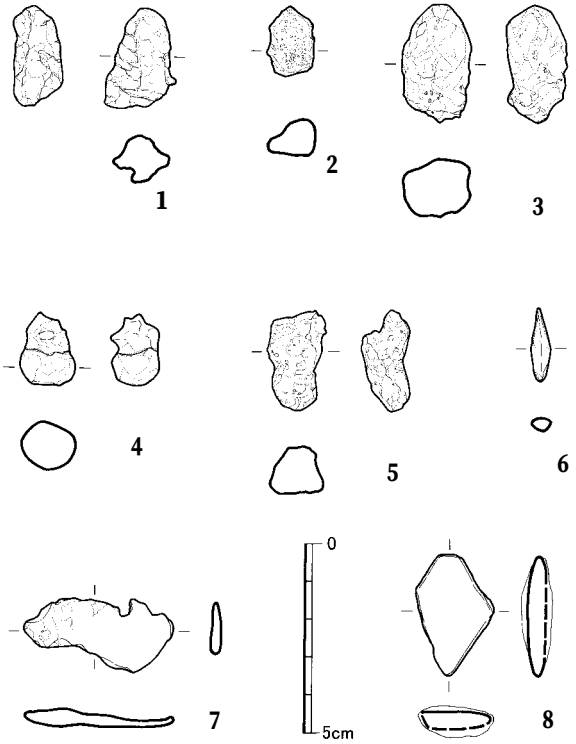
④　**輸送風管**（図版23、第26図）

９はＰ８から出土した羽口部の破片資料で、送風孔から反転復元したが、残りの良い他の資料は器肉の厚みが一定ではなく、外径と内径の中心が異なるものもあることから、復元には疑問もある。外面は磨滅するがナデであろう。赤褐色を呈するが、羽口は高熱を受け暗灰色、その周囲は黄褐色に変色し、若干の硬化や、ヒビも見られる。送風孔は羽口側が正円に近く、竹等を利用し孔を製作し引き抜いたようにも見える。下半には段を有し、指頭痕が観察できる。胎土は１～２㎜程度の砂粒を含む。

⑤ **銅滓・銅片**（図版24－⑴、第27図）

青銅器を製作した際に生じたと判断される銅滓や銅片等の遺物が20点存在し、その内の８点を図示している。

１は青緑色を呈する部分が見受けられ、見た目より重く、かなり銅質を含んでいるように思われる。２・３は気孔が著しく、１とは対照的に比重が小さい。４・５は１ほどではないが、２・３より比重が大きい。５の外観は２・３に近く、気孔が著しい。



第27図　銅滓・銅片実測図（1/2）

６～８は１～５とは異なり青銅片と考えられる。６は長さが1.95㎝と小さいが比較的整った形状をなしており、製品の可能性もあろう。７・８については扁平で板状を呈しており、バリの残片等と考えられる。

（４）ガラス製品生産関連遺物

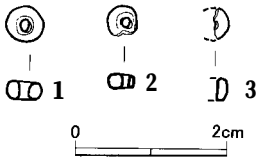
（図版24－⑵、第28図）

４号溝から出土したガラス製品の生産に関わる真土製の遺物。内外面共に指頭痕が観察でき、内面には暗赤色のガラスが付着する。手捏による成形が考えられるが、小片のため傾きは不確実で、実測図のように大きく傾く。ガラス付着小形容器或いは、組合せ鋳型天板などの可能性もある。

表５　３次調査出土銅滓・銅片一覧表

番号	挿図 図版	出土位置	計測値(㎝、ｇ)				色　調
			長さ	幅	厚さ	重さ	
1	第27図 図版24	１号溝 Ⅰ区上層	2.70	1.50	1.30	13.20	青緑色、茶褐色
2	第27図 図版24	１号溝	1.90	1.25	1.00	1.20	暗青灰色～茶褐色
3	第27図 図版24	２号溝 Ⅱ区上層	3.10	1.75	1.55	7.60	茶褐色～黒褐色
4	第27図 図版24	調査区南東部 遺構検出時	1.90	1.45	1.30	6.00	暗黄灰色～暗灰色
5	第27図 図版24	遺構検出時	2.65	1.45	1.30	5.10	灰白色、淡青緑色、黒褐色
6	第27図 図版24	ピット13	1.95	0.55	0.35	0.90	淡青緑色
7	第27図 図版24	調査区南東部 遺構検出時	1.95	3.90	0.55	6.80	茶褐色、淡青緑色
8	第27図 図版24	２号溝 Ⅰ区上層	3.15	2.00	0.45	12.10	茶褐色、青緑色

第28図　ガラス製品生産関連遺物実測図(1/2)



第29図　小玉実測図(1/1)

（５）玉　類（図版24－(3)、第29図）

ガラス製小玉が４点出土した。内１点は小片のため図化していない。図化した３点はいずれも透明なスカイブルー色を呈し、孔に平行した気泡筋が確認できる。１は８号溝から出土した。直径0.5㎝、厚さ0.55㎝、重さ0.09ｇを測る。２は１号溝からの出土で、一部欠損する。直径0.36㎝、厚さ0.2㎝重さ0.04ｇ。３は表採資料。全体の半分以上を欠損する。残存長0.4㎝、厚さ0.3㎝程度、重さ0.04ｇを測る。

（６）鉄　器（図版25－(1)、第30図）

１は鉄鏃で、１号溝から出土した。鏃身部の破片で、有茎・無茎かは不明。残存長2.4㎝、残存最大幅2.46㎝、最大厚0.26㎝を測る。ふくらをもち、断面は両平形。木質が付着しているが、矢柄に伴うかは不明である。

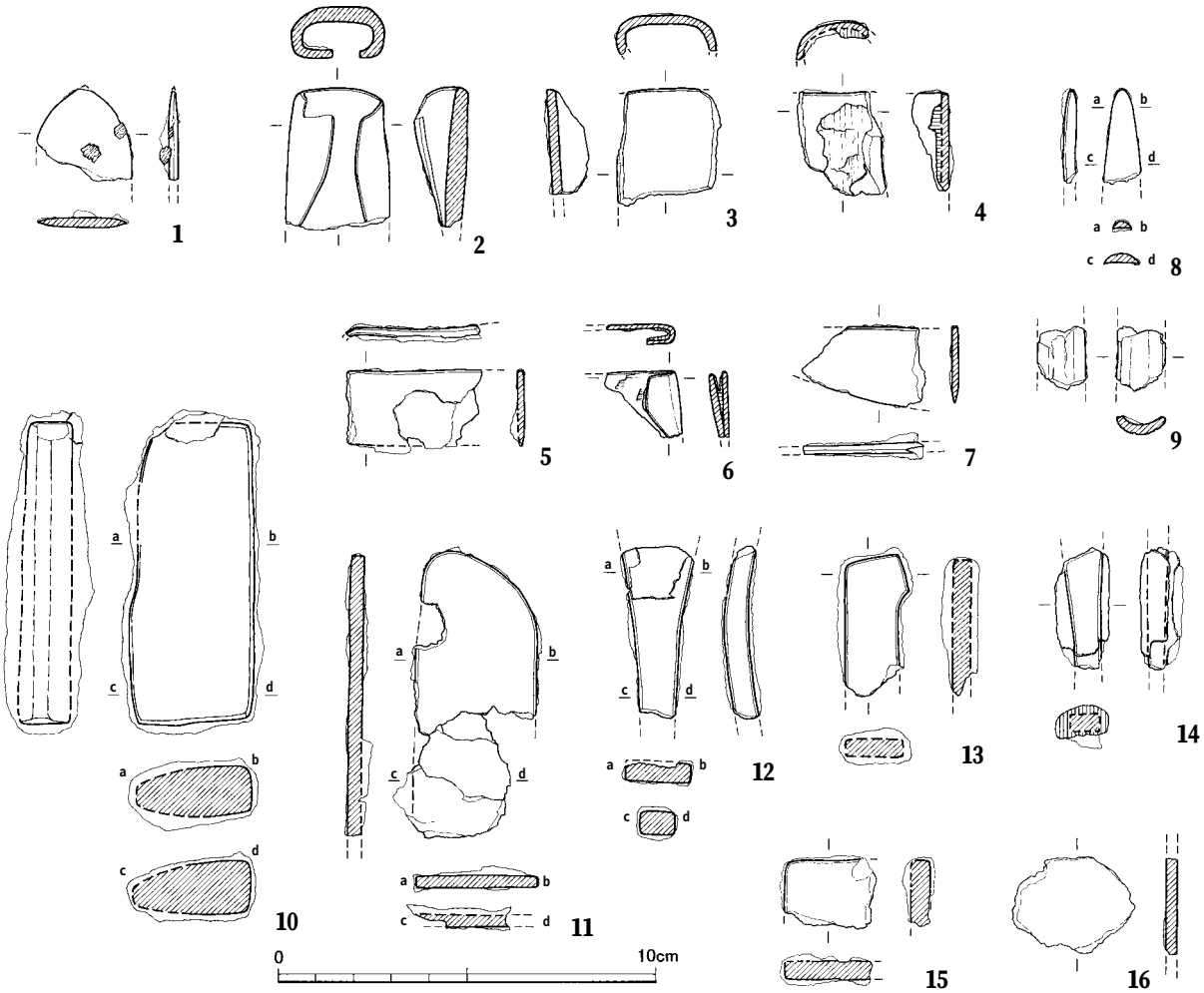
２～４は袋状鉄斧である。いずれも袋部から身部にかけての厚みの変化は認められない。２は遺構検出時に出土しており、折り返し部分の片側上端及び、身部の大半を欠損する。残存長3.72㎝、袋部幅2.75㎝、厚さは0.5㎝程度とやや厚い。袋部の横断面形は楕円形である。３・４は、折り返し部分と、身部の大半を欠損する。３は１号溝出土。残存長3.05㎝、厚さ0.25㎝程度で、袋部の横断面形は楕円形か。４は２号溝から出土した。残存長2.8㎝、残存幅2.35㎝程度、厚さは0.2㎝を測る。欠損部が多く、袋部横断面形は判然としない。やや腰が細くなる平面形で、木柄の痕跡が残存している。

５・６は摘鎌で、２号溝から出土した。５は折り返し部分の大半を欠損しており、全長2.0㎝程度、残存幅3.6㎝、厚さ0.2㎝を測る。６は片側の折り返し部分の破片で、残存長1.77㎝、最大幅1.93㎝、厚さ0.15㎝を測る。木柄の痕跡が残存している。

７は片側に刃部を持つもので、２号溝から出土した。最大幅3.01㎝、厚さ0.2㎝を測り、両刃である。図左方に向け幅を減じることから、鎌の切先に近い部分であろうか。

８・９は鉇で、断面は弧状を示すことから、裏すきを持つタイプであろう。８は遺構検出時に出土した刃部の破片で、残存長2.45㎝、残存幅0.95㎝、最大厚0.25㎝を測る。９は２号溝から出土した身部の破片で、残存長1.32㎝、幅1.29㎝、厚さ0.3㎝を測る。

10～16は、欠損部が多く器種が特定できないものや、素材もしくは未成品の可能性があるものを掲載している。10はＰ26から出土し、ほぼ完全な形を留めている。最大長7.9㎝、最大幅3.2㎝で、最大幅は1.4㎝と非常に厚手で、左方に向けて、厚みを減じるが、刃部を形成するまで至らない。平面形は図左方中ほどで幅を減じるが、概ね長方形である。その形状から製品の特定はできず、素材もしくは未成品の可能性がある。11は４号溝から出土した。残存長7.45㎝、幅3.22㎝、厚さ0.35㎝程度で、

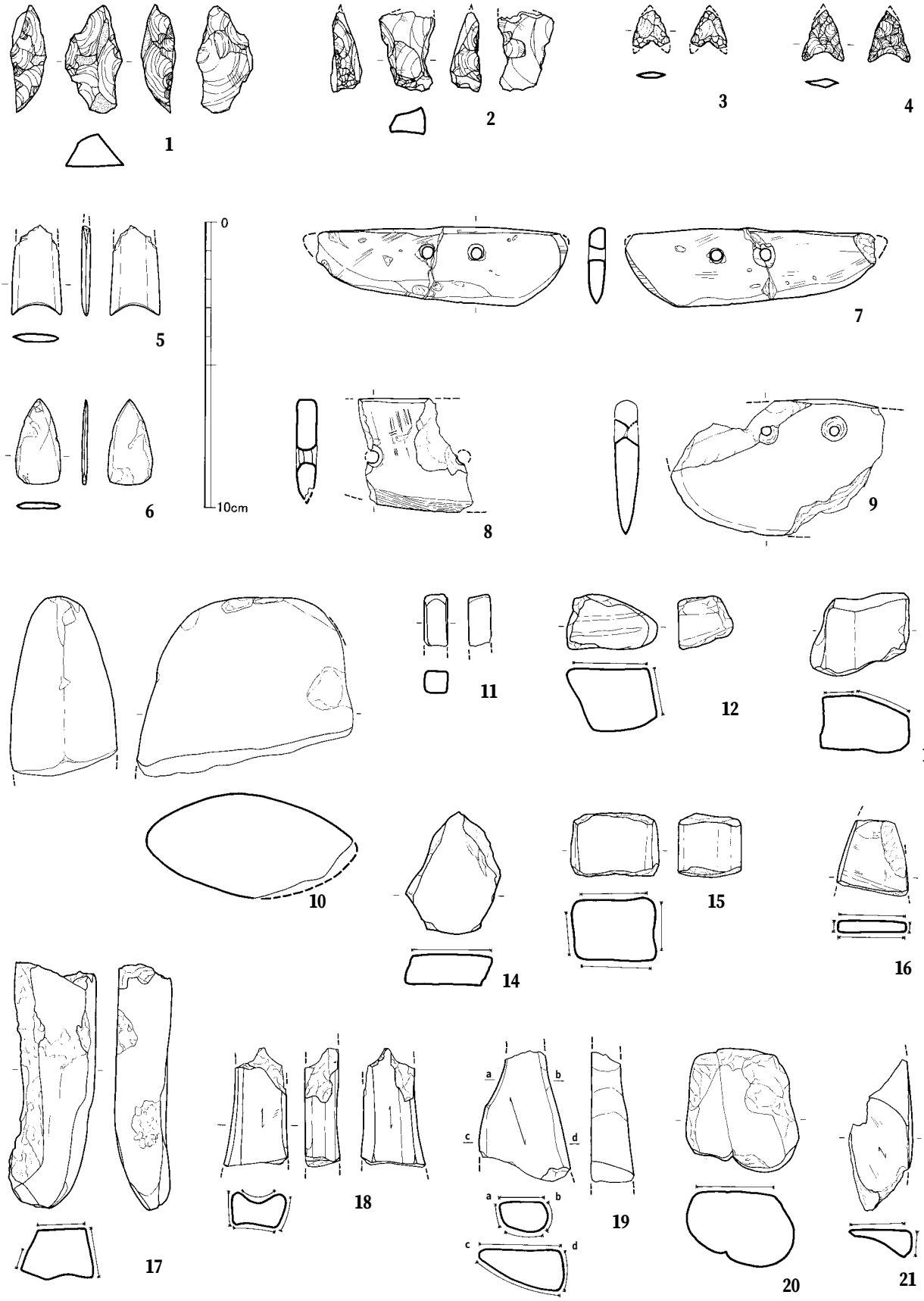


第30図　鉄器実測図（1/2）

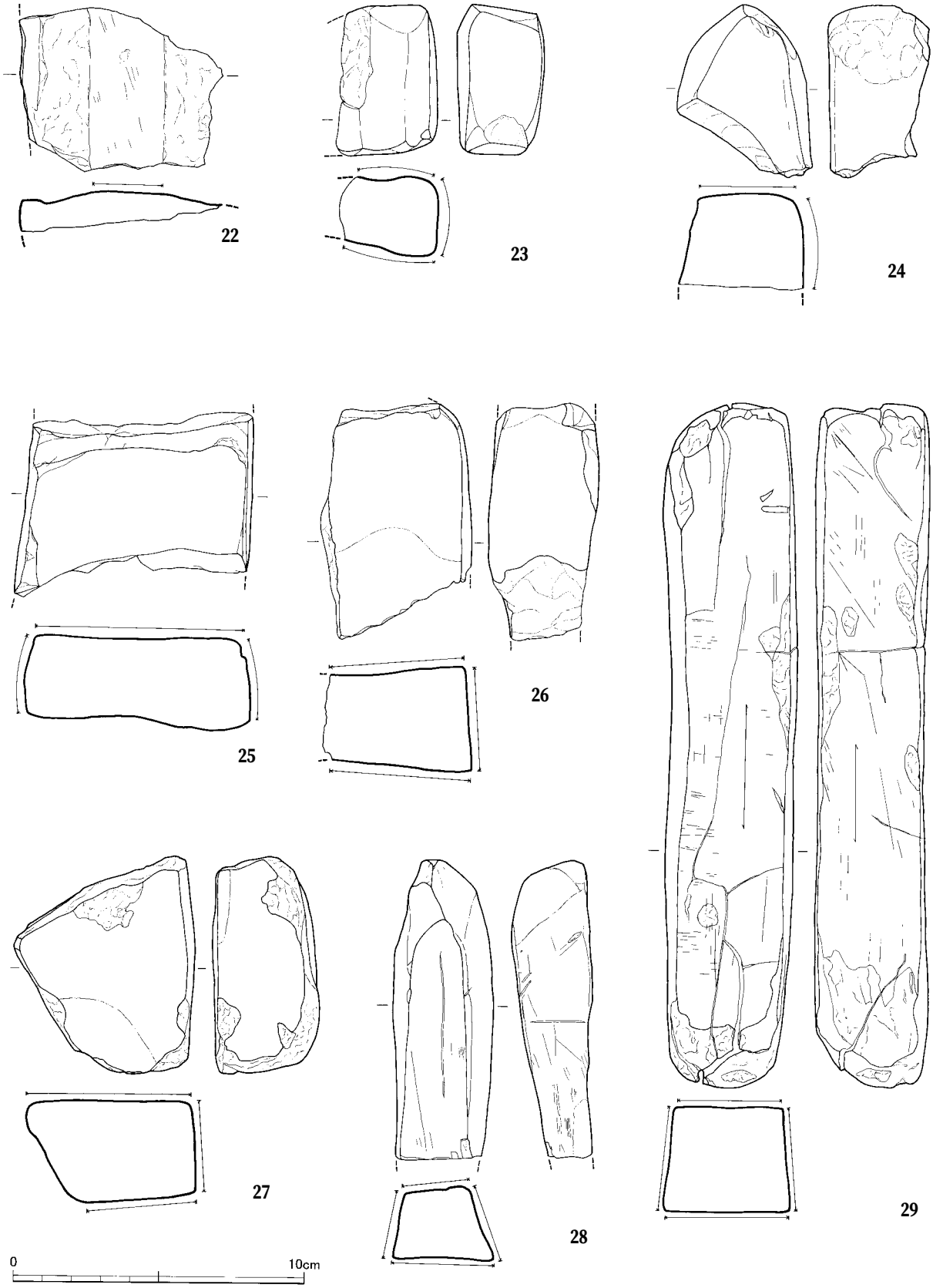
厚みはほぼ一定である。曲刃鎌の切先部のような形状だが、刃部をもたない。未成品か。12はP27から出土した。両端を欠損し、側面から見ると緩やかに湾曲している。残存長4.35㎝で、刃部は確認できない。図下方から上方に向けて、幅を増して厚みを減じる。恐らく図上部を叩き広げたものと思われるが、器種は特定できない。13は遺構検出時に出土した。上右方に突出部をもち、刃部は確認できていない。残存長3.6㎝で、銹化がはげしく厚みは判然としない。器種を想定し難いことから、素材もしくは未成品の可能性がある。14は１号溝から出土した棒状の鉄製品で、最大幅1.0㎝、厚さ0.4～0.5㎝程度で、図下方に向けて幅を減じる。周囲に有機質の付着が確認できることから、柄の装着部を想定できる。15は包含層から出土した板状の鉄器で、側面は二面が破損し、幅は0.5㎝とやや厚い。16は８号溝から出土しており、欠損のため本来の形状は不明。厚さは0.3㎝である。

（７）石　器（図版25－⑵～27、第31～34図）

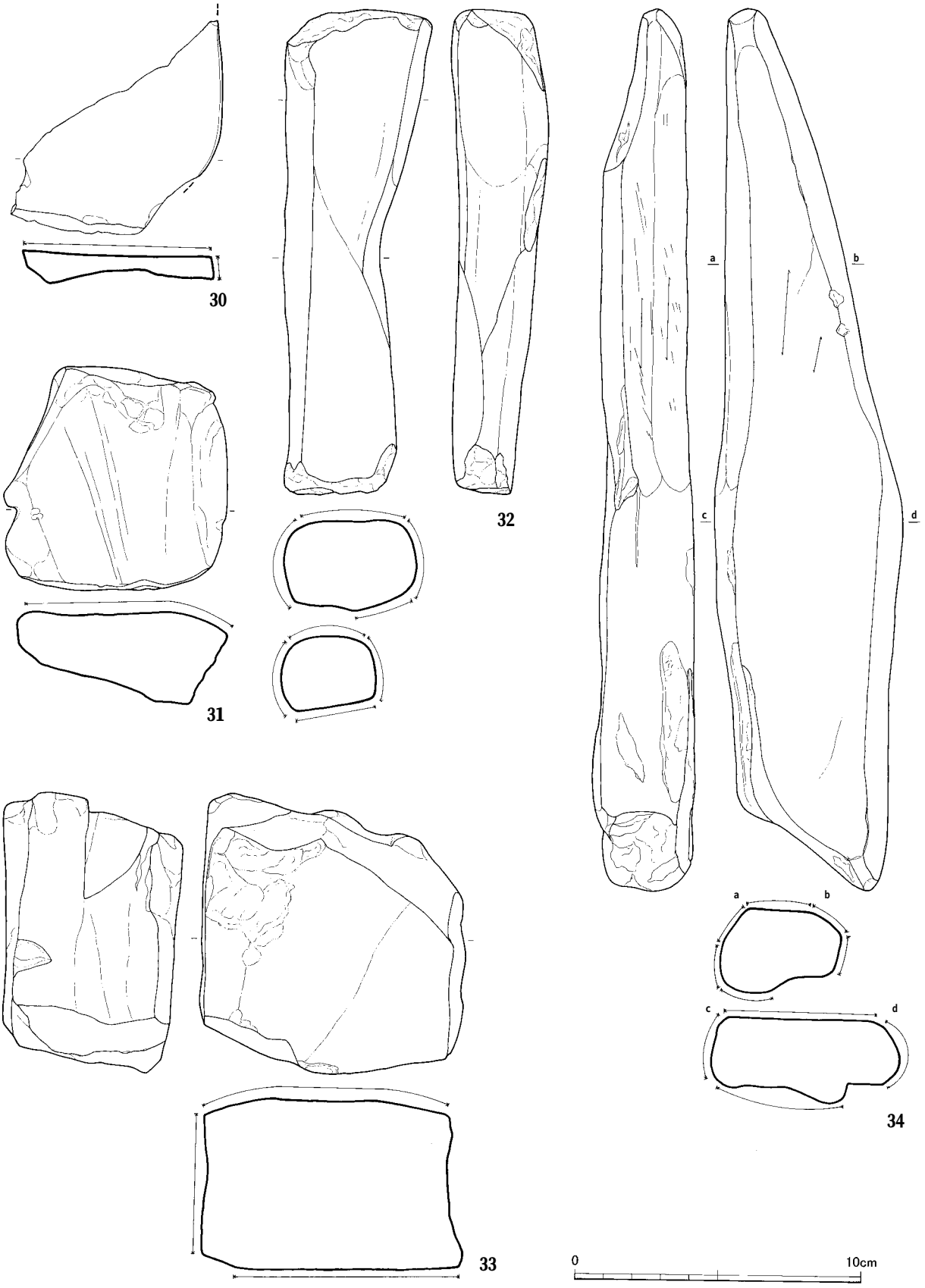
１～４は打製石器で、１～３は遺構検出時、４は８号溝から出土した。１は横長の剥片を素材としている。両側縁に２次加工を施しており、掻器の類と思われる。２は台形様石器で、刃部が欠損する。



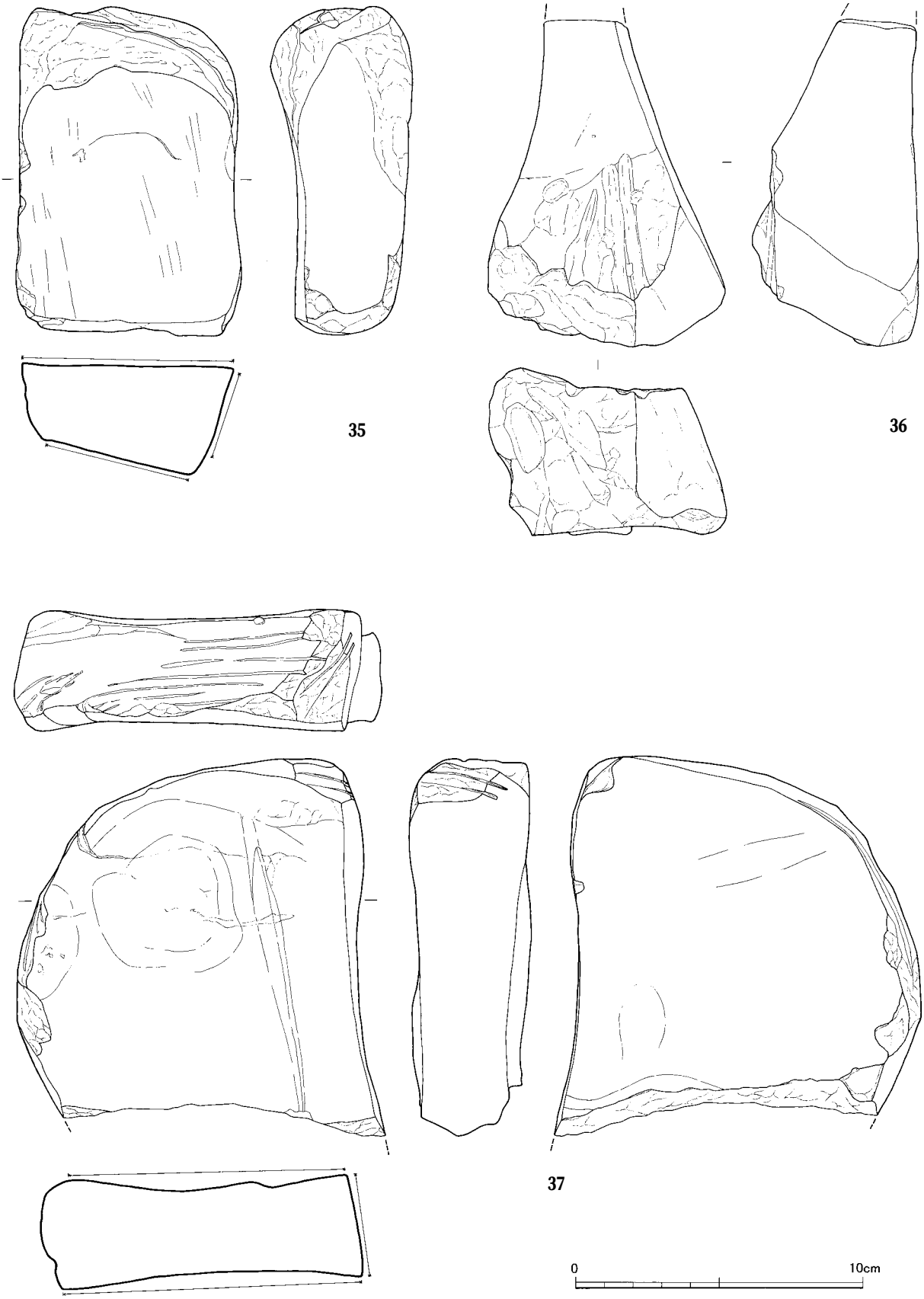
第31図　石器実測図①（1/2）



第32図　石器実測図②（1/2）



第33図　石器実測図③（1/2）



第34図　石器実測図④（1/2）

表６　３次調査出土石器一覧表

番号	挿図 図版	種　別	出土位置	計測値(㎝、ｇ)				石　材	残存状況	備　考
				長さ	幅	厚さ	重さ			
1	第31図 図版25	掻器	遺構検出時	3.75	2.00	1.20	6.70	黒曜石	完形品	
2	第31図 図版25	台形様石器	遺構検出時	(2.80)	1.90	1.10	(4.50)	黒曜石	刃部欠損	
3	第31図 図版25	打製石鏃	遺構検出時	(1.35)	1.30	0.25	(0.40)	サヌカイト	刃端部・両脚 欠損	
4	第31図 図版25	打製石鏃	８号溝 Ⅱ区最下層	(1.80)	1.45	0.30	(0.60)	黒曜石	刃端部欠損	
5	第31図 図版25	磨製石鏃	遺構検出時	(3.10)	1.80	0.25	(2.40)	緑色片岩	刃部欠損	
6	第31図 図版25	磨製石鏃	１号溝	2.95	1.55	0.20	1.40	緑色片岩	ほぼ完形品	
7	第31図 図版25	石包丁	ピット17	(8.75)	2.75	0.60	21.30	凝灰岩	ほぼ完形品	
8	第31図 図版25	石包丁	２号溝	(4.00)	4.00	0.80	(18.00)	輝緑凝灰岩	１/３程度残存	立岩産？
9	第31図 図版25	石包丁	遺構検出時	(7.45)	4.75	0.85	(36.90)	輝緑凝灰岩	１/２程度残存	立岩産？
10	第31図 図版26	太形蛤刃石斧	遺構検出時	(6.25)	7.55	3.60	(228.20)	玄武岩	１/２程度残存	
11	第31図 図版26	穿孔具？	ピット22	(1.80)	0.80	0.80	(2.30)	砂岩	小片	
12	第31図 図版26	砥石	２号溝 Ⅰ区上層	(1.90)	(3.20)	(2.20)	(14.80)	灰白色の砂岩	破片	粗粒
13	第31図 図版26	砥石	２号溝 Ⅰ区上層	(2.90)	(3.45)	(1.90)	(28.20)	灰白色の砂岩	破片	中粒
14	第31図 図版26	砥石	ピット15	(4.30)	(3.35)	(1.05)	(17.60)	灰白色の砂岩	破片	中粒
15	第31図 図版26	砥石	ピット21	(2.20)	3.10	2.25	(29.50)	灰色～灰白色の砂岩	破片	粗～中粒
16	第31図 図版26	砥石	ピット21	(2.70)	2.50	0.45	(5.40)	灰色の泥岩	破片	細粒
17	第31図 図版26	砥石	ピット12	(8.55)	3.00	1.85	(66.20)	暗灰色の泥岩	破片	細粒
18	第31図 図版26	砥石	１号溝	(4.15)	2.20	1.15	(13.60)	暗灰色の泥岩	破片	細粒　玉砥石？
19	第31図 図版26	砥石	ピット30	(4.50)	3.15	1.50	(21.50)	灰白色の砂岩	破片	粗～中粒
20	第31図 図版26	砥石	遺構検出時	(4.30)	(3.95)	(2.65)	(53.50)	灰色の砂岩	破片	中粒
21	第31図 図版26	砥石	２号溝	(5.20)	(2.20)	(0.95)	(9.00)	黒灰色の泥岩	破片	細粒
22	第31図 図版26	砥石	１号溝 Ⅱ区下層	(5.60)	(7.00)	(1.60)	(72.90)	灰色の砂岩	破片	中粒
23	第31図 図版26	砥石	Ⅲ区最下層	5.20	(3.45)	2.75	(80.00)	灰色の砂岩	破片	粗粒
24	第31図 図版26	砥石	８号溝 Ⅲ区最下層	(5.90)	(4.50)	(3.20)	(109.60)	灰色の砂岩	破片	粗粒
25	第31図 図版26	砥石	８号溝	(6.40)	(8.15)	(3.15)	(220.40)	赤みがかった暗灰色の砂岩	破片	細～中粒
26	第31図 図版26	砥石	ピット７	(8.15)	(5.20)	3.65	(218.00)	灰白色の砂岩	破片	中粒
27	第31図 図版26	砥石	遺構検出時	(7.50)	(6.15)	3.55	(200.50)	灰白色の砂岩	破片	粗粒
28	第31図 図版26	砥石	１号溝	(10.25)	3.45	2.50	(118.90)	黒灰色の泥岩	破片	細粒
29	第31図 図版26	砥石	１号溝	23.50	4.40	3.60	731.90	黒灰色の泥岩	完形品	細粒
30	第33図 図版27	砥石	ピット12	(7.45)	(7.35)	(1.15)	(44.60)	灰白色の砂岩？	破片	細～中粒
31	第33図 図版27	砥石	４号溝	(7.80)	(7.80)	(3.15)	(224.90)	赤みがかった灰白色の砂岩	破片	中粒
32	第33図 図版27	砥石	６号溝	(16.95)	5.15	3.20	(343.60)	灰白色の砂岩	完形品	中粒
33	第33図 図版27	砥石	遺構検出時	(9.80)	(9.30)	5.90	(775.90)	灰白色の砂岩	破片	粗～中粒
34	第33図 図版27	砥石	２号溝	30.80	6.55	3.00	861.90	暗灰色の泥岩	完形品	細粒
35	第34図 図版27	砥石	遺構検出時	11.25	7.80	(4.90)	(558.30)	暗灰～灰色の泥岩	破片	細～中粒
36	第34図 図版27	砥石	２号溝	(11.30)	8.20	5.80	(502.20)	灰色の砂岩	破片	細～中粒　玉砥石？
37	第34図 図版27	砥石	８号溝	(13.10)	12.70	4.20	(903.70)	砂岩	破片	粗～中粒　玉砥石？

※（　）内の数値は残存部位の計測値である。

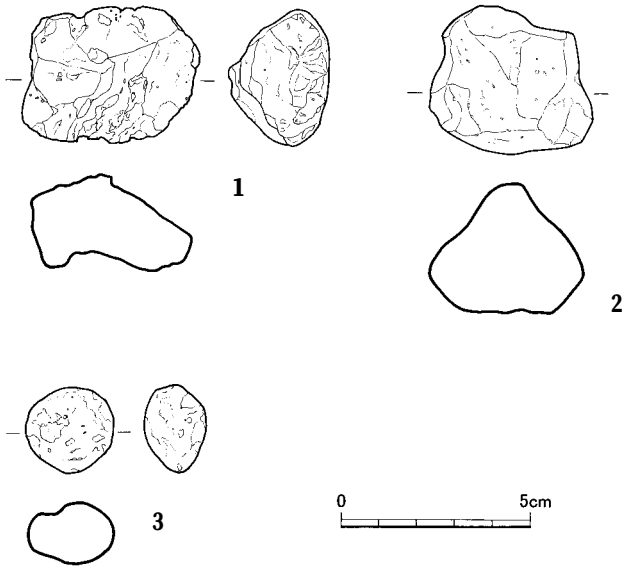
１・２とも黒曜石製で、１は灰黒色、２は黒色を呈する。２は著しく風化が進んでいる。３・４は基部形状が凹基式の石鏃である。３はサヌカイト製で平面は正三角形に近い。４は黒曜石製で、平面は二等辺三角形である。

５～11は磨製石器で、５・９・10は遺構検出時、６は１号溝、７はP17、８は２号溝、11はP22から出土した。５・６は石鏃で両者とも緑色片岩製。５は刃部の先端が欠損するが、二等辺三角形の平面形をもつものと思われる。６はほぼ完形品で、平面は二等辺三角形を呈す。基部形状は５が凹基式で、６が平基式である。７～９は石包丁で、７は凝灰岩製、８・９は輝緑凝灰岩製である。いずれも２つの紐孔が確認でき、両側から穿孔が施される。背部は７・８が直線的で、９はやや丸みを帯びる。10は太形蛤刃石斧で、玄武岩製。刃部を欠損する。11は砂岩質で、方柱状の外形をもつ。石錐のような穿孔具か。

12～37は砥石である。目の細かさから、粗粒・中粒・細粒に分けられ、内８点が粗粒である。その多くが欠損品、もしくは不定形の砥石であるが、29は長方形の完形品である。微細な条痕の観察から長軸方向の使用が想定できるが、短軸方向にも幅0.5㎜程度の溝が多く認められる。32・34は不定形の完形品である。34は側面上半分の研ぎ減りが激しく、もう半分は自然面を残す。またもう一方の側面も同様の研ぎ減りが認められる。幅４㎜以上で断面U字状の凹みが確認できるものは、18・36・37の３つで玉砥石であろうか。37の凹みは上面と側面に確認でき、側面には幅１㎜程度の凹みが数条確認できる。

（８）軽　石（図版28－⑴、第35図）

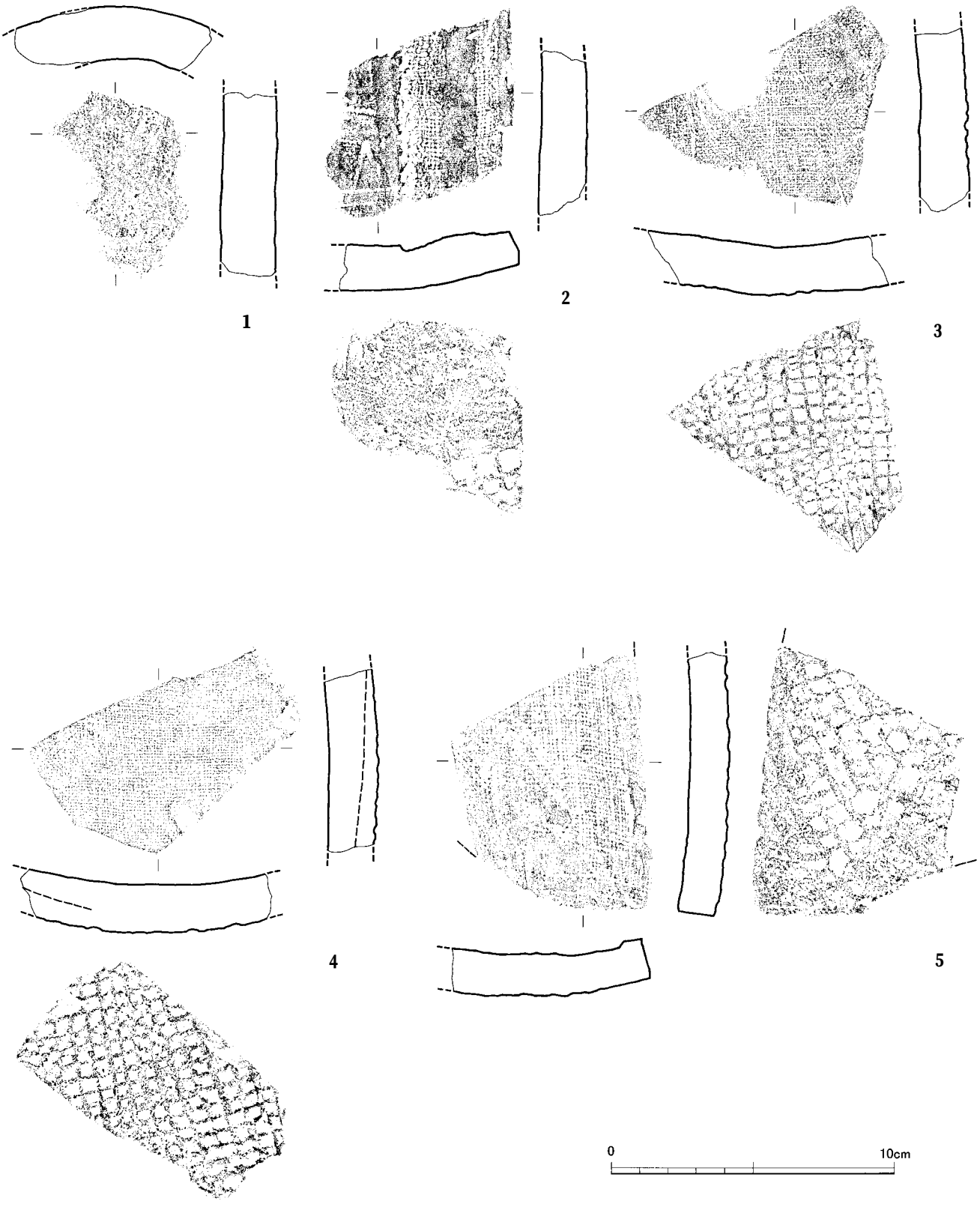
軽石は３点出土している。１は遺構検出時に出土し、長さ3.65㎝、幅4.7㎝、厚さ2.67㎝、重さは10.03ｇ。２は３号溝から出土し、長さ3.9㎝、幅4.3㎝、厚さ3.4㎝、重さ18.99ｇ。３は１号溝から出土し、長さ2.33㎝、幅2.37㎝、厚さ1.65㎝、重さ1.74ｇ。３点とも意図的な加工は認められないが、３は摩滅し丸みを帯びる。須玖遺跡群では青銅器生産関連遺物とともに、軽石が出土することがあり注目される。



第35図　軽石実測図（1/2）

（９）瓦（図版28－⑵、第36図）

１は丸瓦、２～４は平瓦、５は隅切瓦である。３はＰ７、その他は遺構検出時に出



第36図　瓦実測図（1/2）

土した。なお、隣接する坂本地区２次調査では「太宰府式鬼瓦」が出土している。「隅切瓦」の存在は寄棟造の建物の存在を想定することができる。瓦の他に８世紀後半から９世紀初頭頃の遺物が散見され、明確な遺構からの出土遺物ではないにしろ、春日丘陵の東側に展開する官道との関連が想定される。

１は凸面ナデ消し、凹面には微かに布目が残る。胎土は白色砂粒を含みやや粗い土師質である。色調は凸面側が淡橙色で、凹面側が淡灰白色を呈す。厚さ2.0㎝。２は一側面が残る破片である。側面はヘラ削りとナデで面取りされ、「く」字形に２面をなす。側面付近に粘土継ぎ足し痕が残る。凹面はやや粗めの布目痕（１㎝四方の糸目８本）とナデ消し痕が残り、凸面には一辺７㎜角の正格子目叩きがランダムに配される。胎土は白色砂粒を少量含みやや密で、淡灰色の須恵質である。厚さ1.7㎝。３は凹面に細かな布目痕（１㎝四方の糸目11本）が残り、一部をナデ消す。凸面には一辺４㎜角の正格子目叩きが施される。胎土は白色砂粒・黒色斑点を含みやや密で、淡灰色の須恵質である。厚さ1.８㎝。４は凹面に細かな布目痕（１㎝四方の糸目12本）、凸面には一辺3.5㎜角の正格子目叩きが施される。胎土は微細な白色砂粒・黒色斑点を少量含むやや密で、淡灰色の須恵質である。破断面に粘土板接合痕が観察され、円筒桶巻き使用痕跡と考えられる。厚さ1.7㎝。５は一側面と端面、隅切部分の３面が残存する。側面にはヘラ削りとナデによる調整がある。凹面には粗めの布目痕（１㎝四方の糸目８～９本）と縦方向のヘラ削りが施される。凸面には不明瞭な正格子目叩き後に部分的なナデ消しが残る。胎土は微細な白色砂粒を少量含みやや密で、淡灰色の須恵質である。厚さ1.6㎝。

Ⅳ　４次調査の内容

１　調査の概要

４次調査は１次調査地点の北に隣接する536㎡を対象として実施した。遺構面の標高は17.50ｍを測り、１～３次調査地点に比べると一段低い位置にある。

調査時点まで水田として利用されていたため、発掘調査ではまず、重機を使用して厚さ20㎝ほどの耕作土を除去した。この時点で調査区の大部分で露出した黄褐色粘質土の地山面に、弥生土器を包含する遺構を確認した。調査区内を縦横に走る水田の排水用暗渠のほかに目立った撹乱はないが、１～３次調査地点よりも水田開発時の削平を強く受けているため遺構の密度が薄くなっている。北側に緩く傾斜する地形であるため、特に調査区南部では削平が著しい。

調査区の北半部には薄い遺物包含層が堆積しており、これには陶磁器や古瓦など中世から古代にかけての遺物と弥生時代の遺物が混在していた。そして、包含層には中型や銅滓など小片の重要遺物が含まれていたため、遺構検出に際しては特に慎重に作業を進め、できる限り出土位置の記録に努めた。

検出した遺構としては、土坑４基、溝７条、竪穴状遺構２基、掘立柱建物跡７棟及び多数のピットがある。各遺構の表面は鉄錆状に硬化した土に覆われているものが多く、土色や土質にも大きな差異がなかったため、重複する遺構でも新古関係を判別できなかったものがある。

出土遺物としては、土器、土製品、石器、鉄器のほか、石製鋳型や中型、坩堝／取瓶、銅滓、ガラス付着容器などがあり、青銅器やガラス製品の生産関連遺物が多く認められる点は１～３次調査と同様であるが、１号竪穴状遺構から出土した坩台や鞴送風管、ピット27から出土した仿製鏡片などは特に注目される資料である。

２　遺　構

４次調査では、土坑４基、溝７条、竪穴状遺構２基、掘立柱建物跡７棟、及び多数のピットを検出した。調査で確認できた主な遺構の新古関係は次に示した（古→新）とおりである。

１号溝　←　４号溝
↑　↖　↓
１号土坑　　７号溝

（１）土　坑

１号土坑（図版31－⑴～⑶、第38図）

第37図　４次調査遺構配置図（１/100）

調査区の北部に位置する。重複する１号溝より古い遺構であることを確認できている。3.4×2.85ｍの隅丸長方形を呈し、深さ約15㎝を測る。底面はほぼ水平で平坦である。一部途切れるが壁際には細い溝を廻らせている。底面で10個余のピットを検出したが、この土坑に伴うものであるか明確ではない。ただ、この中には炭の堆積が認められるものがあり注目される。

当遺構出土の遺物としては、鉢及び２点の銅矛中型がある。

２号土坑（第39図）

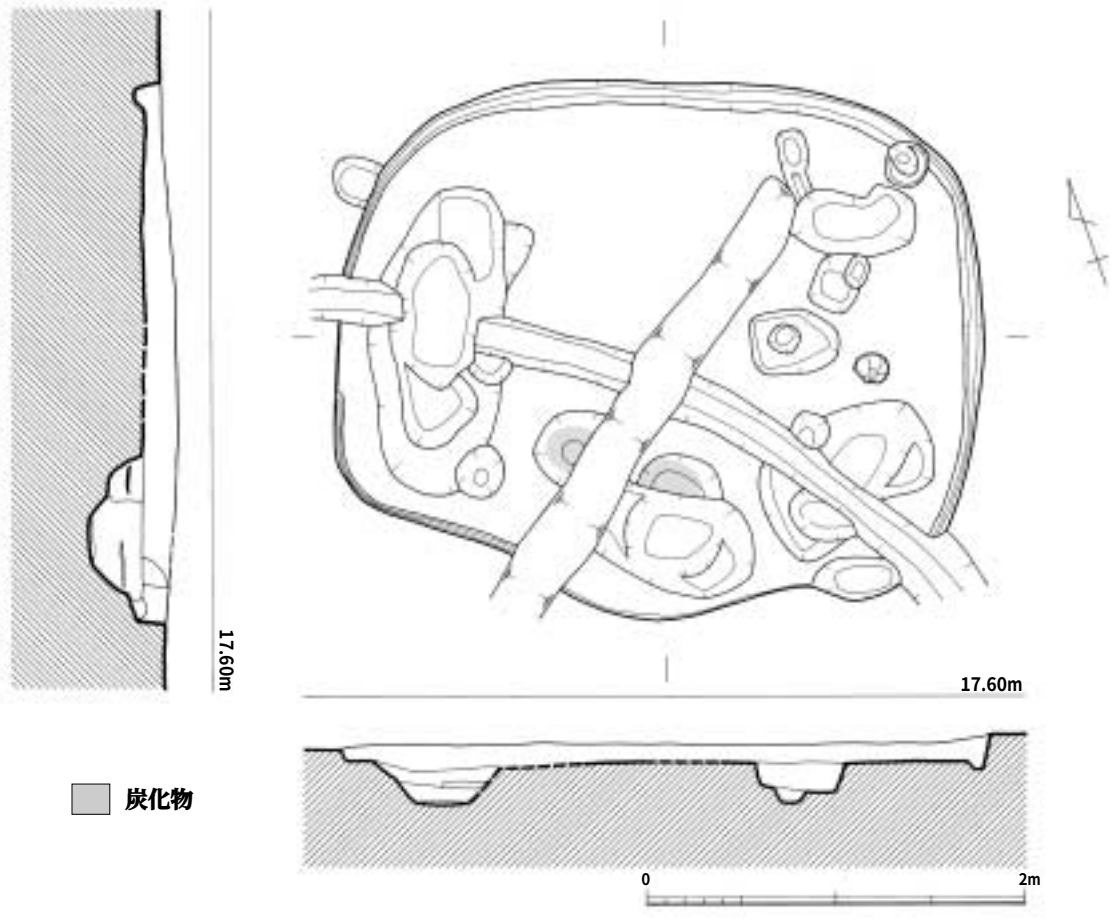
調査区の北西部隅に位置する。調査区外にのびているため正確な規模や形状は不明である。現存での深さは約25㎝で、東辺側を一段深く掘り込んでいる。

当遺構からは弥生土器片及び銅矛中型が出土した。

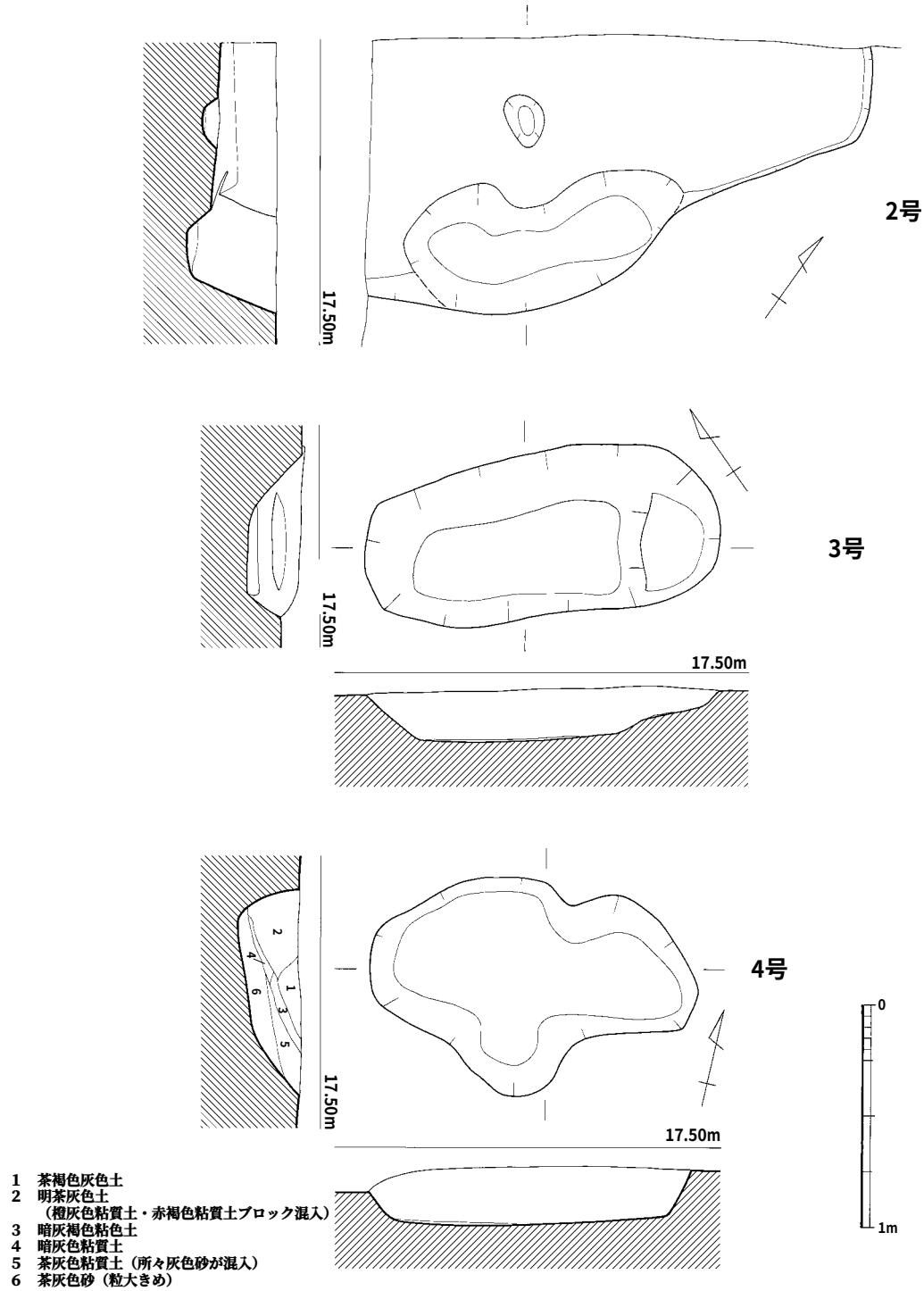
３号土坑（第39図）

調査区の南部で４号土坑に接して検出した。長楕円形を呈し、平面の規模は長さ1.6m、幅70㎝を測る。床面までの深さは25㎝で、東端はこれより10㎝ほど浅くなっている。

出土遺物はごく少量の弥生土器片のみで、図示し得るものはない。



第38図　１号土坑実測図（1/40）



第39図　２・３・４号土坑実測図（1/30）

４号土坑（第39図）

前述した３号土坑の西側に接して検出した１×1.5mの不整形な土坑で、床面までの深さは約25㎝を測る。

出土遺物は黒曜石の砕片のみである。

（２）竪穴状遺構

４次調査では主要な青銅器生産関連遺物の殆どが、２基の竪穴状遺構とその周辺から出土している。２基の遺構の形態は異なっているが、いずれも青銅器生産に直接関わった施設と考えられる。

１号竪穴状遺構（図版32－⑴～35－⑷、第40図）

調査区東部に位置し、遺構の東部が調査区外にのびている。拡張することが不可能であったため、全容は明らかではないが、短辺4.9m、長辺５m以上（壁面の傾斜や床面の状況等を考慮すると6.5m前後と推定される）の隅丸長方形を呈する遺構と考えられる。遺構検出面からの深さ70㎝を測る。調査では西隅からのびる２号溝との新古関係を明確にできなかった。

北部の壁際には深さ10㎝ほどの浅い掘り込みが２ヵ所存在し、この２ヵ所の掘り込みの間には炭化物が認められた。また、２ヵ所の掘り込み内には径40㎝前後の浅いピットがそれぞれに穿たれ、この２ヵ所のピットは小溝によって接続している。そして、この両ピット内には拳大ほどの花崗岩礫が一方には２個、他方には４個配されていた。また、これよりやや大ぶりの花崗岩礫が掘り込み及びその周囲から出土しており、北壁際には何かが設置されていた可能性が高い。

出土遺物は上・中・下層に分けて取り上げた。いずれの土層からも弥生土器とともに青銅器生産関連遺物が多数出土している。上層では後期の土器が主体的であるが、下層出土の土器は中期末～後期初頭のものが大半を占め、丹塗り土器が高い比率で含まれていることが特記される。

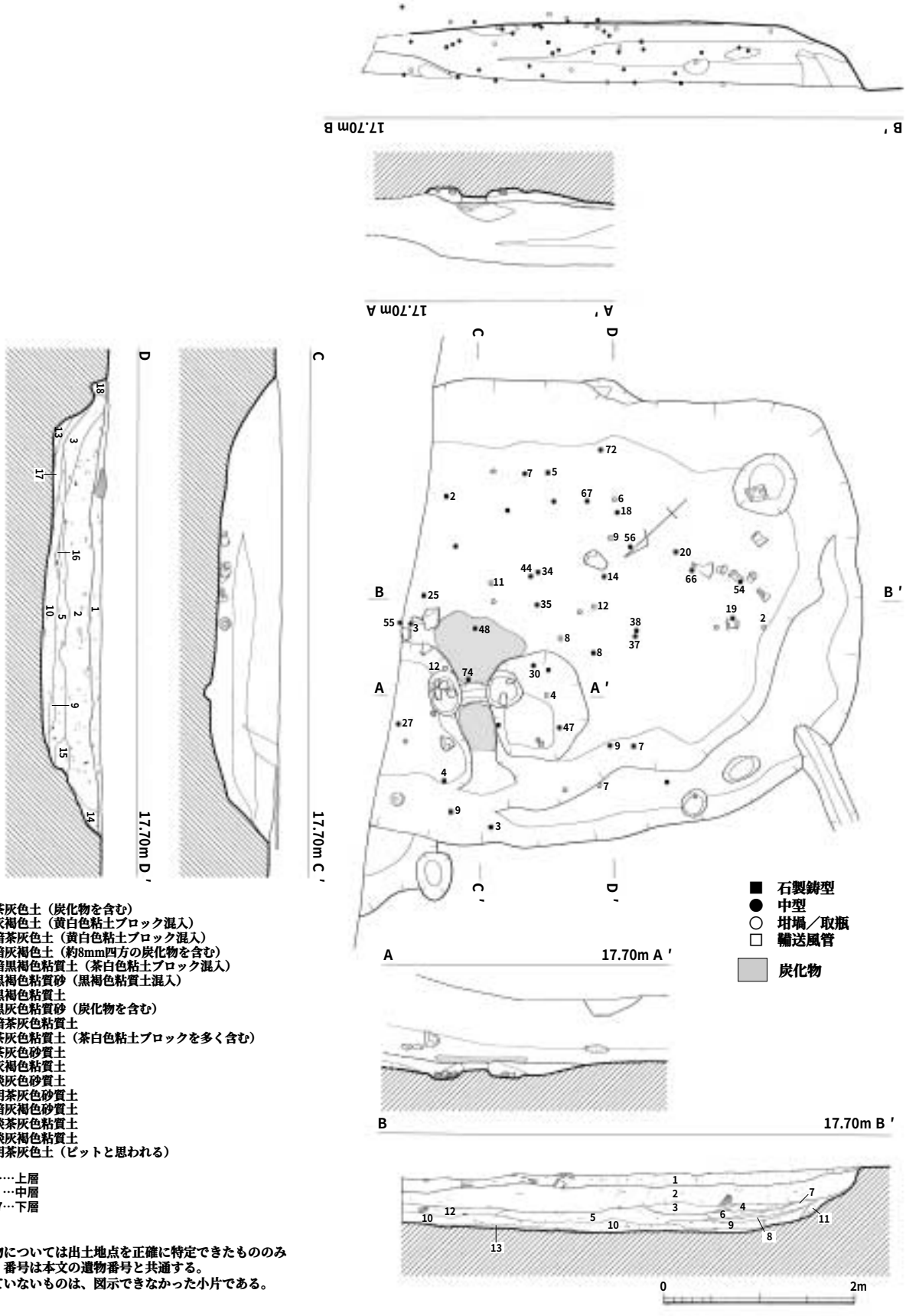
２号竪穴状遺構（図版36－⑴・⑵、第41図）

調査区西部、１号溝の内側中央部に検出した。南辺以外の壁部は完全に削平され、壁溝の一部（溝Ａ）と内部に巡る溝（溝Ｂ）が残存している。溝Ｃは溝Ｂに接続していた可能性が高い。南辺の中央付近には壁際に80×90㎝の掘り込みがあり、その形状は竪穴住居の屋内土坑に極めて類似する。また、平面図の破線で示した5.5×5.2mの方形の範囲は、その外部とは土色に相異が認められ、当遺構の床面の残存部分を示すものと判断される。従って、当遺構は本来、Ｐ１、Ｐ２を主柱穴とする方形の竪穴住居状の遺構であったと考えられる。

当遺構からは石製鋳型や銅矛中型、坩堝／取瓶などの青銅器生産関連遺物がまとまって出土している。但し、遺構の残存状態が悪いため出土土器は少量で、且つすべてが破片資料である。

（３）溝

４次調査で検出した溝は７条である。１～３次調査区では、複雑に重複する溝がピット群を取り囲む状況が見られたが、４次調査区では様相が異なり、比較的単純な遺構配置となっている。特に調査区の南部では遺構が希薄になっているが、これは北側へ緩く傾斜する地形であることから、後世の削平による遺構の消失が著しかったことに起因するものと思われる。

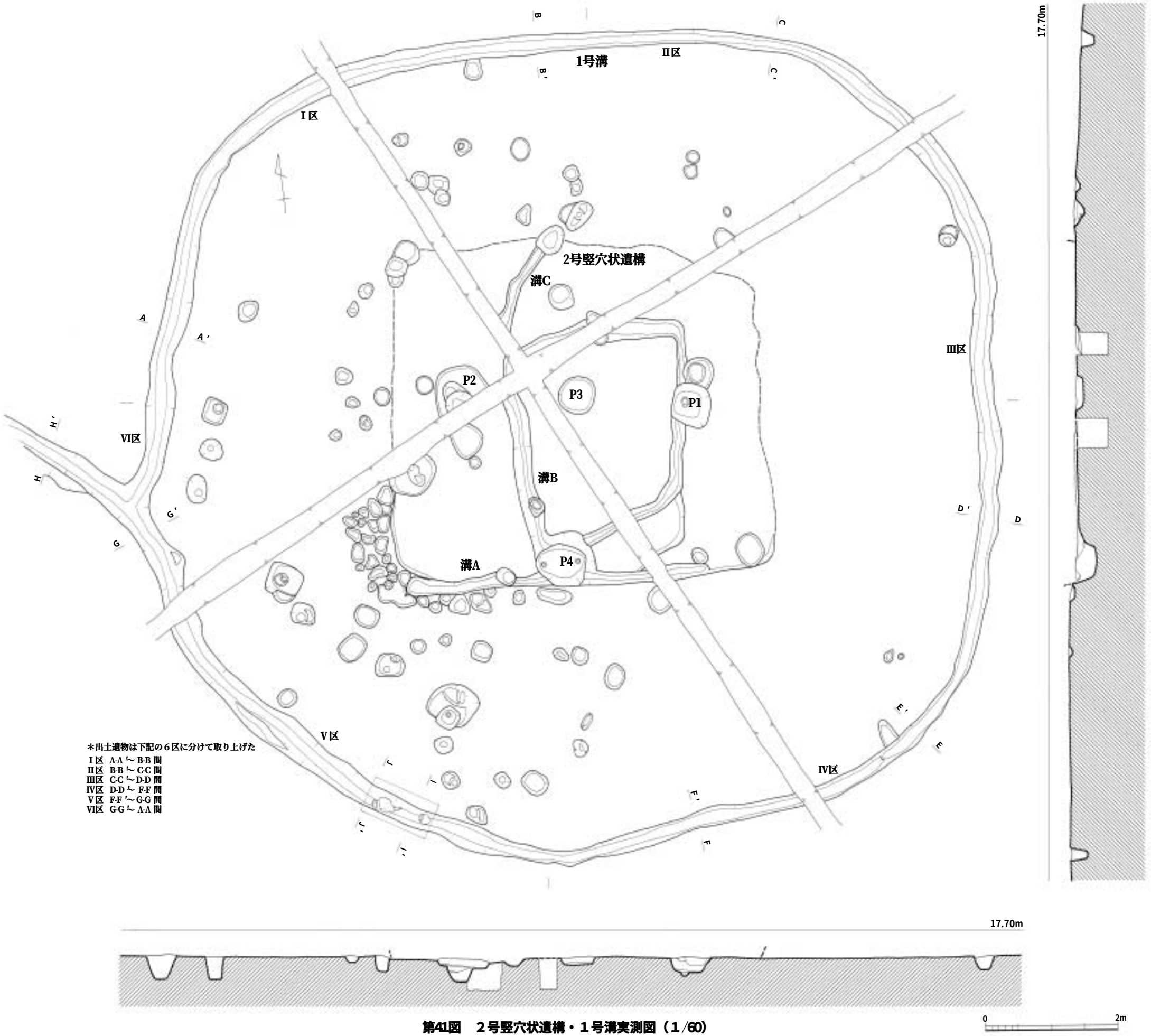


1　茶灰色土（炭化物を含む）
2　灰褐色土（黄白色粘土ブロック混入）
3　暗茶灰色土（黄白色粘土ブロック混入）
4　暗灰褐色土（約8mm四方の炭化物を含む）
5　暗黒褐色粘質土（茶白色粘土ブロック混入）
6　黒褐色粘質砂（黒褐色粘質土混入）
7　黒褐色粘質土
8　黒灰色粘質砂（炭化物を含む）
9　暗茶灰色粘質土
10　茶灰色粘質土（茶白色粘土ブロックを多く含む）
11　茶灰色砂質土
12　灰褐色粘質土
13　淡灰色砂質土
14　明茶灰色砂質土
15　暗灰褐色砂質土
16　淡茶灰色粘質土
17　淡灰褐色粘質土
18　明茶灰色土（ピットと思われる）

1……上層
2～4 …中層
5～17…下層

＊青銅器生産関連遺物については出土地点を正確に特定できたもののみ図中に示しており、番号は本文の遺物番号と共通する。
なお、数字を付していないものは、図示できなかった小片である。

第40図　１号竪穴状遺構実測図（1/60）



第41図　２号竪穴状遺構・１号溝実測図（１/60）

１号溝（図版37－⑴・⑵、第41・42図）

調査区西部に位置する。約12×12ｍの範囲を隅丸方形に取り囲み、西部で分岐して調査区外へ抜ける。溝幅は遺構検出面で18～54㎝、底面では７～20㎝を測る。断面形状は逆台形を呈し、深さは15～38㎝である。溝底面は南東部が最も高く、北西部の分岐点に向かって徐々に低くなり、さらにレベルを下げながら調査区外へ抜ける。最深部と最浅部との比高差は27㎝である。１号土坑、４・７号溝を切り、１・２号掘立柱建物跡と重複する。

当溝の内部のほぼ中央には、主軸を同じくして２号竪穴状遺構が存在する。位置関係からみて両者は一連の遺構と判断され、当溝は２号竪穴状遺構の排水施設であったと推定される。

出土遺物では青銅器生産関連遺物として銅矛中型、坩堝／取瓶があり、Ⅴ区の中央部から甕底部とともに完形で出土した２個の壺及び鉢が注目される。

２号溝

調査区東部に位置し、１号竪穴状遺構の西隅から湾曲して北方へのびる小溝で、長さ6.2ｍを検出した。３号溝及び３号掘立柱建物跡Ｐ３と重複しているが、新古関係は明らかにできていない。幅は南部では約30㎝を測るが、北部では10㎝前後と狭くなっている。深さは５～25㎝を測り、溝底は南側へ低く傾斜する。

当遺構からは銅矛中型が出土しているが、小片であるため図示していない。

３号溝

調査区東部に２号溝と重複して検出した。長さ約3.3ｍで湾曲する。幅約15～25㎝、深さ３～７㎝を測る。底面はほぼ水平である。覆土に細かな炭化物が含まれていた。

出土遺物は少なく、図示し得るものはない。

４号溝（第43図）

調査区西部で１号溝の内側に検出した。2.9×1.9ｍの範囲を隅丸長方形に囲繞し、西辺が１号溝と７号溝に切られている。溝幅は遺構検出面で15～43㎝、底面では４～23㎝と一定していない。深さは10～18㎝を測り、底面のレベルはほぼ水平である。当遺構は円環状の溝として検出したが、遺構の規模・形状等から、本来は１号土坑と同様の遺構であった可能性がある。

当遺構からは青銅器生産関連遺物として銅矛中型２点が出土している。

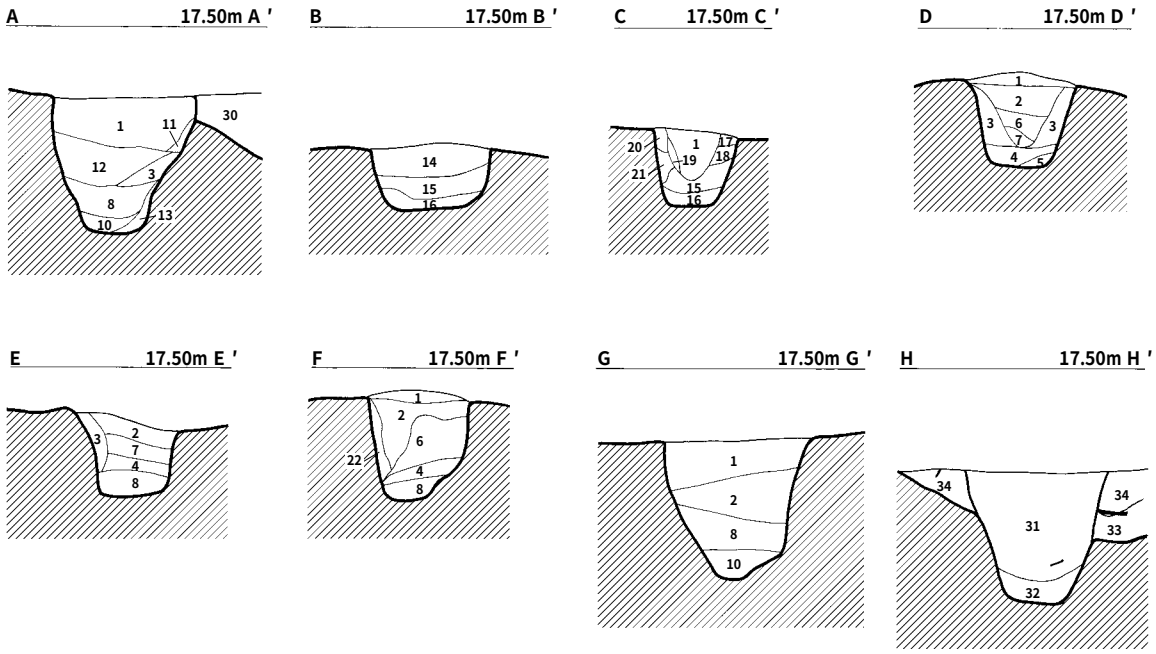
５号溝

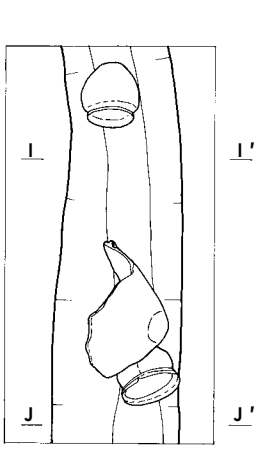
調査区西部に位置する。４号溝と２号竪穴状遺構の間に検出した長さ1.9ｍの湾曲する溝で、北部は分岐して三叉状になっている。溝幅12～25㎝、深さ２～７㎝を測る。４号溝と重複するが、浅かったため新古関係は確認できていない。

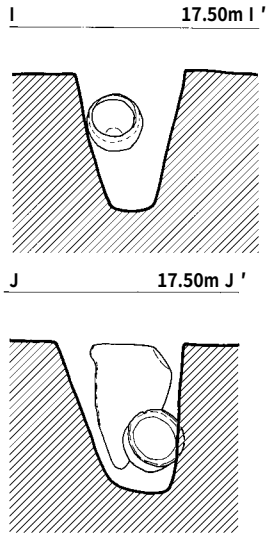
当遺構からは銅片が１点出土している。

６号溝

調査区東部で６号掘立柱建物跡と重複する位置に検出した。現存する長さは２ｍで、南北方向にのびている。幅約15㎝、深さは５㎝に満たず、底面は北方へ僅かに傾斜する。

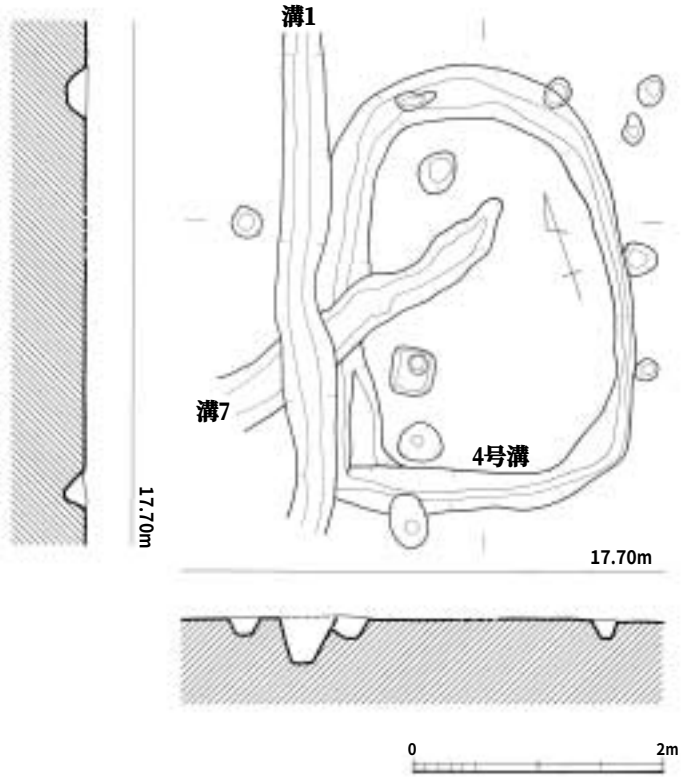






1 灰茶色土
2 茶灰色土
3 黄褐色土（壁土の崩れと思われる）
4 黒灰色土
5 黄灰色土（茶灰色土混入）
6 灰色砂質土（茶色土混入）
7 暗灰色砂質土（茶白色土混入）
8 淡茶灰色砂（キメは細かい）
9 茶褐色土
10 黒灰色粘質土
11 暗黄灰色粘質土ブロック
12 黒灰色土（やや粘質）
13 灰色砂（粗粒）
14 茶褐色土
15 灰色粘質土（黄色土粒混じり）
16 灰色粘質土（黒色土混入）
17 茶褐色土（黄褐色土混じり）
18 黄褐色土
19 灰色粘質土（茶褐色土少し混じる）
20 黄褐色土（灰色粘土混じり）
21 黄褐色土（灰色粘土混じり）
22 茶灰色砂質土（壁土の崩れと思われる）
23 黄白色粘質土ブロック
24 灰褐色土
25 黄褐色粘質土ブロック
26 黄褐色粘質土ブロック、茶灰色粘質土ブロック
灰色粘質土ブロック、赤茶褐色粘質土ブロック混入
27 灰色粘質土
28 暗褐色土（赤茶色土、黄白色粘土ブロック混在）
29 黒褐色土（白色粘土、橙褐色粘土ブロック混在）
30 褐色土（赤茶色土、黄白色粘土ブロック混在）
31 灰黒色粘質土
32 灰黒色粘質土（青灰色粘土混じり）
33 白色粘質土（炭化物含む）
34 灰黒色粘質土（やや茶味がかる）

第42図　１号溝断面土層・土器出土状態実測図（1/20）



第43図　４号溝実測図（1/60）

出土遺物は皆無である。

７号溝

調査区西辺の北部から東方へのびた直線的な溝で、4.2ｍを検出した。重複する１号溝より古く、４号溝より新しい。溝幅は30～50㎝で、深さは８～18㎝を測り、底面は西方へ低く傾斜する。西端では段が付き、更に10㎝ほど低くなっている。

主要な出土遺物として、銅矛中型、ガラス付着容器片がある。

（４）掘立柱建物跡

掘立柱建物跡は７棟存在する。この内、１・２号掘立柱建物跡は発掘調査時に確認したが、３～７号掘立柱建物跡については、整理作業の過程で検討し、抽出したものである。

１号掘立柱建物跡（第44図）

調査区西部に位置し、１号溝と重複する。２間×１間の６本柱で、桁行方向はＮ－19°－Ｅである。桁行4.9m、梁間2.7ｍを測る。柱穴は円形もしくは楕円形を呈し、径45～70㎝である。深さは25～35㎝を測る。Ｐ２で確認した柱の痕跡は径18㎝である。

図示し得る遺物は出土していない。

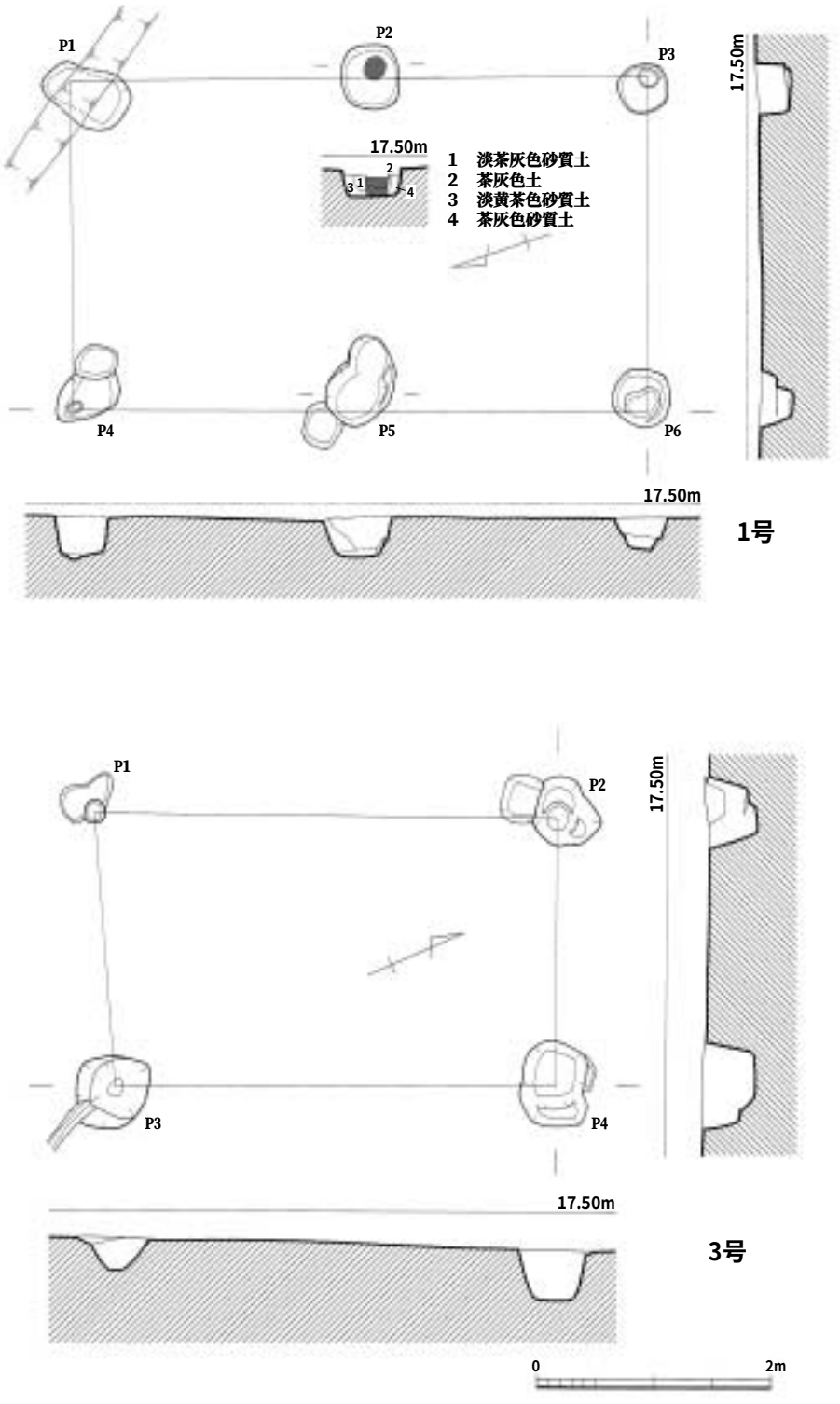
２号掘立柱建物跡（図版38－(1)・(2)、第45図）

調査区中央部に位置し、１号溝と重複する。２間×１間の６本柱で、桁行4.5m、梁間2.8ｍを測る。桁行方向はＮ－９°30′－Ｅである。各柱穴は楕円形もしくは隅丸方形を呈し、最も規模が大きいＰ４が65×45㎝、最も規模が小さいＰ１が35×30㎝で、東側桁の方が西側桁よりやや規模が大きい。深さは43～65㎝を測る。

図示し得ないがＰ４及びＰ６から中型の砕片が出土している。

３号掘立柱建物跡（第44図）

調査区北東部に４号掘立柱建物跡と重複して検出した。Ｐ３が２号溝の北端部に重複しているが新古関係は不明である。１間×１間の４本柱で、桁行方向はＮ－24°－Ｅを示す。桁行3.9m、梁間2.3ｍを測る。柱穴はＰ１が径20㎝、深さ12㎝と小さくて浅いが、他は長辺が60～70㎝の隅丸方形を呈し、深さ30～45㎝を測る。

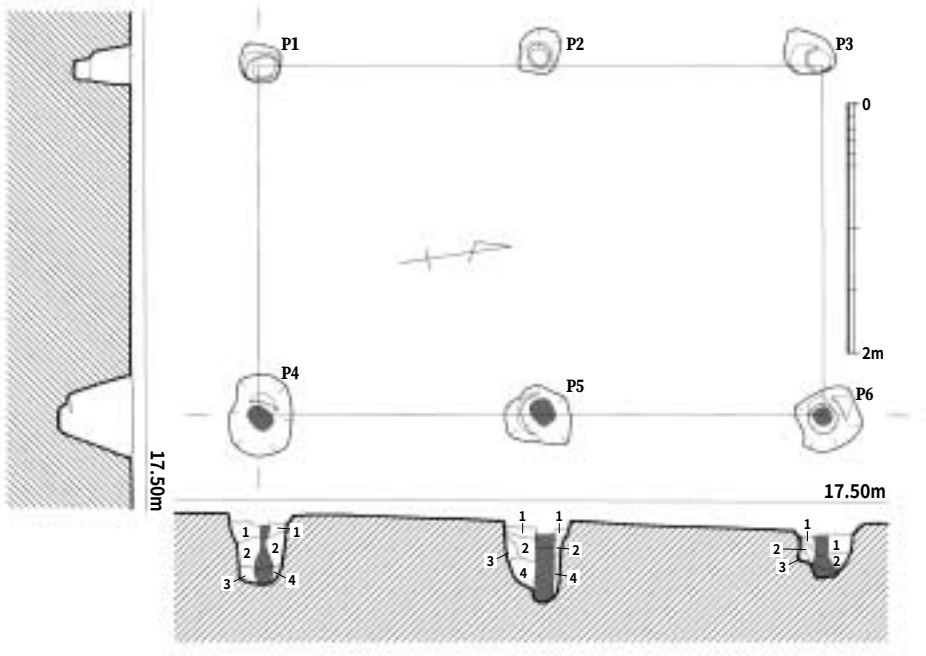


第44図　１・３号掘立柱建物跡実測図（1/60）

主要な遺物としてはＰ４から出土したガラス付着容器片がある。

４号掘立柱建物跡（第46図）

３号掘立柱建物跡と重複する。２間×１間の６本柱で、桁行3.5m、梁間2.55mを測る。桁行方向はＮ－17°－Ｅを示す。柱穴は隅丸方形もしくは楕円形を呈し、長軸が32～45㎝、深さが20～48㎝を



1　暗褐色土（灰色土、細かい炭化物含む）
2　暗茶褐色土（橙褐色粘土ブロック混入）
3　暗灰褐色粘質土
4　灰白色粘土

1　暗茶灰色土（黄褐色土混入）
2　暗灰褐色土（細かい炭化物を含む）
3　黄褐色粘質土ブロック
4　黄灰色砂質土（黄褐色粘質土ブロック混入）

1　灰褐色土（黄白色粘質ブロック混入）
2　灰褐色土、茶白色土、黄褐色土混在
3　明灰色粘質土（明茶色粘質土混入）

第45図　２号掘立柱建物跡実測図（1/60）

測る。

当遺構からは図示できる遺物は出土していない。

５号掘立柱建物跡（第46図）

調査区中央部、２号掘立柱建物跡と２号溝の間に位置する。桁行４ｍ、梁間3.15ｍを測る。桁行方向はＮ－50°－Ｅを示す。４間×３間で、柱穴は隅丸方形もしくは楕円形を呈する。比較的小規模な柱穴が多く、最も規模が大きいＰ２でも52×40㎝である。深さは７～32㎝を測る。柱間の長さはＰ12とＰ13間が最小で0.6ｍ、最大のＰ11とＰ12間が1.45ｍである。

青銅器生産関連遺物としてＰ１、Ｐ２から銅矛中型、Ｐ10から鞴送風管が出土している。

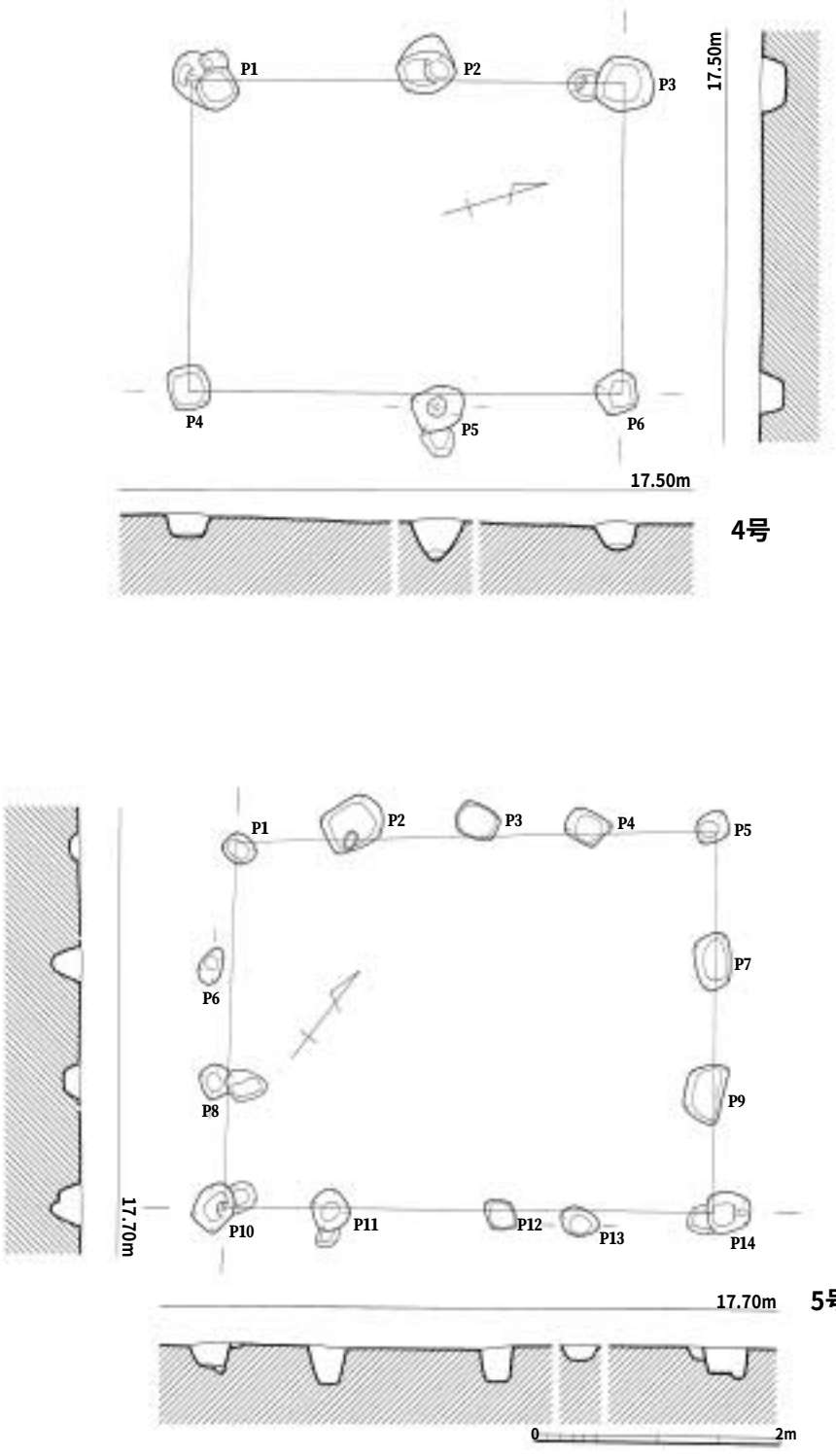
６号掘立柱建物跡（第47図）

調査区南東部に位置し、７号掘立柱建物跡及び６号溝と重複する。３間×２間の10本柱で、桁行2.８ｍ、梁間2.7ｍを測る。桁行方向はＮ－47°－Ｅを示す。柱穴の大きさは20～40㎝で、形状は円形もしくは隅丸方形を呈する。深さ６～23㎝を測り、Ｐ１、Ｐ２、Ｐ５の底面には柱の圧痕と見られる段が存在する。Ｐ３は柱列のラインからやや外れ、また、Ｐ４との柱間が著しく狭いことから疑問も残るが、規模、形状、深さなどから当建物の柱穴と判断した。

出土遺物に図示し得るものはない。

７号掘立柱建物跡（第47図）

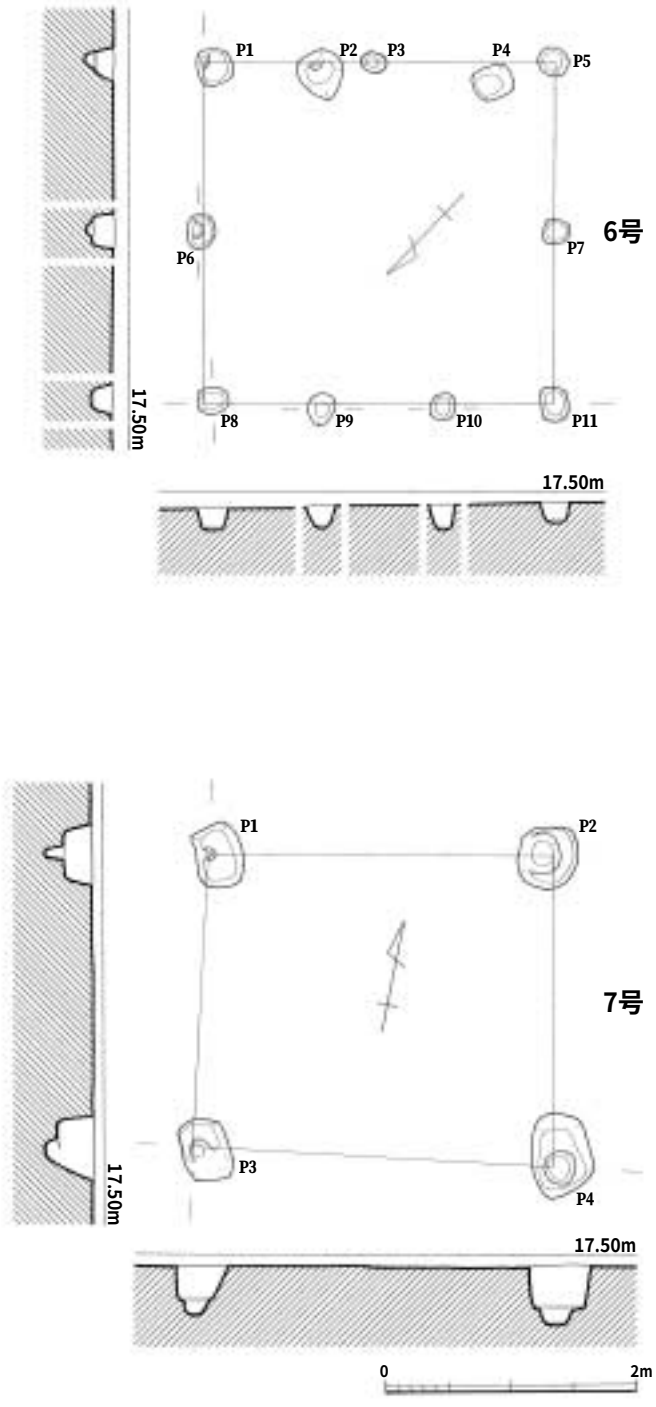
調査区の南東隅に位置し、６号掘立柱建物跡の南部と重複する。１間×１間の４本柱で、桁行方向はＮ－78°－Ｅを示す。桁行2.75～2.9ｍ、梁間2.3～2.5ｍを測る。各柱穴は不整な隅丸方形を呈し、



第46図　４・５号掘立柱建物跡実測図（1/60）

長軸が50～65㎝、深さは37～55㎝を測る。

当建物跡のＰ２から銅矛中型が出土している。



第47図　６・７号掘立柱建物跡実測図（1/60）

（５）ピット（図版38－(3)）

調査区全体に多数のピットを検出しており、この中には前項で掘立柱建物跡として取り上げたもの以外にも建物の柱穴であった可能性をもつピット（以下、Ｐと表記）が存在する。特に、第37図の遺構配置図に破線で示した調査区の南東隅に位置するＰ33～Ｐ38及びＰ39～Ｐ42は確定こそできないがその可能性が考えられる。

ピットから出土した土器以外の主な遺物としては、石製鋳型（Ｐ23)、銅矛中型（Ｐ10・16・18・25)、銅滓（Ｐ29)、輸送風管（Ｐ24)、小形仿製鏡（Ｐ27）がある。

なお、本書に掲載している遺物が出土した32個のピットには、第37図にＰ１～32の番号を付している。

（６）包含層（図版38－(4)～(6)）

１号溝の内部から調査区北西隅にかけて、また、３号溝周辺から調査区北東隅にかけては、表層の耕作土と遺構検出面である地山の境にごく薄い遺物包含層が認められた。包含層には弥生時代の遺物とともに須恵器等の古代の遺物が混在していることから、弥生時代の遺構はこの時期には既に削平を受けていた可能性がある。

２　遺　物

（１）土　器（図版39～52－(1)、第48～64図）

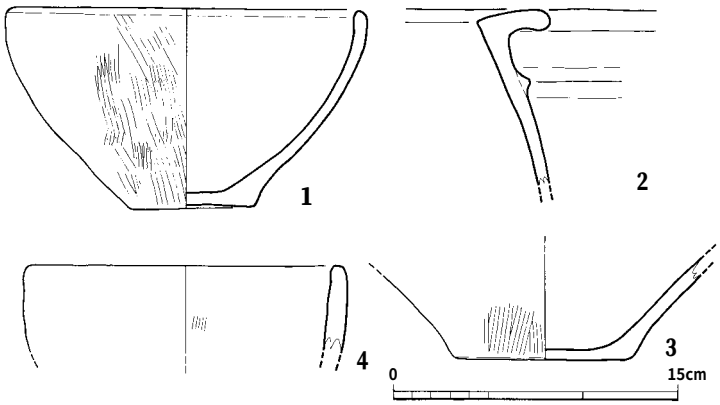
１号土坑出土土器（１）

１は鉢。底部は平底で、やや内湾する体部を有す。口縁部はやや肉厚で、端部を丸く仕上げている。

２号土坑出土土器（２～４）

２は甕の口縁部で、断面逆「Ｌ」字を呈し、口縁下に三角突帯を付す。３は底部で、壺の可能性がある。４は鉢と考えられる土器の口縁部。磨滅が著しいが内面にハケ目が残存する。

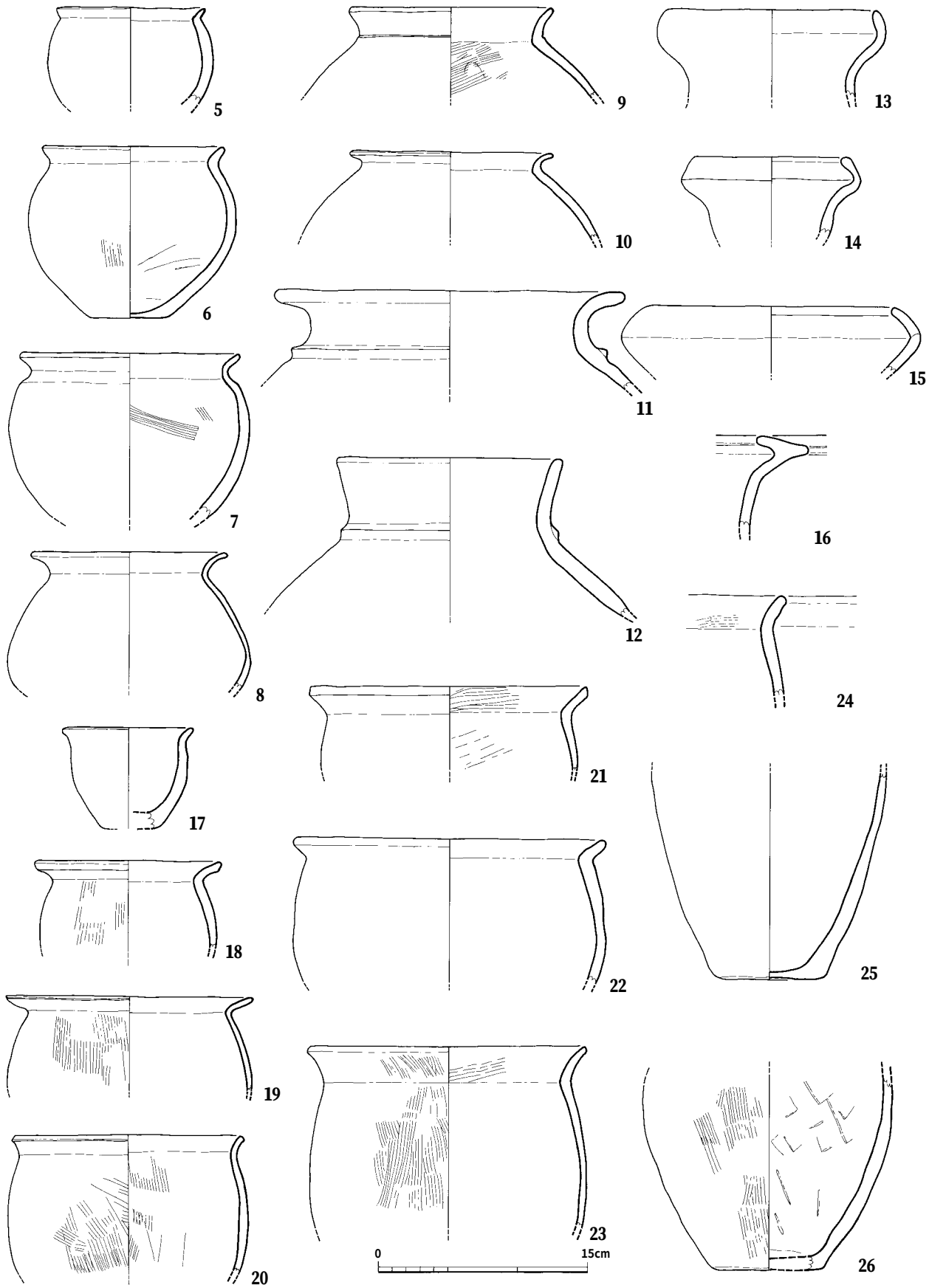
１号竪穴状遺構出土土器（５～154）



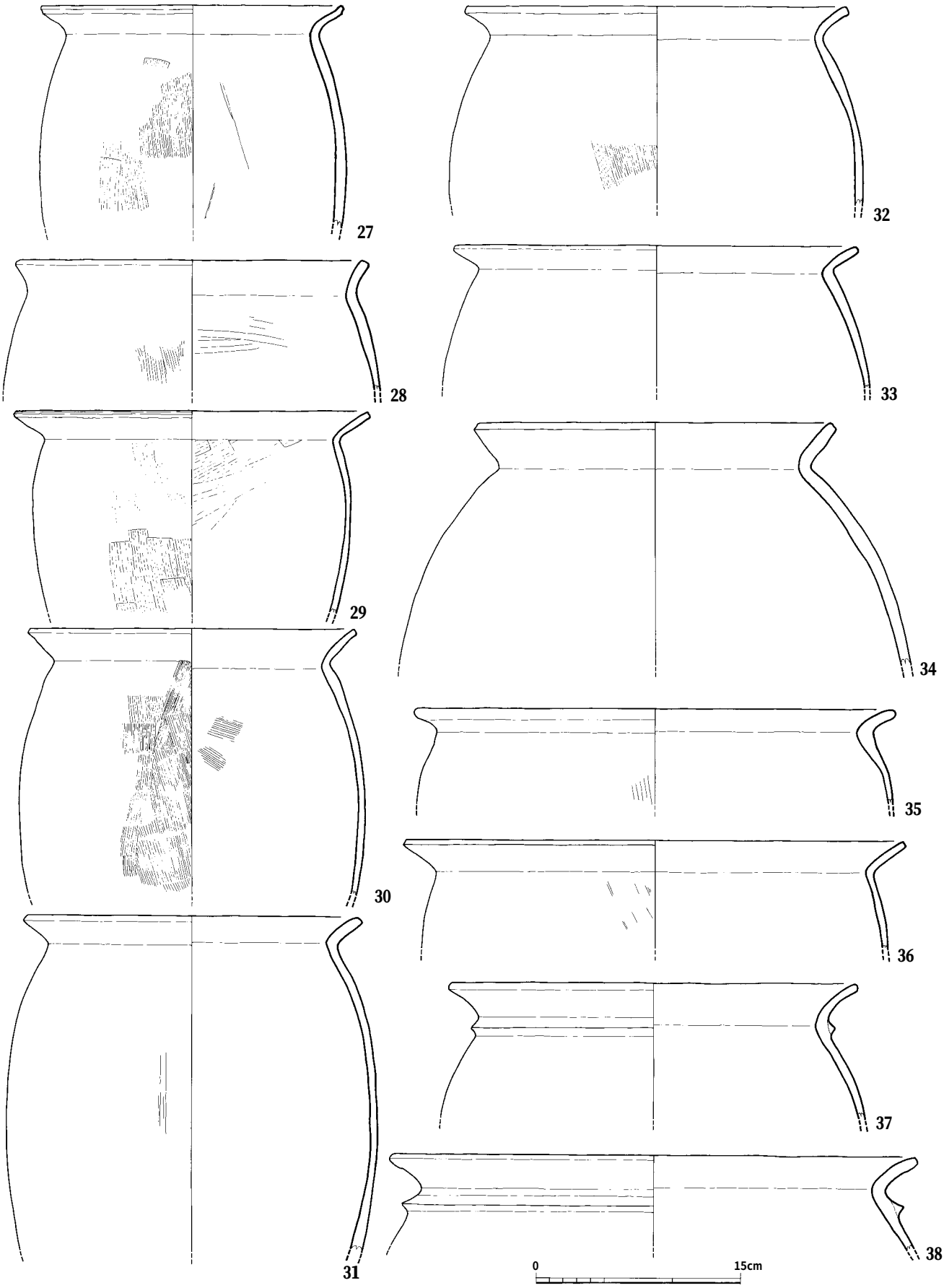
第48図　１・２号土坑出土土器実測図（1/4） １号（１）　２号（２～４）

１号竪穴状遺構からは多量の土器が出土した。遺物は上層、中層、下層に分けて取り上げている。

５～69は上層出土土器。５～16は壺。５～８は小形の壺で、短く外反する口縁部を有し、口径と体部最大径にあまり差がないもの。５～７は体部最大径が上位にあるが、８は中位よりやや下にある。底部が残存する６は、平底状を呈する。９～11は短く外反する口縁部に、大きく張る体部を有す資料。９は体部との境に沈線を施す。11は頸部が短く直立し、口縁部を外反させる資料で、頸部と体部の境には一条の三角突帯を貼り付ける。12は直口壺で、倒卵形の体部を有すと考えられる。頸部と体部の境には三角突帯を付す。13～16は袋状及び複合口縁壺。13の口縁部外面には稜は巡らず、端部は尖り気味に調整する。14・15は口縁部の屈曲が不明瞭な資料。端部を丸く調整し、14はやや肥厚させる。16は１次口縁から２次口縁を強く折り返すもの。17～38は甕。17はミニチュア土器様の小形品で、口縁部は短く外に屈曲させる。18～23は口径が13.4～22.4㎝の小・中形の甕で、25・26はその下半部。「く」字状口縁を呈すが、20・23・24のように胴部と口縁部の屈曲が甘いものがある。また、20・22は口縁部が短い。口縁端部の形状は、19・22・24のように丸く調整するものと、18・20・21・23のように面を持たせるものがある。25は胴部が直線的に立ち上がる資料。26は胴部がやや内湾する資料で、内面には工具痕が確認できる。27～38は口径22～38.6㎝のやや大ぶりな甕の口縁部で、断面形は「く」字状を呈する。27は口縁部をやや内湾させる資料。口縁端部は27・33・35・37のように丸く調整するものと、28～32・34・36・38のように面を持つものがある。全体のプロポーションは、口径よりも僅かに胴部最大径が上回るものが多いが、29は明らかに口径が胴部最大径を上回り、34は胴部が大きく張る。37・38は口縁下に三角突帯を有す。39～53は底部。39～41は体部下半から丸みを持つため、壺ないし鉢と考えられる。39・40の底部は肉厚である。51～53は凸レンズ状をなし、51は丸底に近い。52・53は底部の厚みが２㎝と厚く大形品と考えられ、53の外面にはタタキ目が確認できる。54～58は鉢。54は脚付鉢と考えられる。体部は球状に湾曲させ、口縁端部は尖り気味に仕上げている。体部の最も張った部位に２条の三角突帯を貼り付け



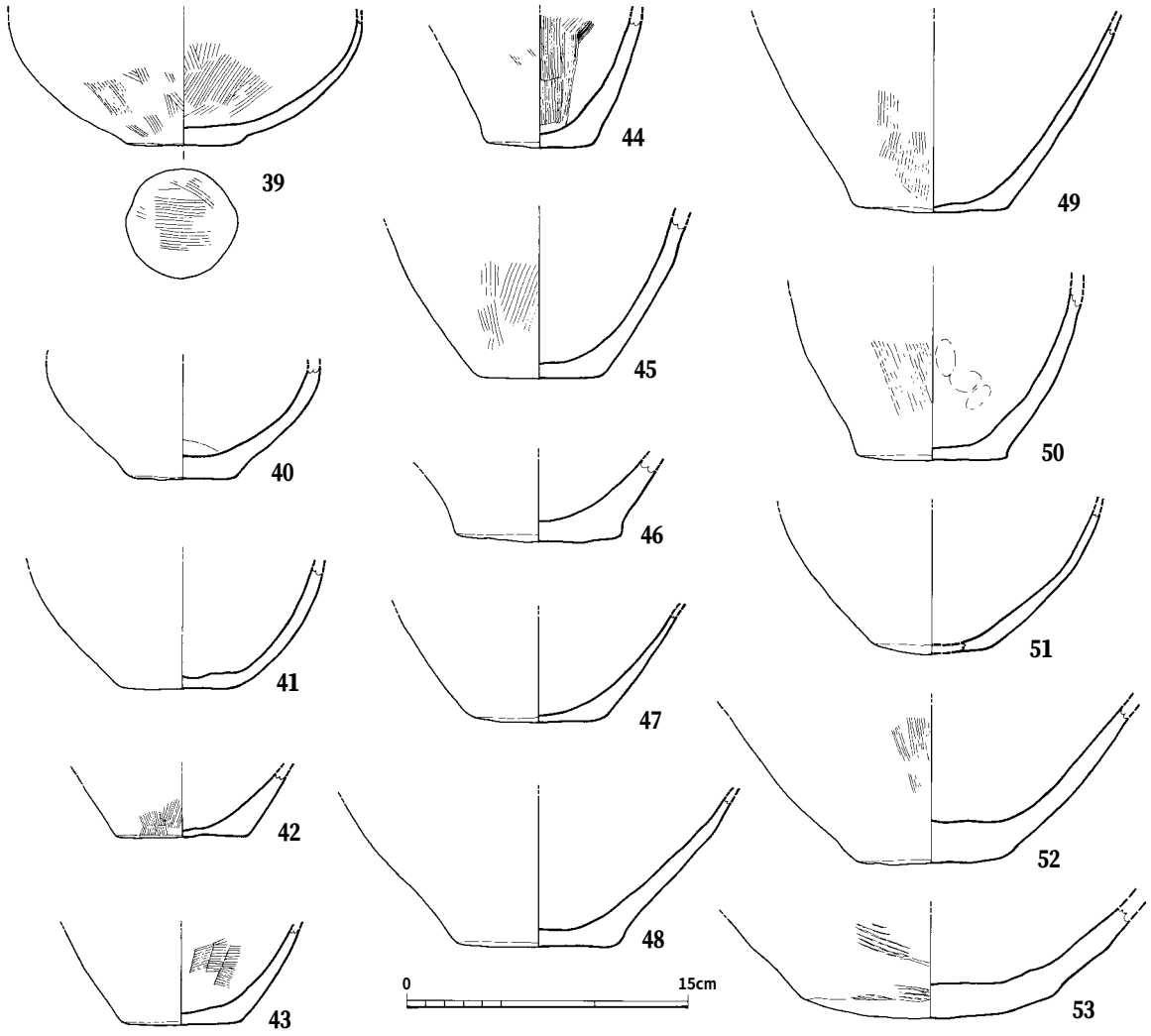
第49図　１号竪穴状遺構上層出土土器実測図①（1/4）



第50図　１号竪穴状遺構上層出土土器実測図②（1/4）

る。外面にはハケ目、内面には工具痕が残る。55は完形品で、凸レンズ状の底部に内湾する体部と「く」字状の口縁部をもつ。56は上半部。断面形は「く」字状で、口縁端部は面をなす。57・58はミニチュア土器様の鉢。57の底部は凸レンズ状で、体部から口縁部は内湾し、口縁端部は面をなす。58は平底で体部が直線的な資料。口縁端部は尖り気味に仕上げる。59～67は器台で、59～65は鼓状の形態をなす。59は器肉の薄い資料で、くびれ部は中位よりやや上にある。くびれ部内面にはシボリ痕があるが、芯棒を抜いたようにも観察できる。62・63は器高が低い資料。62はくびれ部が上位に有り、口縁部はやや肥厚する。63はくびれ部を中位に持つもの。器肉は裾部よりも口縁部が厚く、口縁端部の中央を窪ませる。64・65は脚部。器肉が厚く、粗雑な印象を受ける。66は口縁部が著しく内湾する資料で、外面には指頭痕が目立つ。67は上面に焼成前穿孔を施した完形品。外面はタタキ目、内面にはシボリ痕や指頭痕が観察できる。68・69は鉢形を呈する手捏土器で、68は平底、69は丸底を呈する。

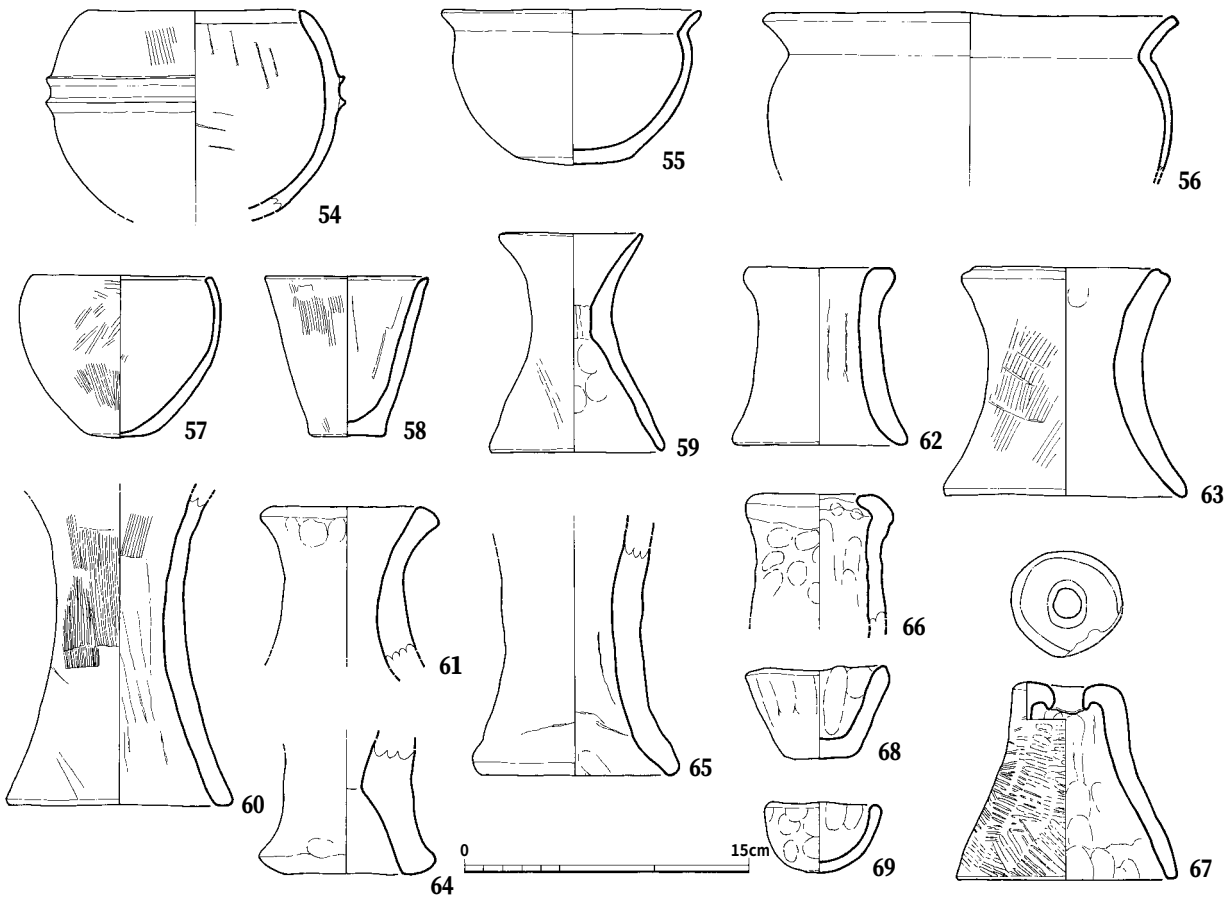
70～96は中層出土土器。70～76は壺の口縁部片。70は無頸壺で、口縁部は逆「L」字状をなす。71・



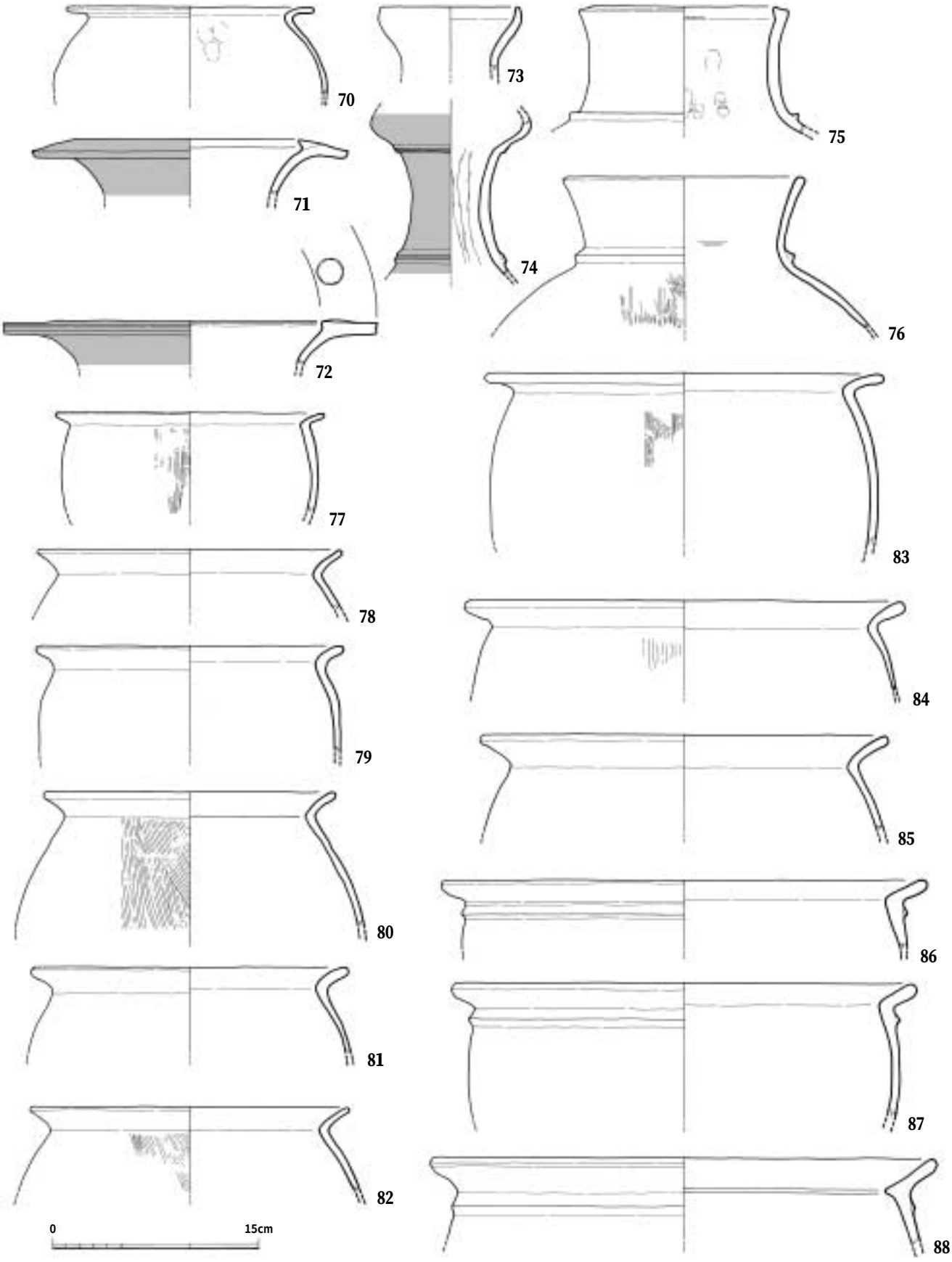
第51図　１号竪穴状遺構上層出土土器実測図③（1/4）

72は鋤先口縁を呈する丹塗壺で、上面は71が外傾し、72はほぼ水平である。72には、円形の浮文を貼り付ける。73は口縁部の内湾が弱く、胎土も粗いために袋状口縁壺とするには躊躇する資料。頸部は短く残存部直下に体部が接続すると思われる。74は袋状口縁壺で、口縁部下及び頸部と体部の境には「M」字突帯を付す。75・76は直口壺で、体部は殆ど残存しないが、倒卵形の体部であろう。口縁端部は75が内側を肥厚させ、76は丸く調整する。共に頸部と体部の境には三角突帯を貼り付ける。77～88は甕の口縁部で、「く」字、ないしはそれに近い形状を呈するもの。端部を丸く仕上げるが、83・84はやや肥厚させる。86～88は口縁部が匙面状を呈する資料で、88は内端を突出させる。３点共に口縁下に三角突帯を付す。89～93は底部片。89・91は僅かに上底気味、90・92・93は平底である。92は穿孔を有するが、内底部には外からの打撃による剥離が見られるため、穿孔は焼成後に施されたことが分かる。94は丹塗の高坏。脚柱部の外面にはヘラミガキが確認できる。95は脚台部。台付甕であろうか、短い脚台が「八」字につく。96は器台。器肉が厚く、作りは粗雑である。

97～154は下層出土土器。97～119は壺。97・98は小形の壺で、頸部と体部最大径の差がほとんどない資料。99・100は直立する頸部から口縁部を外に折り曲げた資料。端部は99が丸く、100は面をなす。丹を施すがヘラミガキを行わず、ハケ目が残存する。101・102は鋤先口縁を呈する丹塗壺で、残存部

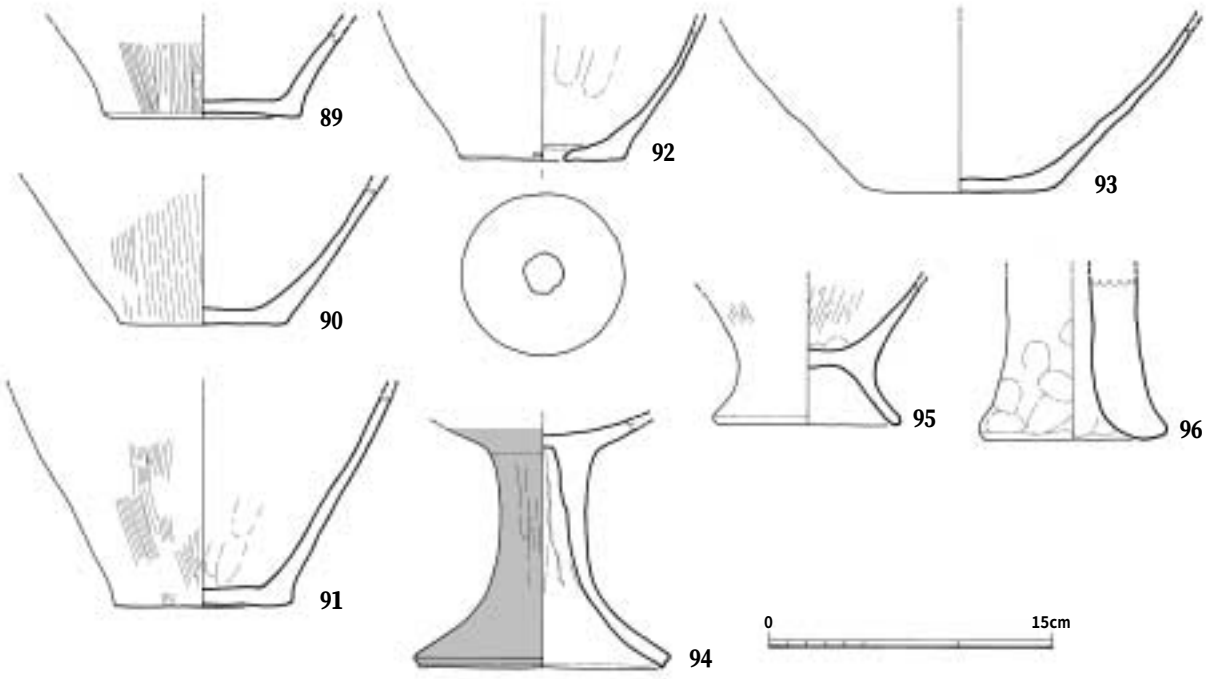


第52図　１号竪穴状遺構上層出土土器実測図④（1/4）

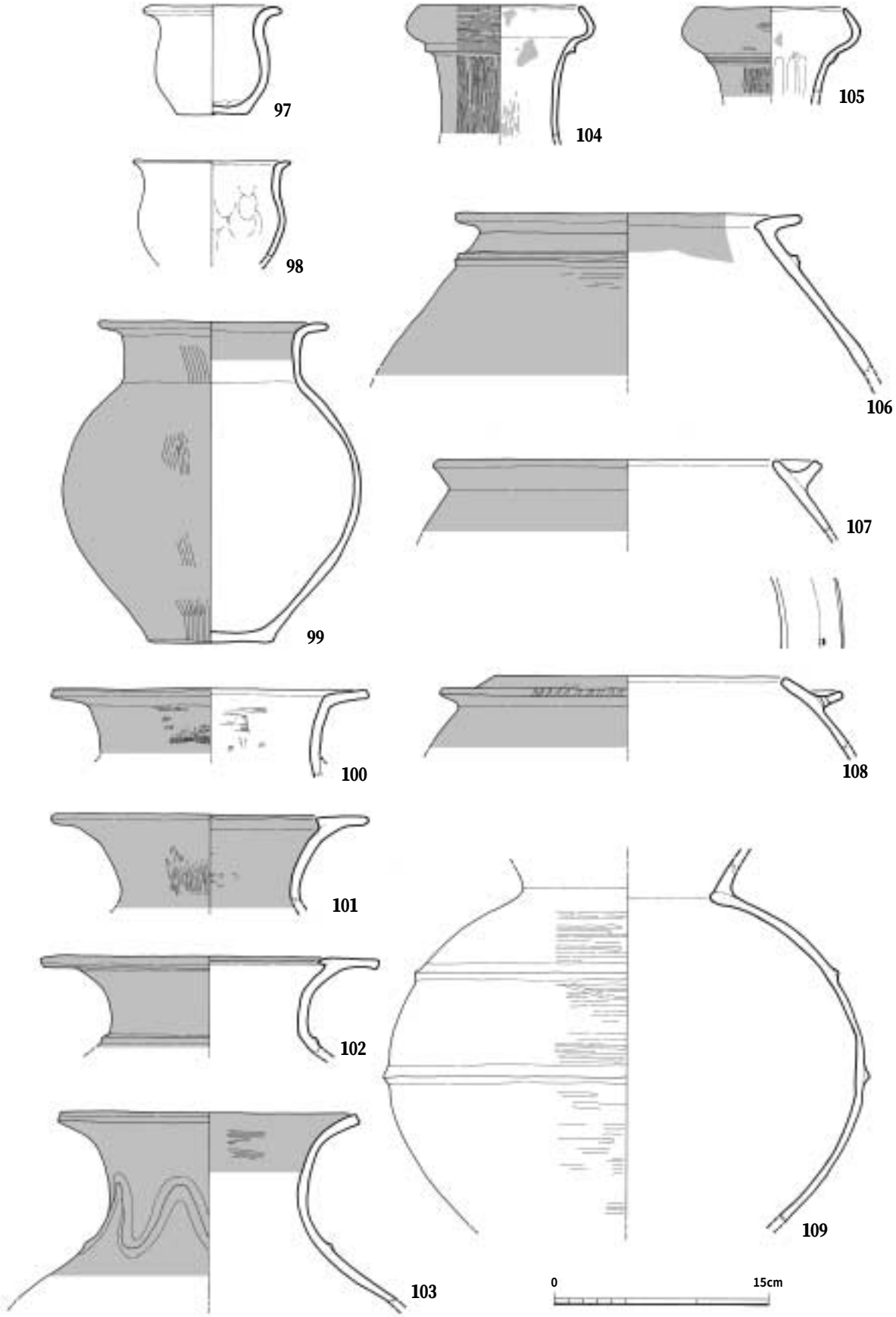


第53図　１号竪穴状遺構中層出土土器実測図①（1/4）

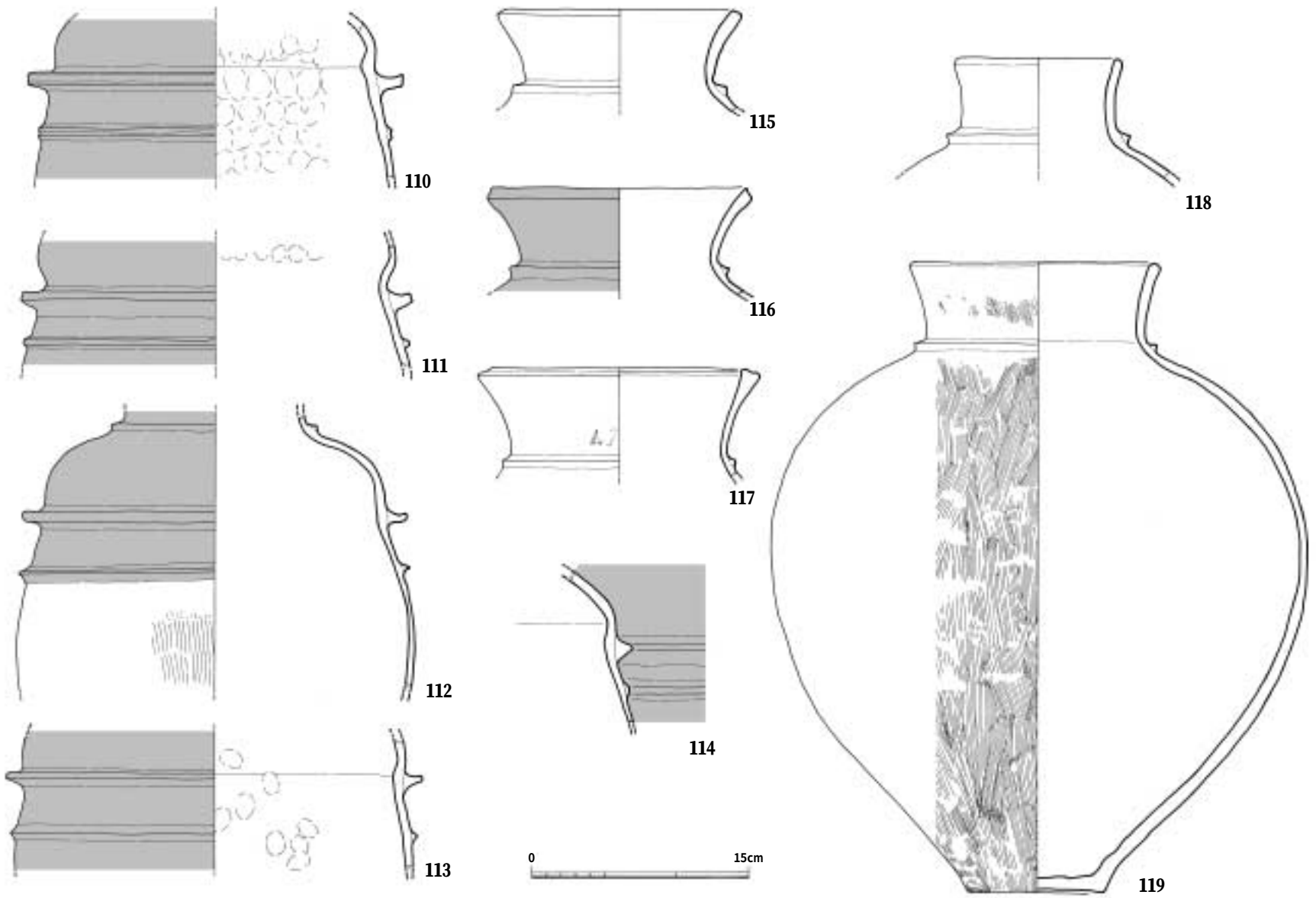
の直下に体部が接続すると思われる。102には１条の三角突帯が貼り付けられる。103は頸部に波状の浮文を貼り付ける丹塗壺。104・105は袋状口縁壺の口縁部で、外面にはヘラミガキと丹塗りを施す。口縁部下には、104は三角突帯、105には口唇状の突帯を付す。106は丹塗の無頸壺。口縁部は内傾し、内端が鳥嘴状に尖る。口縁部下に「M」字突帯を貼り付ける。107・108はいわゆる樽形土器で、両者共に外面に丹を施す。108は口縁部に暗文、鍔状突帯には穿孔と刻み目が施される。109は黒塗した壺の体部。外面には横位のヘラミガキを施し、中位と上位に三角突帯を二条付す。110～114は甕形土器。くびれ部に鍔状突帯を付し、その下に110は「M」字突帯、111・114は台形突帯、112・113は三角突帯を貼り付ける。外面に丹を施すが、ヘラミガキは確認できない。115～117は壺の口縁部で、３点共に口縁下に三角突帯を付す。116は外面に丹が施されるため、甕形土器の口縁部の可能性がある。118・119は直口壺で、119はほぼ完形品。頸部に三角突帯を付し体部は倒卵形で、底部は平底。120～131は逆「L」字や「く」字状を呈する甕の口縁部。120はやや内傾し、内端部を突出させる。121は外端がやや垂下し、内端部を僅かに突出させる。口縁下に三角突帯を付す。122～124は口縁部が外反する資料で、124は内面にハケ目工具による刻み目を施す。125～127はやや小ぶりの甕で、胴部に丸みを持つ。131は大ぶりの甕で、口縁下に三角突帯を付す。132～144は底部資料で、僅かに上底気味のものもあるが、基本的には平底を呈する。132・133は外面に丹塗を施すことや上部の開き具合から考えて、壺の可能性が高い。136は焼成後に底部外面から穿孔を施す。140は底部の器肉が厚く、胴部下位がやや内湾する資料。145はほぼ完形の鉢で、体部の上位が内湾し口縁部にいたる。146～149は高坏。146は坏部で、幅広の鋤先口縁は外端部を垂下させる。三角突帯を有し、外面はハケ目、内面の一部にはヘラミガキが残存する。147～149は脚部で、147・149には丹を施す。147は上部内面に坏部が剥がれ



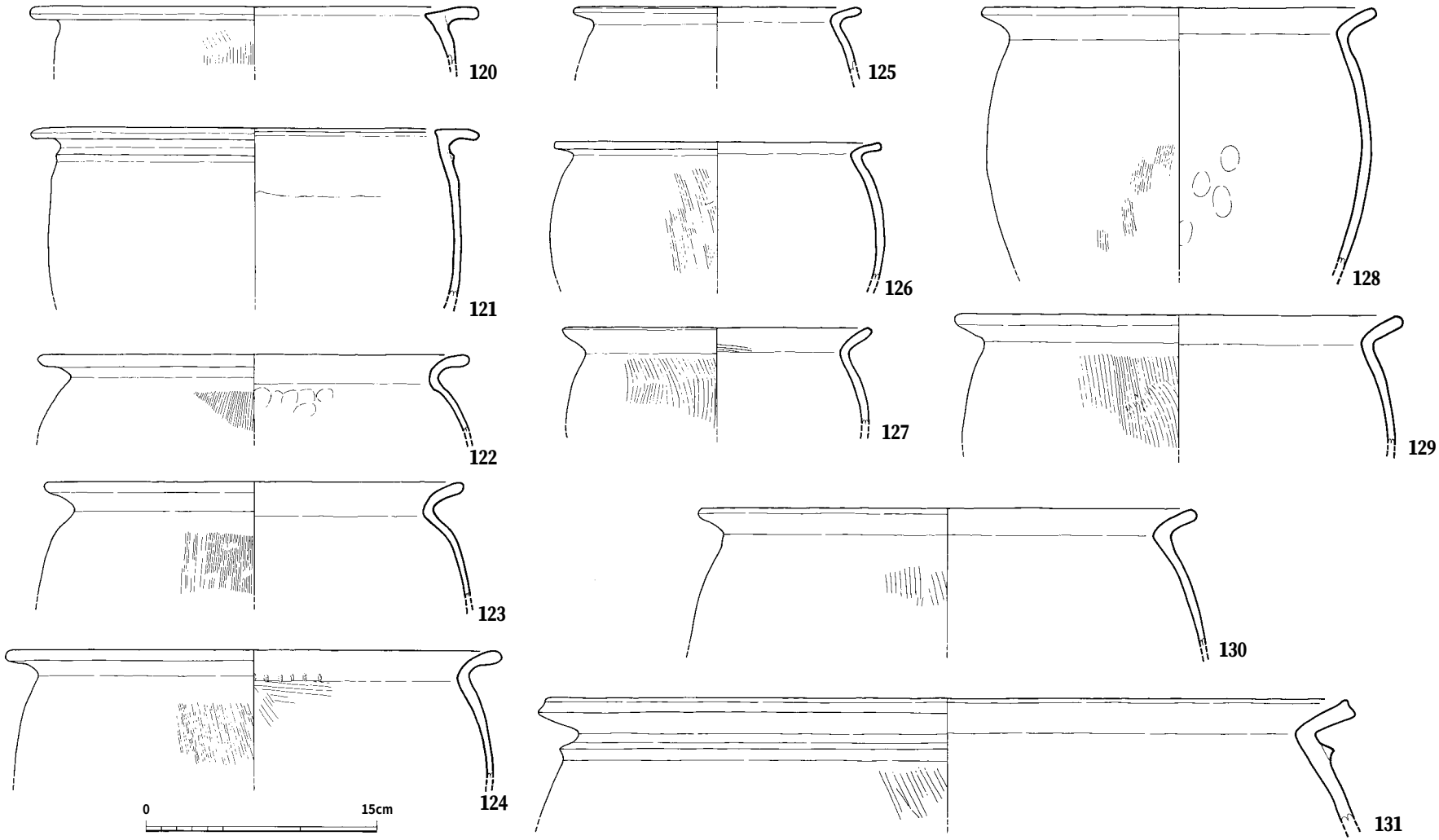
第54図　１号竪穴状遺構中層出土土器実測図②（1/4）



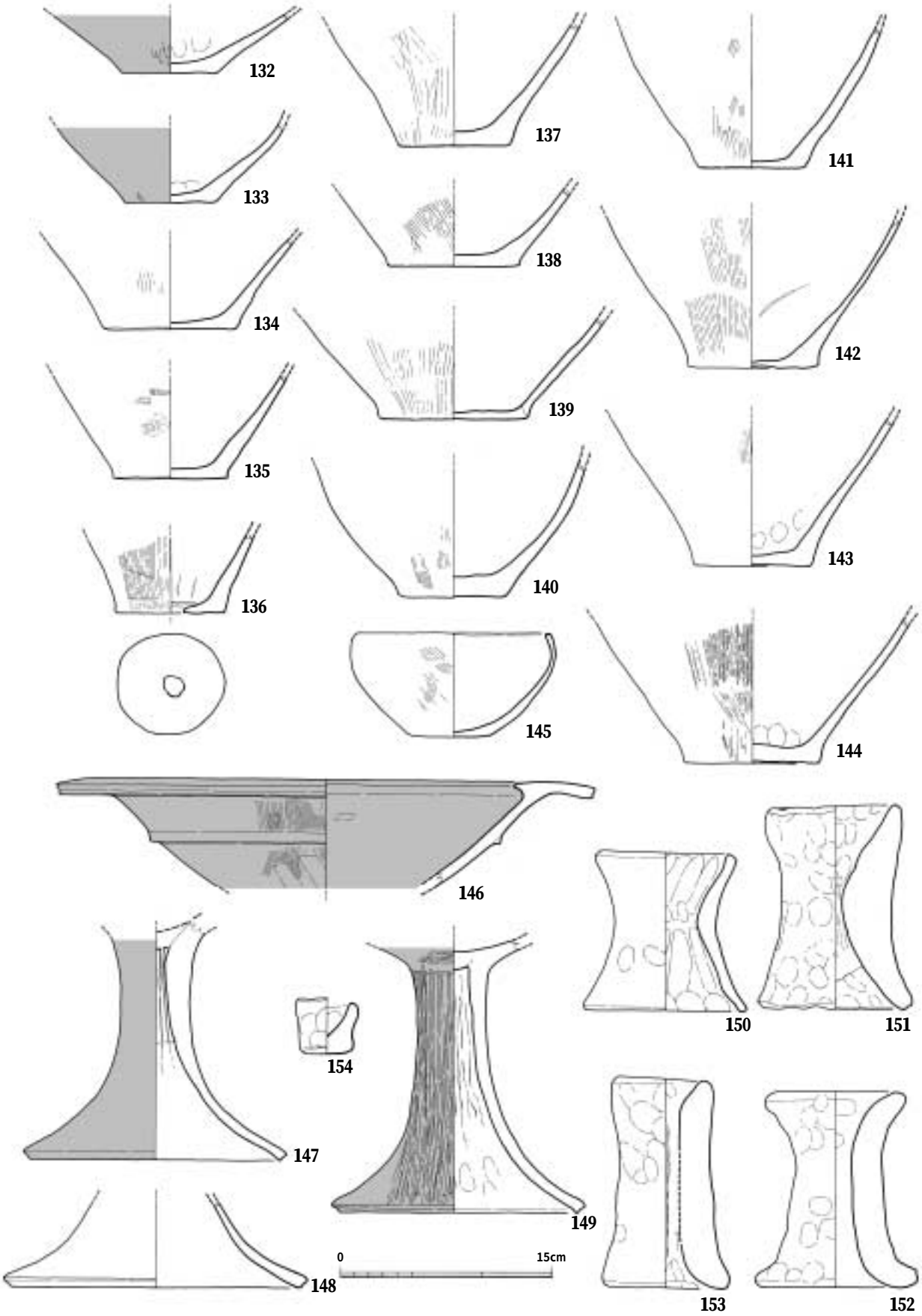
第55図　１号竪穴状遺構下層出土土器実測図①（1/4）



第56図　１号竪穴状遺構下層出土土器実測図②（1/4）



第57図　１号竪穴状遺構下層出土土器実測図③（1/4）



第58図　１号竪穴状遺構下層出土土器実測図④（1/4）

た痕跡が残る。148は端部をやや肥厚させる資料。149は外面を丁寧にヘラミガキする資料で、内面にも丹が僅かに付着している。150～153は器台。150はやや小形品で、器肉も薄い。151は器肉が厚く、鼓形を呈するが、くびれの度合いは弱い。152は口縁部が外反し、裾部は「八」字を呈する資料で、上位にくびれ部を有す。153は筒状に近い形状をなし、器肉が厚い。154は鉢形を呈する手捏土器。

２号竪穴状遺構出土土器（155～159）

155は溝Ａ、158は溝Ｂ、156・157・159はＰ４から出土した。155～157は「く」字状を呈する甕の口縁部。158は丸底を呈する底部資料で、底部の器肉はやや厚い。159は手捏土器。

１号溝出土土器（160～172）

160・161は小形の壺。160は鉢に近い形態の完形品。口縁部は二重口縁状のつくりで、口径は体部最大径より大きい。頸部はしまらず、底部は丸底。在地には見ない器形であり、胎土は精良で、色調は赤褐色を呈する。161は短頸壺で、この器形も当地では見かけない。底部は平底に近いが、体部との境は不明瞭で丸味を持つ。色調は淡黄褐色が主体であるが、赤褐色の部分もある。162～164は甕。162は「く」字状を呈する口縁部。163は底部の破片資料。164は大形甕の胴下部から底部の資料。底部は凸レンズ状をなす。「コ」字突帯を付し、突帯にはハケ目工具による刻み目を施す。165は椀形を呈する鉢。丸底を呈し、口縁部は外方へ僅かに肥厚する。166～172は中期末前後の資料で混入品の可能性が高い。166は逆「Ｌ」字状を呈する壺の口縁部。167～172は甕の口縁部で、169は上面を水平にし、内端部を突出させるため「Ｔ」字状を呈するが、その他は内傾気味の逆「Ｌ」字口縁である。

２号溝出土土器（173）

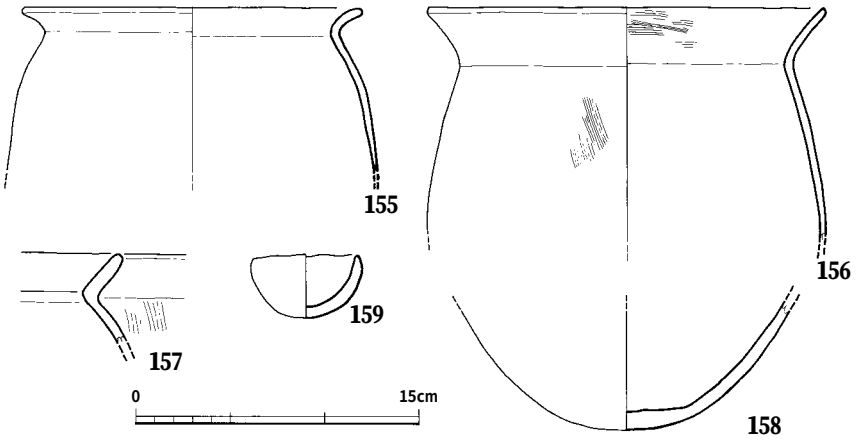
173は甕の底部の破片資料。底部の器肉が1.5㎝とやや厚い。２号溝から出土した唯一の土器であるが、混入品であろう。

４号溝出土土器（174～177）

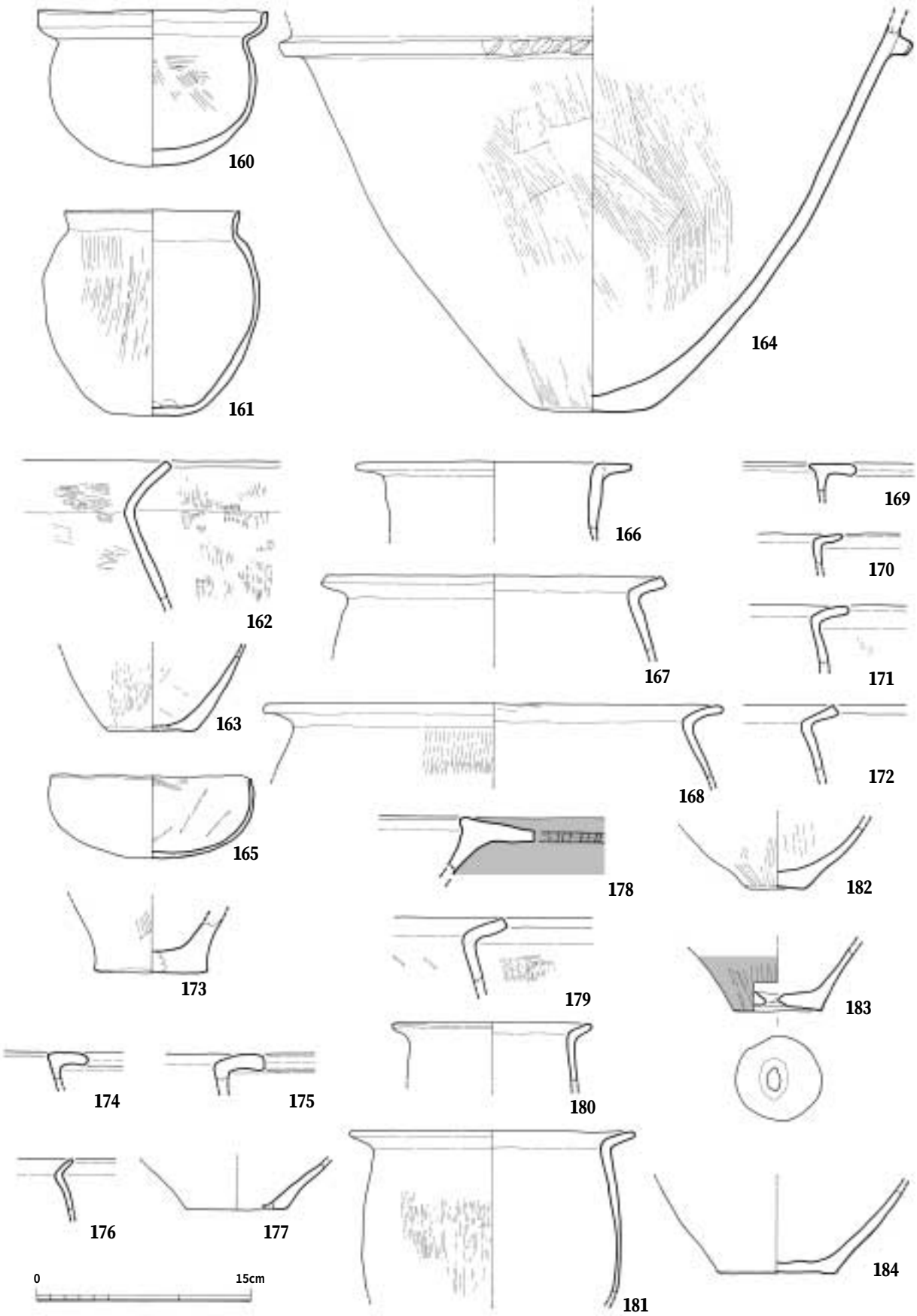
174～176は甕。174・175は口縁部が逆「Ｌ」字をなす資料で、上面は174が水平、175はやや内傾する。176は小形の甕で、口縁部は「く」字状を呈する。177は底部の破片資料で、上部の開き具合から考えて壺と考えられる。

７号溝出土土器（178～184）

178は丹塗り壺の口縁部。外傾する幅広の口縁部は、外端部に刻み目を施す。179～181は甕で、口縁部は「く」字に近い形状をなす。179は口縁端部に面を持つ資料で、胴部内面には工具痕を有



第59図　２号竪穴状遺構出土土器実測図（1/4）



第60図　１・２・４・７号溝出土土器実測図（1/4）　１号（160～172）　２号（173）
４号（174～177）　７号（178～184）

す。180は小形品。181は口縁端部を丸く調整する資料。182～184は底部。182は底部が小さく不安定な感を受ける資料。壺であろう。183は丹を施した底部で、外面の調整は粗いハケ目。焼成後に外面からの打撃により穿孔する。184は平底をなす資料。

１号掘立柱建物跡出土土器（185）

Ｐ３から出土した甕の口縁部片。上面はほぼ水平で、内端部を大きく突出させる。

２号掘立柱建物跡出土土器（186・187）

両者共にＰ６から出土した甕の口縁部。186の上面はほぼ水平である。187は「く」字状をなすが、屈曲は弱い。

３号掘立柱建物跡出土土器（188～190）

188・189はＰ２、190はＰ４からの出土品。188は直口壺で、三角突帯を有する。外面には丹を施す。189・190は断面形が「く」字をなす甕の口縁部。

４号掘立柱建物跡出土土器（191）

Ｐ２から出土した甕の口縁部で、逆「Ｌ」字を呈する。

５号掘立柱建物跡出土土器（192・193）

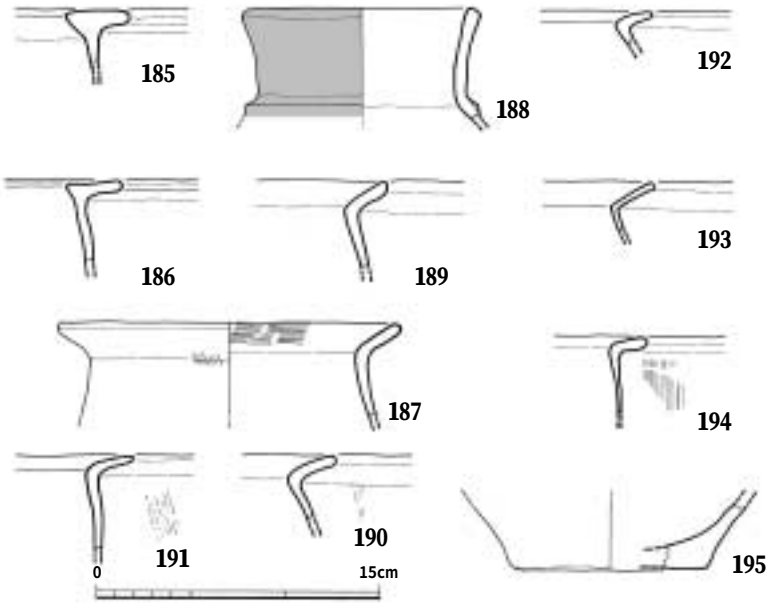
192はＰ14から出土した甕口縁部の小片。193はＰ２の出土品で、「く」字に屈曲する甕の口縁部片。

７号掘立柱建物跡出土土器（194・195）

194はＰ２から出土した甕の口縁部。逆「Ｌ」字形をなし、端部を丸く調整する。195はＰ４から出土した底部の資料で、平底を呈する。

ピット出土土器（196～201）

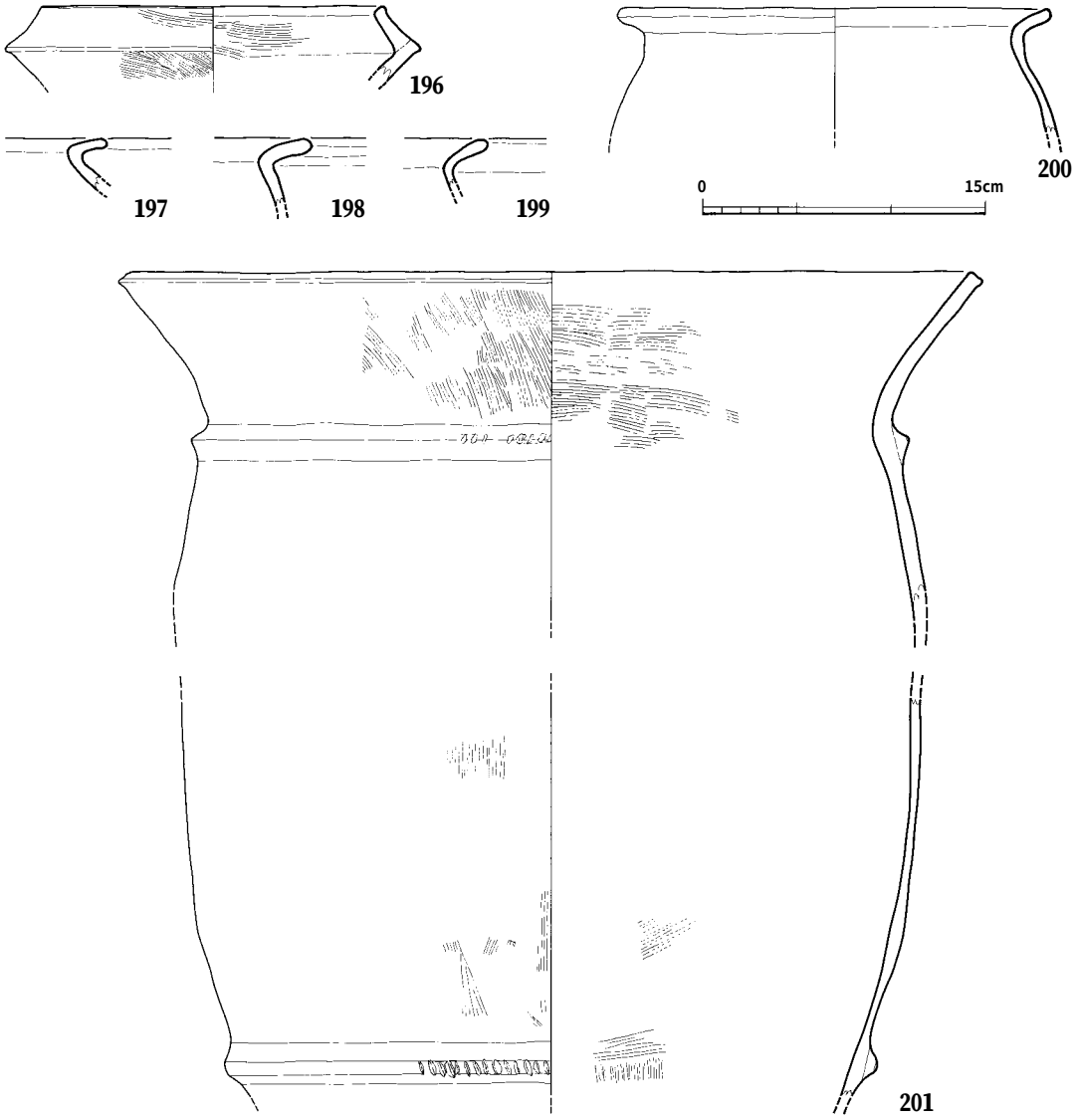
196はＰ30、197はＰ13、198はＰ14、199はＰ12、200はＰ８、201はＰ５からの出土品。196・197は壺の口縁部。196は複合口縁壺で、197は無頸壺。198～200は甕の口縁部破片資料。201は大形の甕で、口縁部と胴部の破片は接合しないが、同一個体と考えて間違いない。口縁下に三角突帯、胴部に台形突帯を一条ずつ貼り付け、それぞれには刻み目が施される。



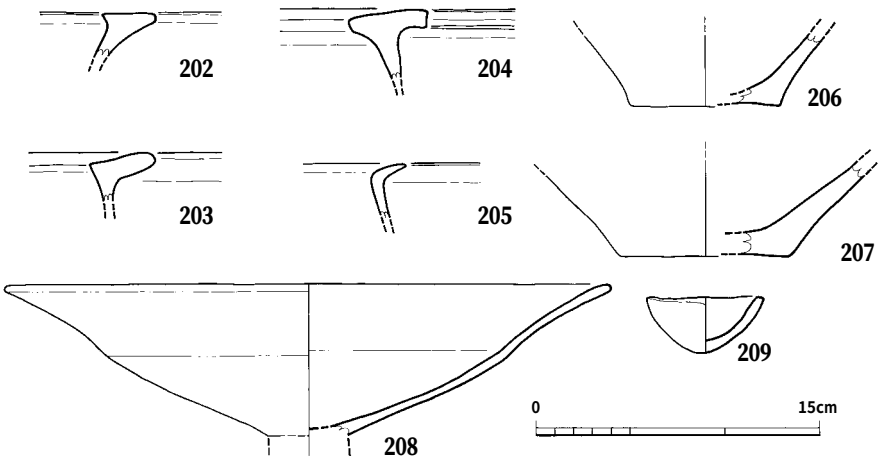
第61図　掘立柱建物跡出土土器実測図（1/4）

包含層出土土器（202～216）

202は壺の口縁部。上面はほぼ水平で、内端部は鳥嘴状に突出する。203～205は甕の口縁部で、203・205は逆「Ｌ」字、204は「Ｔ」字をなす資料。206・207は底部の破片資料。207は開き具合から考えて壺と思われる。208は高坏の



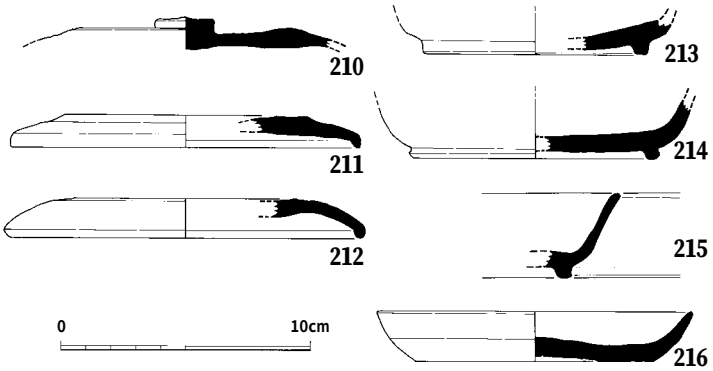
第62図　ピット出土土器実測図（1/4）



第63図　包含層出土土器実測図①（1/4）

坏部。磨滅が著しく調整や屈曲部の稜は不明瞭だが、坏部中位よりやや上で屈曲し、口縁部が僅かに外反する。また、下端は脚部との接合部と考えられる。209は鉢形を呈する手捏土器。

210～216は須恵器。210～212は坏蓋で、210にはつまみが残存する。213～215は坏身で高台が付されている。216は復元口径が12.6㎝を測る皿。

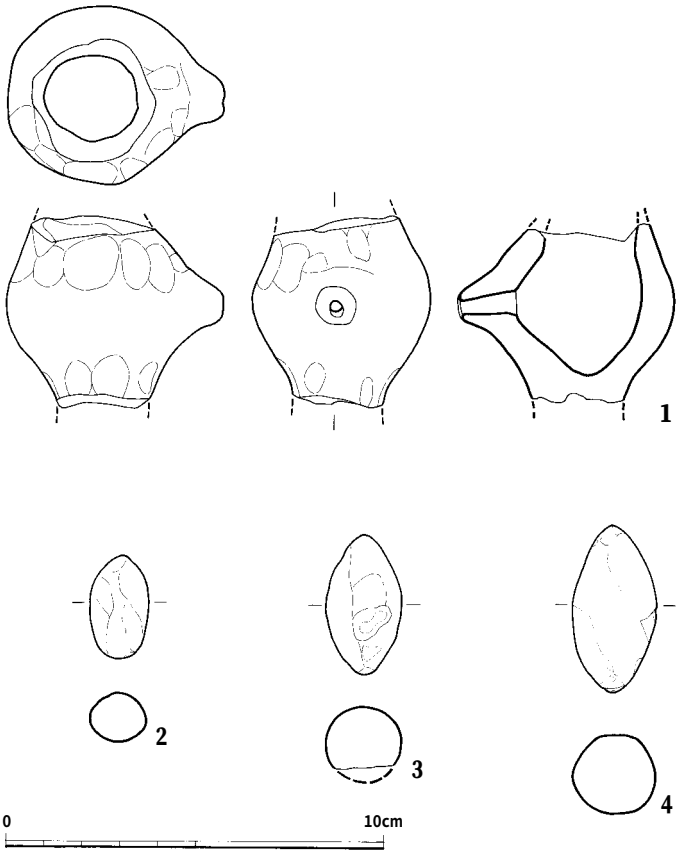


第64図　包含層出土土器実測図②（1/3）

（２）土製品（図版52－⑵、第65図）

１は１号竪穴状遺構から出土した。注口を持ち丸い形態を呈する。調整は内外面ともにナデが施され、上下の欠損箇所付近にみられる指頭痕から口縁と脚が付く可能性がある。注口部孔径は0.4～0.6㎝、胴部径は4.7㎝を測る。胎土は砂粒と角閃石を含み粗く、色調は赤褐色である。

２～４は投弾形土製品である。２は包含層、３はP15、４は１号竪穴状遺構から出土した。２は完形品で断面が楕円形状を呈し、長さ2.75㎝、幅1.35～1.55㎝、重さ4.9ｇを測る。胎土は良好で淡黄白色である。３は一部欠損しており、長さ3.7㎝、重さ9.1ｇを測る。胎土は細かな砂粒と赤色粒子を若干含み精良である。色調は灰褐色を呈す。４はほぼ完形品である。長さ4.4㎝、幅2.1～2.25㎝、重さ18.6ｇを測る。胎土は３㎜までの砂粒を含みやや粗く、黒褐色を呈す。



第65図　土製品実測図（1/2）

表７　４次調査出土土器観察表

（　）は復元値

番号	挿図 図版	種別	出土位置	法量(㎝) ①口径②器高③底径	残存状態	調整及び特徴	備　考
1	第48図 図版39	鉢	１号土坑	①18.2　②10.6　③6.6	ほぼ完形	調整は外面ハケ目､内面ナデ?｡胎土は粗･細砂粒を含む。 焼成は良好。色調は外面淡赤褐色、内面暗黄褐色 ～暗赤褐色。	
2	第48図 図版39	甕	２号土坑 表層	—	口縁部小片	調整は不明。胎土は細砂粒を含み、赤色粒を含む。 焼成は良好。色調は外面淡茶褐色～灰色、内面淡 茶褐色。	
3	第48図 図版39	底部	２号土坑 表層	③9.4	底部完存	調整は外面ハケ目、内面不明。 胎土は粗・細砂粒を含む。焼成は良好。 色調は外面白褐色～暗灰色､内面白褐色～暗茶褐色。	
4	第48図 図版39	鉢	２号土坑 上層	①(16.6)	口縁部１/２	調整は外面不明、内面ハケ目。胎土は粗・細砂粒 を多く含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに淡赤褐色～灰色。	
5	第49図 図版39	壺	１号竪穴状遺構 上層	①(10.7)	口縁部１/３	調整は不明。胎土は細砂粒を含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに淡黄褐色。	
6	第49図 図版39	壺	１号竪穴状遺構 上層	①13.05　②12.4　③5.6	ほぼ完形	調整は外面ハケ目後ナデ、内面ナデ。 焼成は良好｡色調は内外面ともに淡黄褐色～灰黄色。	
7	第49図 図版39	壺	１号竪穴状遺構 上層	①15.5	上半部２/３	調整は外面ハケ目後ナデ､内面ハケ目､口縁部ヨコナデ。 胎土は細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡黄褐色。	
8	第49図 図版39	壺	１号竪穴状遺構 上層	①(14.1)	上半部１/６	調整は外面不明､内面ナデ｡胎土は細砂粒を多く含む。 焼成は良好。色調は外面淡黄褐色、内面茶褐色。	
9	第49図 図版39	壺	１号竪穴状遺構 上層	①(14.6)	口縁部１/８	調整は外面ナデ？、内面ハケ目、口縁部ヨコナデ。 胎土は細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は外面淡黄褐色、内面淡黄褐色～茶褐色。	
10	第49図 図版39	壺	１号竪穴状遺構 上層	①(14.6)	口縁部１/６	調整は不明。胎土は細砂粒をわずかに含む。 焼成は良好。 色調は外面暗茶褐色～淡黄褐色、内面淡黄褐色。	
11	第49図 図版39	壺	１号竪穴状遺構 上層	①(25.1)	口縁部１/４	調整は不明､口縁部ヨコナデ｡胎土は細砂粒を含む。 焼成は良好。色調は外面淡黄褐色、内面暗黄褐色。	
12	第49図 図版39	壺	１号竪穴状遺構 上層	①(16.2)	口縁部１/５	調整は不明｡胎土は細砂粒を多く含み､赤色粒を含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに淡茶褐色。	
13	第49図 図版39	壺	１号竪穴状遺構 上層	①(14.7)	口縁部１/５	調整は不明。胎土は粗砂粒を多く含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに淡黄褐色。	
14	第49図 図版39	壺	１号竪穴状遺構 上層	①(11.8)	口縁部１/４	調整は外面不明、内面ナデ、口縁部ヨコナデ。 胎土は細砂粒を含む。焼成は良好。 色調は外面淡黄褐色、内面茶褐色。	
15	第49図 図版39	壺	１号竪穴状遺構 上層	①(17.5)	口縁部１/５	調整は外面不明、内面ヨコナデ。 胎土は粗・細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに黄白色。	
16	第49図 図版39	壺	１号竪穴状遺構 上層	—	口縁部小片	調整は不明。胎土は細砂粒を多く含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに淡黄褐色。	
17	第49図 図版40	甕	１号竪穴状遺構 上層	①9.4　②7.3　③(4.3)	全体の３/４	調整は不明。胎土は細砂粒を含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに茶褐色～灰褐色。	
18	第49図 図版40	甕	１号竪穴状遺構 上層	①(13.4)	口縁部１/４	調整は外面ハケ目、内面～口縁部ヨコナデ。 胎土は細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は外面明茶褐色、内面淡黄褐色。	
19	第49図 図版40	甕	１号竪穴状遺構 上層	①(17.8)	口縁部１/５	調整は外面ハケ目、内面不明、口縁部ヨコナデ。 胎土は細砂粒をわずかに含む。焼成は良好。 色調は外面暗茶褐色、内面淡黄褐色。	
20	第49図 図版40	甕	１号竪穴状遺構 上層	①(16.6)	口縁部１/６	調整は内外面ともにハケ目、口縁部ヨコナデ。 胎土は細砂粒をわずかに含む。焼成は良好。 色調は外面明茶褐色、内面灰褐色。	
21	第49図 図版40	甕	１号竪穴状遺構 上層	①(19.6)	口縁部１/５	調整は外面不明、内面ナデ。胎土は粗・細砂粒を 多く含む。 焼成は良好。色調は外面黄白色、内面灰黄色。	
22	第49図 図版40	甕	１号竪穴状遺構 上層	①(22.4)	口縁部１/８	調整は外面ナデ？、内面ナデ、口縁部ヨコナデ。 胎土は細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は外面暗茶褐色、内面黄褐色。	
23	第49図 図版40	甕	１号竪穴状遺構 上層	①(20.0)	口縁部１/９	調整は外面ハケ目、内面ナデ。 胎土は粗。・細砂粒を含む。焼成は良好。 色調は外面暗茶褐色～灰黒色、内面淡茶褐色。	
24	第49図 図版40	甕	１号竪穴状遺構 上層	—	口縁部小片	調整は不明、口縁部ナデ・ハケ目。 胎土は粗・細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は外面黄褐色、内面淡赤褐色。	
25	第49図 図版40	甕	１号竪穴状遺構 上層	③7.8	下半部完存	調整は不明。胎土は粗・細砂粒を多く含む。 焼成はやや軟質。 色調は外面淡黄褐色、内面灰褐色～淡黄褐色。	
26	第49図 図版40	甕	１号竪穴状遺構 上層	③(8.0)	下半部１/２	調整は外面ハケ目､内面ナデ｡胎土は細砂粒を含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに淡黄褐色。	
27	第50図 図版40	甕	１号竪穴状遺構 上層	①(22.0)	上半部１/４	調整は外面ハケ目、内面ナデ、口縁部ヨコナデ。 胎土は細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は外面黒褐色、内面明茶褐色。	
28	第50図 図版40	甕	１号竪穴状遺構 上層	①(25.9)	口縁部１/４	調整は内外面ともにハケ目、口縁部ヨコナデ。 胎土は粗・細砂粒を含む。焼成は良好。 色調は外面は茶褐色～暗茶褐色､内面赤褐色～暗茶褐色。	
29	第50図 図版40	甕	１号竪穴状遺構 上層	①(26.0)	上半部１/４	調整は内外面ともにハケ目、口縁部ヨコナデ。 胎土は細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は外面淡茶褐色、内面淡黄褐色。	
30	第50図 図版40	甕	１号竪穴状遺構 上層	①(24.0)	上半部１/４	調整は内外面ともにハケ目、口縁部ヨコナデ。 胎土は粗・細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡黄褐色。	

番号	挿図 図版	種別	出土位置	法量(cm) ①口径②器高③底径	残存状態	調整及び特徴	備　考
31	第50図 図版40	甕	1号竪穴状遺構 上層	①(24.8)	上半部 ほぼ完存	調整は外面ハケ目、内面ナデ、口縁部ヨコナデ。 胎土は粗・細砂粒を含む。焼成は良好。 色調は外面淡黄褐色～淡茶灰色、内面淡茶褐色～淡黄褐色。	
32	第50図 図版41	甕	1号竪穴状遺構 上層	①(28.1)	上半部1/3	調整は外面ハケ目、内面不明、口縁部ヨコナデ。 胎土は細砂粒を多く含み、赤色粒を含む。焼成は良好。 色調は外面明茶褐色～淡黄褐色、内面淡黄褐色～暗黄色。	
33	第50図 図版41	甕	1号竪穴状遺構 上層	①(29.6)	口縁部1/6	調整は不明。胎土は粗・細砂粒をやや多く含む。 焼成は良好。色調は外面淡黄白色、内面淡黄褐色。	
34	第50図 図版41	甕	1号竪穴状遺構 上層	①(26.4)	口縁部1/4	調整は外面不明、内面ナデ、口縁部ヨコナデ。 胎土は粗・細砂粒をわずかに含む。焼成は良好。 色調は外面黄褐色、内面黄灰褐色。	
35	第50図 図版41	甕	1号竪穴状遺構 上層	①(35.2)	口縁部1/6	調整は外面ハケ目、内面不明、口縁部ヨコナデ。 胎土は細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡黄褐色。	
36	第50図 図版41	甕	1号竪穴状遺構 上層	①(36.7)	口縁部1/9	調整は外面ハケ目、内面ナデ。胎土は細砂粒を多く含む。 焼成は良好。色調は外面茶褐色、内面淡黄褐色。	
37	第50図 図版41	甕	1号竪穴状遺構 上層	①(30.0)	口縁部1/8	調整は不明。胎土は粗・細砂粒を多く含む。 焼成はやや軟質。色調は内外面ともに黄褐色。	
38	第50図 図版41	甕	1号竪穴状遺構 上層	①(38.55)	口縁部1/5	調整は不明。胎土は粗・細砂粒を多く含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに淡赤褐色～淡黄褐色。	
39	第51図 図版41	底部	1号竪穴状遺構 上層	③6.0	底部完存	調整は内外面ともにハケ目、底部外面ハケ目。 胎土は細砂粒をわずかに含む。焼成は良好。 色調は外面淡茶褐色～黄褐色、内面淡黄褐色。	
40	第51図 図版41	底部	1号竪穴状遺構 上層	③5.5	底部完存	調整は内外面ともにナデ。胎土は粗・細砂粒を多く含む。 焼成は良好。色調は外面灰褐色、内面茶褐色。	
41	第51図 図版41	底部	1号竪穴状遺構 上層	③6.0	底部完存	調整は外面不明、内面ナデ。胎土は粗・細砂粒を多く含む。 焼成は良好。色調は外面茶褐色～淡黄褐色、内面淡茶褐色。	
42	第51図 図版41	底部	1号竪穴状遺構 上層	③7.1	底部完存	調整は外面ハケ目、内面ナデ。胎土は細砂粒を多く含む。 焼成は良好。色調は外面灰褐色～淡茶褐色、内面淡黄褐色。	
43	第51図 図版41	底部	1号竪穴状遺構 上層	③6.2	底部完存	調整は外面ハケ後ナデ？、内面ハケ目。 胎土は粗・細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は外面淡黄褐色、内面暗茶褐色。	
44	第51図 図版41	底部	1号竪穴状遺構 上層	③5.7	底部完存	調整は内外面ともにハケ目。胎土は細砂粒をわずかに含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに淡黄褐色～灰褐色。	
45	第51図 図版41	底部	1号竪穴状遺構 上層	③6.2	底部完存	調整は外面ハケ目、内面ナデ。胎土は細砂粒を多く含む。 焼成は良好。色調は外面灰褐色～淡黄褐色、内面淡黄褐色。	
46	第51図 図版41	底部	1号竪穴状遺構 上層	③8.8	底部完存	調整は不明。胎土は細砂粒を多く含む。 焼成は良好。色調は外面は淡茶褐色、内面淡黄褐色。	
47	第51図 図版41	底部	1号竪穴状遺構 上層	③7.0	底部完存	調整は不明。胎土は粗・細砂粒を多く含む。 焼成はやや軟質。色調は内外面ともに淡黄褐色。	
48	第51図 図版41	底部	1号竪穴状遺構 上層	③8.7	底部完存	調整は不明。胎土は細砂粒を多く含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに淡黄褐色。	
49	第51図 図版42	底部	1号竪穴状遺構 上層	③8.1	底部3/4	調整は外面ハケ目、内面不明。胎土は粗・細砂粒を多く含む。 焼成は良好。色調は外面暗黄褐色～茶褐色、内面淡黄褐色。	
50	第51図 図版42	底部	1号竪穴状遺構 上層	③8.0	底部完存	調整は外面ハケ目、内面ナデ。胎土は細砂粒を多く含む。 焼成は良好。色調は外面黄褐色、内面黒褐色～茶褐色。	
51	第51図 図版42	底部	1号竪穴状遺構 上層	③(6.3)	底部3/4	調整は外面不明、内面ナデ。胎土は細砂粒を含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに淡黄褐色。	
52	第51図 図版42	底部	1号竪穴状遺構 上層	③7.8	底部完存	調整は外面ハケ目、内面ナデ。胎土は粗・細砂粒を多く含む。 焼成は良好。色調は外面明赤褐色～白褐色、内面暗赤褐色。	
53	第51図 図版42	底部	1号竪穴状遺構 上層	③13.3	底部完存	調整は外面タタキ目、内面不明。胎土は粗砂粒を多く含む。 焼成は良好。色調は外面淡赤褐色、内面黄白色。	
54	第52図 図版42	鉢	1号竪穴状遺構 上層	①(11.0)	上半部1/3	調整は外面ハケ目、内面ナデ、突帯部ヨコナデ。 胎土は細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は外面淡茶褐色、内面暗茶褐色。	
55	第52図 図版42	鉢	1号竪穴状遺構 上層	①13.7　②8.25　③6.15	完形	調整は不明。胎土は細砂粒を多く含む。 焼成はやや軟質。色調は外面灰黒色～淡黄褐色、 内面黄褐色。	
56	第52図 図版42	鉢	1号竪穴状遺構 上層	①(22.0)	口縁部1/8	調整は不明。胎土は粗・細砂粒をわずかに含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに黄褐色。	
57	第52図 図版42	鉢	1号竪穴状遺構 上層	①(9.6)　②8.6 ③(3.9)	全体の1/2	調整は外面ハケ目、内面ナデ、口縁部ヨコナデ。 胎土は粗・細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は外面淡黄褐色～黒灰色、内面明茶褐色。	
58	第52図 図版42	鉢	1号竪穴状遺構 上層	①(8.7)　②8.5 ③(4.0)	全体の1/3	調整は外面ハケ目、内面ナデ。胎土は細砂粒をわずかに含む。 焼成は良好。色調は外面暗茶褐色～黄褐色、内面淡黄褐色。	
59	第52図 図版42	器台	1号竪穴状遺構 上層	①7.4　②11.55　③9.0	全体の3/4	調整は外面ハケ目残る、内面ナデ？。胎土は粗砂粒を多く含む。 焼成は良好。色調は外面茶褐色、内面淡黄褐色～茶褐色。	
60	第52図 図版42	器台	1号竪穴状遺構 上層	③(裾部径12.0)	下半部1/3	調整は内外面ともにハケ目後ナデ。 胎土は細砂粒をわずかに含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡黄褐色～灰褐色。	
61	第52図 図版42	器台	1号竪穴状遺構 上層	①9.45	上半部完存	調整は内外面ともにナデ。胎土は粗砂粒を多く含む。 焼成は良好。色調は外面淡赤褐色、内面淡黄褐色。	

番号	挿図 図版	種別	出土位置	法量(㎝) ①口径②器高③底径	残存状態	調整及び特徴	備　考
62	第52図 図版42	器台	1号竪穴状遺構 上層	①(8.0)　②9.4 ③(9.2)	全体の1/3	調整は不明。胎土は粗・細砂粒を多く含む。 焼成は良好。色調は外面明茶褐色、内面黄褐色。	
63	第52図 図版42	器台	1号竪穴状遺構 上層	①(11.0)　②12.1 ③(12.9)	全体の1/2	調整は外面ハケ目、内面ナデ。胎土は粗・細砂粒を多く含む。 焼成は良好。色調は外面茶褐色、内面黄褐色。	
64	第52図 図版42	器台	1号竪穴状遺構 上層	③裾部径6.95	裾部完存	調整は外面不明、内面ナデ。胎土は粗・細砂粒を多く含む。 焼成は良好。色調は外面茶褐色、内面淡黄褐色。	
65	第52図 図版43	器台	1号竪穴状遺構 上層	③裾部径10.2	下半部完存	調整は外面不明、内面ナデ。胎土は粗・細砂粒を多く含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに淡黄褐色～茶褐色。	
66	第52図 図版43	器台	1号竪穴状遺構 上層	①5.0	上半部完存	調整は内外面ともにナデ。胎土は細砂粒を多く含む。 焼成は良好。色調は外面赤褐色、内面暗茶褐色。	
67	第52図 図版43	器台	1号竪穴状遺構 上層	①5.7　②10.45 ③10.45	完形	調整は外面タタキ目、内面ナデ。胎土は細砂粒を多く含む。 焼成は良好。色調は外面淡黄褐色、内面黄灰色。	
68	第52図 図版43	手捏	1号竪穴状遺構 上層	①7.65　②5.0　③3.8	完形	調整は内外面ともにナデ。胎土は細砂粒を多く含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに黄灰褐色～淡灰黒色。	
69	第52図 図版43	手捏	1号竪穴状遺構 上層	①6.15　②3.8　③2.15	完形	調整は内外面ともにナデ。胎土は粗砂粒を含む。 焼成はやや軟質。色調は内外面ともに淡黄褐色。	
70	第53図 図版43	壺	1号竪穴状遺構 中層	①(18.0)	口縁部1/4	調整は不明。胎土は細砂粒をわずかに含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに淡黄褐色。	
71	第53図 図版43	壺	1号竪穴状遺構 中層	①(内径13.6　外径23.0)	口縁部1/4	調整は不明、口縁部ヨコナデ。 胎土は細砂粒を含み、赤色粒を含む。 焼成は良好。色調は内面淡茶褐色。	丹塗り
72	第53図 図版43	壺	1号竪穴状遺構 中層	①(内径18.9　外径27.2)	口縁部1/6	調整は不明。胎土は精良。 焼成は良好。色調は内外面ともに赤褐色。	丹塗り
73	第53図 図版43	壺	1号竪穴状遺構 中層	①(9.6)	口縁部1/4	調整は不明。胎土は細砂粒を含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに淡黄白色。	
74	第53図 図版43	壺	1号竪穴状遺構 中層	―	頸部1/3	調整は外面ミガキ、内面不明。胎土は細砂粒をわずかに含む。 焼成は良好。色調は内面淡白褐色～赤褐色。	丹塗り
75	第53図 図版43	壺	1号竪穴状遺構 中層	①(13.1)	口縁部1/7	調整は外面～口縁部ヨコナデ、内面ナデ。 胎土は粗・細砂粒をわずかに含み、赤色粒を含む。焼成は堅緻。 色調は外面暗茶褐色～淡赤褐色、内面淡赤褐色～灰色。	
76	第53図 図版43	壺	1号竪穴状遺構 中層	①(17.6)	口縁部1/6	調整は外面ハケ目、内面不明、口縁部ヨコナデ。 胎土は細砂粒をわずかに含む。焼成は堅緻。 色調は内外面ともに淡黄褐色。	
77	第53図 図版43	甕	1号竪穴状遺構 中層	①(19.6)	口縁部1/5	調整は外面ハケ目、内面ナデ。胎土は細砂粒を含む。 焼成は良好。色調は外面淡黄褐色～暗茶褐色、内面淡黄褐色。	
78	第53図 図版43	甕	1号竪穴状遺構 中層	①(22.1)	口縁部1/5	調整は不明。胎土は細砂粒をわずかに含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに淡黄褐色～淡赤褐色。	
79	第53図 図版43	甕	1号竪穴状遺構 中層	①(22.4)	口縁部1/6	調整は外面不明、内面ナデ。胎土は粗・細砂粒を多く含む。 焼成は良好。色調は外面淡茶褐色、内面暗茶褐色。	
80	第53図 図版44	甕	1号竪穴状遺構 中層	①(21.2)	口縁部1/6	調整は外面ハケ目、内面ナデ？。 胎土は細砂粒をわずかに含む。焼成は良好。 色調は外面淡黄褐色、内面黄褐色。	
81	第53図 図版44	甕	1号竪穴状遺構 中層	①(23.0)	口縁部1/8	調整は外面ナデ？、内面不明。胎土は粗・細砂粒を含む。 焼成は良好。色調は外面淡茶褐色、内面茶褐色。	
82	第53図 図版44	甕	1号竪穴状遺構 中層	①(23.2)	口縁部1/7	調整は外面ハケ目、内面不明、口縁部ヨコナデ。 胎土は細砂粒をわずかに含み、赤色粒を含む。焼成は堅緻。 色調は外面赤褐色～茶褐色、内面淡灰色。	
83	第53図 図版44	甕	1号竪穴状遺構 中層	①(29.0)	口縁部1/5	調整は外面ハケ目、内面不明、口縁部ヨコナデ。 胎土は粗・細砂粒を含み、赤色粒を含む。焼成は良好。 色調は外面淡茶褐色～赤褐色、内面淡茶褐色。	
84	第53図 図版44	甕	1号竪穴状遺構 中層	①(32.0)	口縁部1/5	調整は外面ハケ目、内面ナデ、口縁部ヨコナデ。 胎土は粗・細砂粒を含み、赤色粒を含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡茶褐色～淡赤褐色。	
85	第53図 図版44	甕	1号竪穴状遺構 中層	①(29.7)	口縁部1/4	調整は不明。胎土は細砂粒を含む。 焼成は良好。色調は外面暗茶褐色、内面淡赤褐色。	
86	第53図 図版44	甕	1号竪穴状遺構 中層	①(35.2)	口縁部1/4	調整は口縁部ヨコナデ。胎土は粗・細砂粒を含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに淡赤褐色。	
87	第53図 図版44	甕	1号竪穴状遺構 中層	①(33.7)	口縁部1/6	調整は不明。胎土は粗・細砂粒を含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに淡赤褐色～淡黄褐色。	
88	第53図 図版44	甕	1号竪穴状遺構 中層	①(36.7)	口縁部1/5	調整は口縁部ヨコナデ。胎土は細砂粒を含む。 焼成は良好。色調は外面淡赤褐色～黒褐色、内面淡赤褐色。	
89	第54図 図版44	底部	1号竪穴状遺構 中層	③(10.2)	底部1/2	調整は外面ハケ目、内面ナデ。胎土は細砂粒を多く含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに淡黄褐色。	
90	第54図 図版44	底部	1号竪穴状遺構 中層	③7.2	底部完存	調整は外面ハケ目、内面ナデ。胎土は細砂粒を多く含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに淡黄色～赤褐色。	
91	第54図 図版44	底部	1号竪穴状遺構 中層	③9.4	底部完存	調整は外面ハケ目、内面ナデ。胎土は粗・細砂粒を多く含む。 焼成は良好。色調は外面茶褐色～赤褐色、内面黒色～茶褐色。	
92	第54図 図版44	底部	1号竪穴状遺構 中層	③8.6	底部完存	調整は外面不明、内面ナデ。胎土は粗・細砂粒を含む。 焼成は良好。色調は外面白淡褐色～灰色、内面白淡褐色。	穿孔あり

番号	挿図 図版	種別	出土位置	法量(cm) ①口径②器高③底径	残存状態	調整及び特徴	備　考
93	第54図 図版44	底部	1号竪穴状遺構 中層	③8.4	底部完存	調整は外面ナデ、内面不明。 胎土は粗・細砂粒を多く含み、赤色粒を含む。焼成は良好。 色調は外面白褐色～黒色、内面白褐色～淡赤褐色。	
94	第54図 図版44	高坏	1号竪穴状遺構 中層	③脚裾部径11.5	脚部完存	調整は外面ミガキ、内面ナデ。 胎土は細砂粒を含み、赤色粒を含む。焼成は良好。 色調は外面淡赤褐色～灰黒色、内面淡赤褐色。	丹塗り
95	第54図 図版44	脚台付 甕	1号竪穴状遺構 中層	③脚裾部径9.9	脚台部完存	調整は内外面ともにハケ目後ナデ。胎土は細砂粒を多く含む。 焼成は良好。色調は外面赤褐色～淡黄色、内面灰黒色。	
96	第54図 図版44	器台	1号竪穴状遺構 中層	③裾部径9.9	下半部1/2	調整は内外面ともにナデ。 胎土は粗・細砂粒を含み、赤色粒を含む。焼成は良好。 色調は外面赤褐色～淡黄色、内面淡灰色～淡黄色。	
97	第55図 図版45	壺	1号竪穴状遺構 下層	①(9.7)　②7.6 ③(5.0)	全体の1/4	調整は内外面ともにナデ。胎土は細砂粒を含む。 焼成は良好。色調は外面淡灰褐色、内面淡黄褐色。	
98	第55図 図版45	壺	1号竪穴状遺構 下層	①(11.0)	口縁部3/4	調整は不明。胎土は粗・細砂粒をやや多く含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに淡黄褐色。	
99	第55図 図版45	壺	1号竪穴状遺構 下層	①16.05　②22.45 ③8.8	ほぼ完形	調整は外面ハケ目、内面ナデ、口縁部ヨコナデ。 胎土は粗・細砂粒を含む。焼成は良好。 色調は内面灰色～淡赤褐色。	丹塗り
100	第55図 図版45	壺	1号竪穴状遺構 下層	①(22.1)	口縁部1/3	調整は外面ハケ目後ヨコナデ、内面ハケ目。 胎土は細砂粒をわずかに含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡赤褐色～淡黄褐色。	丹塗り
101	第55図 図版45	壺	1号竪穴状遺構 下層	①(内径14.6　外径22.1)	口縁部1/5	調整は外面ハケ目、内面ハケ目残る、口縁部ヨコナデ。 胎土は細砂粒をわずかに含む。焼成は良好。 色調は内面黄褐色。	丹塗り
102	第55図 図版45	壺	1号竪穴状遺構 床面直上	①(内径15.0　外径23.6)	口縁部1/5	調整は内外面ともにナデ？、口縁部ヨコナデ。 胎土は細砂粒をわずかに含む。焼成は良好。 色調は内面暗灰褐色～暗赤褐色。	丹塗り
103	第55図 図版45	壺	1号竪穴状遺構 下層	①(21.0)	口縁部1/3	調整は内外面ともにナデ、口縁部ヨコナデ。 胎土は細砂粒を含む。焼成は良好。 色調は内面淡灰褐色～赤褐色。	丹塗り
104	第55図 図版45	壺	1号竪穴状遺構 下層	①(11.0)	口縁部1/2	調整は外面ミガキ、内面ナデ、口縁部ヨコナデ。 胎土は粗・細砂粒を含む。焼成は良好。 色調は内面淡黄褐色～赤褐色。	丹塗り
105	第55図 図版45	壺	1号竪穴状遺構 下層	①(10.2)	口縁部1/4	調整は外面ミガキ、内面ナデ、口縁部ヨコナデ。 胎土は細砂粒をわずかに含む。焼成は堅緻。 色調は内面白褐色～赤褐色。	丹塗り
106	第55図 図版45	壺	1号竪穴状遺構 下層	①(内径17.4　外径24.1)	口縁部1/4	調整は外面ミガキ、内面ナデ、口縁部ヨコナデ。 胎土は細砂粒を含む。焼成は良好。 色調は内面赤褐色～淡黄褐色。	丹塗り
107	第55図 図版45	樽形 土器	1号竪穴状遺構 床面直上	①(20.6)	口縁部1/8	調整は内面ナデ、口縁部ヨコナデ。胎土は精良、赤色粒を含む。 焼成は良好。色調は内面淡赤褐色。	丹塗り
108	第55図 図版45	樽形 土器	1号竪穴状遺構 下層	①(22.0)	口縁部1/6	調整は外面～口縁部ヨコナデ、内面ナデ？。 胎土は細砂粒をわずかに含む。焼成は良好。 色調は内面淡黄褐色。	丹塗り 穿孔あり
109	第55図 図版45	壺	1号竪穴状遺構 下層	体部最大径(34.0)	体部1/4	調整は外面ミガキ、内面ナデ。胎土は粗・細砂粒を含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに淡黄色～淡灰色。	黒塗り
110	第56図 図版45	瓢形 土器	1号竪穴状遺構 下層	—	体部1/4	調整は外面ヨコナデ、内面ナデ。 胎土は細砂粒をわずかに含む。焼成は良好。 色調は内面淡赤褐色。	丹塗り
111	第56図 図版45	瓢形 土器	1号竪穴状遺構 下層	—	体部1/6	調整は外面ヨコナデ、内面ナデ。 胎土は細砂粒をわずかに含む。焼成は良好。 色調は外面淡赤褐色～赤褐色、内面淡黄褐色。	丹塗り
112	第56図 図版46	瓢形 土器	1号竪穴状遺構 下層	—	体部1/3	調整は外面上部ヨコナデ、外面下部ハケ目後ナデ、内面ナデ？。 胎土は粗・細砂粒をわずかに含む。焼成は良好。 色調は内面暗赤褐色～灰色。	丹塗り
113	第56図 図版46	瓢形 土器	1号竪穴状遺構 下層	—	体部1/6	調整は外面ヨコナデ、内面ナデ。胎土は精良、赤色粒を含む。 焼成は良好。色調は内面灰褐色。	丹塗り
114	第56図 図版46	瓢形 土器	1号竪穴状遺構 下層	—	体部小片	調整は内外面ともにナデ、突帯部ヨコナデ。 胎土は粗・細砂粒を含み、赤色粒を含む。 焼成は良好。色調は内面黄褐色。	丹塗り
115	第56図 図版46	壺	1号竪穴状遺構 下層	①(15.5)	口縁部1/2	調整は不明。胎土は粗砂粒をわずかに含む。 焼成は良好。色調は外面淡赤褐色、内面淡黄褐色。	
116	第56図 図版46	壺	1号竪穴状遺構 下層	①(18.3)	口縁部1/5	調整は外面縦方向のナデ、内面ナデ。胎土は細砂粒を含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに淡黄褐色～淡赤褐色。	丹塗り
117	第56図 図版46	壺	1号竪穴状遺構 下層	①(19.5)	口縁部3/5	調整は外面ハケ目後ナデ、内面不明。 胎土は粗・細砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面黄褐色、内面赤褐色。	
118	第56図 図版46	壺	1号竪穴状遺構 下層	①(10.5)	口縁部1/2	調整は内外面ともにナデ？、口縁部ヨコナデ。 胎土は細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は外面淡黄褐色～淡茶褐色、内面淡灰褐色。	
119	第56図 図版46	壺	1号竪穴状遺構 下層	①(16.6)　②9.3 ③43.7	ほぼ完形	調整は外面ハケ目、内面ナデ？、口縁部ヨコナデ。 胎土は細砂粒を含む。焼成は良好。 色調は外面淡赤褐色～黄褐色、内面黄褐色～黄灰色。	
120	第57図 図版46	甕	1号竪穴状遺構 下層	①(内径21.8　外径29.0)	口縁部1/6	調整は外面ハケ目、内面ナデ、口縁部ヨコナデ。 胎土は粗・細砂粒を含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに茶褐色。	
121	第57図 図版46	甕	1号竪穴状遺構 下層	①(内径24.2　外径30.0)	口縁部1/5	調整は外面ハケ目後ナデ、内面ナデ、口縁部ヨコナデ。 胎土は細砂粒をわずかに含む。焼成は良好。 色調は外面黄褐色、内面黄白色。	
122	第57図 図版46	甕	1号竪穴状遺構 下層	①(27.9)	口縁部1/3	調整は外面ハケ目、内面ナデ。胎土は細砂粒を含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに淡黄褐色。	
123	第57図 図版46	甕	1号竪穴状遺構 下層	①(27.2)	口縁部1/5	調整は外面ハケ目、内面ナデ、口縁部ヨコナデ。 胎土は細砂粒を含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡灰褐色。	

番号	挿図 図版	種別	出土位置	法量(cm) ①口径②器高③底径	残存状態	調整及び特徴	備　考
124	第57図 図版46	甕	1号竪穴状遺構 下層	①(32.2)	口縁部1/6	調整は外面ハケ目、内面ハケ目後ナデ、口縁部ヨコナデ。 胎土は細砂粒を含む。焼成は良好。 色調は外面黄褐色～黒褐色、内面淡黄褐色。	
125	第57図 図版46	甕	1号竪穴状遺構 床面直上	①(18.7)	口縁部1/7	調整は不明。胎土は粗砂粒を多く含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに赤褐色。	
126	第57図 図版46	甕	1号竪穴状遺構 下層	①(21.2)	口縁部1/3	調整は外面ハケ目、内面ナデ、口縁部ヨコナデ。 胎土は細砂粒をわずかに含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに白黄褐色～黒色。	
127	第57図 図版46	甕	1号竪穴状遺構 下層	①(20.0)	口縁部1/3	調整は外面ハケ目、内面ハケ目後ナデ、口縁部ヨコナデ。 胎土は細砂粒を含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに黄白色。	
128	第57図 図版47	甕	1号竪穴状遺構 下層	①(25.6)	口縁部1/4	調整は外面ハケ目、内面ナデ、口縁部ヨコナデ。 胎土は粗・細砂粒を含む。焼成は良好。 色調は外面茶褐色～黒色、内面淡褐色。	
129	第57図 図版47	甕	1号竪穴状遺構 下層	①(29.0)	口縁部1/6	調整は外面ハケ目、内面ナデ、口縁部ヨコナデ。 胎土は粗・細砂粒を含む。焼成は良好。 色調は外面灰黄色、内面黄白色。	
130	第57図 図版47	甕	1号竪穴状遺構 下層	①(32.3)	口縁部1/6	調整は外面ハケ目、内面ナデ？、口縁部ヨコナデ。 胎土は細砂粒を含み、赤色粒を含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに白褐色～黒色。	
131	第57図 図版47	甕	1号竪穴状遺構 下層	①(53.0)	口縁部1/8	調整は外面ハケ目、内面～口縁部ヨコナデ。 胎土は細砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面黒褐色、内面淡黄褐色。	
132	第58図 図版47	底部	1号竪穴状遺構 下層	③6.6	底部完存	調整は外面ミガキ、内面ナデ。胎土は精良、赤色粒を多く含む。 焼成は良好。色調は内面淡黄褐色。	丹塗り
133	第58図 図版47	底部	1号竪穴状遺構 下層	③6.4	底部完存	調整は外面ハケ目後ナデ、内面ナデ。 胎土は粗・細砂粒を含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡黄褐色。	丹塗り
134	第58図 図版47	底部	1号竪穴状遺構 下層	③9.5	底部完存	調整は外面ハケ目、内面不明。 胎土は粗・細砂粒をわずかに含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに淡赤褐色。	
135	第58図 図版47	底部	1号竪穴状遺構 下層	③8.1	底部完存	調整は外面ハケ目、内面ナデ？。 胎土は粗・細砂粒をわずかに含み、赤色粒を含む。 焼成は良好。色調は外面淡赤褐色、内面淡黄褐色。	
136	第58図 図版47	底部	1号竪穴状遺構 下層	③7.6	底部完存	調整は外面ハケ目､内面ナデ｡胎土は細砂粒を含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに淡黄褐色。	穿孔あり
137	第58図 図版47	底部	1号竪穴状遺構 下層	③7.9	底部完存	調整は外面ハケ目、内面ナデ。 胎土は粗・細砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面黄褐色、内面黄白色。	
138	第58図 図版47	底部	1号竪穴状遺構 下層	③9.4	底部完存	調整は外面ハケ目、内面ナデ。 胎土は粗・細砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面灰黄色、内面暗灰黄色。	
139	第58図 図版47	底部	1号竪穴状遺構 下層	③10.4	底部完存	調整は外面ハケ目、内面不明。胎土は細砂粒をやや多く含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに淡黄褐色。	
140	第58図 図版47	底部	1号竪穴状遺構 下層	③7.7	底部完存	調整は外面ハケ目､内面ナデ｡胎土は粗･細砂粒を含む。 焼成は良好｡色調は内外面ともに淡黄褐色～淡赤褐色。	
141	第58図 図版47	底部	1号竪穴状遺構 下層	③7.45	底部完存	調整は外面ハケ目、内面不明。胎土は細砂粒をやや多く含む。 焼成は良好。色調は外面淡黄灰色、内面黒褐色。	
142	第58図 図版47	底部	1号竪穴状遺構 下層	③9.2	底部完存	調整は外面ハケ目､内面ナデ｡胎土は細砂粒を含む。 焼成は良好。色調は外面暗茶褐色～黒色、内面黄褐色～灰色。	
143	第58図 図版47	底部	1号竪穴状遺構 下層	③8.2	底部完存	調整は外面ハケ目、内面ナデ。 胎土は粗・細砂粒を含む。焼成は良好。 色調は外面暗茶褐色～赤褐色、内面茶褐色～黒色。	
144	第58図 図版47	底部	1号竪穴状遺構 下層	③9.5	底部完存	調整は外面ハケ目､内面ナデ｡胎土は細砂粒を含む。 焼成は良好｡色調は内外面ともに黒灰色～暗黄褐色。	スス付着
145	第58図 図版48	鉢	1号竪穴状遺構 下層	①13.7　②7.4　③5.5	ほぼ完形	調整は外面ハケ目、内面ナデ。胎土は細砂粒をわずかに含む。 焼成は良好。色調は外面黒褐色、内面淡黄褐色。	
146	第58図 図版48	高坏	1号竪穴状遺構 下層	①(内径26.4　外径38.0)	坏部1/5	調整は外面ハケ目､内面一部ミガキ､口縁部ヨコナデ。 胎土は精良。焼成は良好。色調は内面赤褐色。	丹塗り
147	第58図 図版48	高坏	1号竪穴状遺構 下層	③脚裾部径18.6	脚部完存	調整は外面不明､内面ナデ｡胎土は細砂粒を多く含む。 焼成は良好。色調は内面赤褐色。	丹塗り
148	第58図 図版48	高坏	1号竪穴状遺構 下層	③(脚裾部径21.4)	脚裾部1/4	調整は不明｡胎土は粗･細砂粒を含み､赤色粒を含む。 焼成は良好｡色調は内外面ともに赤褐色～淡黄褐色。	
149	第58図 図版48	高坏	1号竪穴状遺構 下層	③脚裾部径17.8	脚部1/3	調整は外面ミガキ､内面ナデ｡胎土は細砂粒を多く含む。 焼成は良好。色調は内面淡赤褐色。	丹塗り
150	第58図 図版48	器台	1号竪穴状遺構 下層	①10.0　②11.3　③11.6	ほぼ完形	調整は内外面ともにナデ｡胎土は粗砂粒を多く含む。 焼成は良好｡色調は内外面ともに明茶褐色～黄褐色。	
151	第58図 図版48	器台	1号竪穴状遺構 下層	①8.7　②14.5　③10.9	完形	調整は内外面ともにナデ｡胎土は粗・細砂粒を多く含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに赤褐色～茶褐色。	
152	第58図 図版48	器台	1号竪穴状遺構 下層	①9.9　②13.8　③11.4	全体の3/4	調整は内外面ともにナデ｡胎土は粗･細砂粒を多く含む。 焼成は良好｡色調は内外面ともに赤褐色～淡黄褐色。	
153	第58図 図版48	器台	1号竪穴状遺構 下層	①7.1　②15.0　③8.75	完形	調整は内外面ともにナデ｡胎土は粗砂粒を多く含む。 焼成は良好｡色調は内外面ともに明茶褐色～黄褐色。	
154	第58図 図版48	手捏	1号竪穴状遺構 下層	①4.4　②4.0　③3.5	ほぼ完形	調整は内外面ともにナデ｡胎土は粗･細砂粒を多く含む。 焼成は良好｡色調は内外面ともに赤褐色～淡黄褐色。	

番号	挿図 図版	種別	出土位置	法量(cm) ①口径②器高③底径	残存状態	調整及び特徴	備　考
155	第59図 図版48	甕	2号竪穴状遺構 溝A	①(18.0)	口縁部1/8	調整は不明。胎土は細砂粒を含む。 焼成はやや軟質。色調は内外面ともに淡黄褐色。	
156	第59図 図版48	甕	2号竪穴状遺構 P4	①(20.8)	上半部1/6	調整は外面ハケ目、内面不明。 胎土は粗・細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は外面淡赤褐色～灰色、内面白褐色～淡赤褐色。	
157	第59図 図版48	甕	2号竪穴状遺構 P4	—	口縁部小片	調整は外面ハケ目、内面不明、口縁部ヨコナデ。 胎土は粗・細砂粒を含む。焼成は良好。 色調は外面淡赤褐色～暗灰褐色、内面暗灰褐色。	
158	第59図 図版48	底部	2号竪穴状遺構 溝B	—	底部完存	調整は不明。胎土は細砂粒を多く含む。 焼成はやや軟質。色調は外面暗黄褐色、内面淡黄褐色。	
159	第59図 図版48	手捏	2号竪穴状遺構 P4	①5.5　②3.4	ほぼ完形	調整は内外面ともにナデ。胎土は細砂粒を含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに淡黄褐色～灰色。	
160	第60図 図版49	壺	1号溝 V区	①16.2　②10.9	完形	調整は外面ナデ、内面ハケ目、口縁部ヨコナデ。 胎土は精良。焼成は良好。 色調は内外面ともに赤褐色。	
161	第60図 図版49	壺	1号溝 V区	①12.3　②14.5　③6.2	完形	調整は外面ハケ目、内面～口縁部ナデ。 胎土は細砂粒を含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡黄褐色。	
162	第60図 図版49	甕	1号溝 V区	—	口縁部小片	調整は内外面ともにハケ目。胎土は細砂粒を含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに淡黄褐色。	
163	第60図 図版49	底部	1号溝 I区下層	③(6.0)	底部1/4	調整は外面ハケ目、内面ナデ。胎土は細砂粒を多く含む。 焼成は良好。色調は外面淡黒褐色～淡茶褐色、内面黒褐色。	
164	第60図 図版49	底部	1号溝 V区	③8.0	下半部完存	調整は内外面ともにハケ目。胎土は細砂粒を含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに淡赤褐色。	
165	第60図 図版49	鉢	1号溝 VI区中層	①14.0　②5.85	完形	調整は外面ナデ、内面ハケ目後ナデ。 胎土は粗・細砂粒を含む。焼成は良好。 色調は外面赤褐色～黒色、内面淡褐色～淡赤褐色。	
166	第60図 図版49	壺	1号溝 VI区	①(内径14.4　外径19.2)	口縁部1/5	調整は不明。胎土は細砂粒を含む。 焼成は良好。色調は外面淡黄褐色、内面淡茶褐色。	
167	第60図 図版49	甕	1号溝 VI区下層	①(24.2)	口縁部1/8	調整は不明、口縁部ヨコナデ。胎土は細砂粒を含む。 焼成は良好。色調は外面暗灰色～暗黄褐色、内面暗黄褐色。	
168	第60図 図版49	甕	1号溝 VI区	①(32.2)	口縁部1/9	調整は外面ハケ目、内面ナデ、口縁部ヨコナデ。 胎土は細砂粒を含む。焼成は良好。 色調は外面赤褐色、内面淡赤褐色。	
169	第60図 図版49	甕	1号溝 I区下層	—	口縁部小片	調整は口縁部ヨコナデ。胎土は細砂粒をやや多く含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに黄白色～淡茶褐色。	
170	第60図 図版49	甕	1号溝 VI区	—	口縁部小片	調整は口縁部ヨコナデ。胎土は細砂粒を含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに黄褐色。	スス付着
171	第60図 図版49	甕	1号溝 VI区中層	—	口縁部小片	調整は外面わずかにハケ目、内面不明。 胎土は細砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面淡赤褐色～暗灰黒色、内面淡黄褐色～暗灰黒色。	
172	第60図 図版49	甕	1号溝 VI区	—	口縁部小片	調整は不明、口縁部ヨコナデ。胎土は細砂粒をわずかに含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに淡黄褐色。	
173	第60図 図版49	底部	2号溝	③(8.0)	底部1/2	調整は外面ハケ目、内面ナデ。胎土は細砂粒をわずかに含む。 焼成は良好。色調は外面赤褐色、内面茶褐色。	
174	第60図 図版49	甕	4号溝	—	口縁部小片	調整は不明。胎土は細砂粒を含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに淡赤褐色～淡茶褐色。	
175	第60図 図版49	甕	4号溝	—	口縁部小片	調整は不明。胎土は細砂粒を多く含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに淡赤褐色～淡黒褐色。	
176	第60図 図版49	甕	4号溝	—	口縁部小片	調整は不明。胎土は細砂粒を含む。 焼成は良好。色調は外面黄褐色、内面黒褐色。	
177	第60図 図版49	底部	4号溝	③(7.0)	底部1/5	調整は不明。胎土は粗・細砂粒を多く含む。 焼成は良好。色調は外面黄褐色～暗茶褐色、内面黄褐色。	
178	第60図 図版49	壺	7号溝	—	口縁部小片	調整は口縁部ヨコナデ。胎土は細砂粒を含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに淡黄褐色。	丹塗り
179	第60図 図版50	甕	7号溝	—	口縁部小片	調整は外面ハケ目、内面ナデ、口縁部ヨコナデ。 胎土は粗砂粒をわずかに含む。焼成は良好。 色調は外面淡黄褐色、内面茶褐色～黄褐色。	
180	第60図 図版50	甕	7号溝	①(14.0)	口縁部1/8	調整は内外面ともにナデ、口縁部ヨコナデ。 胎土は細砂粒をわずかに含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに黄褐色。	
181	第60図 図版50	甕	7号溝	①(20.0)	口縁部1/8	調整は外面ハケ目、内面不明、口縁部ヨコナデ。 胎土は細砂粒を含み、赤色粒を含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに淡黄褐色。	
182	第60図 図版50	底部	7号溝	③4.4	底部完存	調整は外面ハケ目、内面ナデ。胎土は細砂粒を含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに黄褐色。	
183	第60図 図版50	底部	7号溝	③6.3	底部完存	調整は外面ミガキ、内面ナデ。胎土は精良。 焼成は良好。色調は内面黄褐色。	丹塗り 穿孔あり
184	第60図 図版50	底部	7号溝	③8.6	底部3/4	調整は不明。胎土は細砂粒をわずかに含み、赤色粒を含む。 焼成はやや軟質。色調は内外面ともに淡赤褐色。	
185	第61図 図版50	甕	1号掘立柱建物 P3	—	口縁部小片	調整は口縁部ヨコナデ。胎土は粗・細砂粒を多く含む。 焼成は良好。色調は外面暗茶褐色、内面茶褐色。	

番号	挿図 図版	種別	出土位置	法量(㎝) ①口径②器高③底径	残存状態	調整及び特徴	備　考
186	第61図 図版50	甕	2号掘立柱建物 P6	—	口縁部小片	調整は不明。胎土は細砂粒をわずかに含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに淡黄灰色。	
187	第61図 図版50	甕	2号掘立柱建物 P6	①(18.1)	口縁部1/5	調整は外面不明、内面ナデ、口縁部ハケ目・ヨコナデ。 胎土は細砂粒をわずかに含む。焼成は良好。 色調は外面灰褐色、内面暗褐色。	
188	第61図 図版50	壺	3号掘立柱建物 P2	①(12.6)	口縁部1/4	調整は不明。胎土は細砂粒を含む。 焼成は良好。色調は外面淡茶褐色、内面黄白色。	丹塗り
189	第61図 図版50	甕	3号掘立柱建物 P2	—	口縁部小片	調整は不明。胎土は細砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面暗茶褐色～茶褐色、内面淡赤褐色～暗茶褐色。	
190	第61図 図版50	甕	3号掘立柱建物 P4	—	口縁部小片	調整は外面ハケ目、内面ナデ。胎土は細砂粒をわずかに含む。 焼成はやや軟質。色調は内外面ともに淡黄灰色。	
191	第61図 図版50	甕	4号掘立柱建物 P2	—	口縁部小片	調整は外面ハケ目、内面ナデ、口縁部ヨコナデ。 胎土は粗・細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡赤褐色～灰色。	
192	第61図 図版50	甕	5号掘立柱建物 P14	—	口縁部小片	調整は不明。胎土は細砂粒を含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに暗茶褐色。	
193	第61図 図版50	甕	5号掘立柱建物 P2	—	口縁部小片	調整は不明。胎土は細砂粒を含む。 焼成は良好。色調は外面淡茶褐色、内面黄白色。	
194	第61図 図版50	甕	7号掘立柱建物 P2	—	口縁部小片	調整は外面ハケ目、内面ナデ。 胎土は粗・細砂粒をやや多く含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに淡黄灰色。	
195	第61図 図版50	底部	7号掘立柱建物 P4	③(12.0)	底部1/5	調整は不明。胎土は粗・細砂粒を多く含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに淡茶褐色～黄褐色。	
196	第62図 図版51	壺	ピット30	①(18.0)	口縁部1/2	調整は口縁部ハケ目後ナデ。 胎土は細砂粒を含む。焼成は良好。 色調は外面淡赤褐色～黒色、内面淡黄褐色～淡赤褐色。	
197	第62図 図版51	壺	ピット13	—	口縁部小片	調整は内面ナデ、口縁部ヨコナデ。胎土は細砂粒を含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに淡赤褐色～淡茶褐色。	
198	第62図 図版51	甕	ピット14	—	口縁部小片	調整は外面ナデ、内面不明、口縁部ヨコナデ。 胎土は粗・細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は外面暗赤褐色、内面淡赤褐色。	
199	第62図 図版51	甕	ピット12	—	口縁部小片	調整は不明。胎土は細砂粒を含む。 焼成は良好。色調は外面淡茶褐色～淡赤褐色、内面淡茶褐色。	
200	第62図 図版51	甕	ピット8	①(23.0)	口縁部1/6	調整は外面ハケ目後ナデ、内面ナデ、口縁部ヨコナデ。 胎土は粗・細砂粒を含む。焼成は良好。 色調は外面茶褐色～灰褐色、内面淡灰褐色。	
201	第62図 図版51	甕	ピット5	①46.0	口縁部1/4 胴部1/4	調整は内外面ともにハケ目。胎土は粗・細砂粒を含む。 焼成は良好。色調は外面淡赤褐色、内面淡黄褐色。	接合しない2片
202	第63図 図版51	壺	2号竪穴状遺 構周辺包含層	—	口縁部小片	調整は不明。胎土は細砂粒を含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに淡黄褐色～淡赤褐色。	
203	第63図 図版51	甕	2号竪穴状遺 構周辺包含層	—	口縁部小片	調整は不明。胎土は粗・細砂粒を多く含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに黒褐色。	スス付着
204	第63図 図版51	甕	2号竪穴状遺 構周辺包含層	—	口縁部小片	調整は不明。胎土は粗・細砂粒を多く含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに淡黄褐色。	
205	第63図 図版51	甕	2号竪穴状遺 構周辺包含層	—	口縁部小片	調整は不明。胎土は細砂粒を含む。 焼成は良好。色調は外面淡赤褐色、内面黄褐色～淡灰色。	
206	第63図 図版51	底部	2号竪穴状遺 構周辺包含層	③(8.0)	底部1/4	調整は不明。胎土は粗・細砂粒を多く含む。 焼成は良好。色調は外面淡赤褐色～淡茶褐色、内面淡赤褐色。	
207	第63図 図版51	底部	2号竪穴状遺 構周辺包含層	③(8.9)	底部1/3	調整は不明。胎土は粗・細砂粒を多く含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに黄褐色。	
208	第63図 図版51	高坏	包含層	①(32.0)	坏部1/4	調整は不明。胎土は細砂粒を含み、赤色粒を含む。 焼成は良好。色調は外面明茶褐色、内面淡黄褐色。	
209	第63図 図版51	手捏	包含層	①6.2　②3.0　③1.0	ほぼ完形	調整は不明。胎土は細砂粒を多く含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに淡黄褐色。	
210	第64図 図版52	坏蓋	包含層	つまみ径2.4	つまみ完存	調整は外面ヘラケズリ後ヨコナデ、内面不定方向ナデ。胎土は細砂粒を含む。焼成は良好。色調は外面青灰色、内面淡灰色。	
211	第64図 図版52	坏蓋	包含層	①(13.8)	全体の1/4	調整は外面回転ヘラケズリ、内面ヨコナデ。胎土は細砂粒を含む。 焼成は良好。色調は外面淡灰色、内面茶灰色。	
212	第64図 図版52	坏蓋	包含層	①(14.1)	口縁部1/8	調整は外面回転ヘラケズリ、内面ヨコナデ。胎土は細砂粒を含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに淡灰色。	
213	第64図 図版52	坏身	包含層	③高台径(9.0)	底部1/4	調整は外面回転ナデ、内面ナデ・回転ナデ。胎土は精良。 焼成は良好。色調は内外面ともに淡灰色。	
214	第64図 図版52	坏身	包含層	③高台径(10.0)	底部1/4	調整は内外面ともにナデ。胎土は細砂粒をわずかに含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに淡灰色。	
215	第64図 図版52	坏身	包含層	—	小片	調整は内外面ともに回転ナデ。胎土は精良。 焼成は堅緻。色調は内外面ともに青灰色。	
216	第64図 図版52	皿	包含層	①(12.6)　③(9.4)	底部1/2	調整は内外面ともに回転ナデ。胎土は精良。 焼成は良好。色調は内外面ともに灰色。	

（３）青銅器生産関連遺物

①　**石製鋳型等**（図版53～56－⑴、第66～69図）

４次調査で出土した青銅器の石製鋳型とその関連遺物としては、青銅器の型が残存していて鋳型と確定できるもののほか、型は確認できないが鋳型の一部であった可能性が高いものや、鋳型を製作する過程で生じたと思われる石片及び石英長石斑岩製の砥石があり、ここでまとめて取り上げることとする。

１～10は型が確認され、青銅器鋳型と確定できる資料である。石材はすべて石英長石斑岩で、きめが細かく、乳白色、若しくは淡い黄白色を呈する。

１は武器類の鋒が彫り込まれた資料で、銅矛鋳型と考えられる。下端面が平滑に研磨されていることから、連結式鋳型の可能性がある。上面から両側面は削りによって浅い溝状の加工が施されている。型の内部と周縁部及び型に接する下端面が黒変している。

２は銅矛鋳型で、柄部のみが残存する。下端部には磨り切り後に折断された痕跡が見受けられるが、再利用された形跡は認められない。横断面形は蒲鉾状を呈する。型の合せ面付近は黒変しているが、深い部分には黒変が認められないことから、使用後に彫り直された可能性がある。

３は深樋式銅剣の鋳型で、１号竪穴状遺構、５号構及び２号竪穴状遺構（遺構検出時）から出土した３片が接合した。２面に向きを違えて型が彫り込まれており、A面には下半部が、B面には上半部が残存する。A面下部の茎の部分は長さが２㎝を測り、やや扁平な形状を呈する。また、A面側では茎に接する下端面にも黒変が及んでいることから、湯口は茎側であったと考えられる。

４はP23から出土した深樋式銅剣鋳型で、３の鋳型と石材及び型の特徴が酷似する。従って、３と同一個体と考えられるが、横断面の形状にやや差異が見受けられることから、対となる鋳型の可能性も考慮すべきであろう。

５は２面に戈の型が確認できる。A面は砥石に転用されて合わせ面が磨られているため、戈型の外縁は全く残存していない。ただ、黒変が石材の内部まで及んでおり、援の形状をある程度知ることができる。B面も型の彫り込みが浅いことから砥石に使用されたものと思われる。

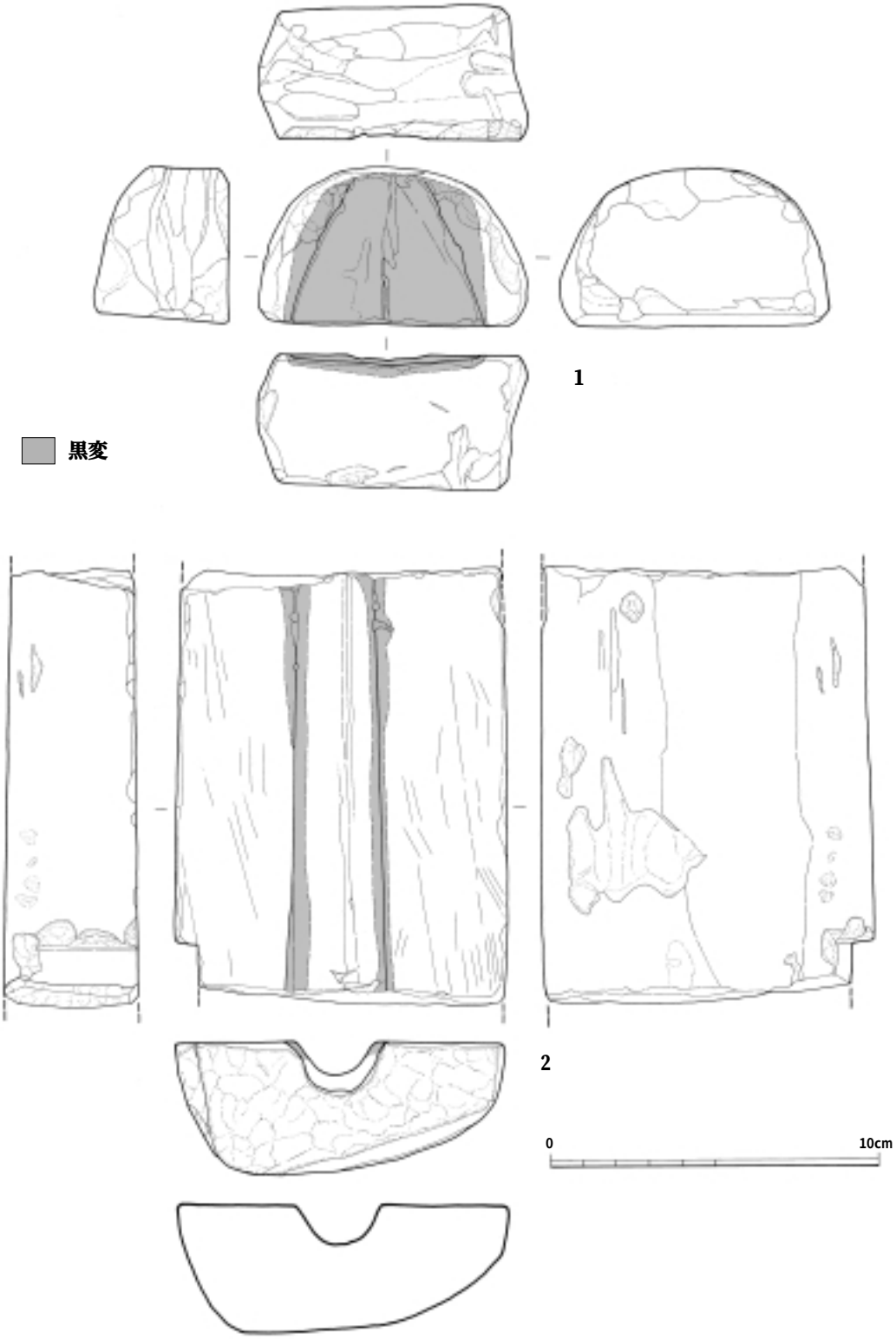
６は武器類鋳型の小片で、樋の先端付近に当たる部分が僅かに残存している。銅矛鋳型の可能性があるが、小片であるため器種を特定できない。黒変が石材の内部に数ミリ及んでいる。型面以外の各面は砥石に転用されている。

７は武器類鋳型の残片であろう。黒変した刃部と考えられる型が僅かに残る程度である。石材には黄白色の部分が認められ、この部分は肉眼観察ではややきめが粗いように見受けられる。

８は黒変した型が僅かに残る程度で、器種を特定できない。銅矛の脊部分の可能性が考えられる。きめが細かく、硬質の石材が用いられている。

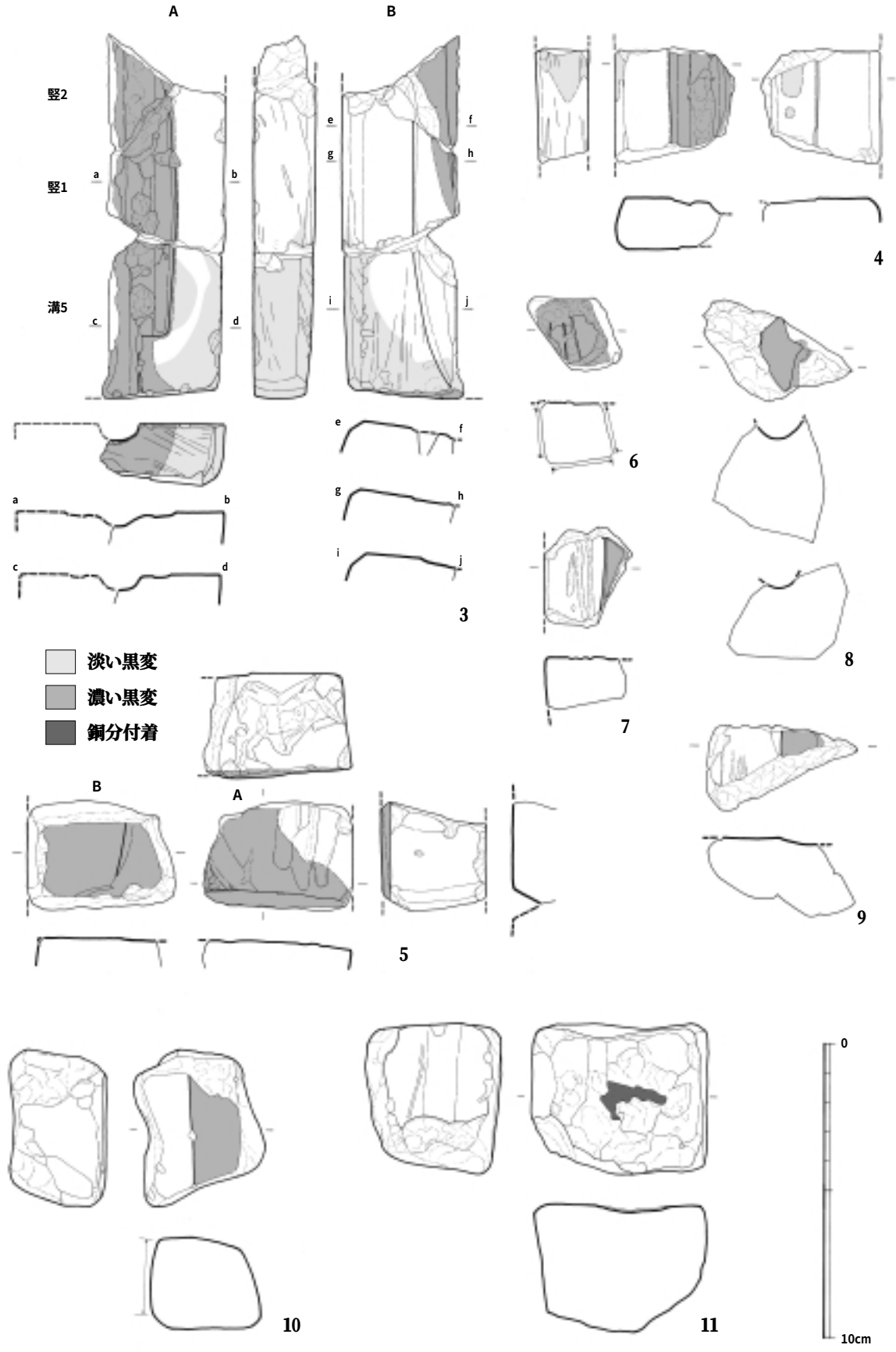
９の石材には７と同様黄白色を呈し、ややきめの粗い部分が存在する。黒変した型が僅かに残存するが、小片であるため詳細は不明である。

10は砥石として使用されているため判然としないが、武器類の型と思われる僅かに黒変した部分が確認できる。

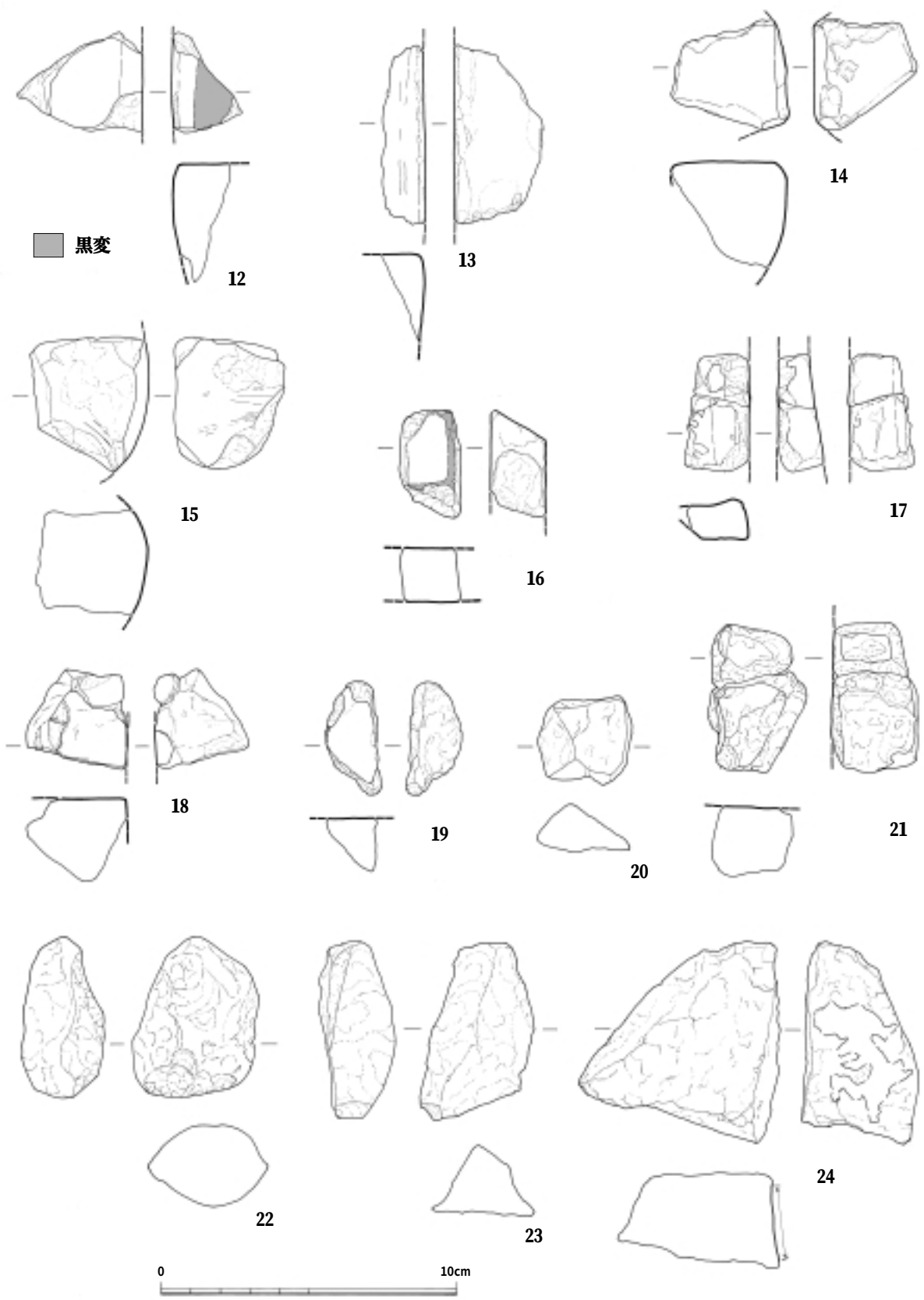


第66図　石製鋳型等実測図①（1/2）

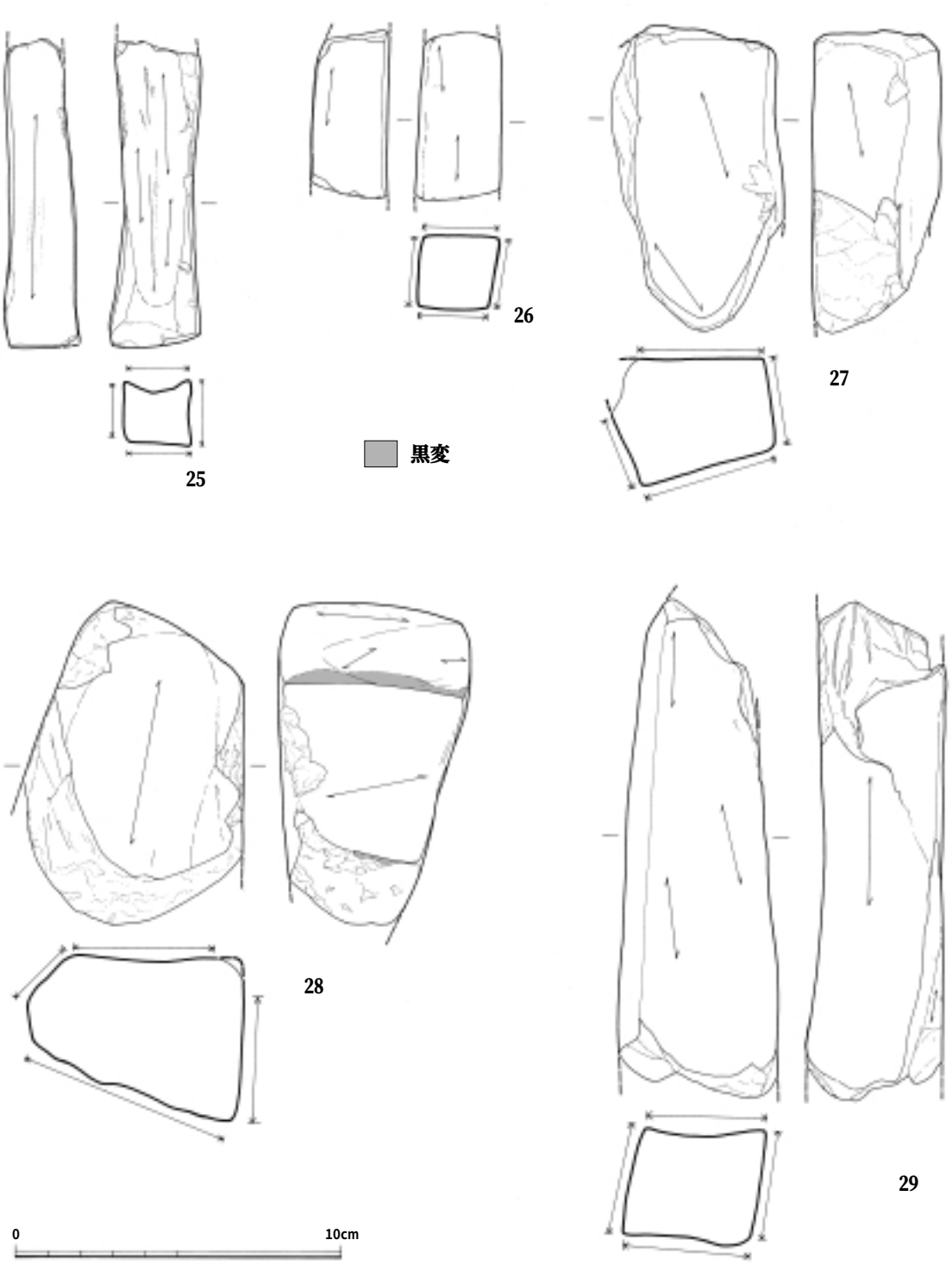
11～19は青銅器の型は確認できないが、本来鋳型の一部であった可能性が考えられる資料で、13以外はすべて石英長石斑岩である。11は方柱状に整形され、砥石としても使用されたようである。青銅の成分と思われる黄緑色を呈する付着物が認められる。12～14は青銅器の型こそ残存しないが、鋳型



第67図　石製鋳型等実測図②（1/2）



第68図　石製鋳型等実測図③（1/2）



第69図　石製鋳型等実測図④（1/2）

特有の整形、研磨が施されていて、鋳型の一部であった可能性が高い。12には黒変した部分が認められる。13は明らかに他と異なった滑石系の石材である。15には整形が施された面が存在し、16には黒変した部分が見受けられる。17には青銅器の型の可能性がある彫り込みが２面に存在するが、黒変は観察されない。18・19は整形若しくは研磨された面が残る破片資料。

20～24は鋳型の製作時、再加工時等に生じた石片と考えられる。21及び24の一部には研磨の痕跡が

表８　４次調査出土石製鋳型等一覧表

番号	挿図 図版	種　別	法量(cm)	出土位置	備　考
1	第66図 図版53	矛	4.80×8.15×4.10	２号竪穴状遺構検出時	鋒部、連結鋳型か？
2	第66図 図版53	矛	13.35×10.10×4.10	１号竪穴状遺構　中層	袋部
3	第67図 図版54	剣	12.25×4.15×2.10	１号竪穴状遺構・５号溝・ ２号竪穴状遺構検出時	２面に剣型、３片が接合
4	第67図 図版54	剣	3.90×4.05×1.80	ピット23	３と同一個体か？
5	第67図 図版54	戈	3.75×5.05×3.55	１号竪穴状遺構　下層	２面に戈型
6	第67図 図版54	武器類	2.45×3.15×2.15	２号竪穴状遺構検出時	樋の一部
7	第67図 図版54	武器類	3.40×2.95×1.80	１号竪穴状遺構	刃の一部
8	第67図 図版54	武器類？	3.40×5.05×4.15	１号竪穴状遺構　床面	矛型あるいは剣型か？
9	第67図 図版54	武器類？	2.90×5.10×2.65	１号竪穴状遺構	
10	第67図 図版55	武器類？	5.30×4.50×3.30	表土	砥石に転用
11	第67図 図版55	—	5.10×5.95×4.60	２号竪穴状遺構周辺 包含層	黄緑色の付着物あり
12	第68図 図版55	—	3.40×2.40×4.05	調査区北西部遺構検出時	黒変部分あり
13	第68図 図版55	—	6.05×1.45×3.00	１号溝　Ⅲ区	滑石質
14	第68図 図版55	—	3.75×4.00×3.50	１号竪穴状遺構　下層	
15	第68図 図版55	—	4.50×3.95×3.75	１号竪穴状遺構　下層	
16	第68図 図版55	—	3.65×2.05×1.85	調査区北部包含層	黒変部分あり
17	第68図 図版55	—	4.00×2.15×1.55	調査区北部包含層	
18	第68図 図版55	—	3.40×3.45×2.80	１号竪穴状遺構　下層	
19	第68図 図版55	—	3.85×1.90×1.85	１号竪穴状遺構	
20	第68図 図版55	—	3.00×3.20×1.60	１号竪穴状遺構	
21	第68図 図版55	—	5.05×3.35×2.40	調査区北部包含層	
22	第68図 図版55	—	5.45×4.25×2.75	表土	
23	第68図 図版55	—	6.00×3.90×2.35	１号竪穴状遺構　下層	
24	第68図 図版55	—	6.85×6.85×3.95	１号竪穴状遺構	
25	第69図 図版56	—	9.40×2.80×2.30	１号竪穴状遺構	砥石
26	第69図 図版56	—	5.15×2.65×2.30	１号竪穴状遺構　中層	砥石
27	第69図 図版56	—	9.35×5.30×3.90	２号竪穴状遺構	砥石
28	第69図 図版56	—	9.90×6.75×4.90	１号竪穴状遺構　下層	砥石、黒変部分あり
29	第69図 図版56	—	15.25×4.95×4.20	ピット21	砥石

見受けられる。鋳型の出土数からすると、これら石片の出土は概して少ないように思われる。

石英長石斑岩製の鋳型は、砥石に転用された例が少なからず存在する。従って、鋳型片が砥石として転用されて研磨が進み、型が消失したものも多数あるものと想定される。他方、鋳型の小片が再利用され小形の青銅器の型が彫り込まれた例も多い。鋳型はこのように転用、再利用された例が多く、完全な状態での出土は極めて稀といえる。本遺跡から出土した石英長石斑岩製の砥石が、すべて鋳型の転用品とは断定できないが、鋳型と深く関わっている可能性は十分考えられる。このような視点から石英長石斑岩製の砥石については、この項で報告し、その他の石材を用いた砥石とは分離することとした。

25～29は多面に著しい研磨痕がみられる石英長石斑岩製の砥石である。青銅器の型や鋳型特有の整形痕等は全く認められないが、いずれもきめの細かい良質の石材であり、鋳型の転用品の可能性が高い資料といえよう。

② **中　型**（図版57～59、第70～72図）

４次調査で出土した中型は100点以上あるが、このうち図示し得たのは76点である。殆どは微砂粒からなる真土製であるが、僅かに粘土質のものが存在する。図示したものの中に小銅鐸及び鋤先の中型は確認できず、すべて銅矛の中型と判断される。

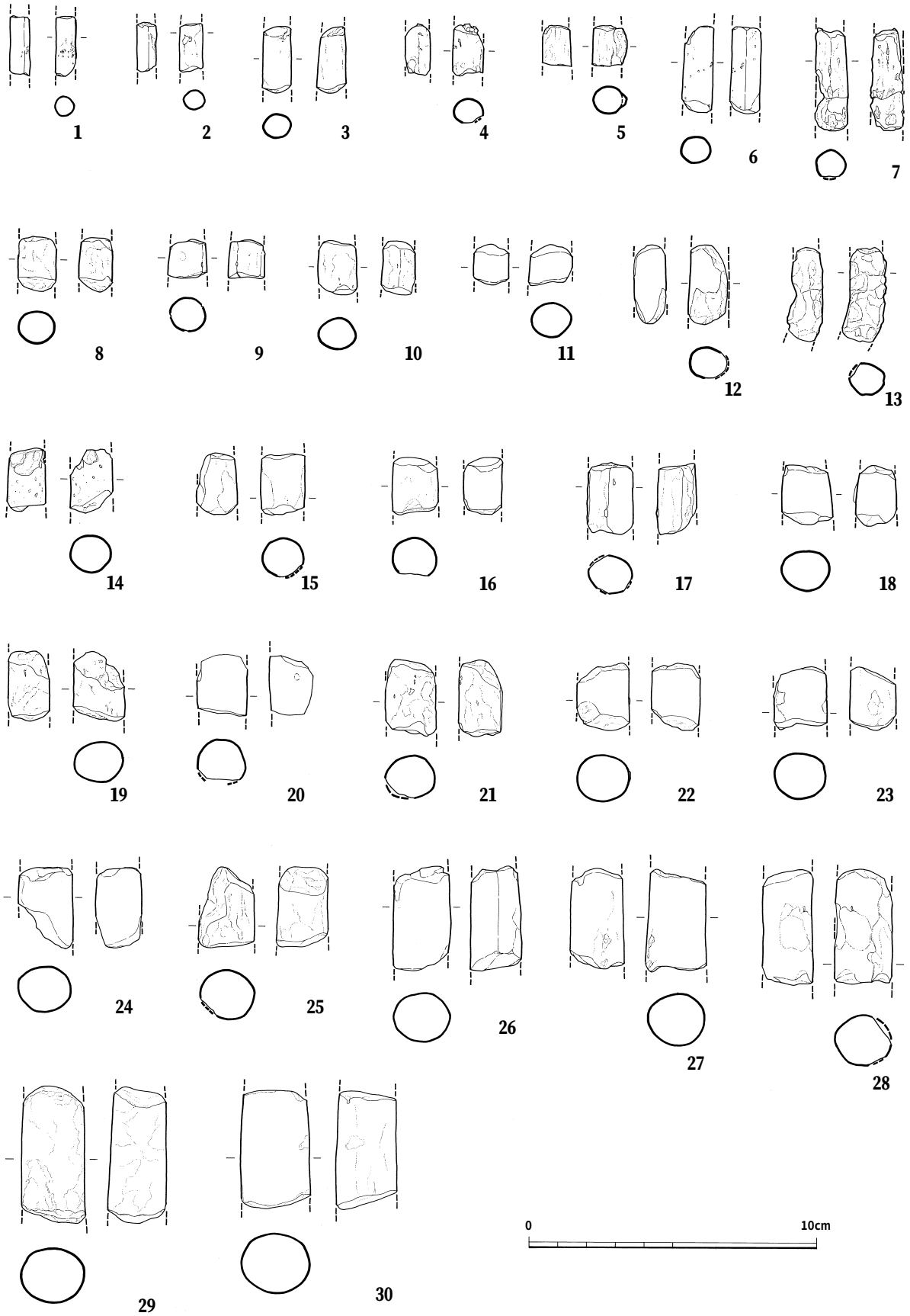
なお、中型の出土位置や計測値など詳細については、表９に示している。

図示した銅矛中型の断面形状を見ると、円形に近いもの（１～30）と、やや扁平で楕円形を呈するもの（31～54）、扁平なもの（55～63）に類別できる。銅矛中型の断面形は、銅矛の型式にある程度対応するものと思料される。４次調査では１～３次調査より断面形が円形に近いものの出土率が高く、扁平なものが概して少ないことが注目される。

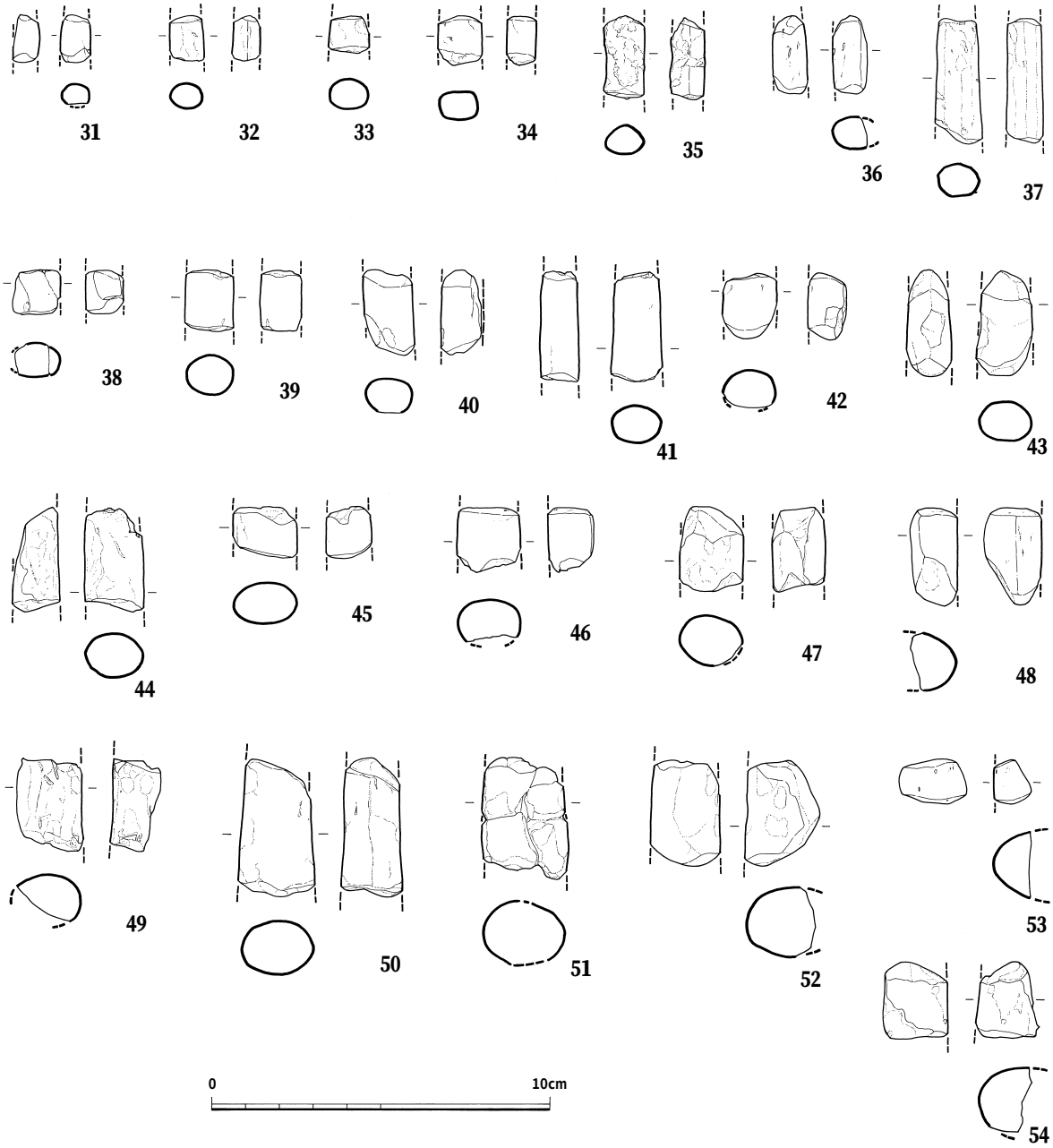
断面形が円形に近い１～30は、厚さの数値を幅の数値で割った値が１～0.8程度を示す。幅が１㎝以下と細い先端部付近の資料（１・２）から、幅が２㎝を超える基部近くの資料（29・30）まで、各部位の破片が存在する。また、この中の３分の１程度には付着物が認められ、使用された痕跡が残る。特に、13に見られる全面を覆う付着物と、硬化及び変形は、注湯の際の失敗を意味するものと理解される。

31～54は断面形がやや扁平なもので、厚さの数値を幅の数値で割った値が0.7台に集中する。31・36・38・46・48・49・52～54については残存状態が悪いため断面形を確実に把握できないが、やや扁平な形状と推定される。37には縦方向に面取り状の削り痕が観察される。35・44は付着物があり、硬化している。

55～63は断面形が扁平なもので、厚さの数値を幅の数値で割った値が概ね0.7以下である。特に59は扁平度が著しく、側縁は稜をなす。４次調査ではこの扁平な中型の出土率が低く、断面が円形に近い形状を呈する中型の３割ほどの出土数である。55及び62は被熱によって著しく硬化していて、付着物が認められる。また、62は２片の中型が溶着しており、注湯時の失敗を示す資料である。



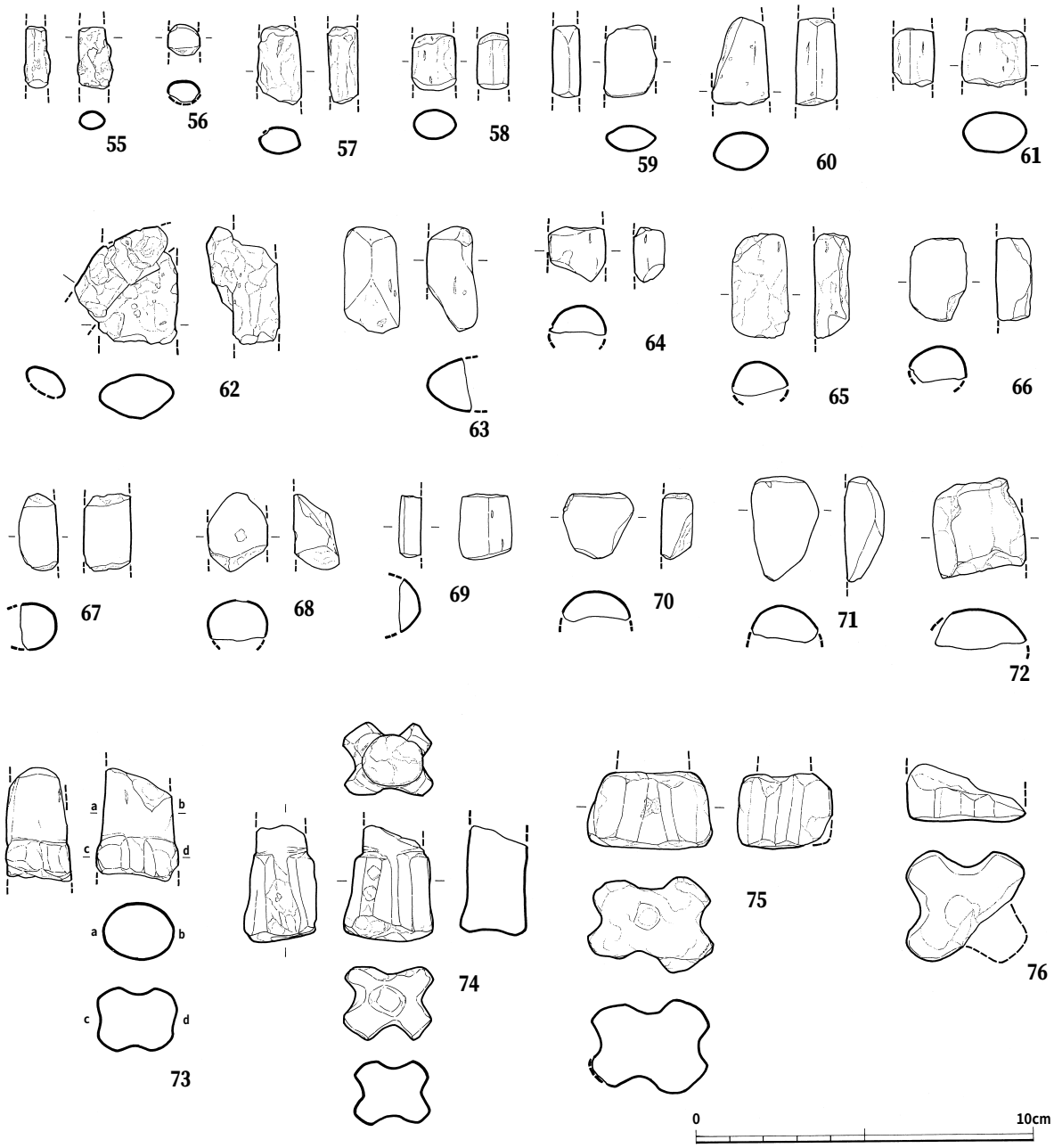
第70図　中型実測図①（1/2）



第71図　中型実測図②（1/2）

64～72は断面の形状を確実には把握できない破片資料である。ただ、残存部分をみる限り、この中に扁平なものは存在しないように思われ、円形に近いもの、若しくはやや扁平なものかのいずれかに該当するものと判断される。

73～76は湯口に当たる部位で、いずれも４方に溝を有し、その断面形は「X」字状をなす。73・74にはハバキより上方に製品の袋部に当たる部分が残存しており、その断面は両者ともやや扁平な形状を呈している。74・75はハバキの部分がほぼ完存していて、その長さは74が2.6㎝、75が2.3㎝を測り、ともに裾部が僅かに開く。74～76の基部端面中央はいずれも僅かに窪んでいるが、その意味については不明である。



第72図　中型実測図③（1/2）

③　**真土質土製品**（図版56－⑵、第73図）

不定形な形状を呈し、中型とほぼ同質の胎土からなる土製品が２点出土している。１は素材が銅矛等の中型と全く同一で、土器、土製品とは胎土が明確に異なる。不整形であり、銅矛中型の破片とは考え難い資料である。灰白色を呈する。２は棒状の土製品で、１に比較するとやや粘質の胎土である。黄白色を呈し、黒斑が見受けられる。この２点の遺物は、その素材から青銅器の鋳造に関連するものと推定されるが、用途については現在のところ不明と言わざるを得ない。

表９　４次調査出土中型観察表　（計測値の幅と厚さは断面図の位置の数値）

番号	挿図 図版	種別	出土位置	計測値(㎝、ｇ)				表面の色調	付着物の有無 付着物の色調	特　徴	備　考
				長さ	幅	厚さ	重さ				
1	第70図 図版57	銅矛	表土	2.05	0.70	0.70	1.30	灰白色	有 灰黒色	硬化 気孔あり	
2	第70図 図版57	銅矛	７号溝周辺包含層	1.70	0.80	0.70	0.80	灰白色	有 橙灰色	硬化 気孔あり	
3	第70図 図版57	銅矛	１号竪穴状遺構	2.30	1.00	0.90	2.20	灰白色～灰黄色	有 灰黒色	やや軟質	
4	第70図 図版57	銅矛	１号竪穴状遺構	1.80	1.05	0.90	1.30	灰白色～灰黒色	無	やや軟質	
5	第70図 図版57	銅矛	１号溝　Ⅳ区	1.45	1.20	1.00	2.00	灰白色	有 茶褐色、青緑色	硬化 気孔あり	
6	第70図 図版57	銅矛	７号溝	3.00	1.05	1.00	3.00	灰白色	無	やや軟質	
7	第70図 図版57	銅矛？	１号竪穴状遺構	3.60	1.05	1.10	3.90	暗茶灰色	無	粘土質	
8	第70図 図版57	銅矛	表土	1.90	1.30	1.15	2.80	黄灰色～灰黒色	無	やや軟質	
9	第70図 図版57	銅矛	１号竪穴状遺構	1.35	1.30	1.20	2.20	灰白色	無	硬化	
10	第70図 図版57	銅矛	ピット16	1.90	1.35	1.10	2.70	淡黄灰色～淡灰黒色	無	軟質	
11	第70図 図版57	銅矛	ピット10	1.40	1.45	1.25	2.30	淡黄灰色～淡灰黒色	無	やや軟質	
12	第70図 図版57	銅矛	１号溝　Ⅱ区	2.75	1.30	1.10	3.80	淡黄灰色	無	軟質	
13	第70図 図版57	銅矛	遺構検出時	3.25	1.25	1.15	5.00	青灰色	有 茶褐色、青緑色	硬化 多数の気孔あり	変形する
14	第70図 図版57	銅矛	１号竪穴状遺構	2.20	1.45	1.30	3.70	淡青灰色～淡黄灰色	無	硬化	
15	第70図 図版57	銅矛	５号掘立柱建物跡 Ｐ２	2.15	1.50	1.40	3.80	淡青灰色	無	やや硬化	
16	第70図 図版57	銅矛	包含層	2.00	1.60	1.35	4.50	黄灰色	無	やや硬質	
17	第70図 図版57	銅矛	１号竪穴状遺構	2.50	1.55	1.35	4.90	灰白色	有 灰黒色、茶黄色	やや硬化	
18	第70図 図版57	銅矛	１号竪穴状遺構	2.10	1.75	1.45	4.30	黄白色	無	やや軟質	
19	第70図 図版57	銅矛	１号竪穴状遺構	2.40	1.75	1.45	5.20	灰白色	無	やや軟質	
20	第70図 図版57	銅矛	４号溝 遺構検出時	2.10	1.75	1.45	5.10	淡黄灰色	有 黄褐色	やや軟質	
21	第70図 図版57	銅矛	１号溝　Ⅰ区	2.65	1.75	1.50	6.50	淡灰黒色～黄灰色	無	やや軟質	
22	第70図 図版57	銅矛	包含層	2.30	1.80	1.65	6.10	灰白色	無	やや軟質	
23	第70図 図版57	銅矛	遺構検出時	2.05	1.85	1.65	5.80	淡灰色～黄灰色	無	やや軟質	
24	第70図 図版57	銅矛	４号溝周辺包含層	2.80	1.90	1.60	7.50	黄灰色	無	やや軟質	
25	第70図 図版57	銅矛	５号掘立柱建物跡 Ｐ１	2.75	1.95	1.85	8.40	淡灰色～黄灰色	有 茶黒色	やや硬化	
26	第70図 図版57	銅矛	溝１Ⅳ区周辺包 含層	3.65	1.95	1.70	13.80	淡灰黒色	無	やや軟質	
27	第70図 図版57	銅矛	１号竪穴状遺構	3.55	2.00	1.85	13.90	灰黒色～淡灰黒色	有 灰白色	やや硬化	
28	第70図 図版57	銅矛	調査区東部表土	4.00	2.00	1.75	14.50	黄灰色～灰白色	無	やや硬質	
29	第70図 図版57	銅矛	２号土坑	4.75	2.20	1.90	20.40	暗黄灰色	有 淡黄灰色	やや硬化	
30	第70図 図版57	銅矛	１号竪穴状遺構	4.10	2.40	2.10	22.30	黄灰色～灰白色	無	やや硬化	
31	第71図 図版58	銅矛	２号竪穴状遺構	1.40	0.90	0.65	0.90	灰白色	無	やや軟質	
32	第71図 図版58	銅矛	調査区東部 遺構検出時	1.35	1.00	0.80	1.00	淡黄灰色	無	軟質	
33	第71図 図版58	銅矛	１号溝　Ⅰ区	1.10	1.20	0.90	1.10	灰白色	無	軟質	

番号	挿図 図版	種別	出土位置	計測値(cm、g)				表面の色調	付着物の有無 付着物の色調	特　徴	備　考
				長さ	幅	厚さ	重さ				
34	第71図 図版58	銅矛	1号竪穴状遺構	1.45	1.30	0.90	1.50	灰白色	無	やや軟質	
35	第71図 図版58	銅矛	包含層	2.50	1.15	0.95	2.90	淡青灰色	有 淡灰黄色	硬化	
36	第71図 図版58	銅矛	遺構検出時	2.30	1.05	1.00	2.30	黄灰色～淡灰黒色	無	軟質	
37	第71図 図版58	銅矛	1号竪穴状遺構	3.70	1.30	1.00	5.40	灰白色	無	やや硬質	面取り状の痕跡
38	第71図 図版58	銅矛	1号竪穴状遺構 遺構検出時	1.30	1.40	1.05	1.70	灰白色	無	やや軟質	
39	第71図 図版58	銅矛	遺構検出時	1.80	1.45	1.20	3.40	淡灰黒色	無	やや硬質	
40	第71図 図版58	銅矛	遺構検出時	2.50	1.45	1.05	3.80	淡黄灰色	無	やや軟質	
41	第71図 図版58	銅矛	1号土坑	3.25	1.50	1.15	5.80	灰黒色～灰白色	無	やや硬質	
42	第71図 図版58	銅矛	1号溝　Ⅵ区	1.95	1.60	1.15	3.10	黄褐色	無	軟質	
43	第71図 図版58	銅矛	2号竪穴状遺構 周辺表土	3.15	1.60	1.20	5.60	灰白色	無	やや軟質	
44	第71図 図版58	銅矛	1号竪穴状遺構	3.10	1.75	1.40	6.30	淡青灰色	有 黄灰色	硬化	
45	第71図 図版58	銅矛	2号竪穴状遺構 溝B	1.50	1.90	1.30	3.60	淡黄灰色	無	やや軟質	
46	第71図 図版58	銅矛	ピット25	1.90	1.90	1.15	4.40	黄褐色	無	やや硬質	
47	第71図 図版58	銅矛	1号竪穴状遺構	2.50	1.90	1.55	6.90	灰黒色	無	やや硬質	
48	第71図 図版58	銅矛	1号竪穴状遺構	2.85	1.35	1.75	5.30	淡灰黒色	無	やや硬質	
49	第71図 図版58	銅矛	包含層	2.75	1.90	1.40	5.80	灰白色	無	硬化 気孔あり	
50	第71図 図版58	銅矛	ピット18	4.10	2.15	1.65	15.40	淡黄灰色	無	やや硬質	
51	第71図 図版58	銅矛	包含層	3.60	2.45	1.95	11.20	淡青灰色	有 黄褐色	やや硬化	
52	第71図 図版58	銅矛	4号溝	3.20	2.05	2.10	12.40	淡灰色	無	やや硬質	
53	第71図 図版58	銅矛	7号溝	1.30	1.10	2.00	2.30	黄灰色	無	やや軟質	
54	第71図 図版58	銅矛	1号竪穴状遺構	2.25	1.60	1.90	6.20	淡青灰色	無	やや硬化	
55	第72図 図版59	銅矛	1号竪穴状遺構	1.85	0.80	0.55	1.30	暗茶褐色	有 青緑色、灰白色	硬化 多数の気孔あり	やや変形
56	第72図 図版59	銅矛	1号竪穴状遺構 周辺包含層	0.95	1.00	0.65	0.60	黄灰色	無	やや軟質	
57	第72図 図版59	銅矛	遺構検出時	2.40	1.30	0.85	2.80	淡黄灰色	無	やや硬質	
58	第72図 図版59	銅矛	調査区東部包含 層	1.70	1.30	0.95	2.20	淡黄灰色	無	やや軟質	
59	第72図 図版59	銅矛	4号溝周辺包含 層	2.15	1.50	0.80	2.70	暗灰白色	無	やや硬質	
60	第72図 図版59	銅矛	2号竪穴状遺構 周辺表土	2.60	1.65	1.15	4.50	灰白色	有 淡黄褐色	やや硬化 気孔あり	
61	第72図 図版59	銅矛	2号竪穴状遺構 P4	1.75	1.90	1.20	3.80	淡黄褐色	無	やや軟質	
62	第72図 図版59	銅矛	2号竪穴状遺構 溝A	3.50	2.25	1.35	15.00	淡青灰色	有 茶褐色、淡黄褐色	著しく硬化 気孔あり	2片が溶着
63	第72図 図版59	銅矛	遺構検出時	3.15	1.35	1.55	5.50	淡青灰色	無	硬質	
64	第72図 図版59	銅矛	2号竪穴状遺構 周辺包含層	1.60	1.70	0.90	2.00	灰白色	無	やや軟質	
65	第72図 図版59	銅矛	2号竪穴状遺構 遺構検出時	3.10	1.65	1.05	5.70	灰白色	無	やや硬質	
66	第72図 図版59	銅矛	1号竪穴状遺構	2.45	1.70	1.05	3.80	灰白色	無	やや硬質	

番号	挿図 図版	種別	出土位置	計測値(cm、g)				表面の色調	付着物の有無 付着物の色調	特　徴	備　考
				長さ	幅	厚さ	重さ				
67	第72図 図版59	銅矛	1号竪穴状遺構	2.30	1.45	1.10	3.20	灰白色～灰黒色	無	やや軟質	
68	第72図 図版59	銅矛	2号竪穴状遺構 遺構検出時	2.30	1.80	1.25	3.30	灰白色	無	やや軟質	
69	第72図 図版59	銅矛	1号竪穴状遺構	1.95	0.65	1.60	2.10	暗灰白色	無	やや硬質	
70	第72図 図版59	銅矛	2号竪穴状遺構 遺構検出時	1.95	2.05	0.90	2.80	灰白色	無	やや硬質	
71	第72図 図版59	銅矛	4号溝 遺構検出時	3.10	2.00	1.15	5.00	淡灰黒色	無	やや軟質	
72	第72図 図版59	銅矛	1号竪穴状遺構	3.00	2.75	1.20	9.70	淡灰黒色	無	やや硬質	
73	第72図 図版59	銅矛	4号溝	3.35	2.40	1.95	14.00	淡灰黒色	無	やや硬質	湯口付近
74	第72図 図版59	銅矛	1号竪穴状遺構	3.40	2.30	1.95	16.50	灰白色～淡灰黒色	無	硬質	湯口部
75	第72図 図版59	銅矛	7号掘立柱建物跡 P2	2.30	3.50	2.80	21.70	灰黄色	無	やや軟質	湯口部
76	第72図 図版59	銅矛	表土	1.70	3.50	3.25	11.40	灰黄色	無	やや軟質	湯口部

④　**坩堝／取瓶等**（図版60～61－⑴、第74・75図）

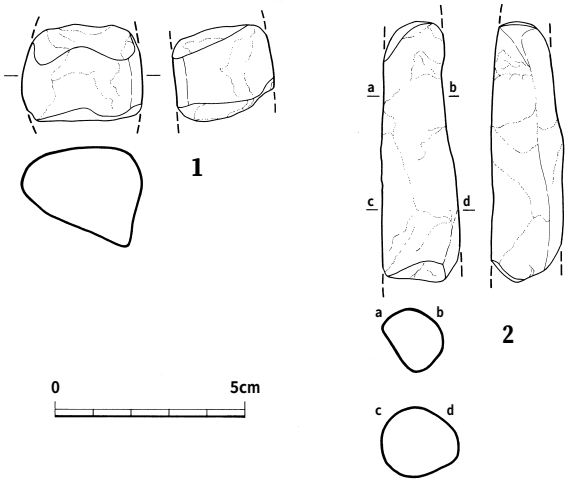
青銅器の鋳造に使用された坩堝／取瓶等の破片が多数出土しているが、図示し得たのは13片である。図示したものもすべて小片であるため、傾きを確定できないものが多く、また、天地逆としたものも存在する可能性があることを断っておきたい。なお、遺物の詳細は表10に示したとおりである。

1は口縁部で、胎土に多量の粗砂粒を含んでいる。口縁は丸く仕上げられ、口縁下が肥厚する。外面はナデによる調整が施され、淡赤褐色を呈し、著しい被熱の痕跡は認められない。内面は被熱により青灰色に変色し、硬化する。かすかに黄褐色の付着物が確認できる。

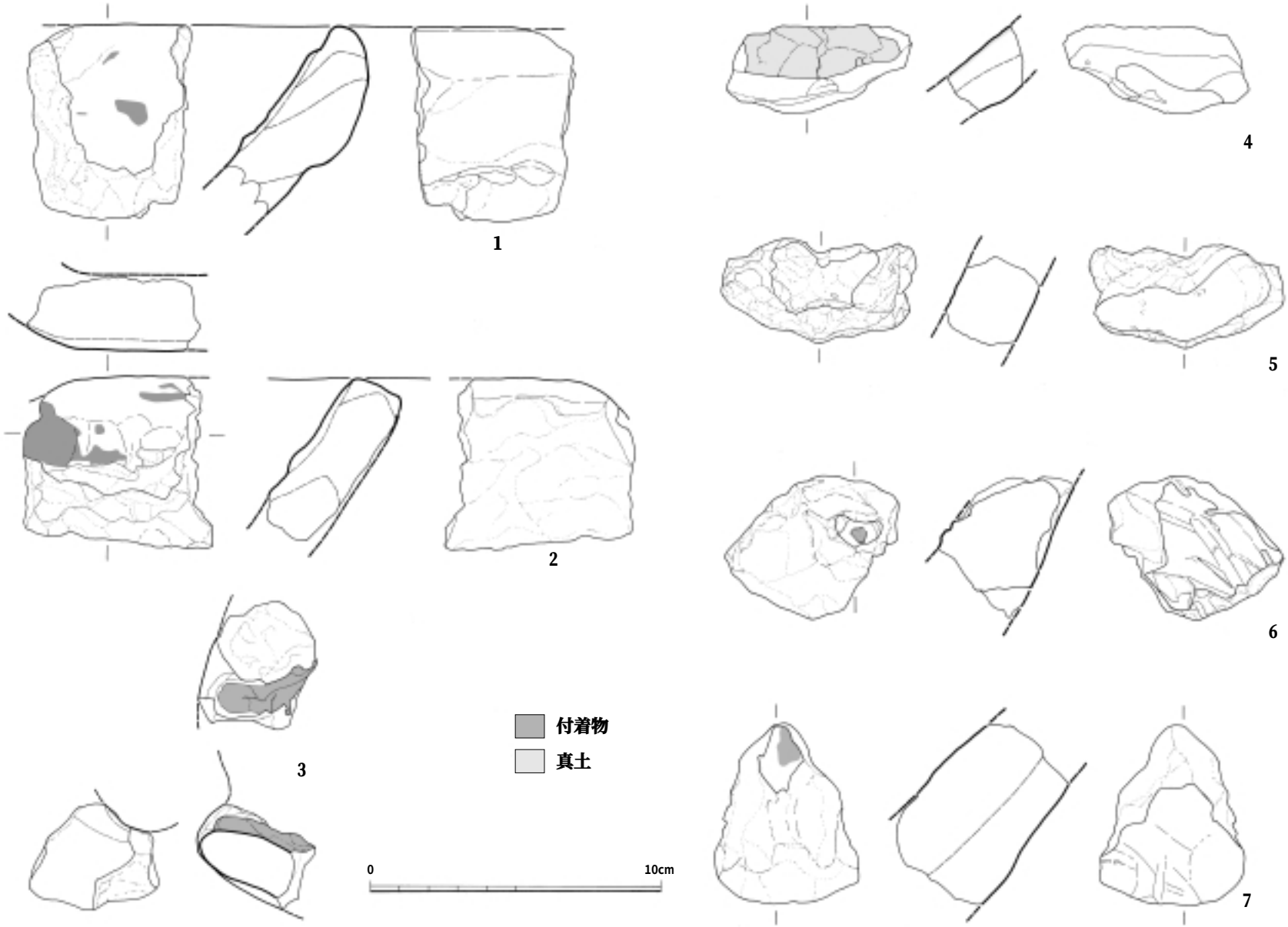
2も口縁部資料であろう。胎土には粗砂粒を多量に含んでいる。外面は赤褐色を呈し、器表面は剥落している。内面は青灰色に硬化しており、黄褐色の付着物が認められる。付着物が著しい箇所はやや肉薄となって外方へ曲がっていることから、注口付近と思われる。

3は注口部分で、黄褐色の付着物が認められる。胎土には粗砂粒をやや多く含んでいる。

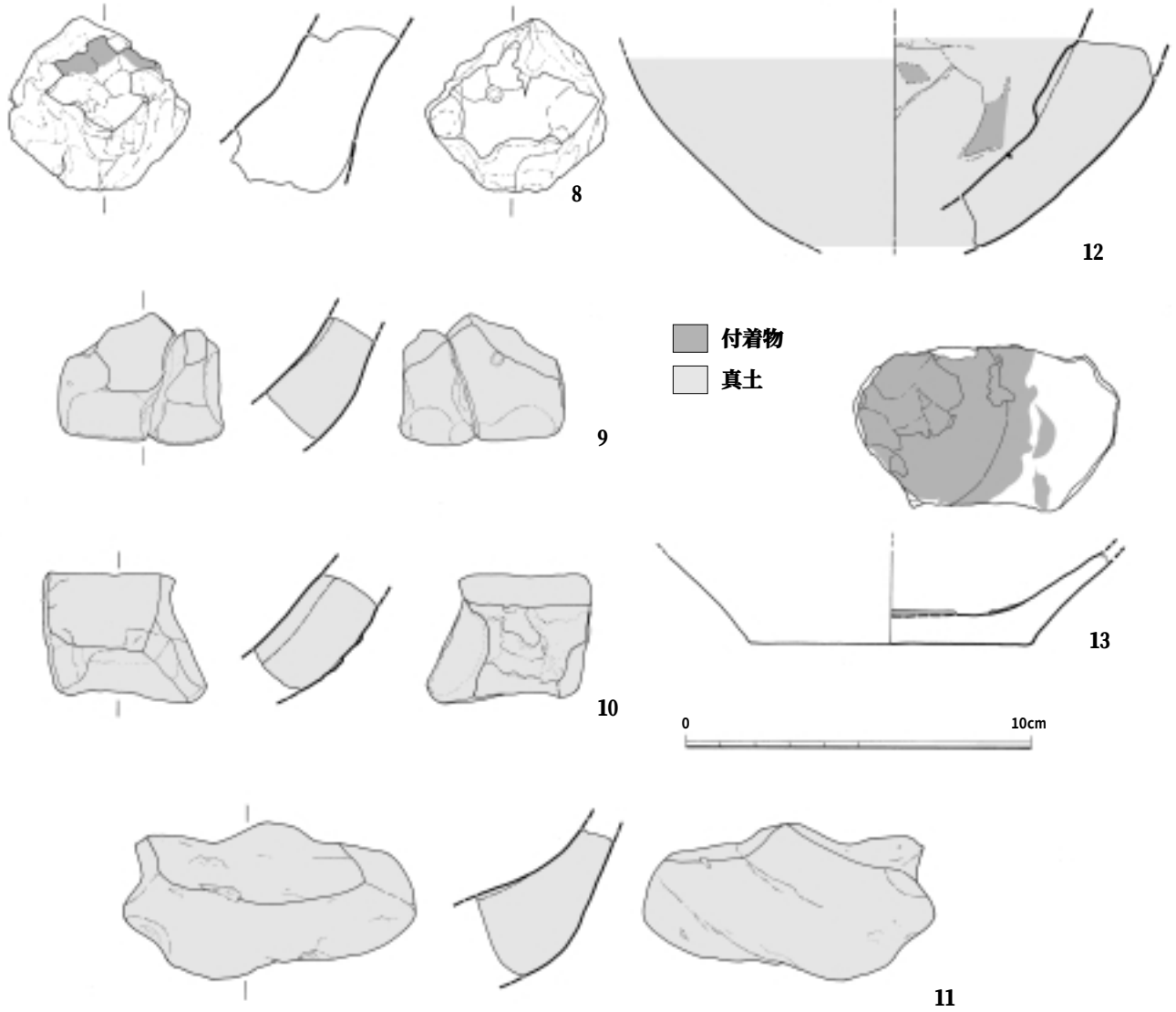
4～7は体部の小片であろう。いずれも外面に著しい被熱の痕跡はなく、内面は被熱によって4～6が青灰色、7が白桃色に変色している。4の内面には薄く真土が貼られている。6・7は特に厚手のつくりで、7は底部に近い部分と思われる。胎土に含まれている粗砂粒は、4・6は少ないが、5・7はかなり目立っている。6の内面には黒褐色、7には黄褐色の付着物が認められる。



第73図　真土質土製品実測図（1/2）



第74図　坩堝／取瓶等実測図①（1/2）



第75図　坩堝／取瓶等実測図②（1/2）

８は底部付近の資料であろう。胎土には粗砂粒をやや多く含んでいる。外面は淡灰黒色を呈し、被熱の痕跡は見受けられない。内面は被熱によって硬化し、暗青灰色を呈する。内面にはかすかに付着物が観察される。

９～12は胎土そのものが真土質で、砂粒を殆ど含んでいない。同一個体の可能性も考えられよう。外面は９・10が黄褐色、11・12が淡黄褐色を呈し、いずれも被熱の痕跡は見受けられない。内面はすべて青灰色に変色しており、被熱の痕跡が残る。12には黄褐色の付着物が認められる。この４点の資料については器肉の厚さや内外面の特徴などから坩堝／取瓶としたが、胎土が他と全く異なっているため断定は避けるべきかもしれない。

13は坩堝／取瓶として用いられたとは考えがたいが、青銅器の鋳造に関係した可能性が高い遺物と見られることからここで取り上げた。弥生時代中期の壺と考えられ、底部の３分の１程度が残存する。復元底径は8.3㎝を測る。外面はナデによって仕上げられ、被熱の痕跡は認められない。内面、特に底面には金属の成分と見られる茶褐色及び黄白色の物質が付着している。破断面に付着物が及んでい

表10　４次調査出土坩堝／取瓶等観察表

番号	挿図 図版	出土位置	調整・色調・付着物等		胎　土	焼成	備　考
			外　面	内　面			
1	第74図 図版60	１号竪穴状遺構 下層	調整はナデ 色調は淡赤褐色	調整は不明 被熱により青灰色に変色、硬化 黄褐色の付着物あり	粗砂粒を多く含む	良好	口縁部
2	第74図 図版60	１号竪穴状遺構 下層	調整は不明 色調は赤褐色	調整はナデ 被熱により青灰色に変色、硬化 黄褐色の付着物あり	粗砂粒を多く含む	良好	注口付近の 口縁部？
3	第74図 図版60	調査区北部 包含層	調整はナデ？ 色調は黄褐色	調整は不明 被熱により赤褐色に変色 黄褐色の付着物あり	粗砂粒をやや多く含む	良好	注口部
4	第74図 図版60	２号竪穴状遺構 周辺 包含層	調整は不明 色調は赤褐色～黄褐色	調整はナデ？ 被熱により青灰色に変色、硬化 真土が塗られている	粗・細砂粒を含む	良好	
5	第74図 図版60	１号竪穴状遺構 下層	調整はナデ 色調は茶黄色	調整は不明 被熱により青灰色に変色、硬化	粗砂粒を多く含む	良好	
6	第74図 図版60	１号竪穴状遺構 下層	調整はナデ 色調は赤褐色	調整は不明 被熱により青灰色に変色、硬化 黒褐色の付着物あり	粗砂粒をやや含む	良好	
7	第74図 図版60	１号竪穴状遺構 遺構検出時	調整はナデ 色調は黄褐色	調整は不明 被熱により白桃色に変色 黄褐色の付着物あり	粗・細砂粒を多く含む	良好	
8	第75図 図版61	１号竪穴状遺構 下層	調整はナデ 色調は淡灰黒色	調整はナデ 被熱により暗青灰色に変色、硬化 黄褐色の付着物あり	粗砂粒をやや多く含む	良好	底部付近
9	第75図 図版61	１号竪穴状遺構 下層	調整はナデ？ 色調は黄褐色	調整はナデ？ 被熱により青灰色に変色、硬化	真土質	良好	10～12と同 一個体か？
10	第75図 図版60	１号溝　Ⅳ区	調整は不明 色調は黄褐色	調整はナデ？ 被熱により青灰色に変色	真土質	良好	
11	第75図 図版60	１号竪穴状遺構 下層	調整はナデ 色調は淡黄褐色	調整はナデ？ 被熱により青灰色に変色、硬化	真土質	良好	
12	第75図 図版61	１号竪穴状遺構 床面	調整はナデ？ 色調は淡黄褐色	調整はナデ 被熱により青灰色に変色、硬化 黄褐色の付着物あり	真土質	良好	底部付近 ２片が接合
13	第75図 図版61	１号竪穴状遺構 下層	調整はナデ 色調は黄褐色	調整はナデ 色調は淡黄灰色 茶褐色・黄白色の付着物あり	細砂粒を含む	良好	壺の底部？

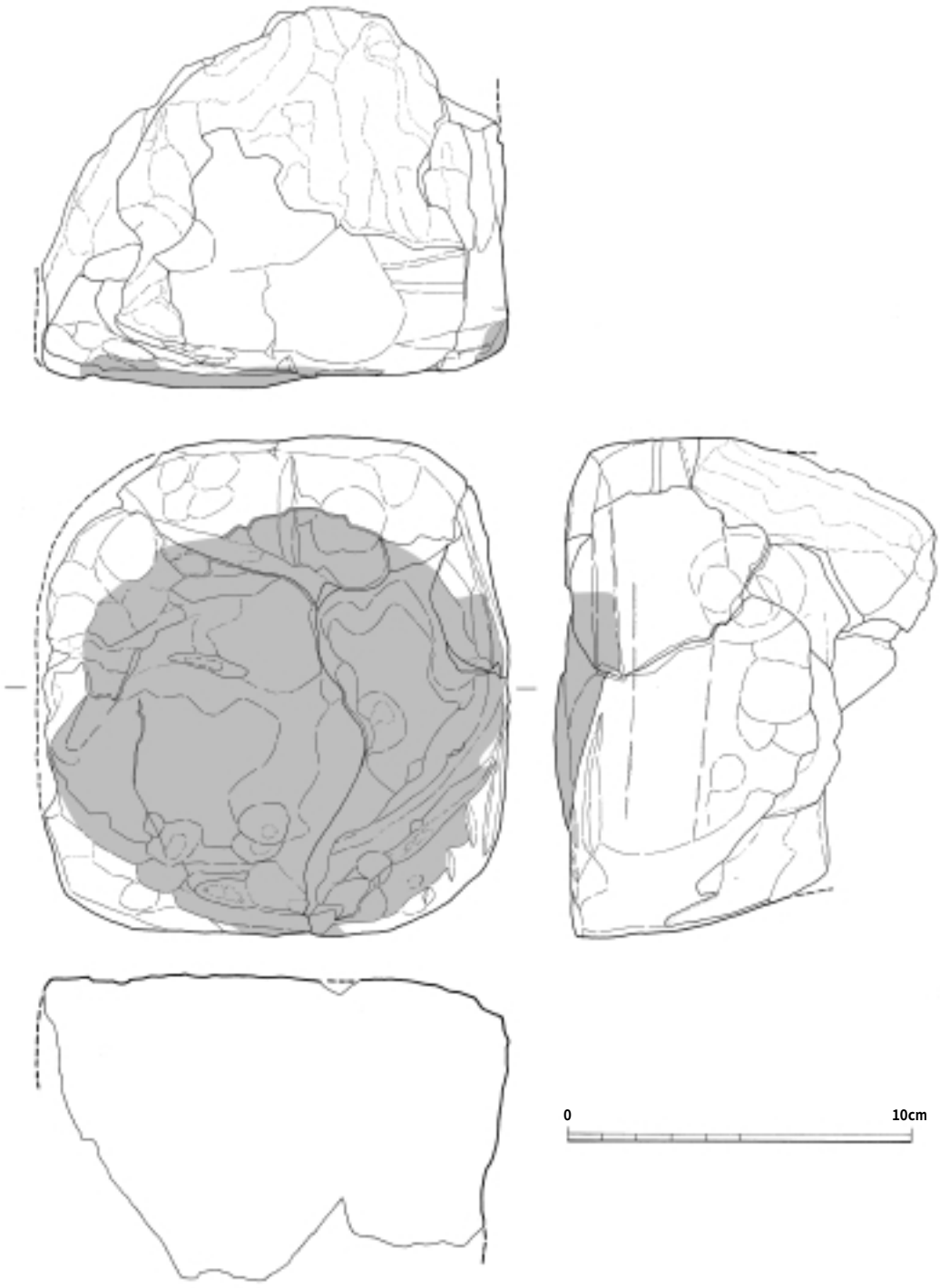
ないことから、この土器片に成分が付着したのではなく、成分付着後に破損したものと判断される。

⑤　**坩　台**（図版61－⑵、第76図）

１号竪穴状遺構から出土した特殊な遺物で、溶解炉内において坩堝を乗せた坩台と考えられる資料である。長さ14.6㎝、幅13.5㎝、残存高11.0㎝を測る。色調は赤褐色で、胎土に１～３㎜程度の砂粒を多く含むが、スサは確認できない。平面形は隅丸方形状をなし、下半部を欠損するが、立面はやや逆台形状になるようにも思われる。上面は中央がやや膨らみ、指頭痕をよく残し、側面にも強い指頭痕が数箇所に見られる。なお、上面と側面にはタタキ目もしくは板状工具の圧痕であろうか、直線的な調整痕が観察できる。上面には円形の変色した部分があり、円周付近は茶灰色、中心付近は白桃色を呈する。この円形の変色部分は坩堝を設置したことによって生じた可能性が考えられ、その径は12㎝前後で２次調査37号溝出土の坩堝／取瓶脚台の径と殆ど一致する。また、被熱によるものと思われるヒビが上面の数箇所に確認できる。

⑥　**鞴送風管**（図版62－⑴、第77図）

１は５号掘立柱建物跡Ｐ10から出土した先端部を欠損する資料。外面は面取り状に調整されるため、



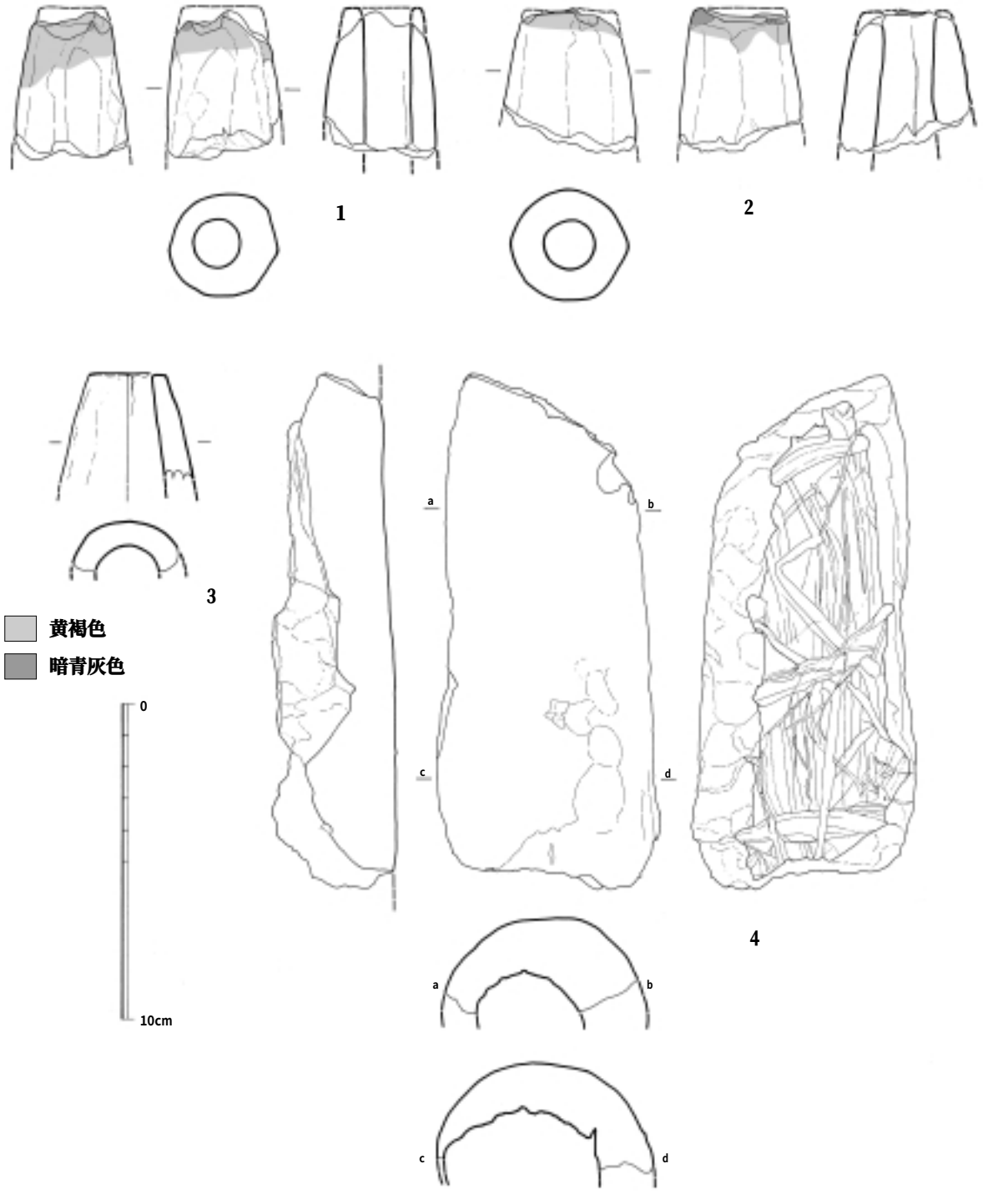
第76図　坩台実測図（1/2）

横断面形はやや多角形状を呈する。送風孔は横断面形が直径1.4㎝程度のほぼ正円形で、羽口側と基部側にほとんど差は見られず直線的である。器肉は0.4～1.6㎝と差が見られるが、これは送風孔の位置が中心ではなく、一方に片寄るためである。胎土は１～２㎜程度の砂粒を含む。色調は赤褐色を呈するが、羽口は高熱のためか黄褐色に変色し、一部は暗青灰色を呈する。

２は１号竪穴状遺構から出土した羽口部分で、先端部をやや欠損する。１と同様に外面を面取り状に調整するため、横断面形はやや多角形をなす。送風孔は横断面形が直径1.5㎝前後の正円に近く、

羽口側から徐々に広がる。器肉は1.2㎝、胎土には１～３㎜程度の砂粒が目立つ。色調は橙褐色だが、羽口側は暗青灰色～黄灰色に変色する。

３はＰ24から出土した羽口の破片資料で、１/２弱が残存する資料。送風孔から径を復元したが、１・２は器肉に差が見られることから外径の復元は不確かである。孔径は1.3～2.3㎝と羽口から徐々に広がる。胎土は１～３㎜程度の砂粒を含み、色調は橙褐色だが、先端部は暗青灰色、その周りは黄



第77図　鞴送風管実測図（1/2）

褐色に変色する。なお、１～３については、古墳時代の輞羽口に見られるような著しい硬化、スラグの付着は認められない。

４は１号竪穴状遺構からの出土品。基部側に近い部位の資料で、図の上方を羽口側と考えた。外面はナデや指押さえで調整し、内面には植物の繊維質と考えられる圧痕が目立つ。圧痕の幅は大小様々であるが、最も目立つ幅0.7㎝程度のものが、両端と中央部の計３箇所に右上りに確認できる。器肉は一定でなく最大厚2.3㎝、最小厚0.3㎝を測る。色調は内外面共に灰褐色を基本とし、一部は黒褐色を呈する。これは２次的な被熱による変色ではなく、断面の観察などから黒斑と判断できる。以上の観察結果から羽口部を除く送風管の製作技法については、ワラ等を束ねたものに縄を螺旋状に巻き付けて芯とし、それに粘土を被覆して管の形を整え、乾燥、焼成したものと推定される。

⑦　**銅滓・銅片**（図版62－⑵、第78図）

青銅器の製作時に生じたと推定される銅滓や銅片が６点出土した。これは１～３次調査における出土数に比較した場合、かなり少ない数量といえる。

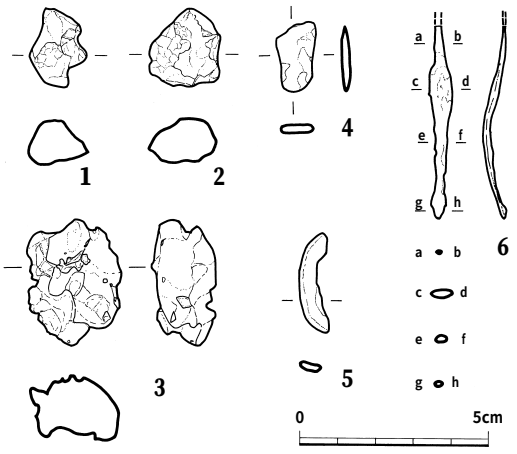
１～３は銅滓である。おそらく鋳造時に生じたものであろう。不定形の塊状をなし、２・３には多数の気孔が見受けられる。１には青緑色を呈する部分がある。２は青緑色の部分が僅かに存在するが、大部分は灰白色～黄灰色を呈する。３は黄灰色と灰黒色の部分が混在し、見た目以上にずっしりと重い。

４～６は銅片で、いずれも表面は青緑色の錆に覆われている。製品ではなく、鋳造時に鋳型からはみ出したバリ等であろうと思われる。

（４）ガラス製品生産関連遺物（図版63－⑴、第79図）

ガラス製品の生産に関わる真土製の遺物で、硬質化し青灰色を呈する。１～３はガラス付着小形容器で、１・２次調査の報告で述べたように鋳型に取り付け掛堰として使用されたと考えられる。器形は手捏によるため歪で、口径等の復元は行わなかった。

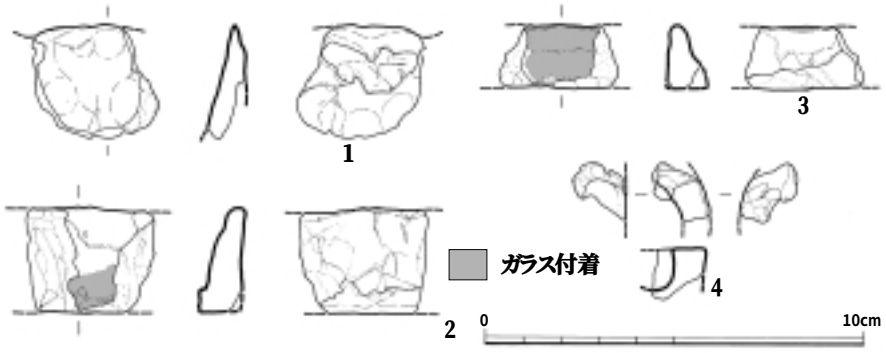
１は包含層から出土した資料で、下半部は欠損する。口縁部は尖り気味で、全体的に薄く仕上げる。外面には鋳型へ取り付けるために貼り付けられた真土が残存する。内面は黄褐色を呈し、ガラスなどの付着物はない。２は７号溝から出土した口縁部から底部まで残存する資料で、器高は2.8㎝程度。底部は鋳型に接合されていたと推察できる。内面の下半部にはガラスが薄く付着するが、還元されたためか下部は暗赤色、上部は淡緑色を呈する。３は３号掘立柱建物跡Ｐ４からの



第78図　銅滓・銅片実測図（1/2）

表11　４次調査出土銅滓・銅片一覧表

番号	挿図 図版	出土位置	計測値(㎝、ｇ)				色　調
			長さ	幅	厚さ	重さ	
1	第78図 図版62	２号竪穴状遺構周辺 包含層	2.10	1.55	1.20	3.80	淡茶褐色～黄緑色、青緑色
2	第78図 図版62	撹乱	2.10	1.85	1.15	3.30	灰白色～黄灰色、青緑色
3	第78図 図版62	ピット29	3.35	2.40	1.75	21.00	黄灰色、灰黒色
4	第78図 図版62	調査区北部 包含層	1.90	1.10	0.25	2.10	青緑色
5	第78図 図版62	２号竪穴状遺構周辺 包含層	2.65	0.85	0.30	1.60	青緑色
6	第78図 図版62	５号溝	(5.10)	0.65	0.15～ 0.25	2.00	青緑色



第79図　ガラス製品生産関連遺物実測図（1/2）

出土品。２と同様口縁部から底部まで残存する資料であるが、器高は1.7㎝程度でのやや小形品。内面にはほぼ全体に暗赤色のガラスが付着し、その範囲は口縁部外端部にまで及ぶ。４は大部分を欠損するが、小形の勾玉の鋳型とも考え得る資料。２号竪穴状遺構検出時に出土した。小形品であることや、型の断面形がオーバーハングしていることから、オープン型と考えられる。

（５）鏡　片（図版63－(2)、第80図）

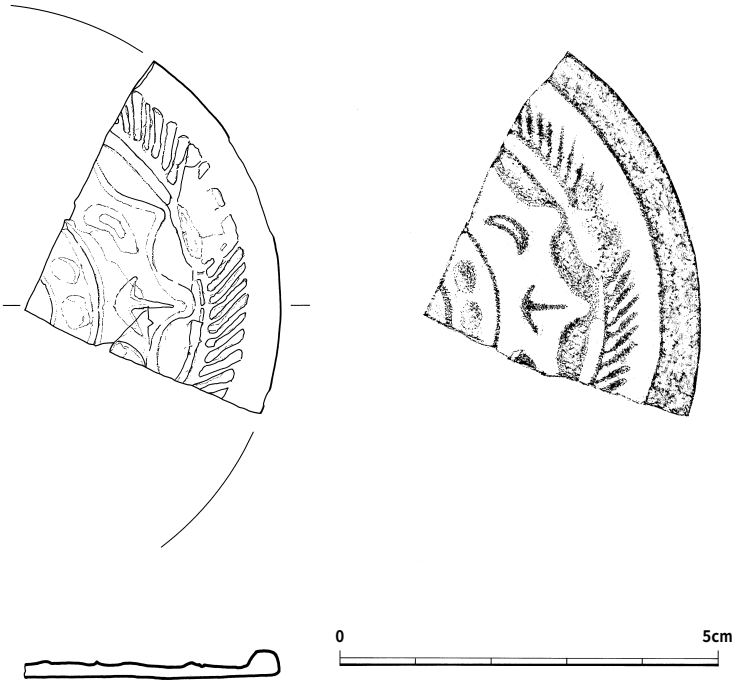
Ｐ27から出土した小形仿製鏡で、面径８㎝程度に復元できる。色調は暗緑褐色～緑褐色を呈し、鏡面は約半分が錆化し薄く剥落する。鏡縁は幅約0.5㎝、高さ0.35㎝と狭く、断面形が蒲鉾状で、内側は斜行する櫛歯文帯と接する。さらに内側には、内行花文帯と不明文様帯、珠文帯、円圏が確認できる。不明文様帯の意匠については不鮮明なため明らかではない。なお、櫛歯文帯には特に不鮮明な箇所があり、その外側の鏡縁に窪みが見られることから湯口の方向を示す可能性がある。当資料は高倉洋彰氏の分類[1]による内行花文日光鏡系小形仿製鏡Ⅰｂ類に属する。

註１　高倉洋彰 1972「弥生時代の小形仿製鏡について」『考古学雑誌』第58巻３号
　　高倉洋彰 1985「弥生時代の小形仿製鏡について（承前）」『考古学雑誌』第70巻３号

（６）玉　類

（図版63－(3)、第81図）

ガラス製小玉である。１号竪穴状遺構から出土し、直径0.55㎝、孔径0.08㎝、厚さ0.38㎝、重さ0.2ｇを測る。半透明なコバルトブルーを呈す。

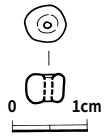


第80図　鏡片実測図（1/1）

（７）鉄　器

（図版64－(1)、第82図）

１は板状鉄斧で、遺構検出時に出土した。完存品で遺存状況は良好である。側面は明瞭な稜を持つ。頭部は斜めに加工される。刃部は使用・砥ぎにより変形している。基部から徐々に厚みを減じて、刃部に至る。平面は方形だが、刃部付近で緩やかに広がる。全長5.95㎝、幅1.9㎝程度、最大厚0.5㎝を測る。２は板状鉄斧で、Ｐ31から出土した。刃部の一部を欠損しており、表面の錆や破面の様子からすると、鋳造鉄器片を再加工した製品と考えられる。平面形は方形で、上部が傾斜する。片刃に加工され、最大長5.1㎝、最大幅3.3㎝、厚さ0.5㎝を測る。３は２号竪穴状遺構Ｐ４から出土した。側面は４面とも欠損し、全体的に激しく層状剥離している。そのため形状は不明瞭だが、一部鉄板が重なっており、袋状鉄斧であった可能性が高い。残存長3.4㎝、厚さ0.45㎝程度である。

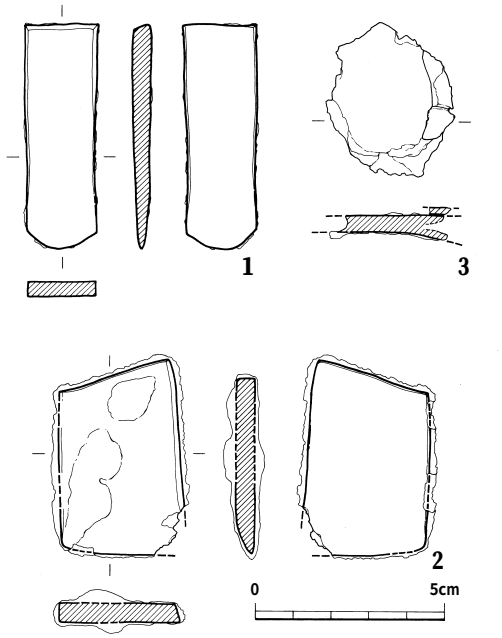


第81図　小玉実測図（1/1）

（８）石　器（図版64－(2)、第83～88図）

ナイフ形石器１点、三稜尖頭器１点、打製石鏃10点、石錐２点、磨製石鏃２点、石戈１点、磨製石斧１点、石槌１点、石包丁11点、用途不明石製品１点、紡錘車１点、穿孔具１点、石斧転用石器１点、凹石１点、砥石20点の計55点が出土した。このうち、石戈１点、磨製石斧１点、石槌１点、石包丁６点、紡錘車１点、石斧転用石器１点、凹石１点、砥石13点の計25点は工房跡と推定される１号竪穴状遺構から出土している。

１はナイフ形石器である。黒曜石製で、縦長剥離の打面を加工して基部とし、腹面から刃潰し剥離



第82図　鉄器実測図（1/2）

が施される。

２は三稜尖頭器の完形品である。断面形状は正三角形で、鋭い稜が顕著である。

３～12は打製石鏃である。３は両脚が欠損する。基部は浅い抉りで、断面形は0.2㎝と薄い菱形を呈す。４は胴部の一部が欠損している。風化により表面は明灰色を呈すが、欠損部分では黒色である。５は完形品で、基部は凹基式、平面形は正三角形状を呈す。６は両脚ともに欠損する。抉りの深い凹基式である。７は両脚と先端付近が欠損する。剥離調整がやや粗い。凹基式と推定される。８は片脚を欠損する。平面形は二等辺三角形を呈す。抉りの深い凹基式で、細かな調整が施される。９は完形品で、基部は浅い抉りで、平面形が五角形状を呈す。10は先端と片脚の一部を欠損する。基部は抉りが浅く、やや丸みを帯びた五角形状を呈す。11は胴部が一部欠損する。基部は平基式である。12はほぼ完形品である。基部は平基式で、平面形は二等辺三角形状である。

13・14は石錐で、先端部が欠損しているが、ほぼ完形品である。13は素材となった剥片の剥離面が多く残り、断面形は菱形を呈す。14は片面に剥離面を残し、先端部付近に細かな調整を施す。

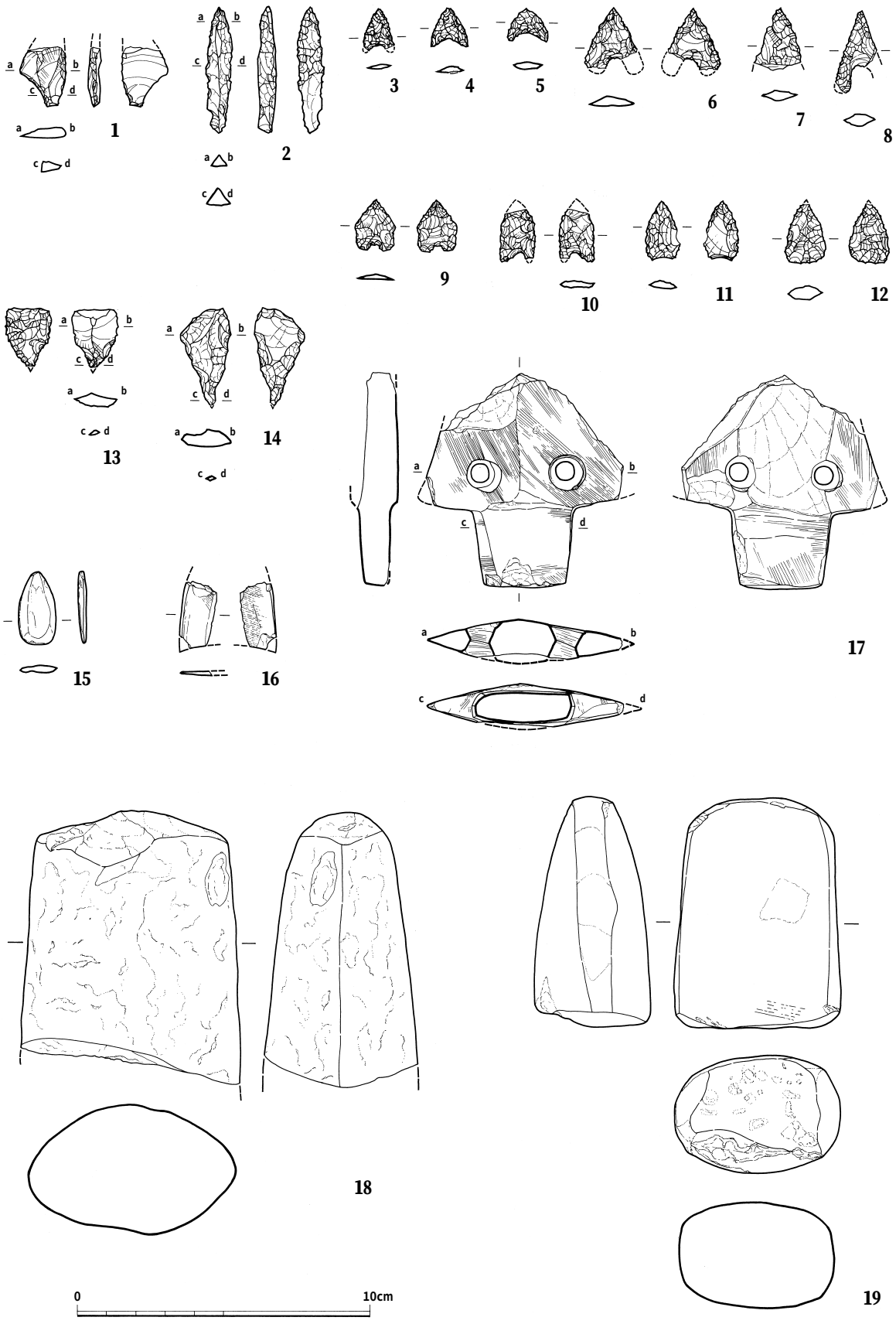
15・16は磨製石鏃である。15は完形品である。平面形は丸みを帯びた二等辺三角形状で、平基式である。16は全体の１/４程度残存し、厚さ0.19㎝を測る。非常にシャープなエッジを呈し、両面に粗い研磨痕が明瞭に残る。

17は石戈である。石材は灰色の凝灰岩である。刃部が欠損し、全体の１/２程度残存する。残存長7.32㎝、残存幅6.7㎝を測る。穿孔は２つで両面から刳りこまれ、断面形状は刃部で菱形、茎部は長方形を呈す。残存する部分には研磨痕がみられる。

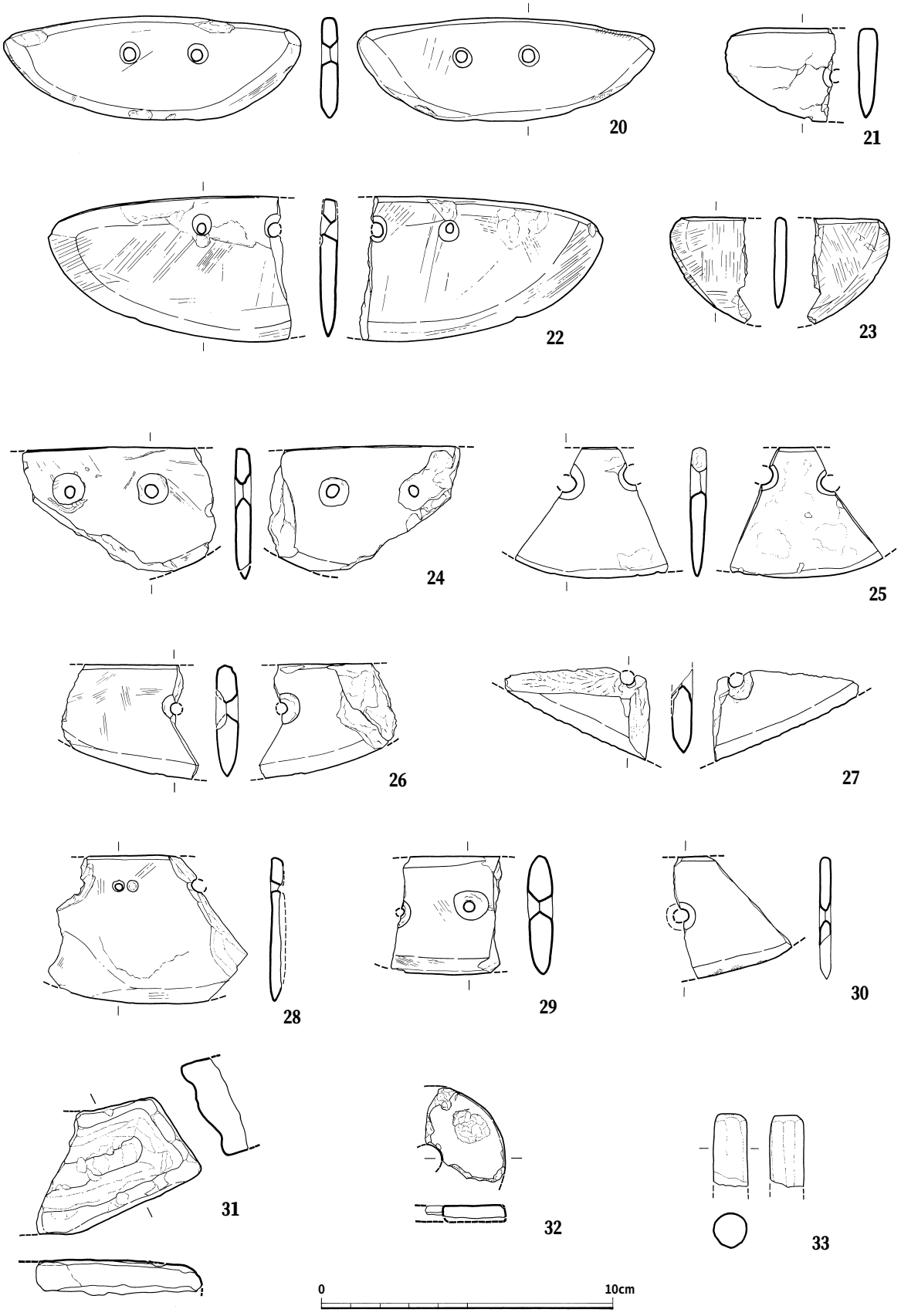
18は磨製石斧である。全体に敲打痕が見られ、刃部が欠損している。

19は石槌でほぼ完形品である。両面は丁寧な磨きが施され、蛤刃状磨製石斧を転用したものと考えられる。柄の装着と推定される痕跡と槌部分に敲打痕が見られる。

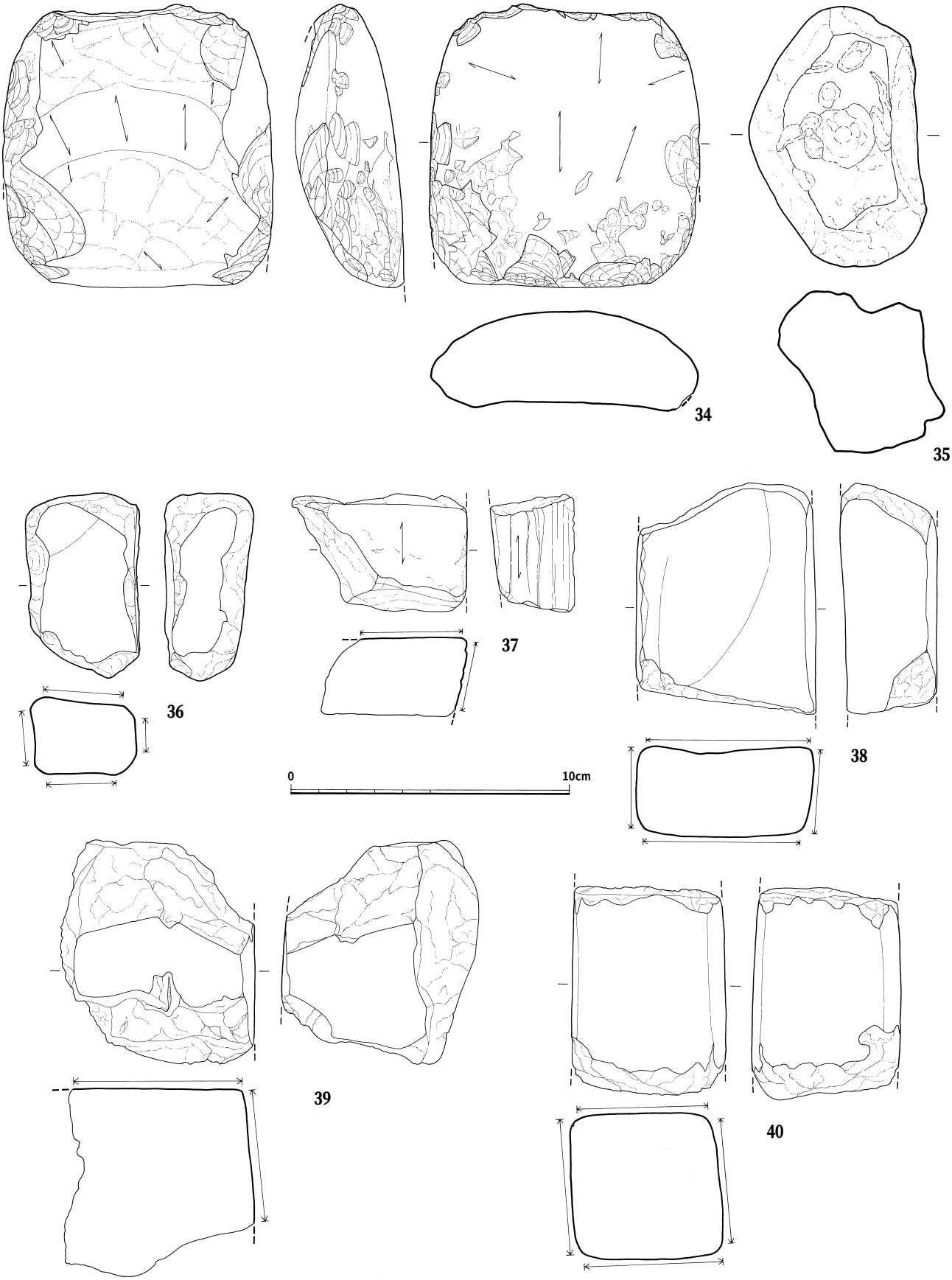
20～30は石包丁である。20・22・23・27・28・30は１号竪穴状遺構、21・24～26は包含層、29は４号溝で出土している。20は完形品で、灰色の泥岩もしくは凝灰岩と考えられる。二つの穿孔と明瞭な刃部の稜があり、背縁と刃部の接点が丸みを帯びる。21は穿孔の痕跡が見られる。22は両面から穿った二つの穿孔があり、片面の穿孔の下に円形の窪みがあり、穿孔の失敗により作業放棄した痕跡と考えられる。23は刃部のみの破片である。片面に明瞭な刃の稜線が残り、背縁が直線的である。24は両面に明瞭な刃の稜線が確認でき、厚さ0.56㎝を測る。回転穿孔具と打ち欠きの併用により二つの孔を穿っている。25は両面に明瞭な刃の稜線が残る。26は淡紫灰色の輝緑凝灰岩で、両面に刃の稜線が確



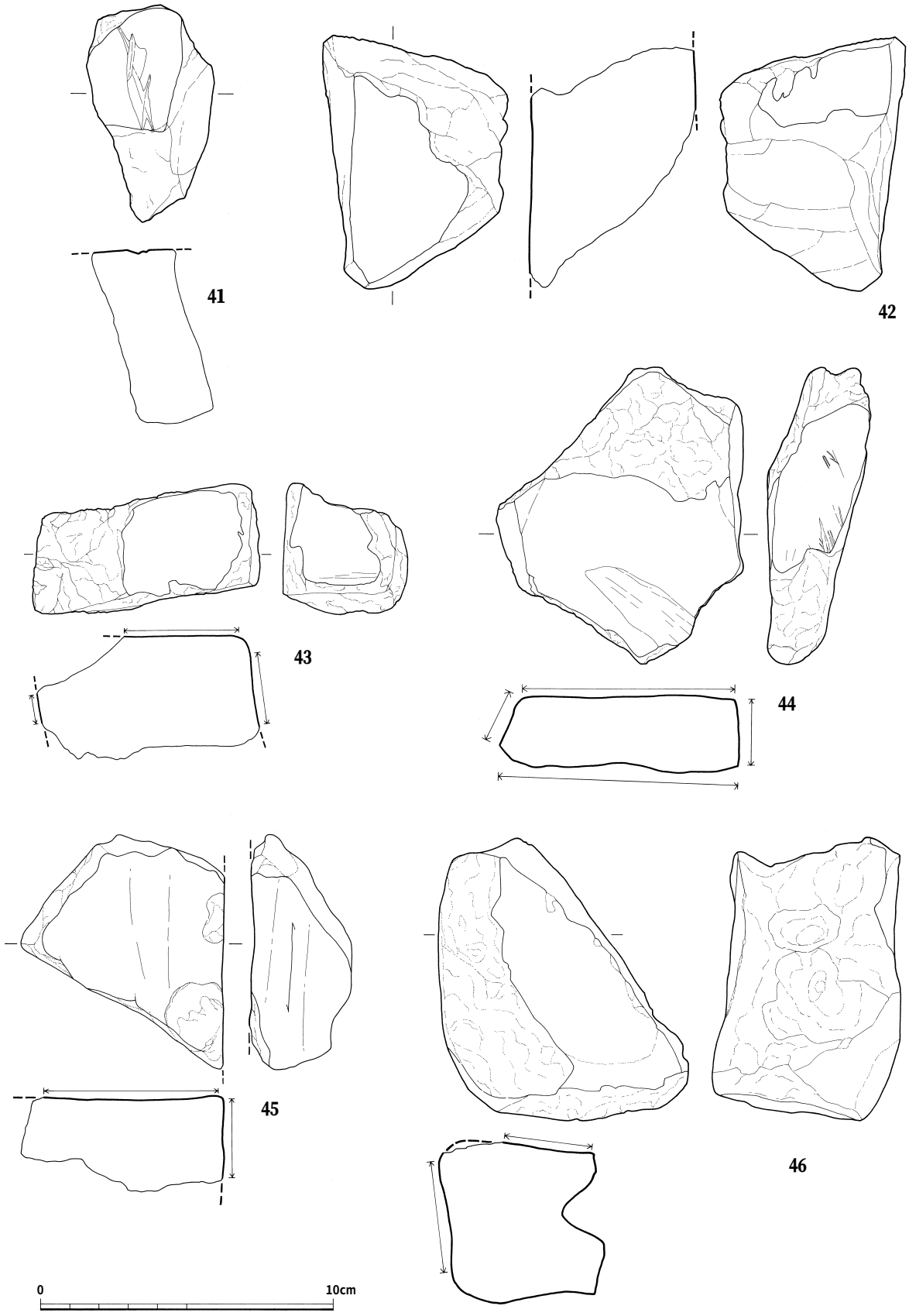
第83図　石器実測図①（1/2）



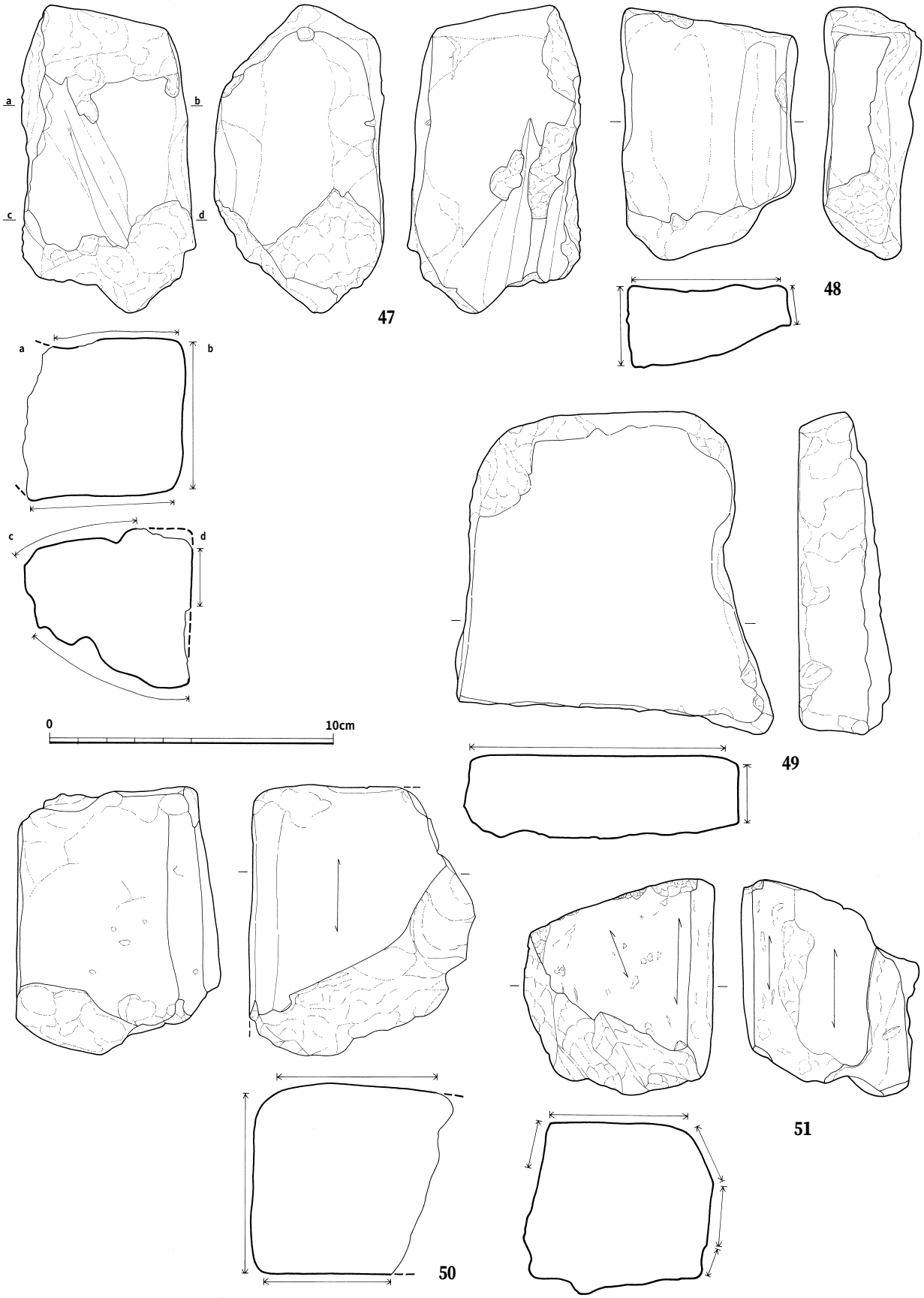
第84図　石器実測図②（1/2）



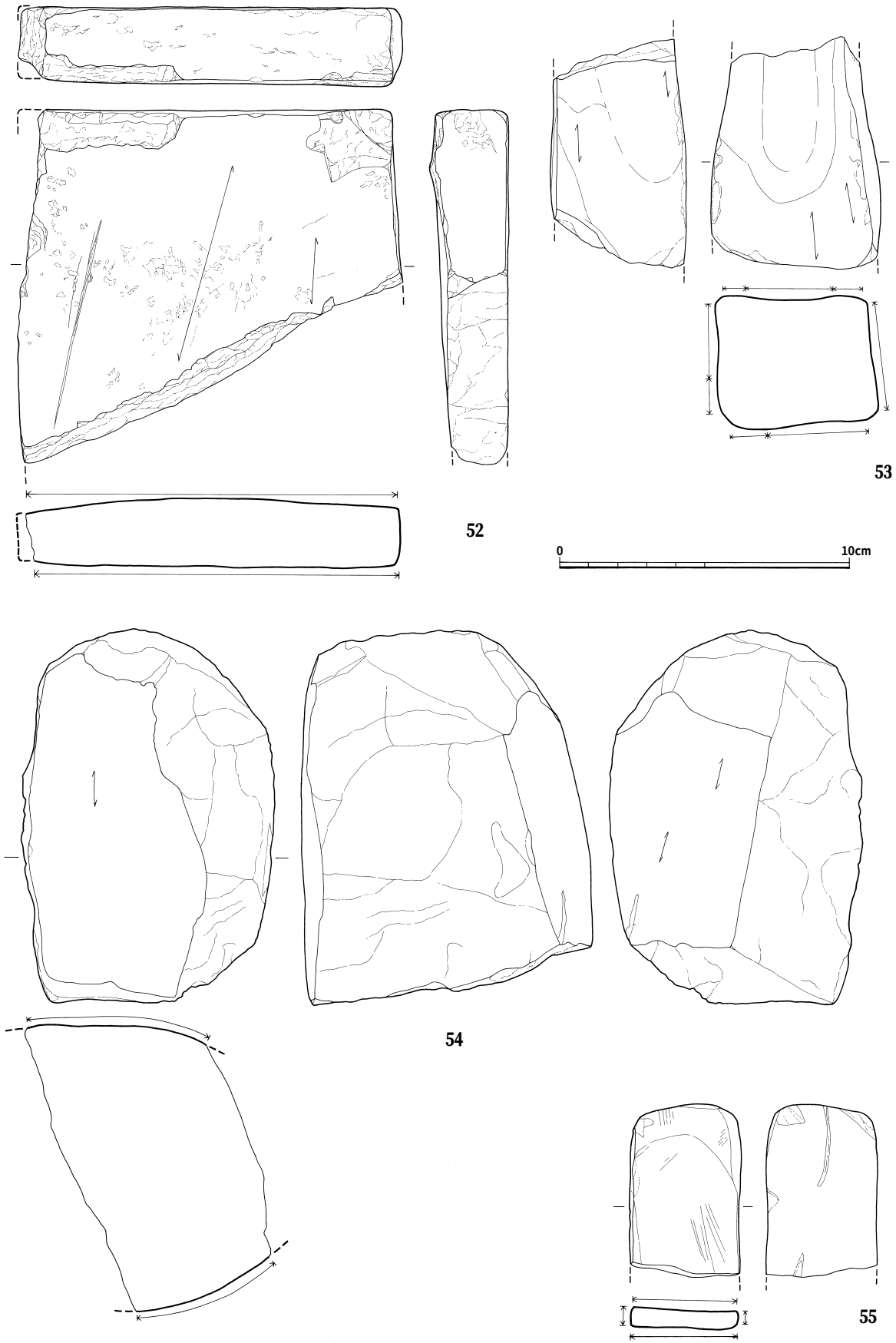
第85図　石器実測図③（1/2）



第86図　石器実測図④（1/2）



第87図　石器実測図⑤（1/2）



第88図　石器実測図⑥（1/2）

表12　４次調査出土石器一覧表

番号	挿図 図版	種　別	出土位置	計測値(㎝、ｇ)				石　材	残存状況	備　考
				長さ	幅	厚さ	重さ			
1	第83図 図版64	ナイフ形石器	１号掘立柱建物 Ｐ５	(2.05)	1.65	0.40	1.20	黒曜石	刃先欠損	
2	第83図 図版64	三稜尖頭器	包含層	4.35	0.95	0.60	2.40	サヌカイト	完形品	
3	第83図 図版64	打製石鏃	２号竪穴状遺構 周辺包含層	(1.45)	1.05	0.20	(0.20)	黒曜石	両脚欠損	
4	第83図 図版64	打製石鏃	遺構検出時	(1.35)	1.25	0.25	(0.20)	サヌカイト	一部欠損	
5	第83図 図版64	打製石鏃	包含層	1.20	1.40	0.30	0.30	サヌカイト	完形品	
6	第83図 図版64	打製石鏃	包含層	(2.10)	1.80	0.35	(0.90)	黒曜石	両脚欠損	
7	第83図 図版64	打製石鏃	４号土坑	(2.10)	1.65	0.40	(0.80)	黒曜石	先端付近・両 脚欠損	
8	第83図 図版64	打製石鏃	包含層	2.80	1.40	0.45	(1.00)	黒曜石	片脚欠損	
9	第83図 図版64	打製石鏃	包含層	1.80	1.40	0.20	0.50	黒曜石	完形品	
10	第83図 図版64	打製石鏃	包含層	(1.80)	1.20	0.25	(0.60)	黒曜石	先端・片脚欠 損	
11	第83図 図版64	打製石鏃	表土	2.05	1.20	0.30	(0.70)	サヌカイト	ほぼ完形品	
12	第83図 図版64	打製石鏃	包含層	(2.05)	1.40	0.50	(1.20)	黒曜石	ほぼ完形品	
13	第83図 図版64	石錐	包含層	(2.00)	1.60	0.50	(1.30)	黒曜石	ほぼ完形品	
14	第83図 図版64	石錐	ピット20	(3.30)	1.72	0.60	(3.40)	サヌカイト	ほぼ完形品	
15	第83図 図版64	磨製石鏃	ピット９	2.45	1.30	0.30	1.00	光沢のある緑が かった淡灰白色	完形品	
16	第83図 図版64	磨製石鏃	ピット22	(2.30)	(1.30)	0.20	(0.70)	やや緑味がかった灰色 の凝灰岩もしくは泥岩	１/４程度残存	
17	第83図 図版67	石戈	１号竪穴状遺構 中層	(7.30)	(6.70)	1.40	(60.20)	灰色の凝灰岩	刃先欠損 １/２程度残存	
18	第83図 図版67	磨製石斧	１号竪穴状遺構 上層	(9.30)	7.50	4.45	(536.50)	淡灰色の玄武岩	刃部欠損	
19	第83図 図版67	石槌	１号竪穴状遺構 下層	7.85	5.70	4.00	337.00	青味がかった暗灰 色	完形品	蛤刃状磨製石斧から 転用
20	第84図 図版65	石包丁	１号竪穴状遺構	10.15	3.55	0.60	32.30	灰色の泥岩もしく は凝灰岩	完形品	
21	第84図 図版65	石包丁	調査区北部包含 層	(3.75)	3.20	0.65	(10.10)	紫がかった輝緑凝 灰岩	１/３程度残存	
22	第84図 図版65	石包丁	１号竪穴状遺構 上層	(8.35)	4.95	0.65	(36.50)	小豆色の輝緑凝灰 岩	２/３程度残存	立岩産？
23	第84図 図版65	石包丁	１号竪穴状遺構 下層	(2.80)	3.65	0.45	(6.40)	小豆色の輝緑凝灰 岩	１/５程度残存	立岩産？
24	第84図 図版65	石包丁	包含層	(6.60)	(4.25)	0.55	(24.10)	暗青灰色の貫入の ある青灰色凝灰岩	１/２残存	
25	第84図 図版65	石包丁	包含層	(5.20)	4.50	0.55	(15.10)	透明な褐色粒を含む 淡灰白色の凝灰岩？	１/３程度残存	
26	第84図 図版65	石包丁	包含層	(4.70)	3.90	0.80	(18.10)	淡紫灰色の輝緑凝 灰岩	１/３程度残存	立岩産？
27	第84図 図版65	石包丁	１号竪穴状遺構 中層	(4.95)	(3.15)	0.70	(7.80)	暗灰色の粘板岩	刃部のみ	
28	第84図 図版65	石包丁	１号竪穴状遺構	(6.80)	5.05	0.50	(18.70)	淡灰色の凝灰岩	１/３程度残存	
29	第84図 図版65	石包丁	４号溝	(3.75)	4.10	0.90	(21.50)	小豆色の輝緑凝灰 岩	１/３程度残存	立岩産？
30	第84図 図版65	石包丁	１号竪穴状遺構 下層	(4.05)	(4.20)	0.40	(8.60)	淡灰色の凝灰岩	１/４程度残存	
31	第84図 図版65	用途不明石製品	ピット19	(4.70)	5.70	(1.20)	(32.20)	淡灰白色の砂岩	小片	

番号	挿図 図版	種　別	出土位置	計測値(㎝、g)				石　材	残存状況	備　考
				長さ	幅	厚さ	重さ			
32	第84図 図版65	紡錘車	1号竪穴状遺構	復元直径 5.20	復元内孔径 0.90~1.00	(0.50)	(4.40)	淡灰色の凝灰岩	小片	
33	第84図 図版65	穿孔具	ピット2	(2.50)	1.20	1.20	(5.80)	淡灰色の砂岩	小片	
34	第85図 図版66	石斧転用石器	1号竪穴状遺構	10.10	9.65	3.60	540.00	縞模様のある暗茶色の玄武岩	ほぼ完形品	磨製石斧から転用　片刃石斧もしくは石槌の可能性あり
35	第85図 図版66	凹石	1号竪穴状遺構 下層	9.30	6.35	5.70	384.80	淡黄茶灰色の砂岩	完形品	
36	第85図 図版66	砥石	1号竪穴状遺構 中層	(6.60)	4.15	3.20	(127.80)	緑かかった灰白色の砂岩	破片	粗~中粒
37	第85図 図版66	砥石	2号溝 Ⅳ区	(4.20)	(6.25)	3.00	(103.30)	淡茶灰色の砂岩？	破片	中粒
38	第85図 図版66	砥石	1号竪穴状遺構 中層	(8.30)	6.50	3.50	(282.10)	淡茶灰色の砂岩	破片	中~細粒
39	第85図 図版66	砥石	1号竪穴状遺構 下層	(8.00)	(6.95)	(6.90)	(445.60)	灰色~黒灰色の砂岩？	破片	中粒 一部被熱？
40	第85図 図版66	砥石	1号竪穴状遺構 下層	(7.45)	5.50	5.35	(406.40)	灰緑褐色の砂岩	破片	中粒
41	第86図 図版66	砥石	包含層	(7.40)	(4.10)	(5.95)	(173.60)	灰白色の砂岩？	破片	中~細粒
42	第86図 図版66	砥石	包含層	(8.65)	(6.40)	5.55	(300.70)	灰白色の砂岩	破片	中~細粒
43	第86図 図版66	砥石	1号竪穴状遺構 下層	4.40	(7.80)	(4.30)	(144.70)	淡黄白色の砂岩？	破片	中粒
44	第86図 図版66	砥石	1号竪穴状遺構	(10.10)	8.45	(3.30)	(271.80)	灰色~黒色の砂岩	破片	細粒 一部被熱　窪みあり
45	第86図 図版66	砥石	1号竪穴状遺構 中層	(8.00)	(6.90)	(3.30)	(168.00)	灰白色の砂岩	破片	細粒
46	第86図 図版66	砥石	1号竪穴状遺構 上層	(9.60)	8.50	(6.25)	(561.60)	緑かかった灰白色の砂岩	破片	粗~中粒 窪みあり(玉砥石？)
47	第87図 図版67	砥石	1号竪穴状遺構 上層	(10.80)	(6.10)	5.80	(481.90)	淡茶灰色の砂岩	破片	中粒 玉砥石
48	第87図 図版67	砥石	ピット28	(8.85)	6.20	(3.45)	(229.50)	緑かかった灰白色の砂岩	破片	粗~中粒 窪みあり
49	第87図 図版67	砥石	ピット26	(11.30)	11.20	(3.25)	(534.20)	緑かかった灰白色の砂岩	破片	粗~中粒
50	第87図 図版67	砥石	1号竪穴状遺構 中層	(9.40)	(7.95)	7.15	(751.70)	紫色砂粒を含む淡白灰色の花崗岩	破片	中~細粒
51	第87図 図版67	砥石	1号竪穴状遺構 下層	(7.60)	6.70	(6.20)	(341.90)	黒色の粘板岩？	破片	細粒
52	第88図 図版67	砥石	2号竪穴状遺構 P4	(12.20)	(13.20)	2.70	(665.00)	微細な金雲母を含む暗灰色の砂岩？	破片	細粒
53	第88図 図版67	砥石	1号竪穴状遺構 下層	(7.90)	5.80	4.60	(325.50)	淡黄灰色の火成岩？	破片	細粒 一部被熱
54	第88図	砥石	1号竪穴状遺構 中層	(12.80)	(8.65)	9.85	(1547.80)	淡黄灰色の火成岩？	破片	細粒 一部被熱
55	第88図 図版67	砥石	包含層	(5.90)	3.85	1.20	(36.00)	暗灰色の泥岩	破片	細粒

認できる。27は両面の刃の稜線と刃こぼれの痕跡が明瞭に残る。28は片面が剥離し、全体の1/3程度残存の破片である。穿孔は2つだが、孔の近くに穿孔失敗後に放棄したと想定される円形の窪みがある。29は両面から穿った2つの穿孔があり、刃の稜線が明瞭に残る。30は石材が淡灰色の凝灰岩で、両面穿孔による孔が確認できる。風化のため、表面調整は不明。

31は用途不明石製品である。片面のみの破片で「ク」の字状の窪みが確認できる。

32は紡錘車である。全体の1/4弱残存し、片面は完全に剥落している。直径5.2㎝、内孔径0.9~1.0㎝に復元される。

33は先端部分が欠落した穿孔具と推定される。断面形はやや歪んだ円形を呈す。

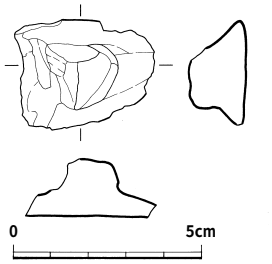
34は石斧転用石器である。ほぼ完形品である。平面形はやや縦長な四角形で、蒲鉾状の断面形状を呈す。表面は全面を、底面は帯状に研磨されており、刃部に使用痕が残る。形状や使用痕から、石斧が片刃斧や石槌に転用された可能性がある。

35は凹石で、全体的に凸凹とした不安定な形状を呈し、石器中央付近に直径約2.0㎝の円形の窪みがある。

36～55は砥石である。石材は36～49・52が砂岩、51が粘板岩、53・54が火成岩、55が泥岩と考えられる。砂岩製の砥石は粗～中粒のものが多く、粘板岩や火成岩、泥岩製の砥石は砥面が滑らかで細粒である。39・44・53・54は被熱している。46・47は砥面に窪みがあり、玉砥石と考えられる。55は細粒泥岩で、欠損箇所を除く５面で使用痕がみられた。幅3.85㎝、厚さ1.2㎝と小型で、手持ちの仕上げ用砥石と考えられる。

（９）石製品（第89図）

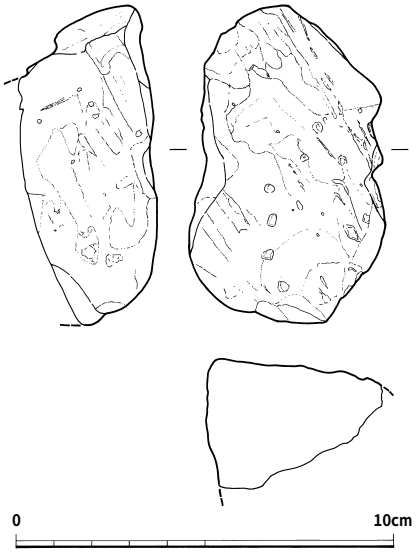
包含層出土で、一部欠損しているがほぼ完形品である。石材は淡桃色～淡黄緑色の滑石製である。石鍋の鍔部分を利用して、つまみ状に加工している。つまみ状に加工した滑石製品の用途は当て具（スタンプ状加工品）などと考えられてきたが、近年石鍋の修復に同型の加工品が使われた例が報告されている。今回報告した滑石製品も底部に煤が付着していることから、石鍋修復部品の可能性がある。



第89図　石製品実測図（1/2）

（10）軽　石（第90図）

包含層出土。欠損しているが、平滑な面が確認できる。長さ8.4㎝、幅5.2㎝、厚さ3.65㎝、重さ35.8ｇを測る。石材は２㎜までの長石を含む軟質である。



第90図　軽石実測図（1/2）

Ⅴ　ま　と　め

須玖岡本遺跡坂本地区３次調査では、土坑１基、溝16条、掘立柱建物跡４棟及び多数のピットを検出した。３次調査の出土土器をみると、弥生時代中期前半～終末前後及び古代・中世のものが含まれている。ただ、古代・中世の土器は全体からすると量的に僅少であり、検出した遺構の大部分は弥生時代のものと判断される。

一方、４次調査においては土坑４基、溝７条、竪穴状遺構２基、掘立柱建物跡７棟及び多数のピットを検出している。これらの各遺構から出土した土器には弥生土器以外の資料は殆ど存在せず、発掘調査で出土した須恵器、土師器、瓦等は、調査区北部の遺構検出面直上に薄く堆積していた包含層に含まれていたものである。従って、４次調査で検出した遺構及び各遺構に伴う遺物はほぼ弥生時代の所産と限定できよう。

特筆すべきは１・２次調査と同様に３・４次調査においても石製鋳型や中型、坩堝／取瓶、銅滓など多数の青銅器生産関連遺物が出土していることである。そして、その出土分布をみると特定の箇所に集中する状況が窺え（第91・92図）、工房跡の位置を推定することができる。このことを基にして以下、３・４次調査の結果をまとめることとする。

３次調査区は既に報告した１・２次調査区の西側に隣接しており、遺構は１・２次調査区とほぼ同様な内容を示している。３次調査の１～４号溝は、１・２次調査の１・12号溝等とほぼ方向を同じくしていて、連接するように配置されたと考えられる。この10×10mほどの隅丸方形状の範囲を画するように巡らされた溝群は、１・２次調査の報告で述べたとおり青銅器工房の排水溝であった可能性が高い。

３次調査においても、１～４号溝及びその内部から多数の青銅器生産関連遺物が出土しており、１・２次調査と全く同様な状況が窺われた。また、溝によって囲繞された内部には多数のピットが検出され、この調査結果も１・２次調査と共通する。そして、当該溝群から出土した土器をみると、弥生時代後期後半～末の資料が主体を占めており、１・２次調査１・12号等の溝群出土土器と殆んど時期差が認められない。

このようにみてくると、１・２次調査で確認した青銅器工房跡群と、３次調査北部の青銅器工房跡とは同時存在していた可能性が高く、排水・除湿を目的とした周囲の溝は連結していたと推察される。１・２次調査区の工房群では、溝底の傾斜から雨水を東側の谷部へ排除していたことが看取された。ところが、３次調査１～４号溝の底面傾斜をみると、途中で西方へと低くなっており、１～３次調査区の工房群では雨水を東西両側の谷へ排出していたものと想定される。

また、４次調査で検出した遺構の中では、１号溝が青銅器工房跡の排水溝と認識し得る。12×12mの範囲を隅丸方形状に巡るこの溝は、１～３次調査区の溝群と規模、形状ともにほぼ共通した特徴をもつ。そして、１号溝とその内部からは多数の青銅器生産関連遺物が出土しており、青銅器工房跡と

確定することに問題はなかろう。溝から出土した土器からすると、この工房跡は１～３次調査区の工房群と時期差が認められず、同時存在していたものと判断される。ただ、１次調査区中央部のような著しい溝の掘り直しが見受けられないことからすると、継続期間は比較的短かったものと考えられる。

４次調査１号溝の内部には１～３次調査区の溝群内部のようなピットの集中はなく、中央に竪穴状遺構が検出された。この遺構は後世の削平によって壁部の大部分を消失していたが、竪穴住居跡と類似した特長を留めており、その形態が注目される。当遺構からは石製鋳型や銅矛中子、坩堝／取瓶片、銅滓といった青銅器生産関連遺物が出土しており、これが青銅器工房の主体であった可能性が極めて高い。但し、床面の大部分が残存していたにも関わらず、溶解炉やその痕跡は検出されず、青銅器工房の実体を把握するには至っていない。

また、１号溝の東側に位置する２号溝は削平を受けていてその性格が明らかではないが、１号竪穴状遺構付近で東へ湾曲しており、１号溝の南東部と対称的な形状をなしていることが注目される。或いは当溝も１号溝と同様、工房の排水溝であった可能性が考えられよう。

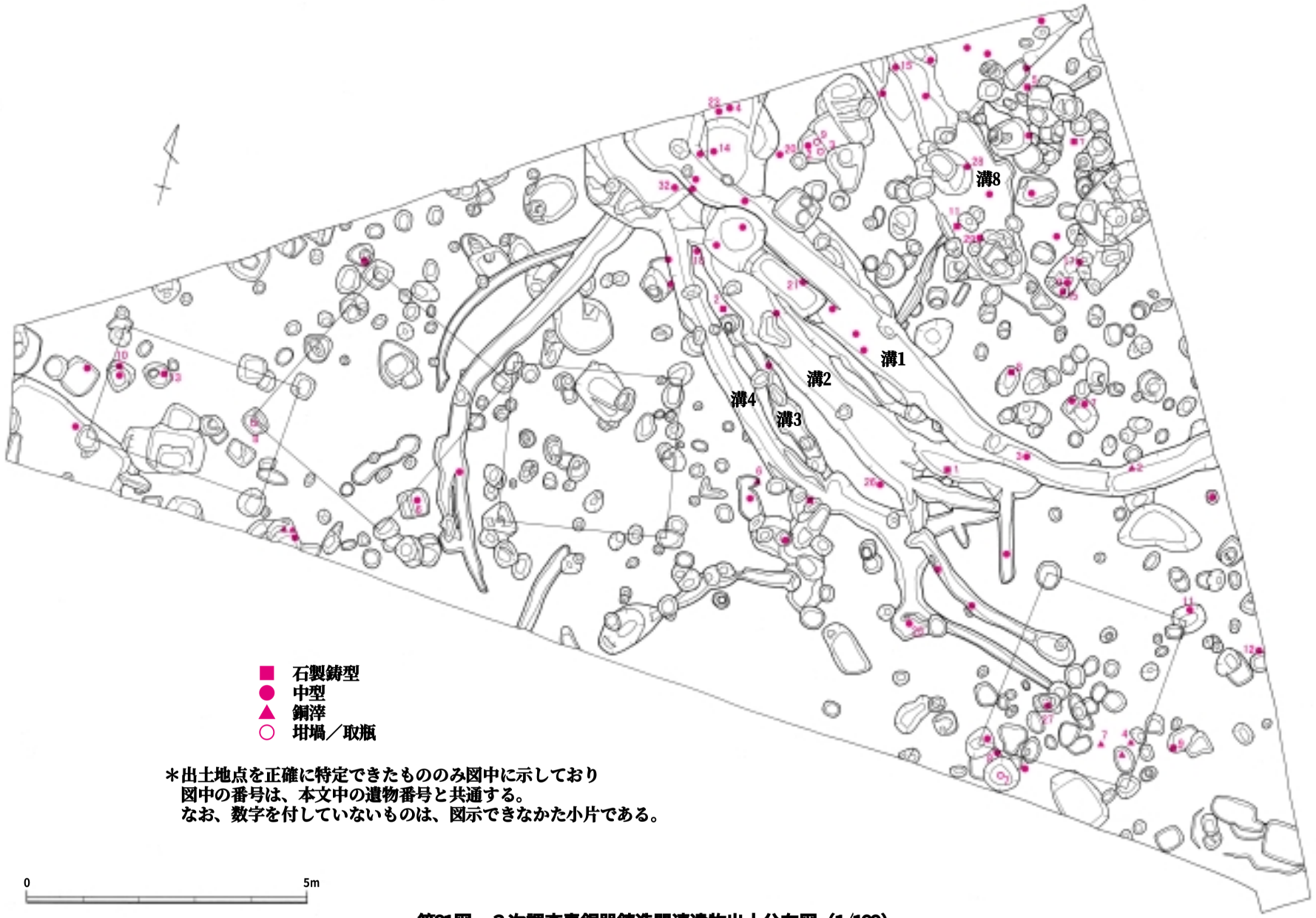
ところで、４次調査において青銅器生産関連遺物が最も集中して出土したのは１号竪穴状遺構である。当遺構からは石製鋳型をはじめ銅矛中型、坩堝／取瓶など多数の青銅器生産遺物が発見され、その中に坩台と考えられる資料が含まれていたことが特記される。そして、床面の壁際には炭化物が認められ、その位置に何かを設置していたと考えられる掘り込みが確認された。壁際に設置されていたのが溶解炉とは特定できないが、以上のような調査結果からすると、１号竪穴状遺構は青銅器の鋳造工房であった可能性が高く、未調査である北東部床面には東側の谷へのびる排水溝が付設するものと想定される。また、明確な柱穴は検出していないが、上部を覆う設備が施されていたであろう。

１号竪穴状遺構の出土土器をみると、下層では弥生中期末前後の土器が主体を占めている。中・下層の土器は後期初頭～前半と漸次新しくなっており、当遺構の時期については中期末と考えて大過ないであろう。青銅器生産関連遺物は下層からも多数出土しており、このことは坂本地区における青銅器生産が中期には開始されていたことを示唆している。

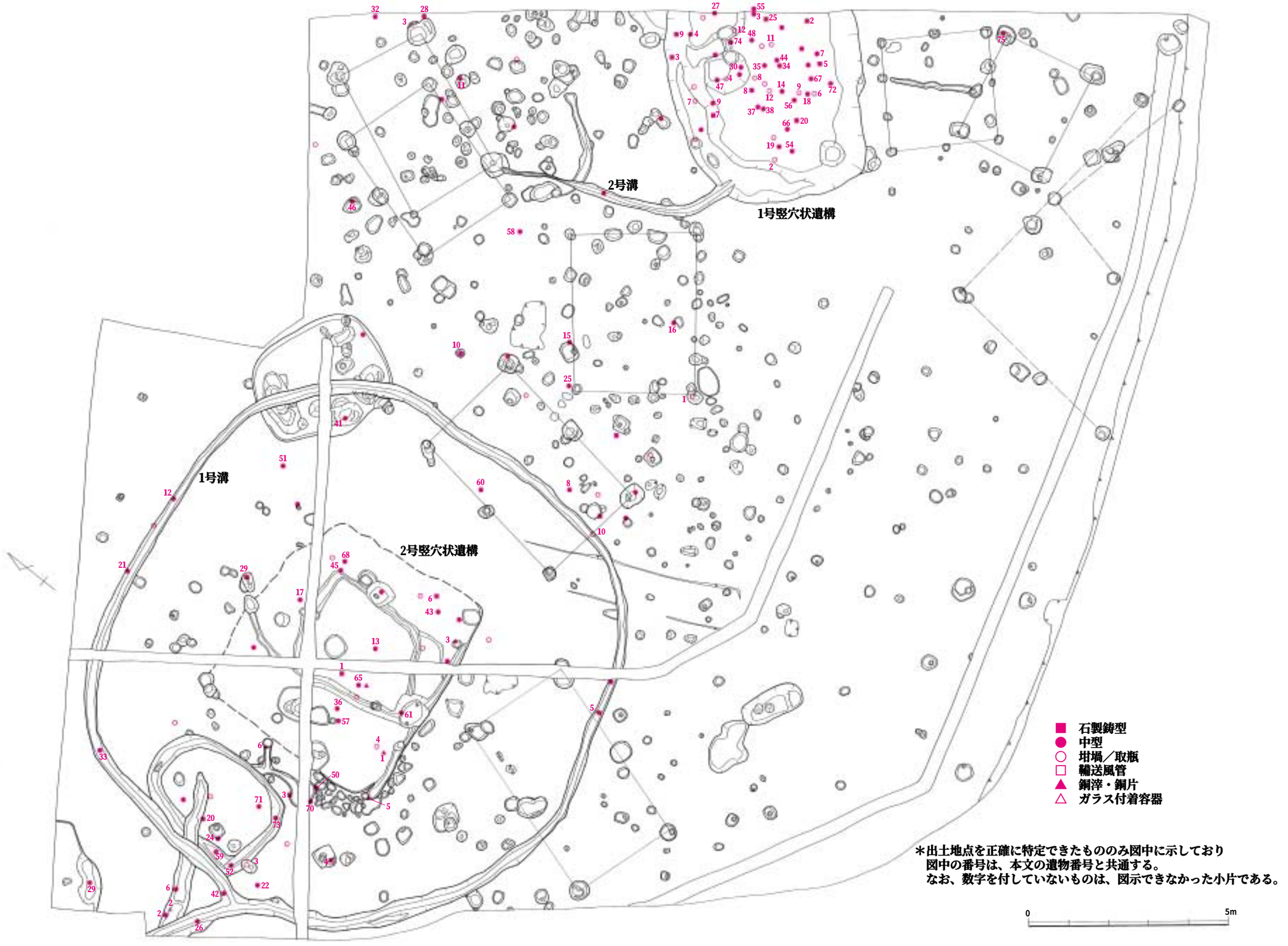
ちなみに、３次調査区において検出した８号溝でも弥生中期後半～末の土器が比較的まとまった状態で出土している。当溝は同調査区の１～４号溝に近接し、ほぼ並行してのびているが、出土土器からすると明らかに時期を異にする。８号溝からは青銅器生産関連遺物が数点出土しており、４次調査１号竪穴状遺構とほぼ同時期の青銅器生産関連遺構と考えられる。

前回報告した１・２次調査と今回の３・４次調査の結果を概観すると、須玖岡本遺跡坂本地区における青銅器生産は遅くとも弥生中期末には開始されており、後期末まで継続的に行われたと判断される。そして、後期後半～末の時期には排水溝を連結した青銅器工房群が配置され、多量の青銅器を生産していたと考えられる。４次にわたる発掘調査で確認できる青銅器工房群の範囲は2000㎡以上にも及んでおり、また、未調査域の南側へと続いていることからその範囲はさらに広がることが予想される。

次に遺物について見ると、多数の青銅器生産関連遺物の中で注目すべきものとして、４次調査の１



第91図　３次調査青銅器鋳造関連遺物出土分布図（1/100）



第92図　４次調査青銅器鋳造関連遺物出土分布図（１/100）

図　　版

須玖岡本遺跡周辺航空写真（1991年撮影）

須玖岡本遺跡周辺航空写真（北から、1979年撮影）

３　次　調　査

（１） ３次調査区（西から）

（２） ３次調査区全景（北から）

図版４

（１） ３次調査区東半

（２） ３次調査区西半（東から）

（１）　３次調査区北東部（南から）

（２）　３次調査区東部（南西から）

（１） 土坑（北東から）

（２） １・２号溝Ⅰ区（南から）

（1） １号溝Ⅰ区遺物出土状態

（2） １号溝Ⅱ区遺物出土状態

（１）　１号溝Ⅱ区北端断面土層
（南東から）

（２）　１号溝Ⅱ区遺物出土状態

（３）　１号溝Ⅱ区遺物出土状態

（１）１号溝Ⅲ区北端断面土層

（２）１号溝Ⅳ区西端断面土層

（３）１・２・４号溝Ⅱ区北端断面土層（南東から）

（1） 2号溝銅鏃鋳型出土状態

（2） 4号溝Ⅲ区西端断面土層

（1） ８号溝遺物出土状態（北から）

（2） ８号溝遺物出土状態（西から）

図版12

（1）　ピット23鋳型出土状態

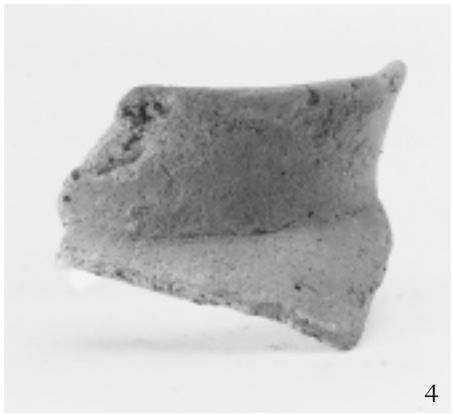
（2）　ピット26鉄器出土状態

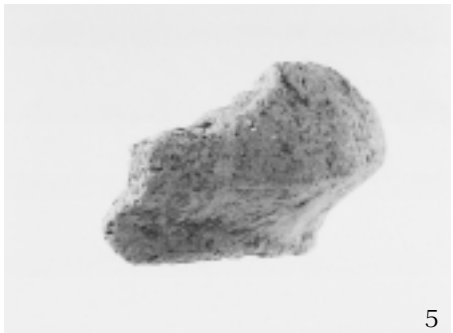
（3）　遺構検出時銅片出土状態

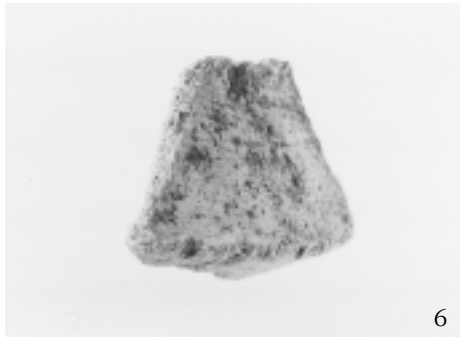
1

2

3


4


5


6

7

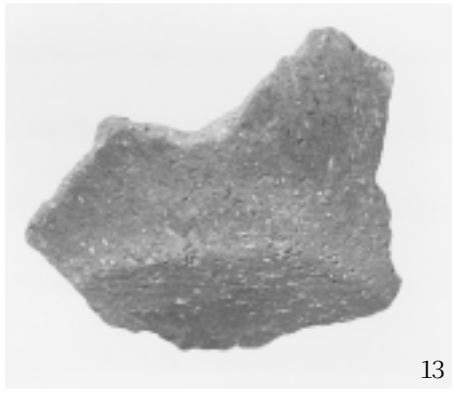
8

9

10

11

12


13

14

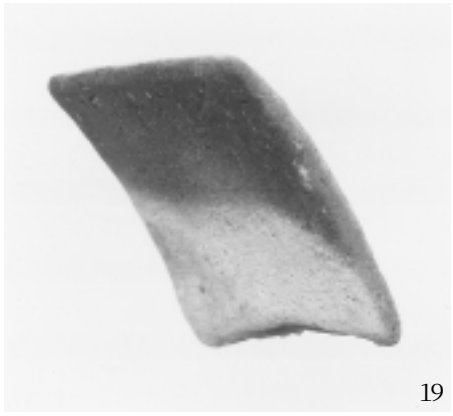
15

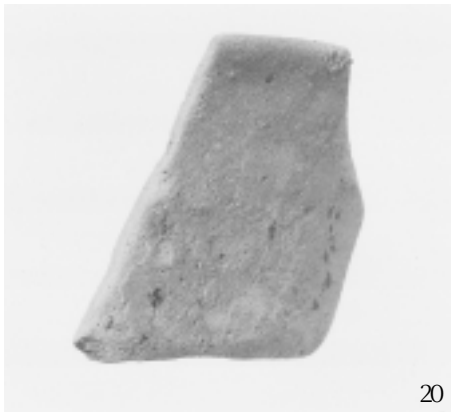
16

土坑出土土器及び１号溝出土土器①　土坑（１～３）　１号溝（４～16）

17

18


19

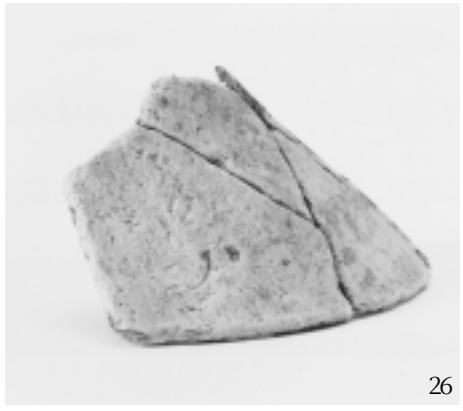

20

22

23

24

25


26

27

28

29

30

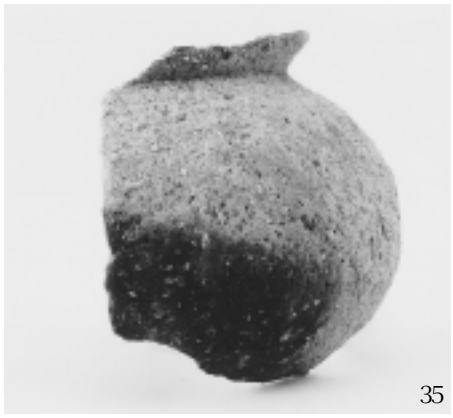
31

32

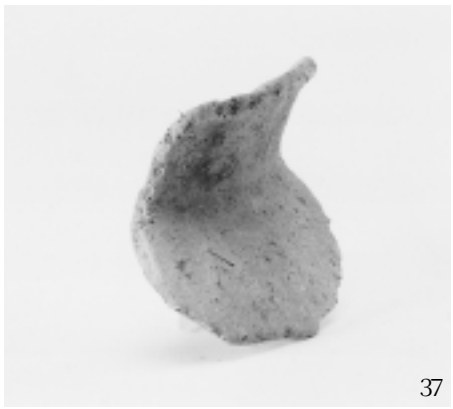
33

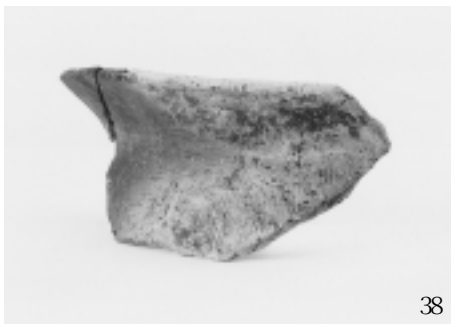
１号溝出土土器②

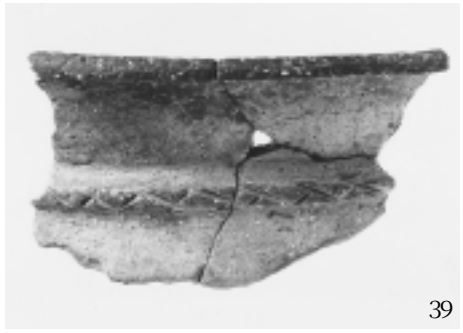
34


35

36

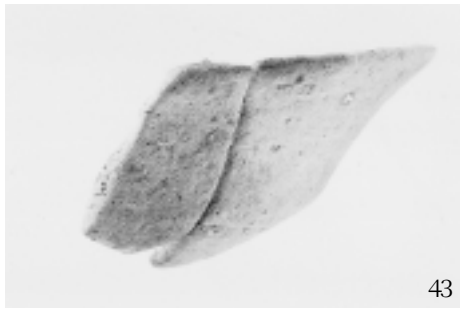

37


38


39

40

41


43

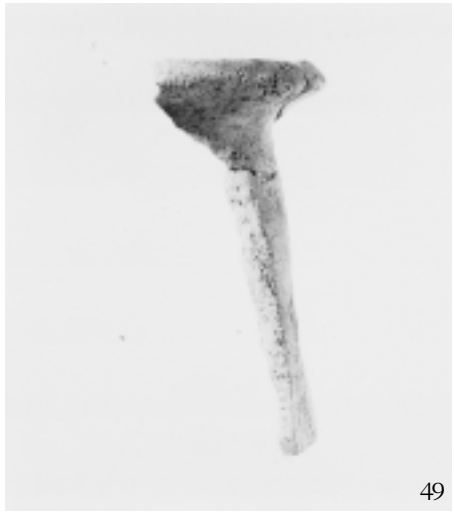
44

45

46

47

48

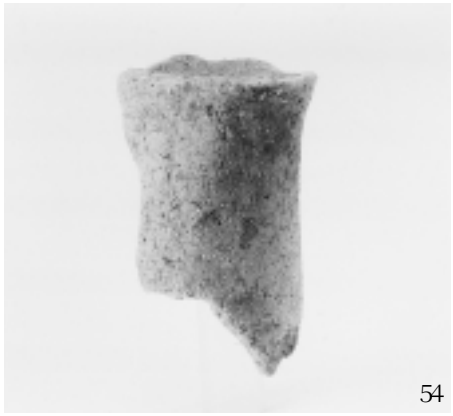

49

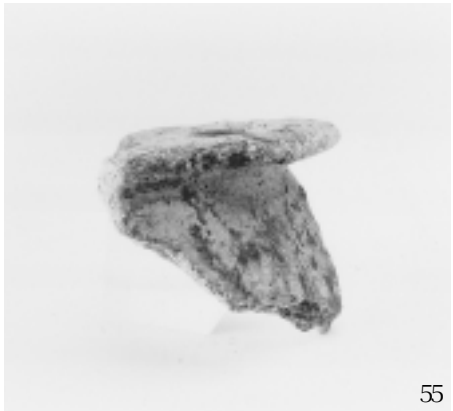
50

２号溝出土土器

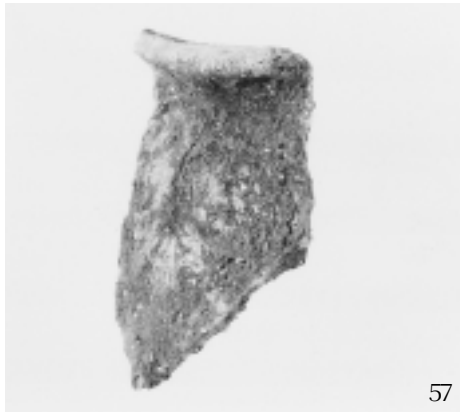
52

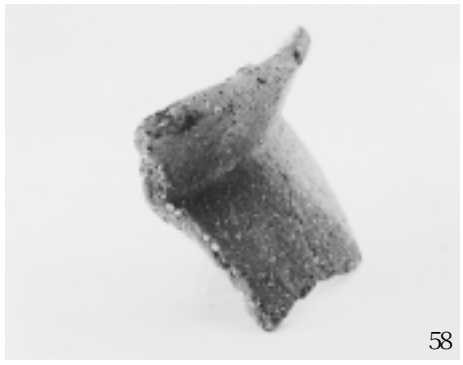
53

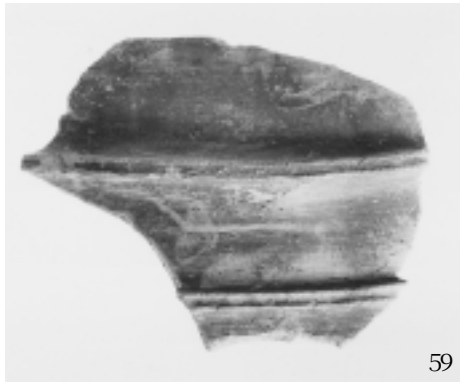

54


55

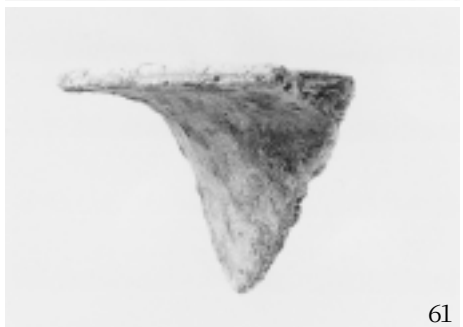
56


57

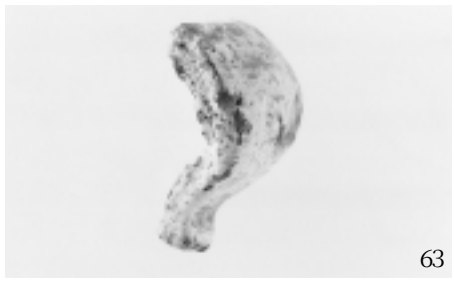

58


59

60

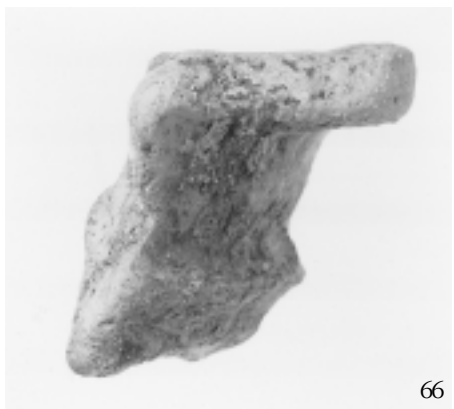

61

62


63

64

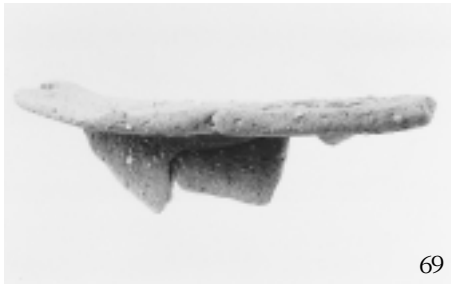
65


66

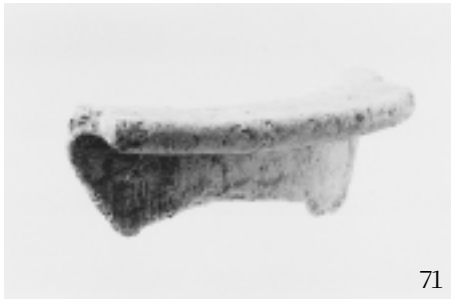
67

３・４・７・８号溝出土土器　3号（52～56）　4号（57）　7号（58）　8号（59～67）

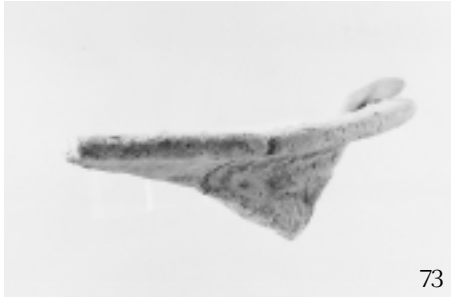
68

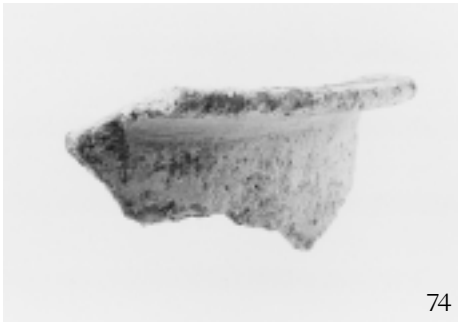

69

70


71

72


73


74

75

76

77

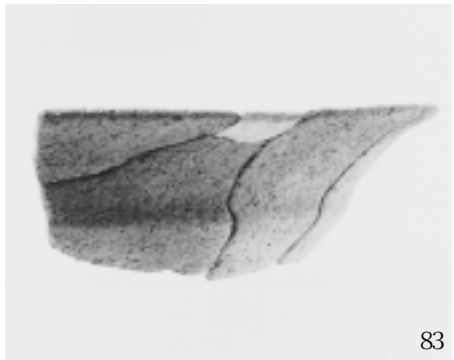
78

79

80

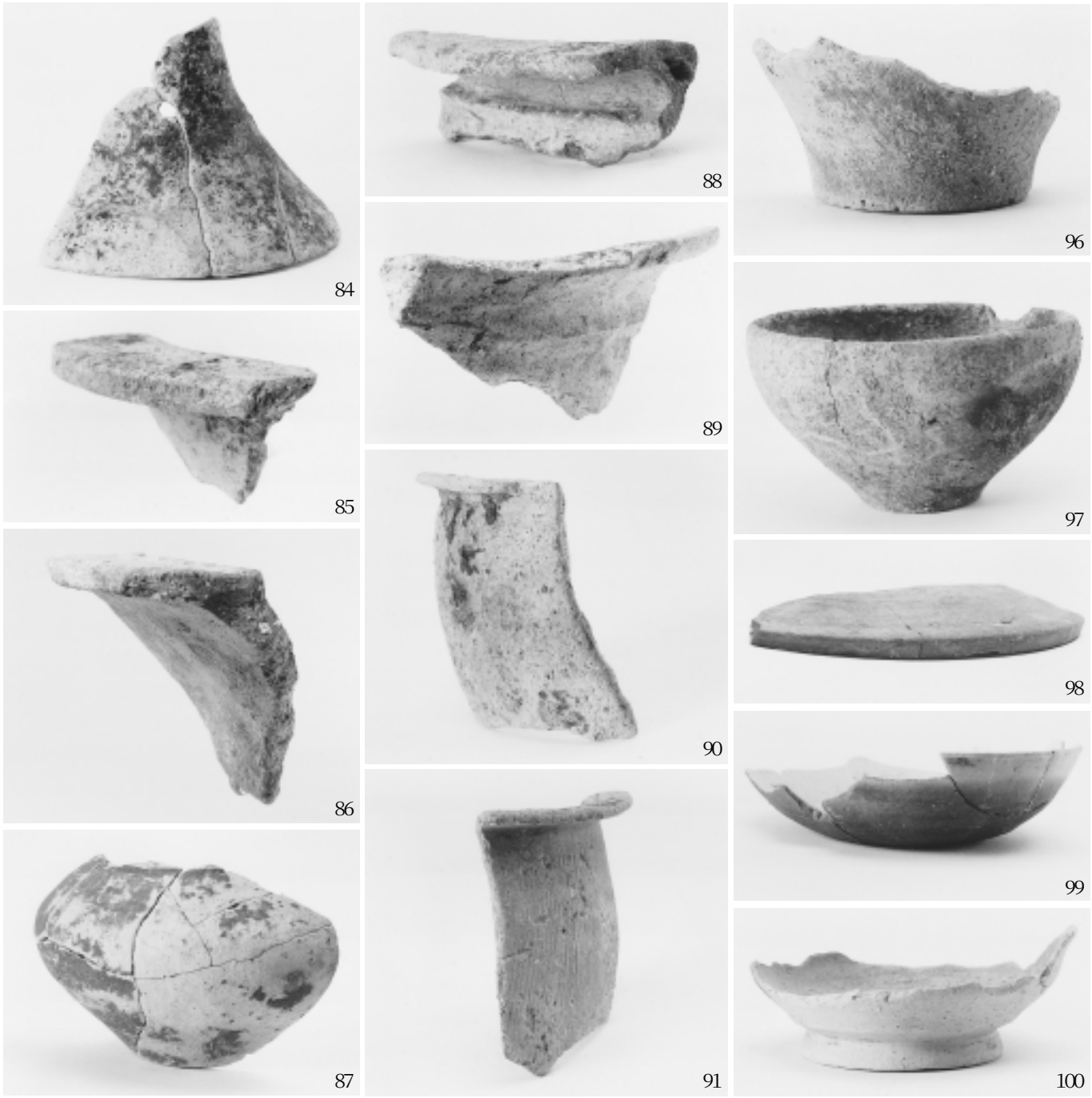
81

82


83

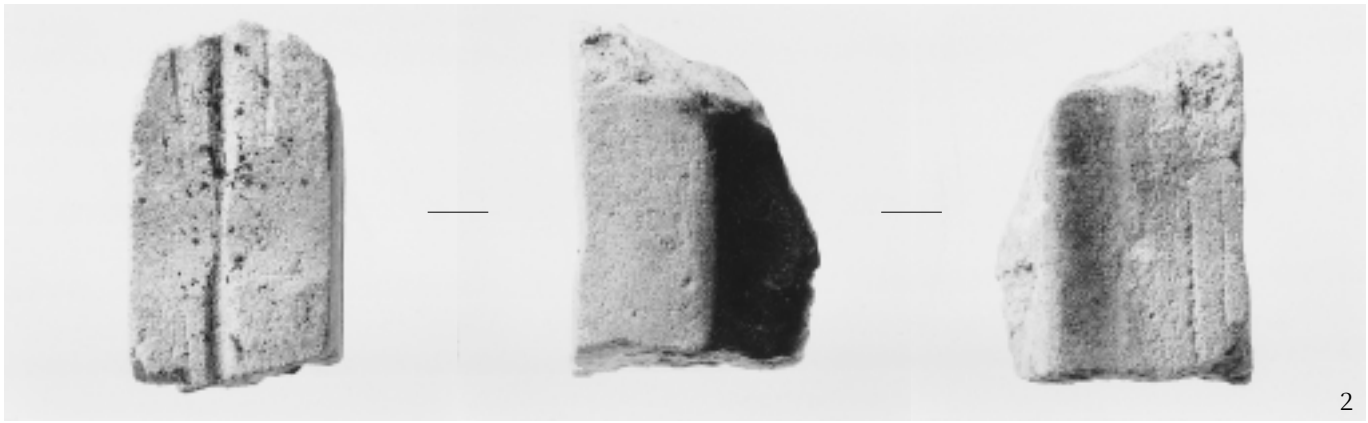
８号溝出土土器

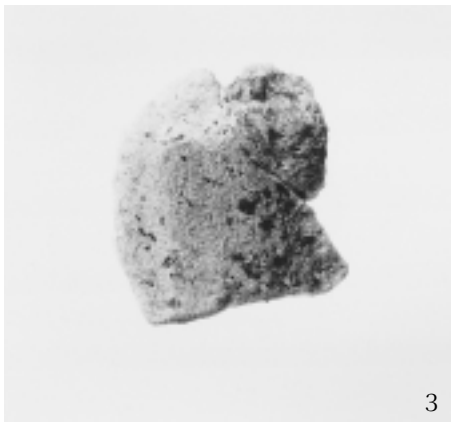
図版18

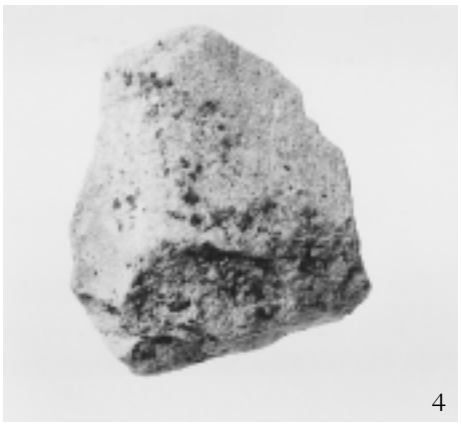


（1） 掘立柱建物跡（84）・ピット（85～91・96～100）出土土器

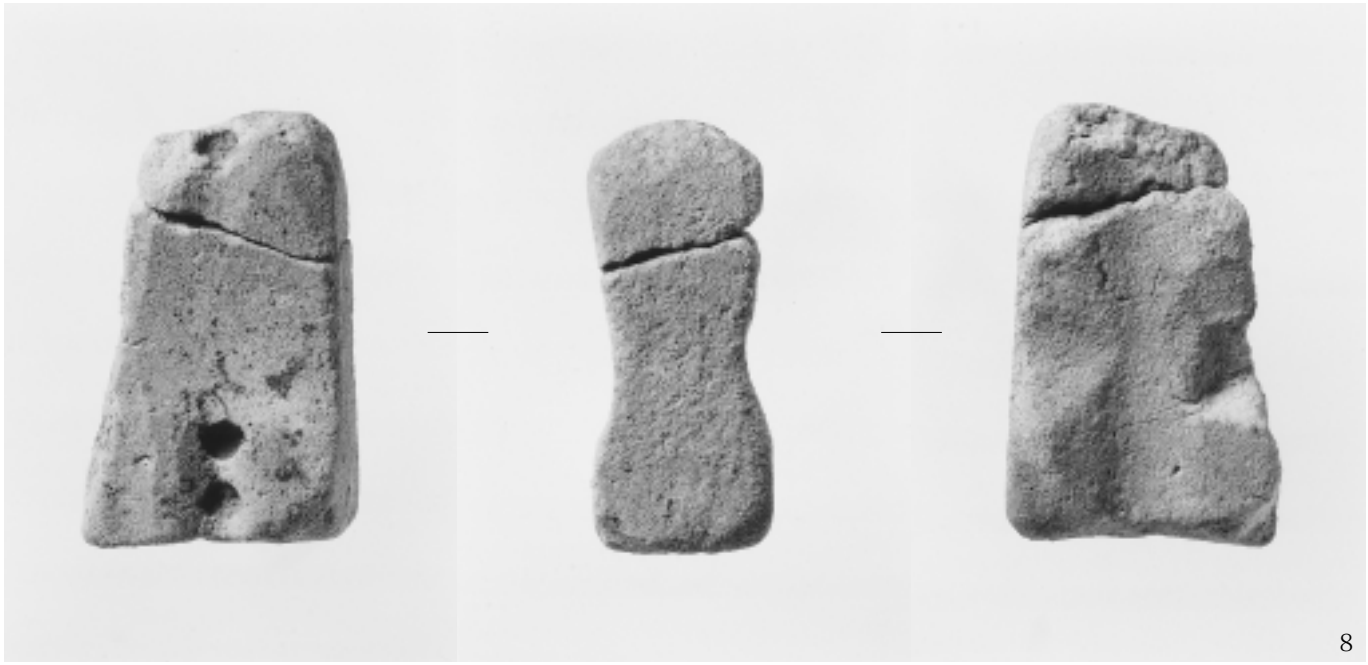
（2） 土製品





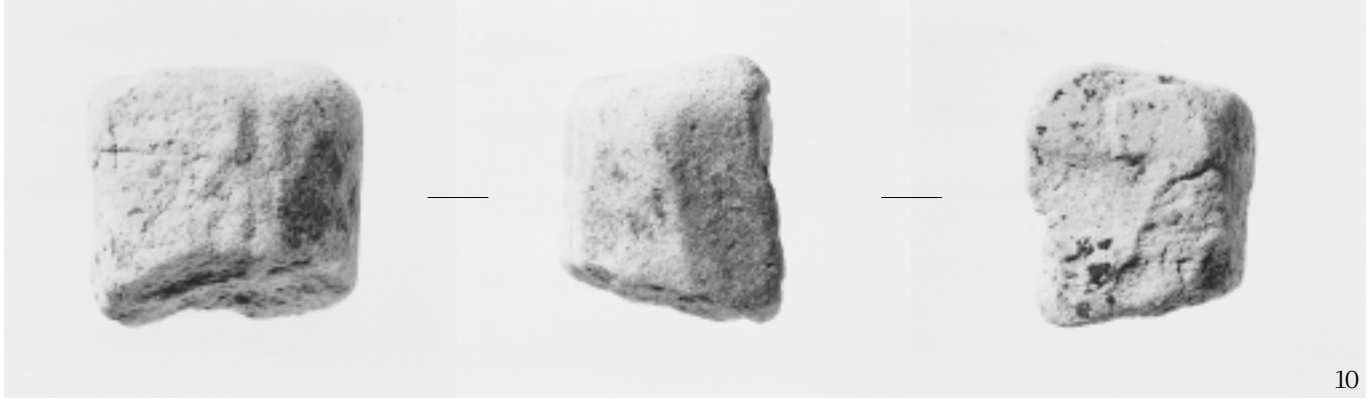


石製鋳型等①



8

9



10

石製鋳型等②

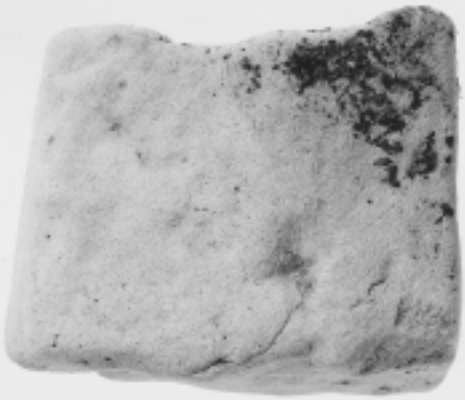
11

13

14

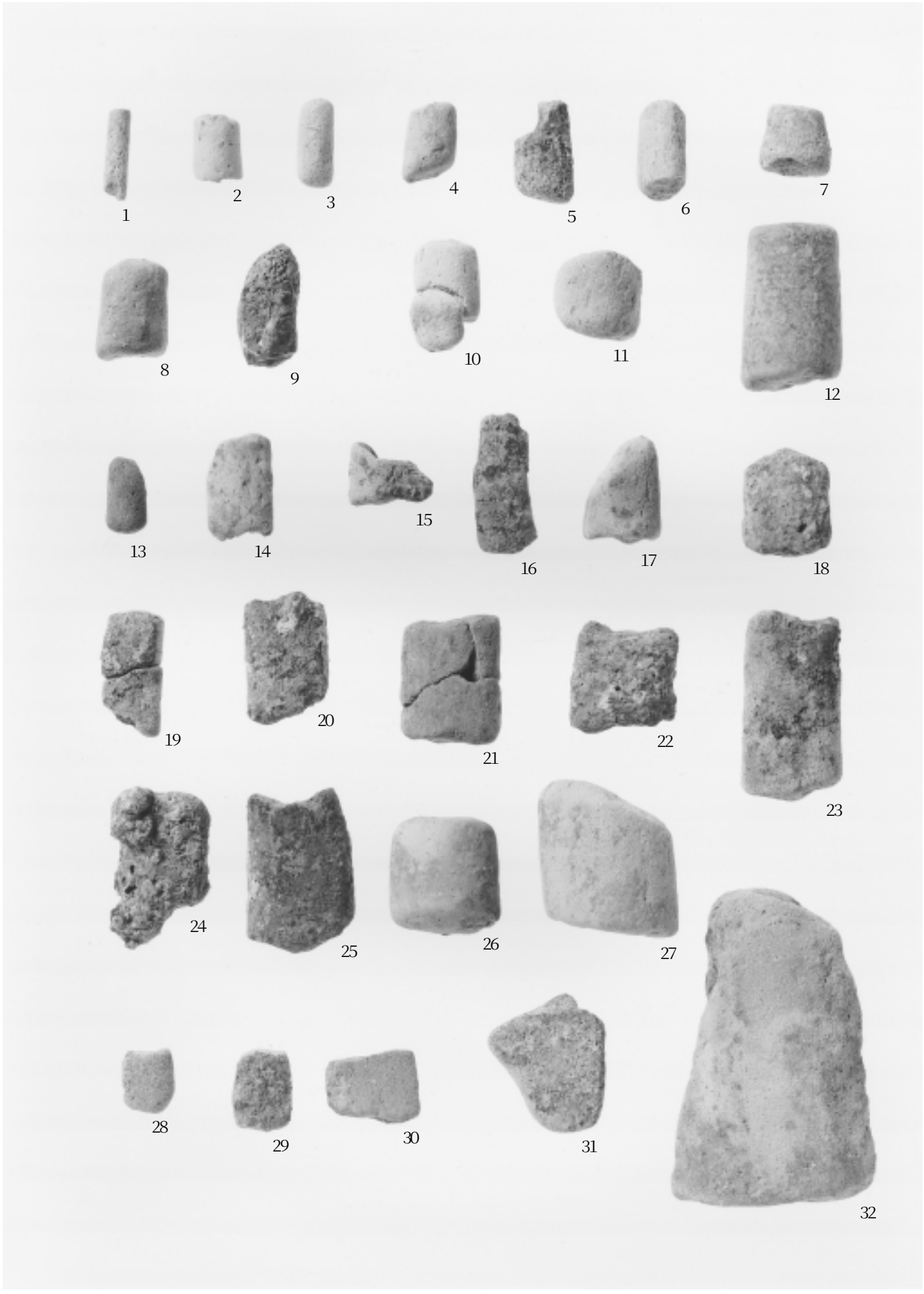
15

12



石製鋳型等③

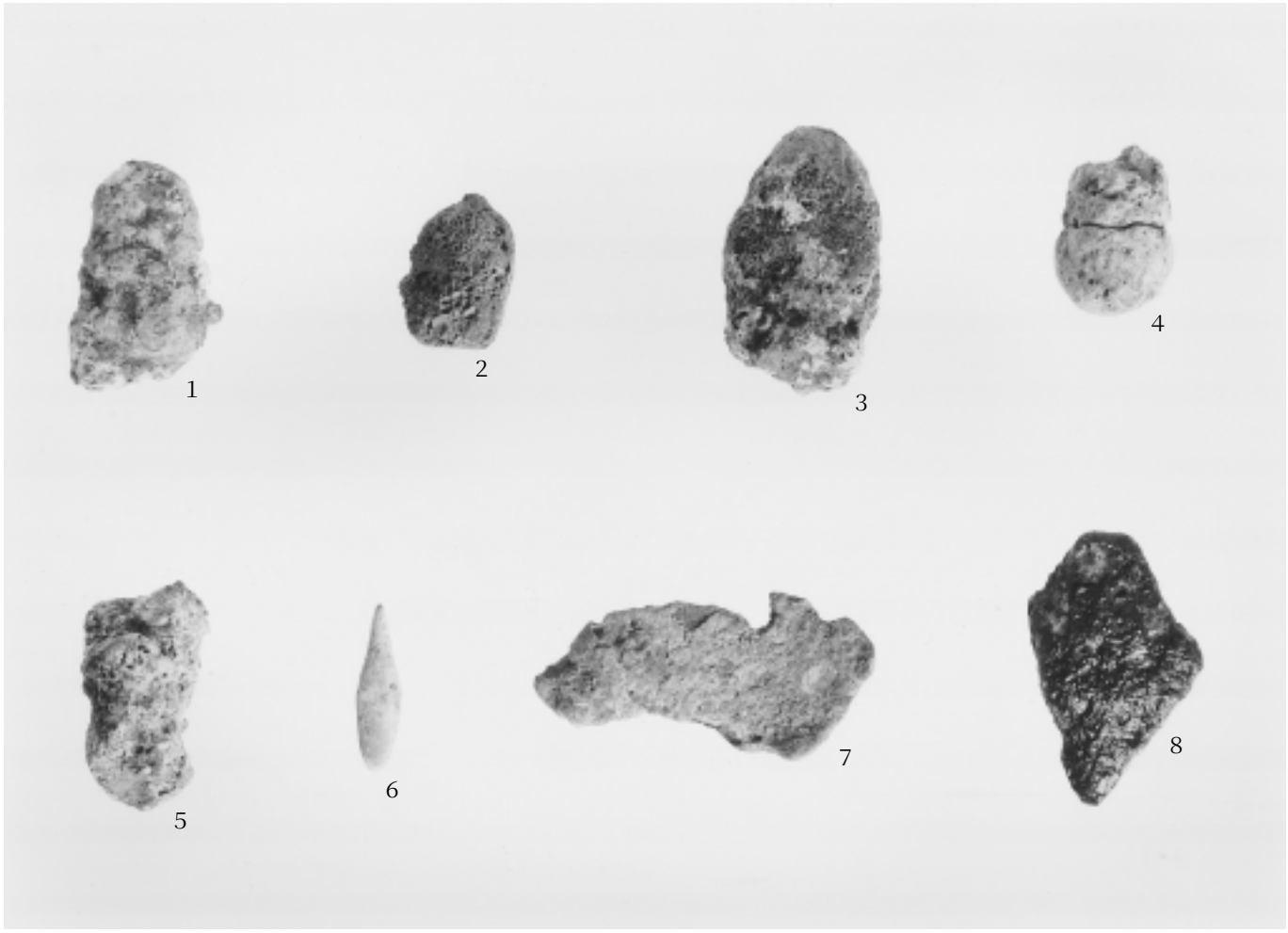
図版22


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32

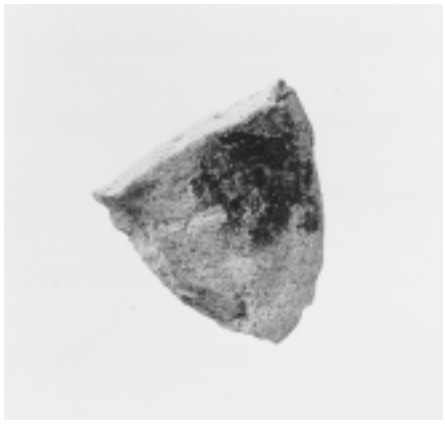
中　型

坩堝／取瓶（1～8）・鞴送風管（9）

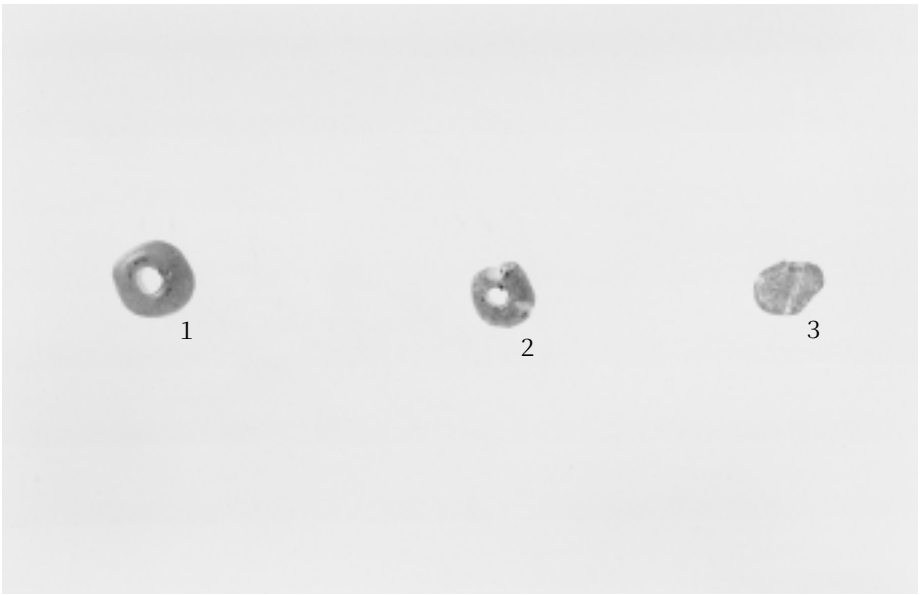
図版24



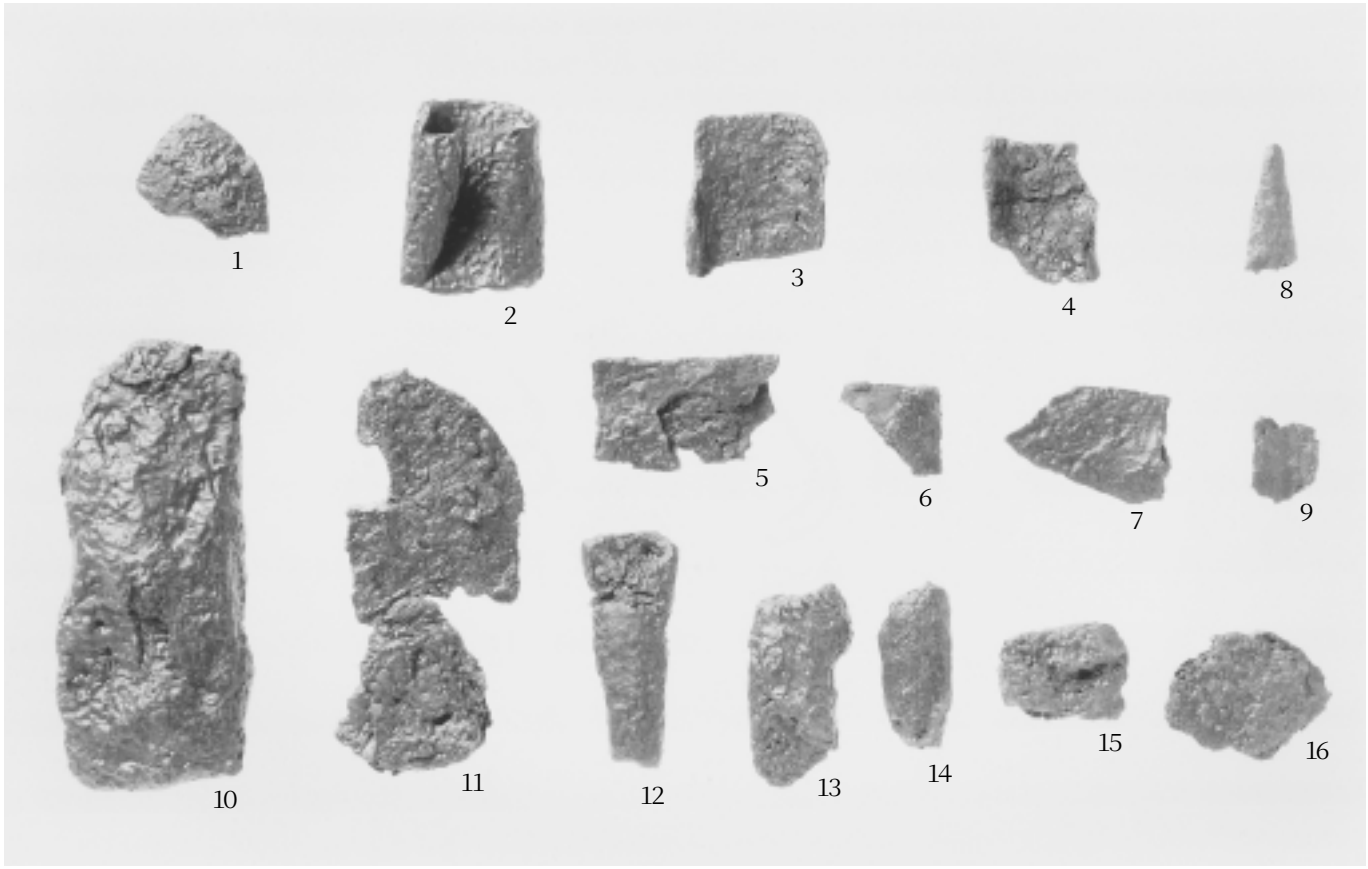
（1） 銅滓・銅片



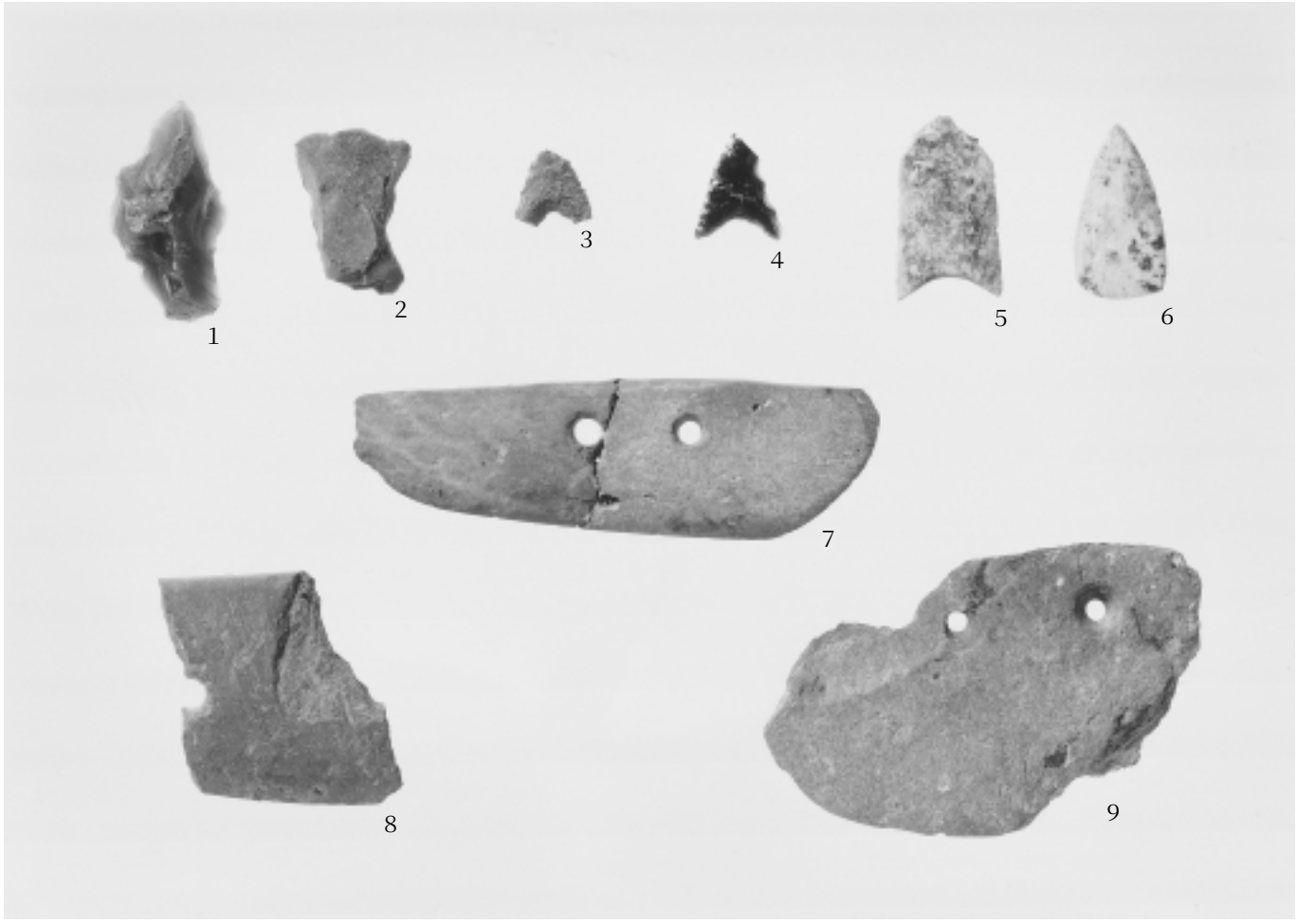
（2） ガラス製品生産関連遺物



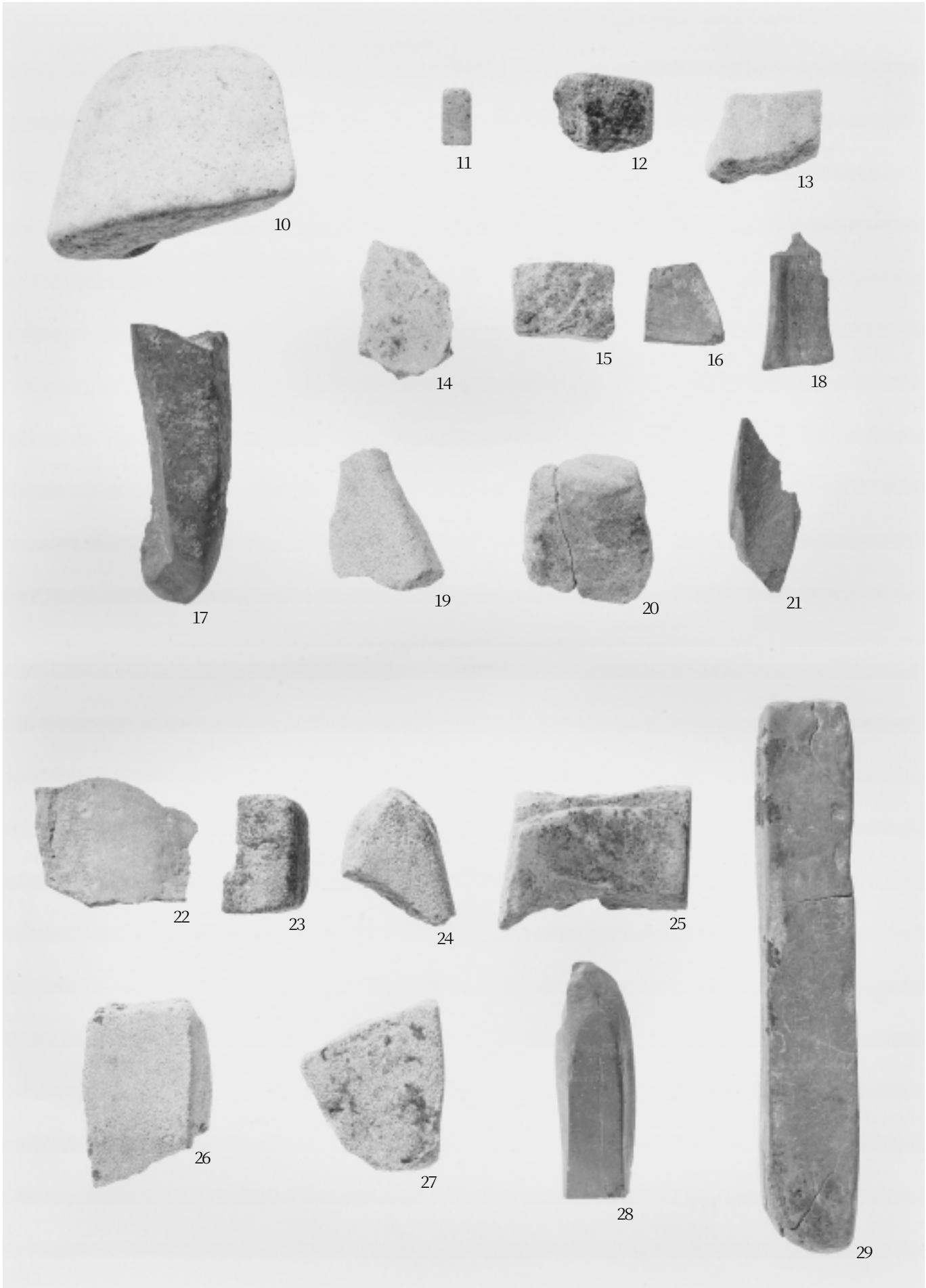
（3） 小　玉

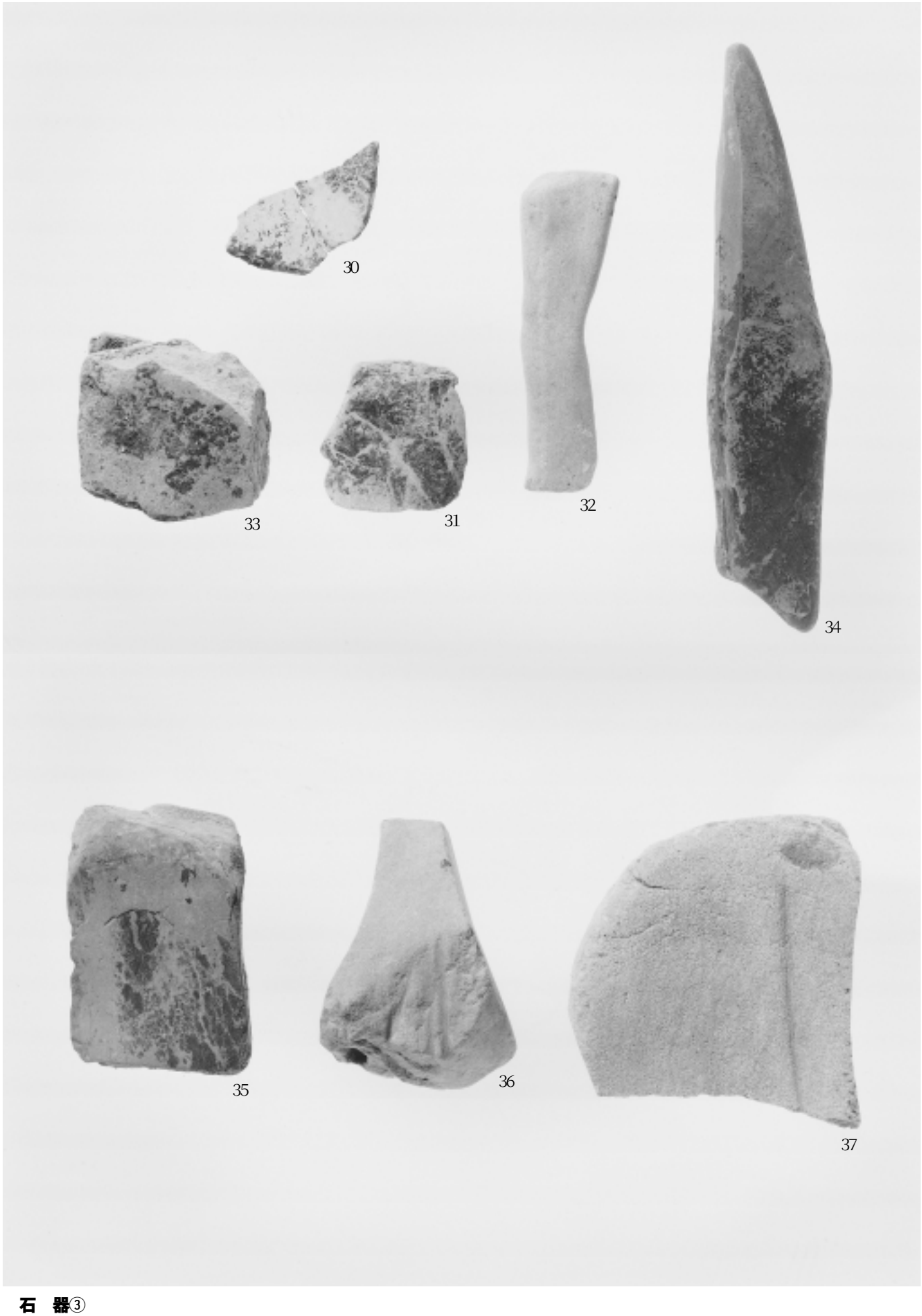


（1） 鉄 器



（2） 石 器①

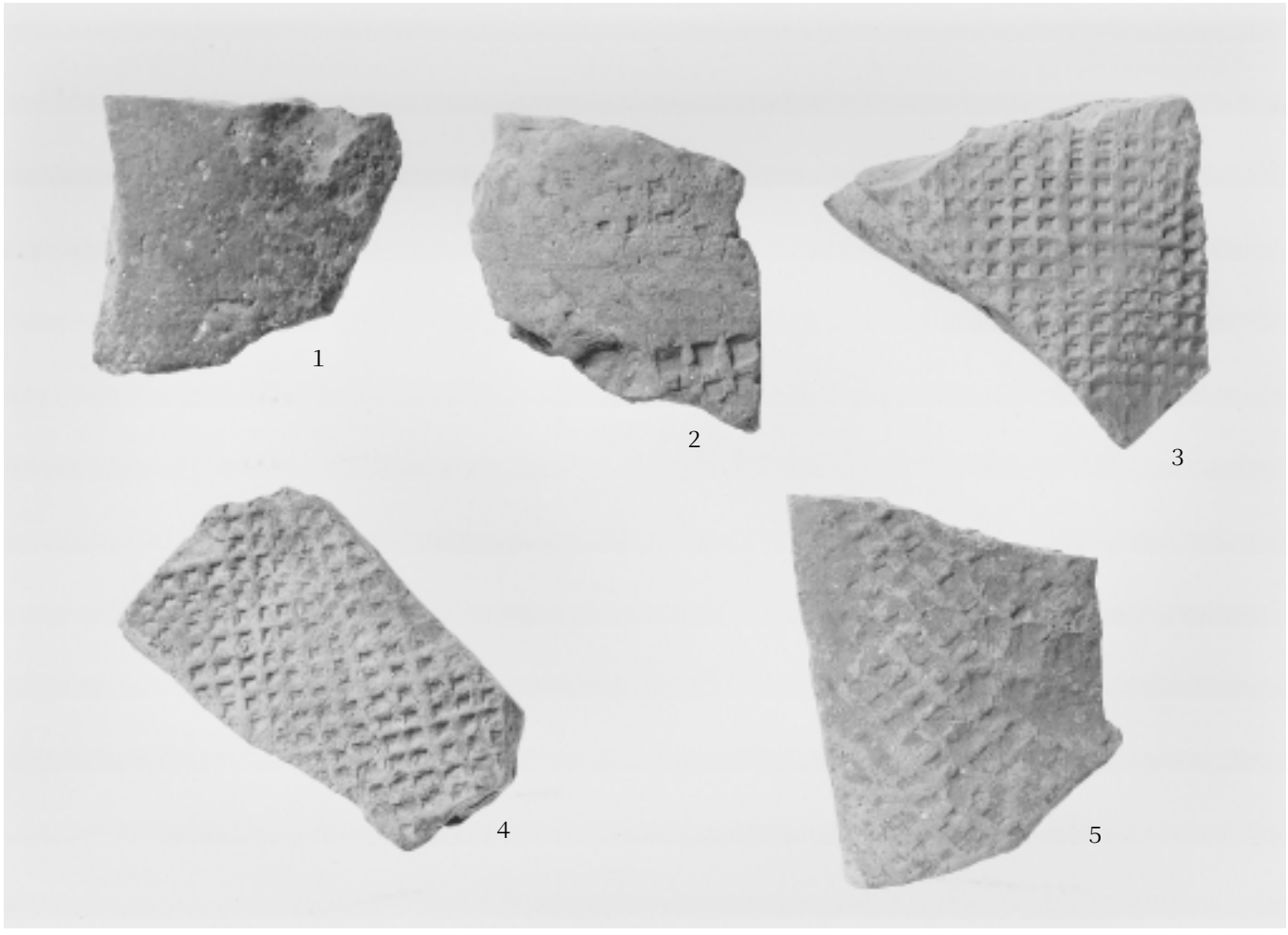

10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29



石　器③

図版28

（1） 軽　石



（2） 瓦

４　次　調　査

（1）　4次調査区全景（北から）

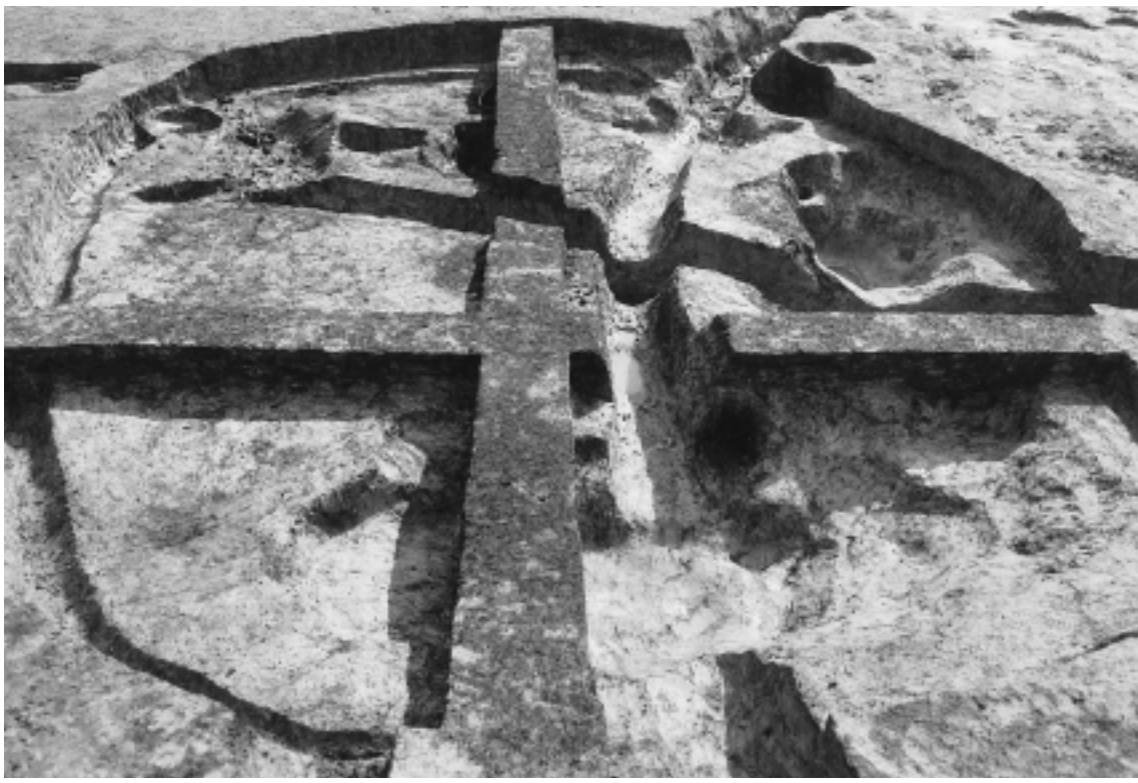
（2）　4次調査区全景（東から）

図版30

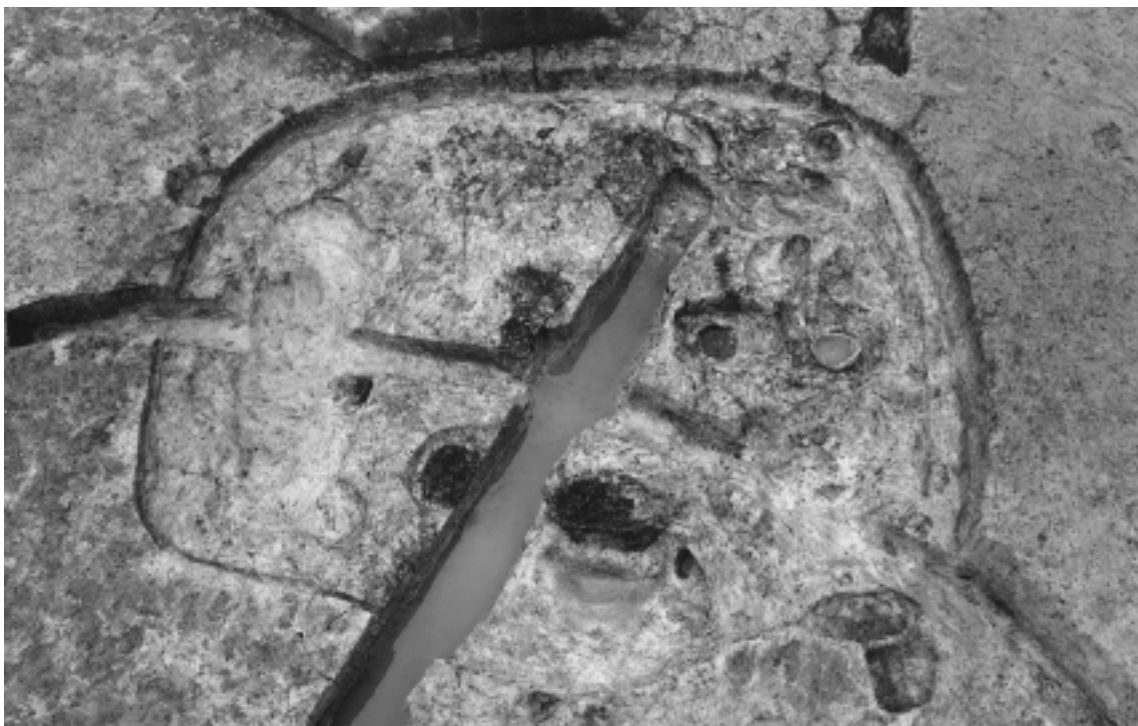
（1） 4次調査区全景（南東から）

（2） 4次調査区西部～中央部（南東から）

（1）　1号土坑遺構検出時（北東から）



（2）　1号土坑調査状況（北西から）



（3）　1号土坑完掘状態（南西から）

図版32

（1）　1号竪穴状遺構（南東から）

（2）　1号竪穴状遺構床面遺物出土状態（北東から）

（3）　1号竪穴状遺構断面土層（北から）

（1） １号竪穴状遺構断面 B－B'土層北半

（2） １号竪穴状遺構断面 B－B'土層南半

図版34

（1） １号竪穴状遺構断面 D－D'土層東半

（2） １号竪穴状遺構断面 D－D'土層西半

（1）　1号竪穴状遺構上層土器出土状態

（2）　1号竪穴状遺構銅矛鋳型出土状態

（3）　1号竪穴状遺構鞴送風管出土状態

（4）　1号竪穴状遺構石戈出土状態

（1） ２号竪穴状遺構と１号溝（南から）

（2） ２号竪穴状遺構と１号溝（北西から）

（1） １号溝Ⅴ区土器出土状態

（2） １号溝Ⅴ区土器出土状態

（1） ２号掘立柱建物跡Ｐ５断面土層

（2） ２号掘立柱建物跡Ｐ６断面土層

（3） ピット27鏡片出土状態

（4） 表土下中型出土状態

（5） 包含層銅片出土状態

（6） 包含層銅片出土状態

1

2

3

4

5

6

7

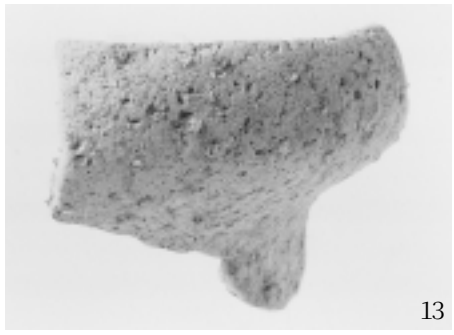
8

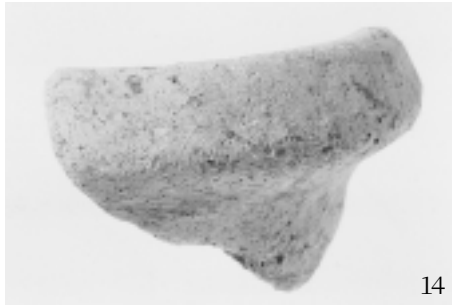
9

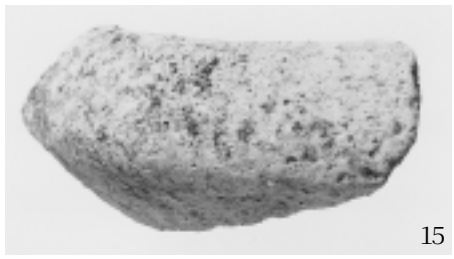
10

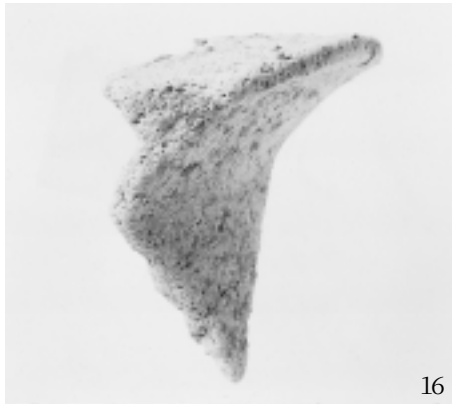
11

12


13


14

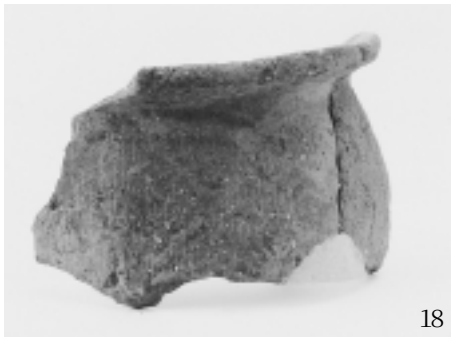

15


16

１・２号土坑出土土器及び１号竪穴状遺構出土土器①　１号土坑（1）　２号土坑（2～4）　１号竪穴（5～16）

図版40

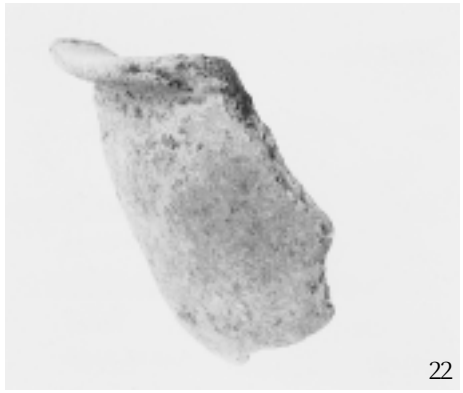
17

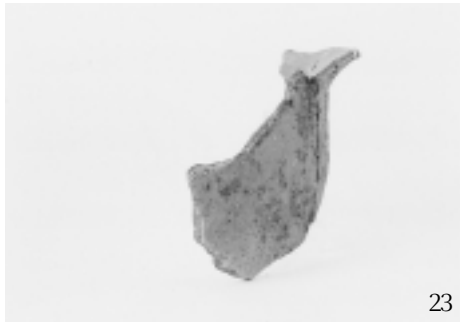

18

19

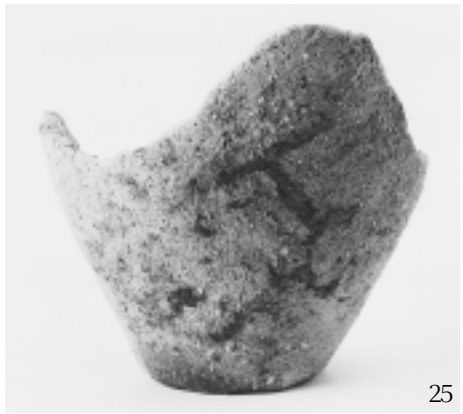
20

21


22

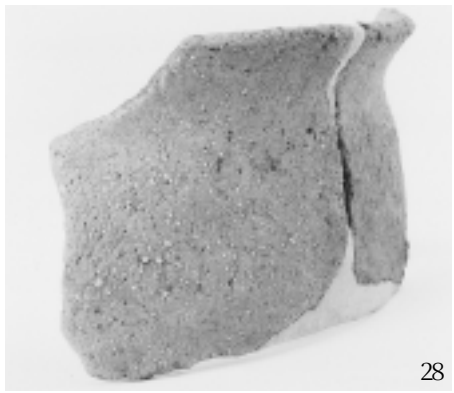

23

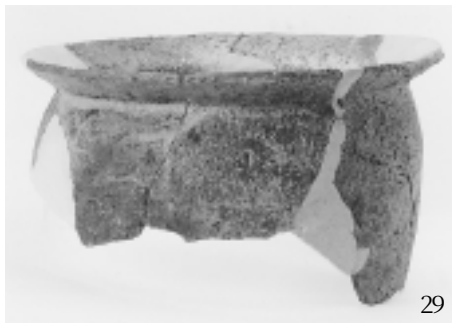
24

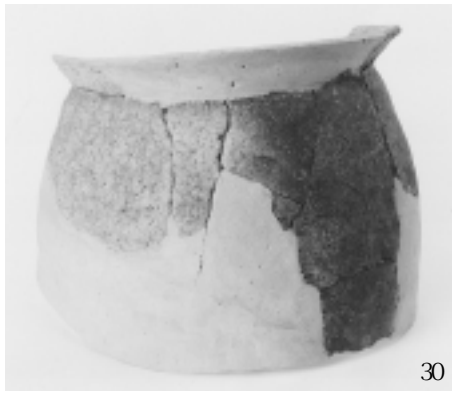

25

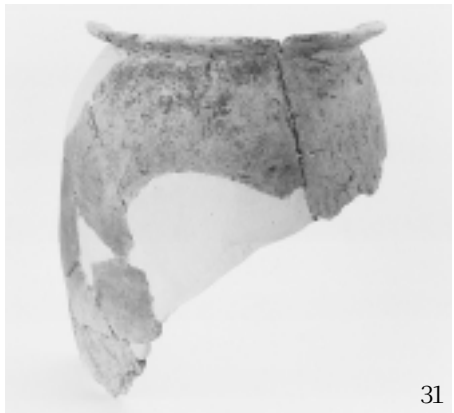
26

27


28


29

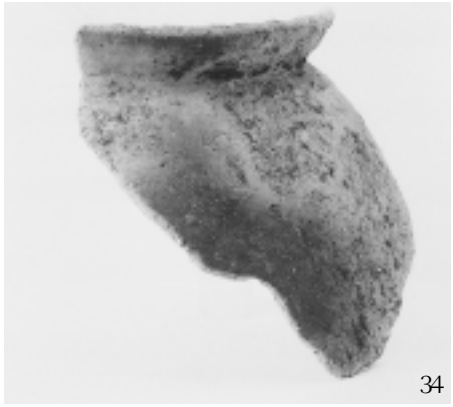

30

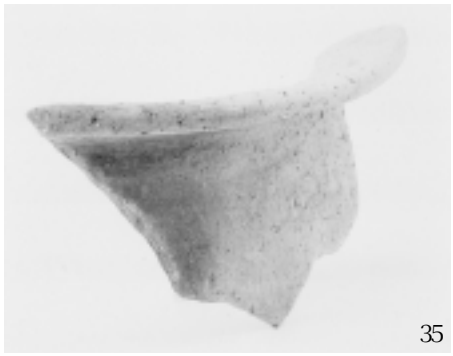

31

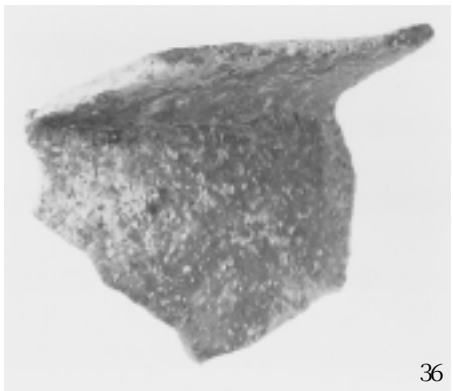
１号竪穴状遺構出土土器②

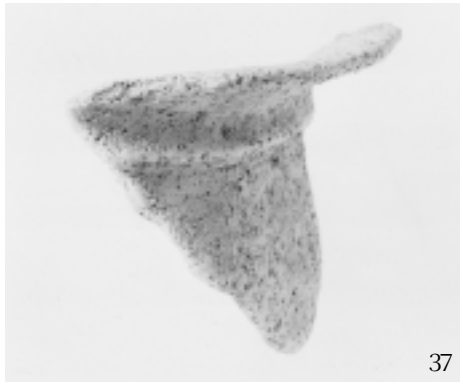
32

33


34


35


36


37

38

39

40

41

42

43

44

45

46

47

48

１号竪穴状遺構出土土器③

図版42

49

50

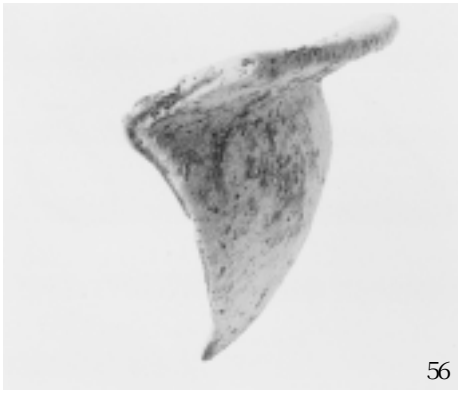
51

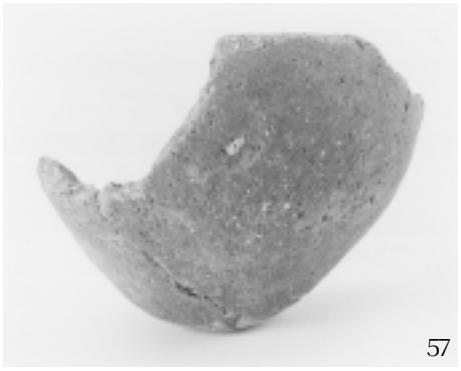
52

53

54

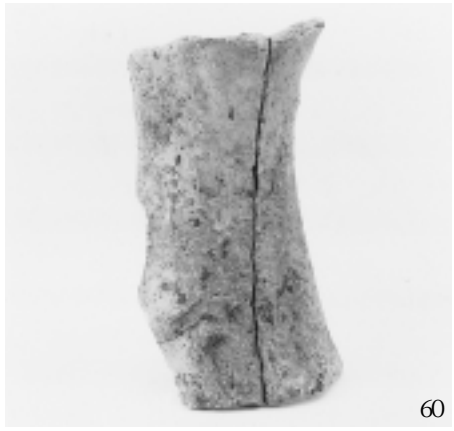
55


56

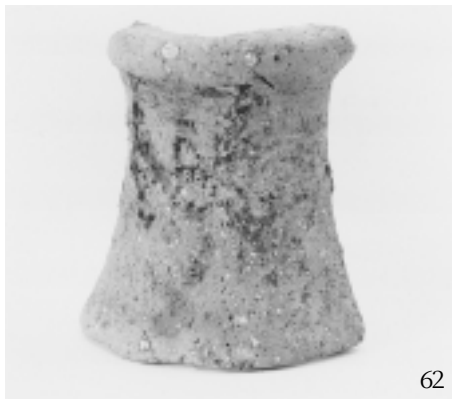

57

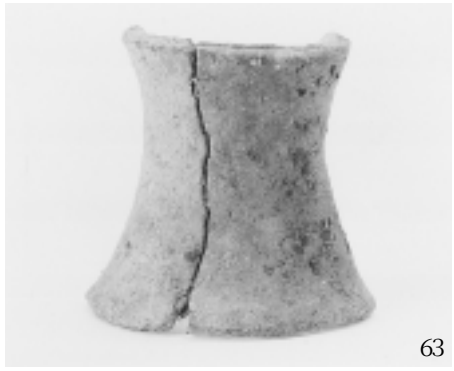
58

59


60

61


62


63

64

１号竪穴状遺構出土土器④

65

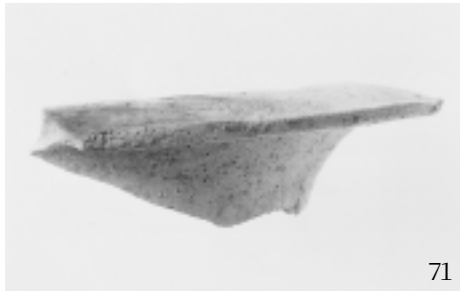
66

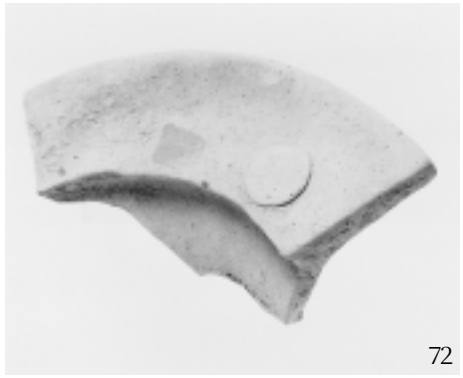
67

68

69

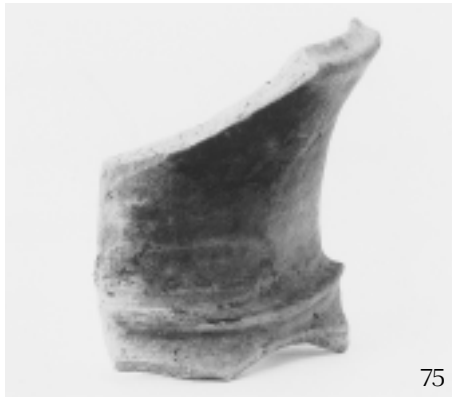
70

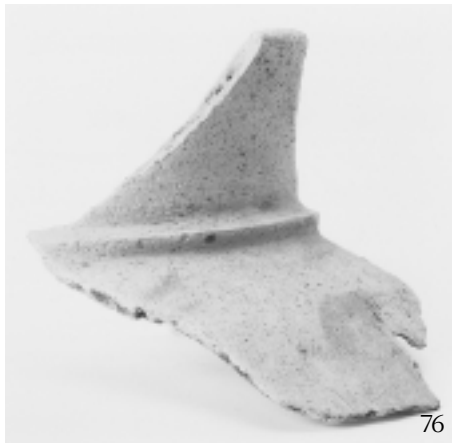

71

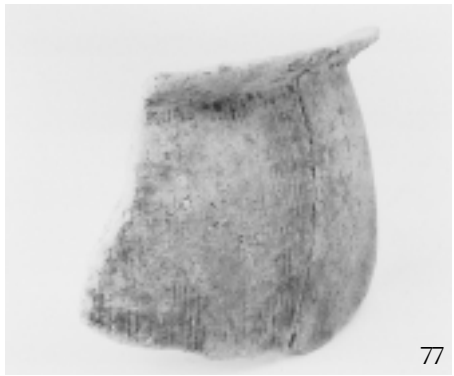

72

73

74


75


76


77

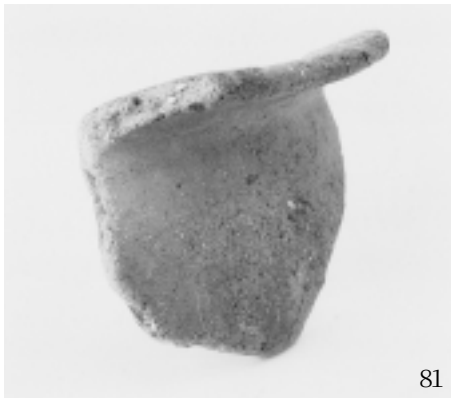
78

79

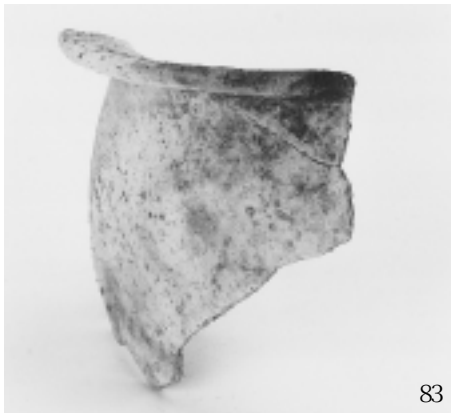
１号竪穴状遺構出土土器⑤

図版44

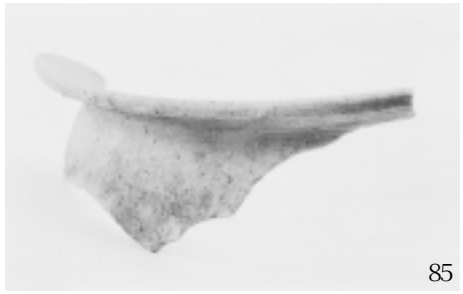
80


81

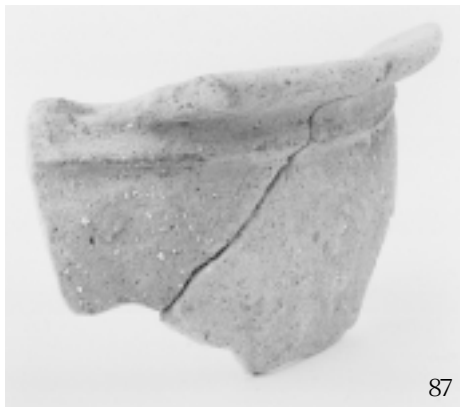
82

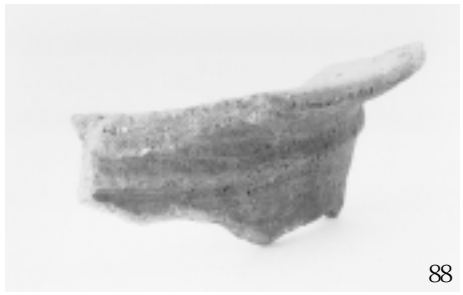

83

84


85

86


87


88

89

90

91

92

93

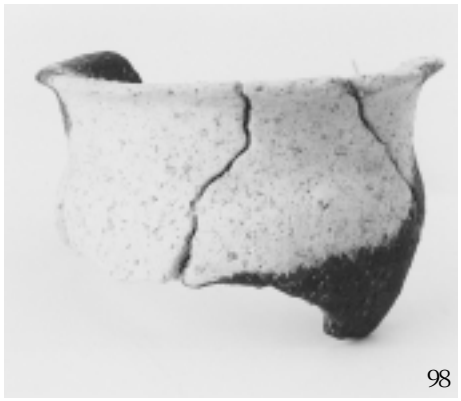
94

95

96

１号竪穴状遺構出土土器⑥

97


98

99

100

101

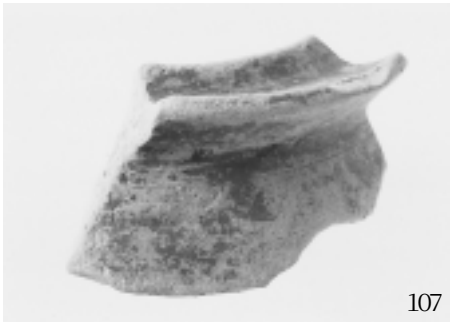
102

103

104

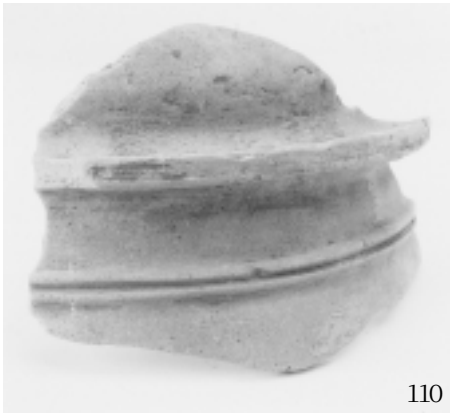
105

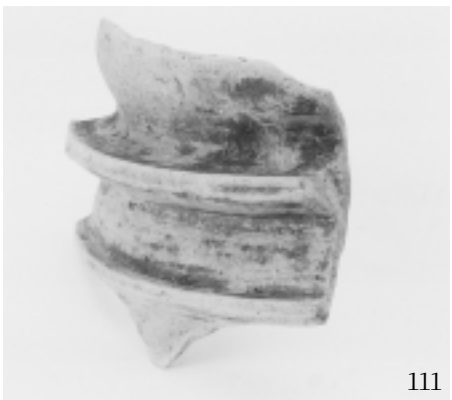
106


107

108

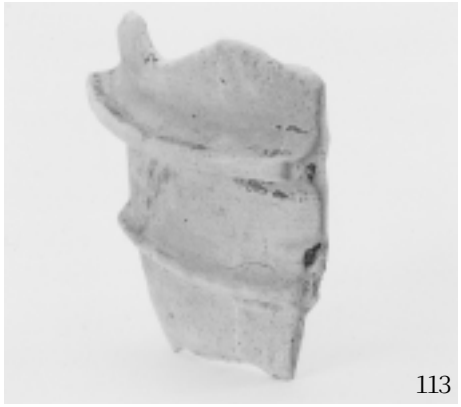
109

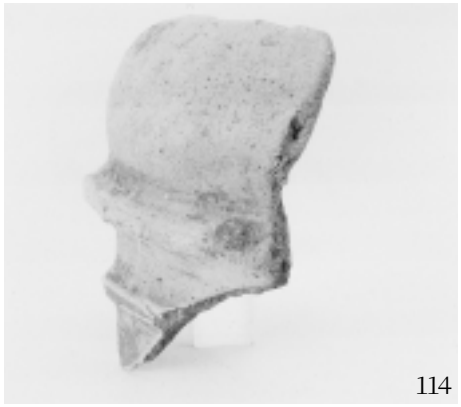

110


111

１号竪穴状遺構出土土器⑦

112


113


114

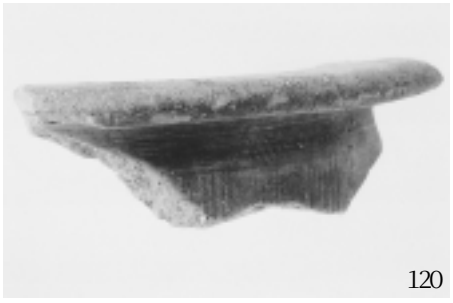
115

116

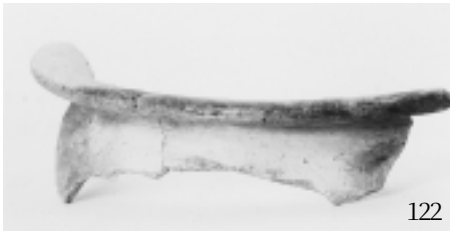
117

118

119

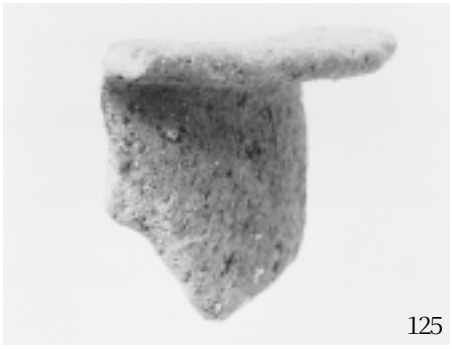

120

121


122

123

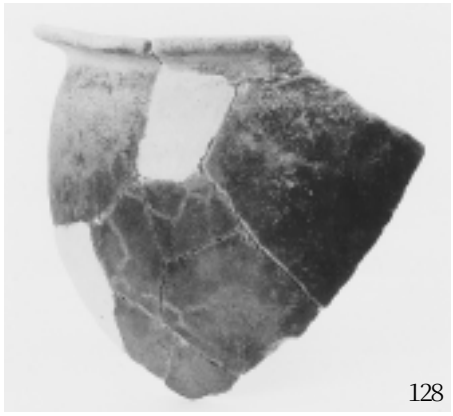
124

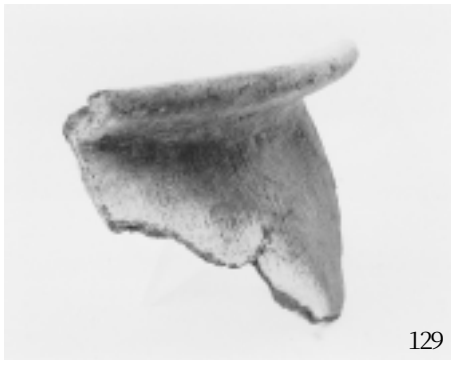

125

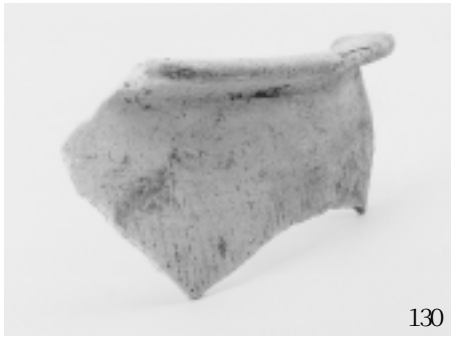
126

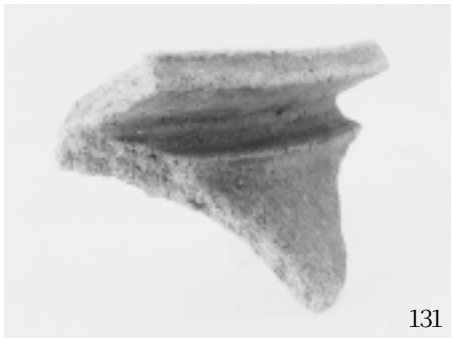
127

１号竪穴状遺構出土土器⑧


128


129


130


131

132

133

134

135

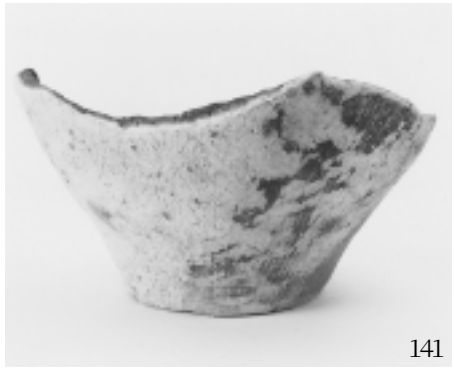
136

137

138

139

140


141

142

143

144

１号竪穴状遺構出土土器⑨

145

146

147

148

149

150

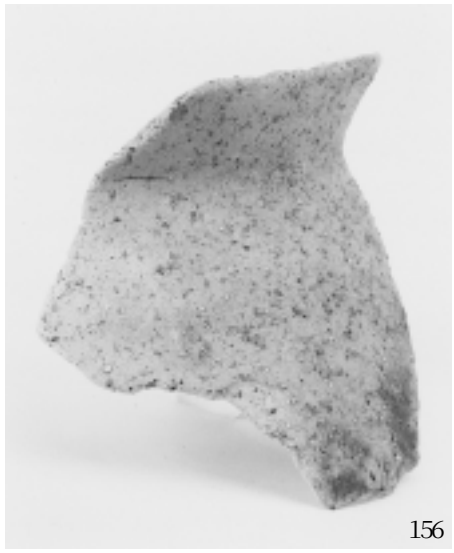
151

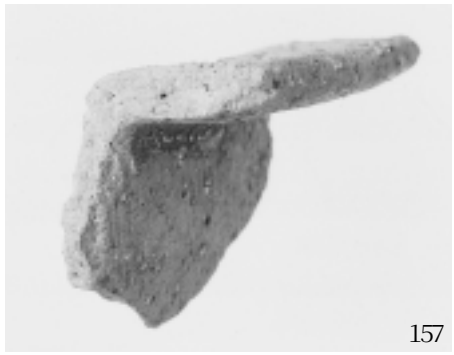
152

153

154

155


156


157

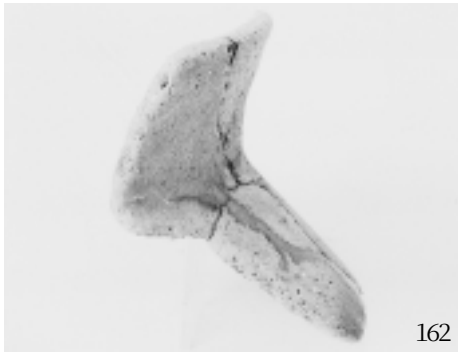
158

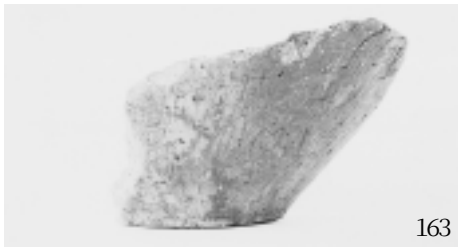
159

１号竪穴状遺構出土土器⑩及び２号竪穴状遺構出土土器　１号（145～154）　２号（155～159）

160

161

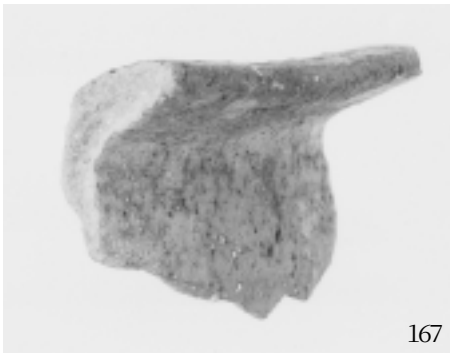

162

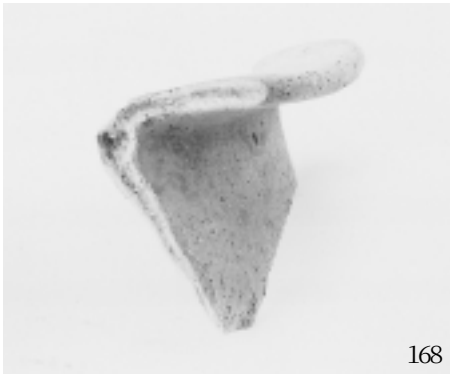

163

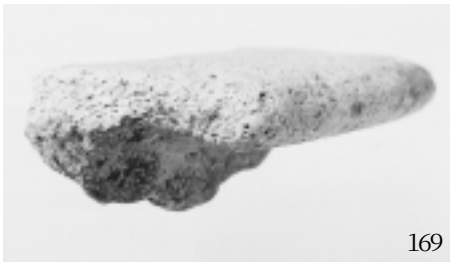
164

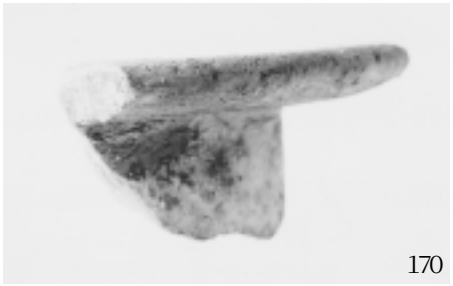
165

166


167


168

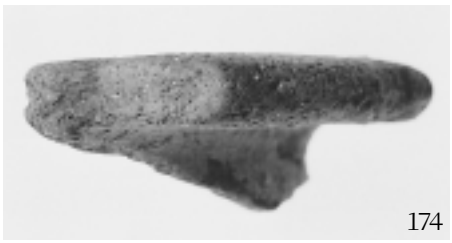

169

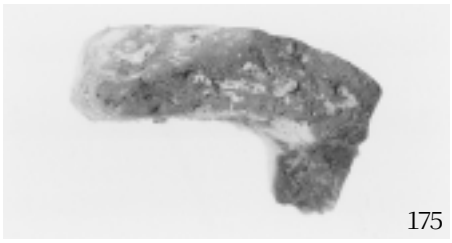

170

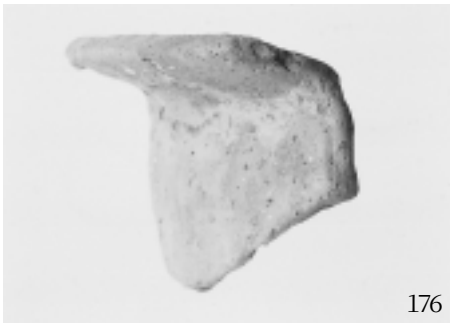
171

172

173


174


175


176

177

178

1・2・4・7号溝出土土器　1号（160～172）　2号（173）　4号（174～177）　7号（178）

179

180

181

182

183

184

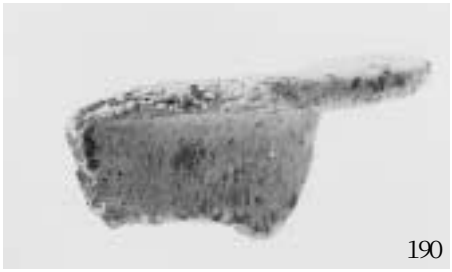
185

186

187

188

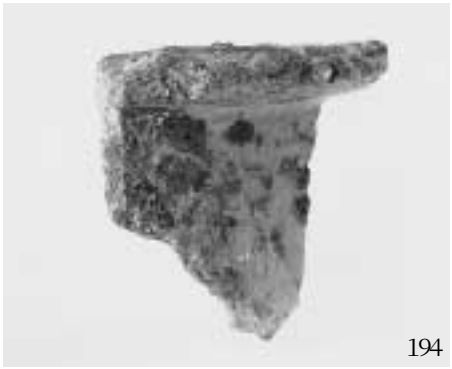
189


190

191

192

193


194

195

７号溝　(179~184) 及び１～５・７号掘立柱建物跡出土土器　**１号（185）　２号（186・187）　３号（188~190）**
４号（191）　５号（192・193）　７号（194・195）

196

197

198

199

200

201

202

203

204

205

206

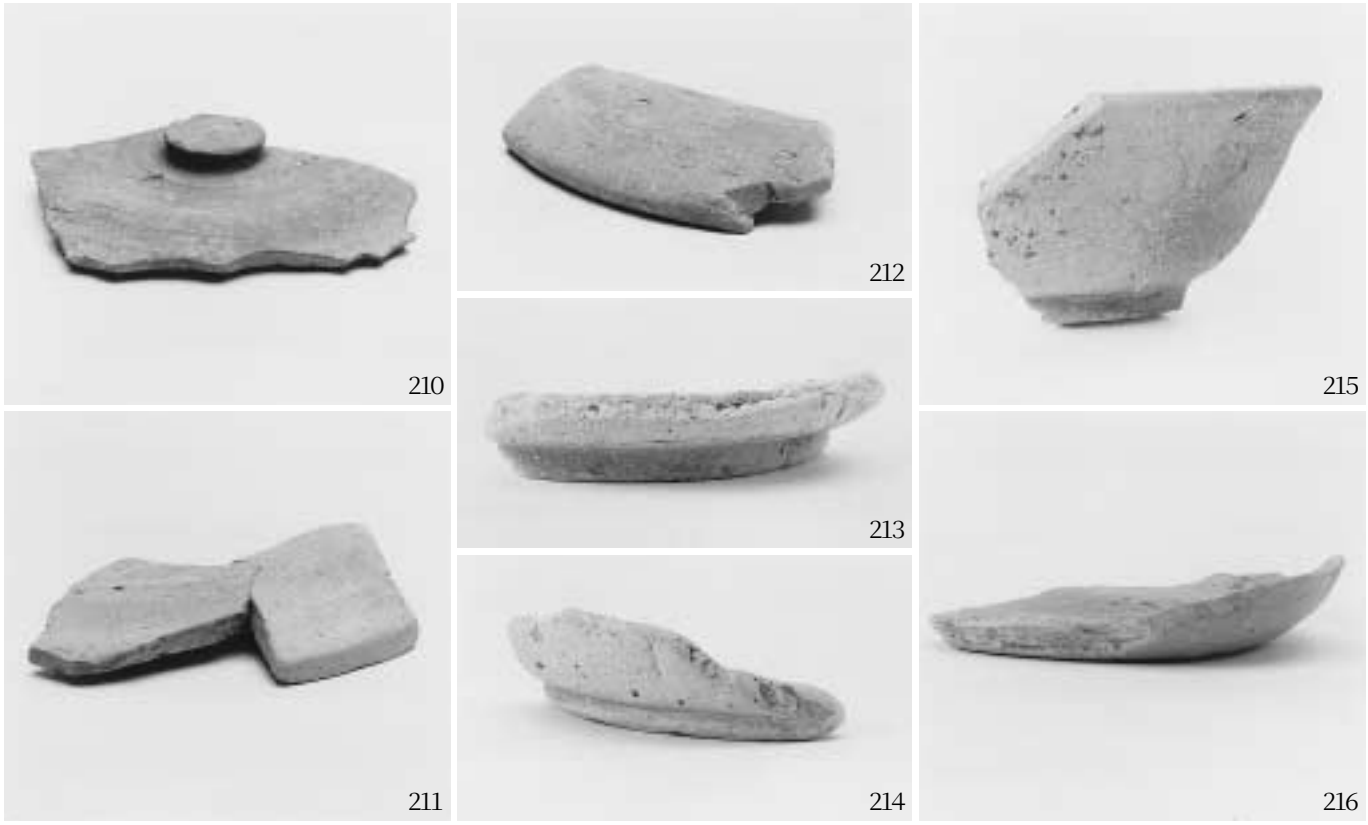
207

208

209

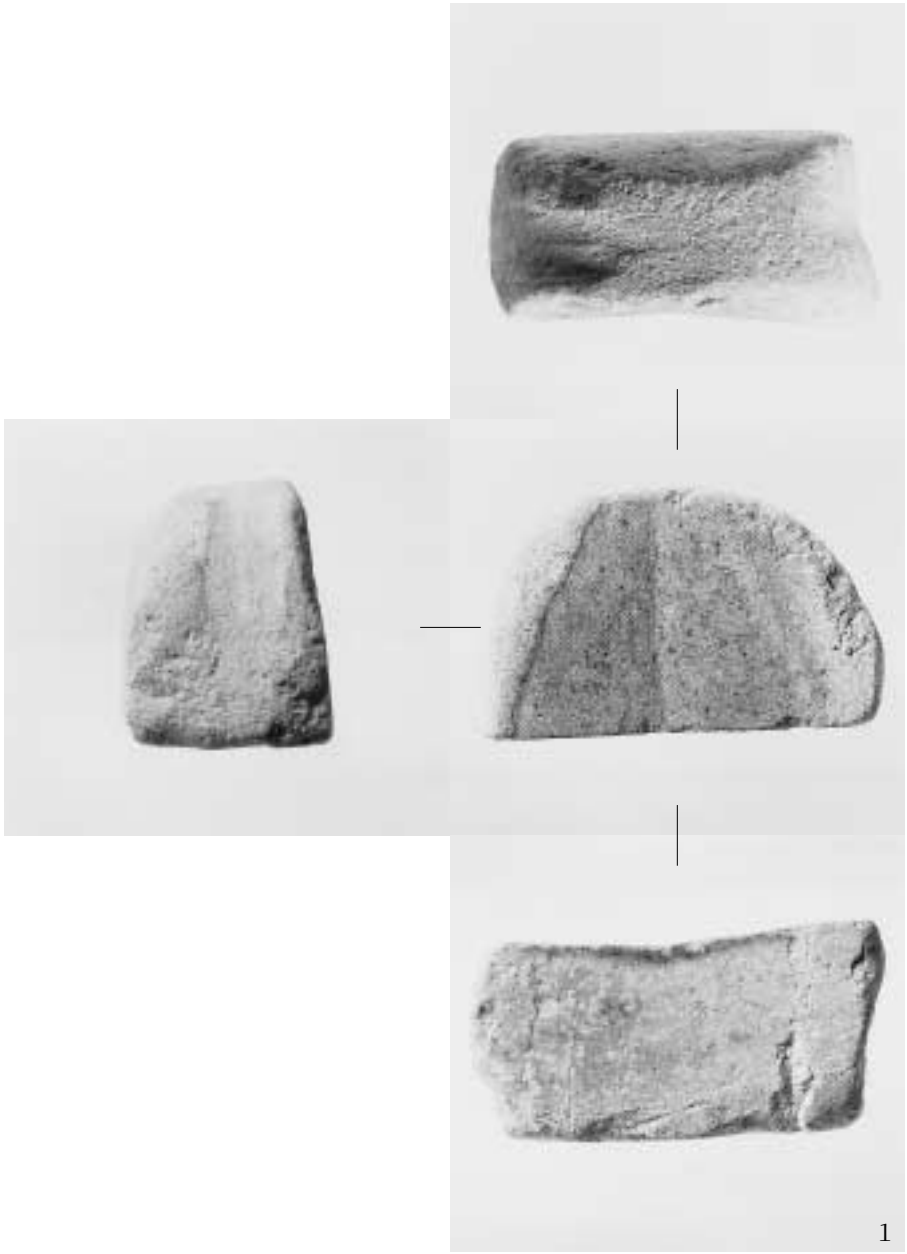
ピット出土土器　(196~201) 及び包含層出土土器①　(202~209)

図版52

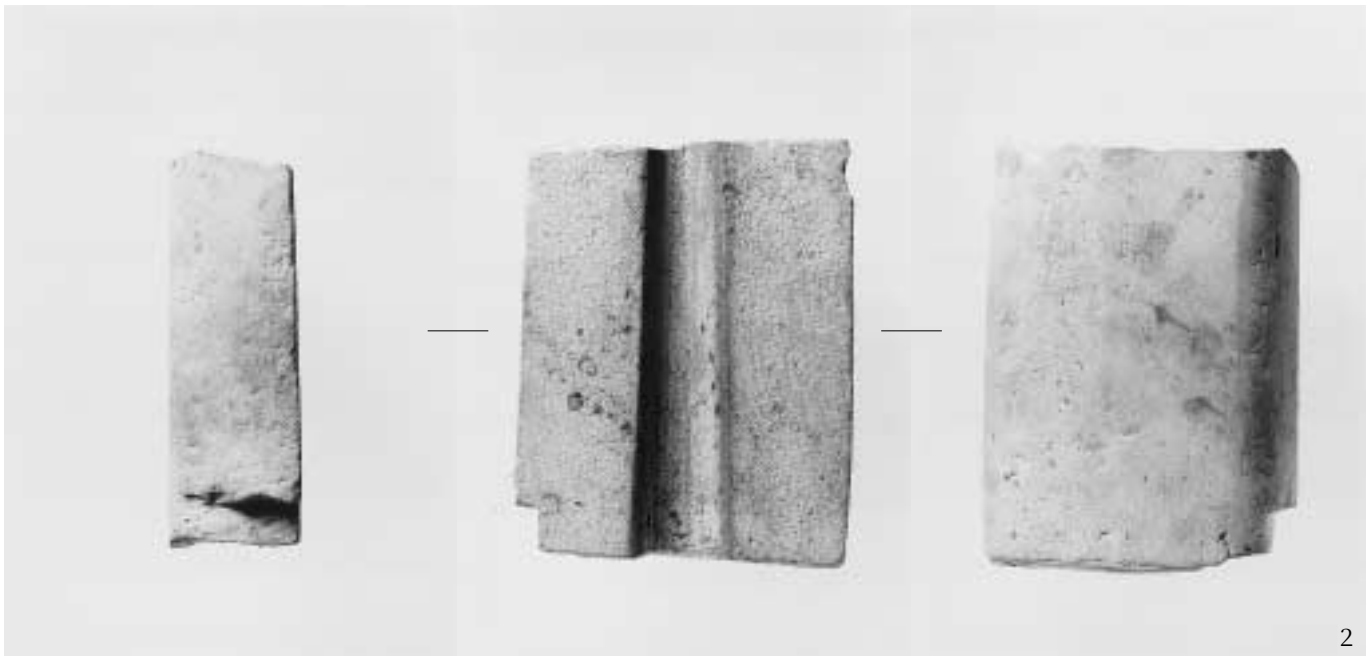


（1） 包含層出土土器②

（2） 土製品



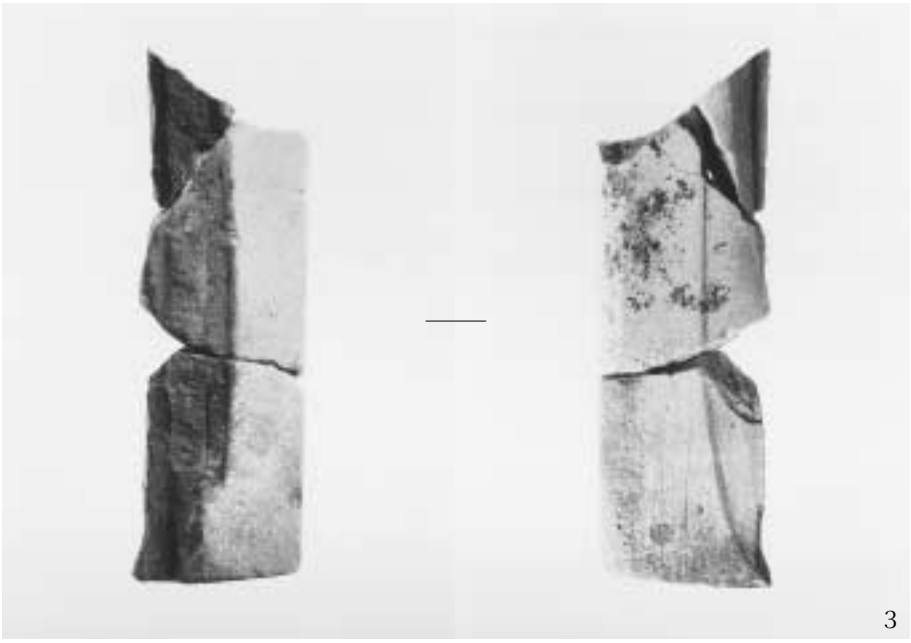
1

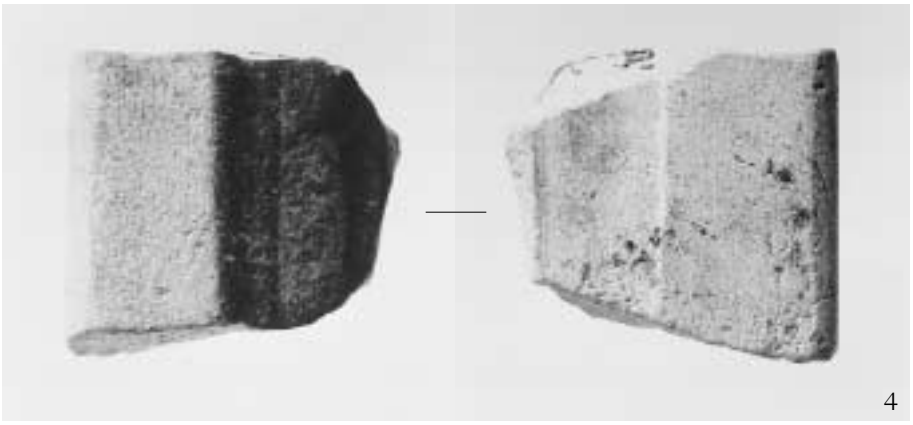


2

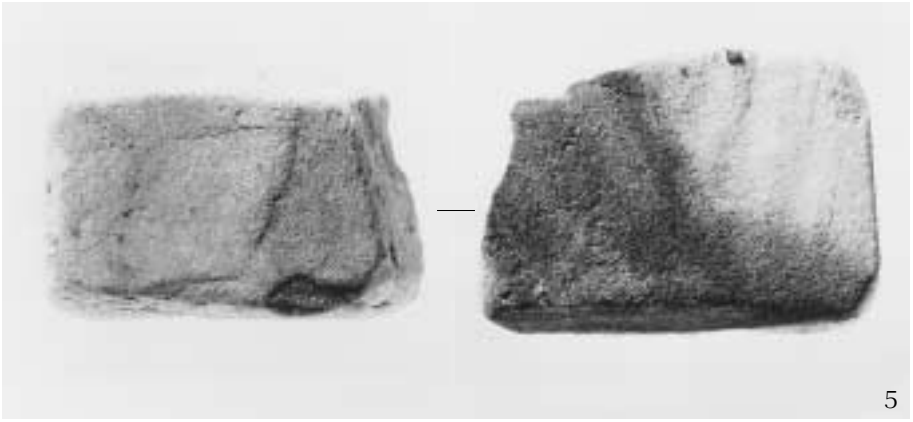
石製鋳型等①

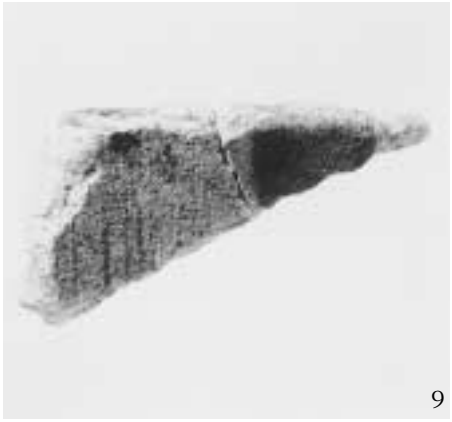
図版54


3


4

8

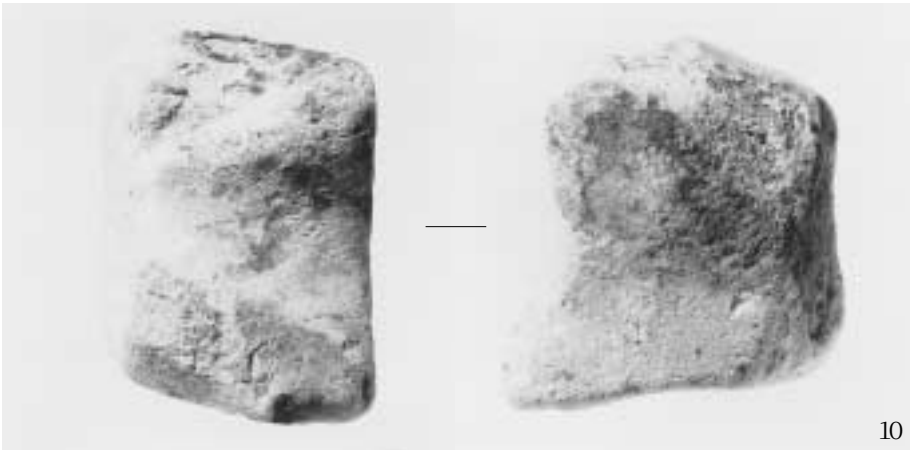

5

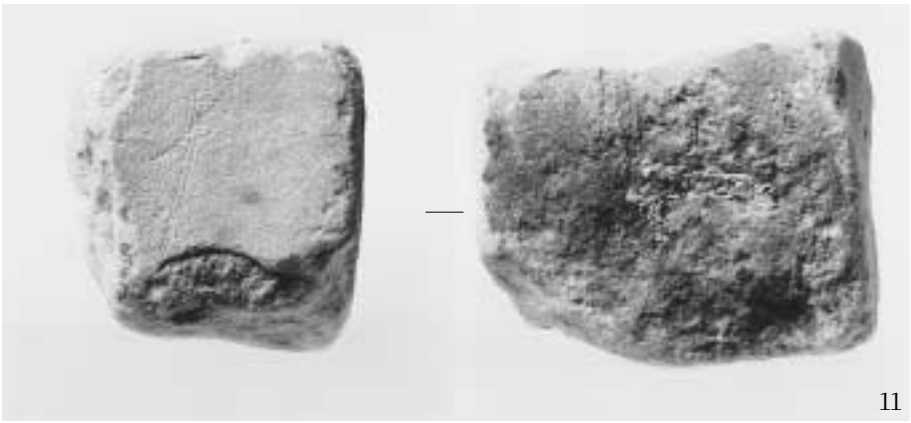

9

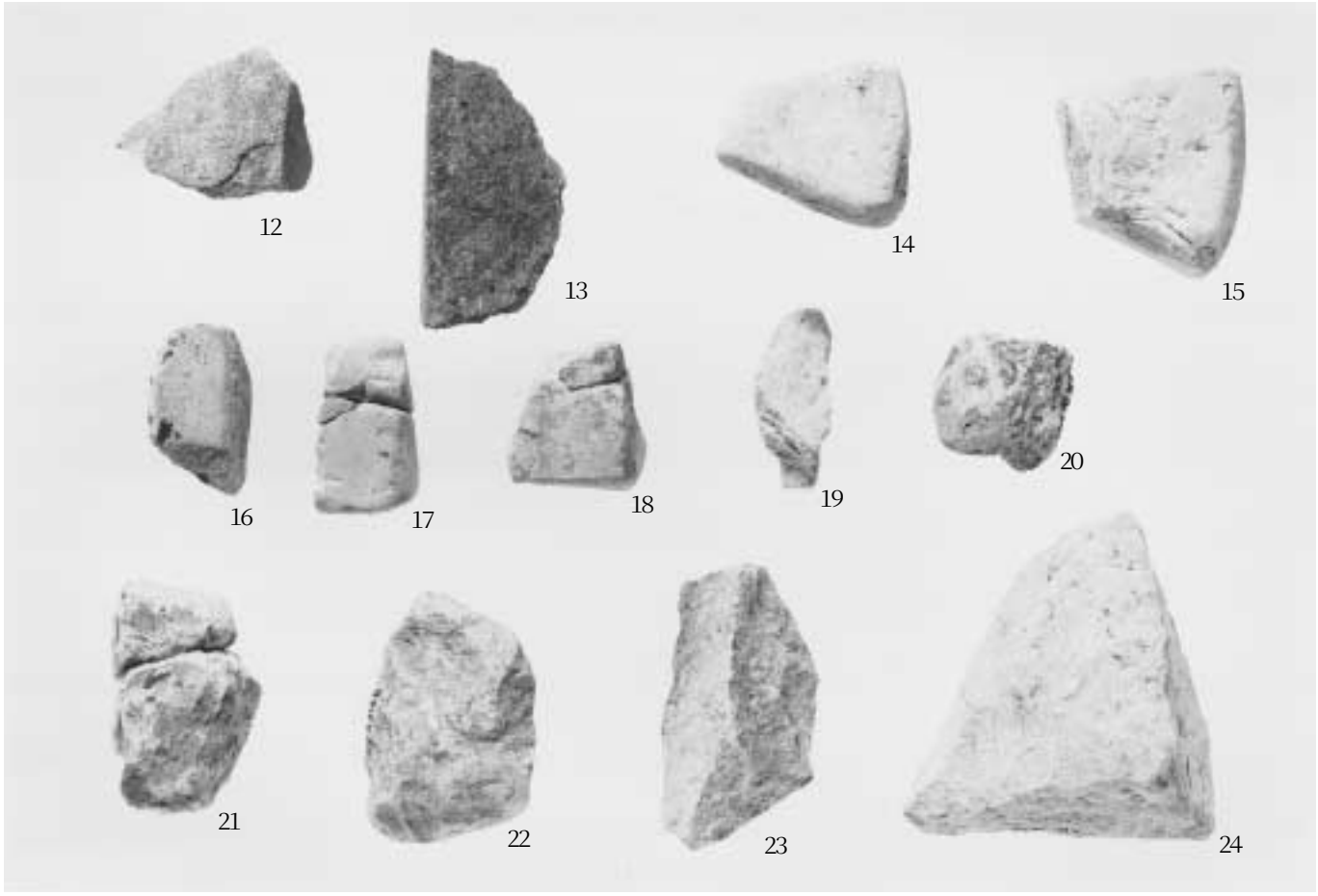
6

7

石製鋳型等②







石製鋳型等③

図版56

25

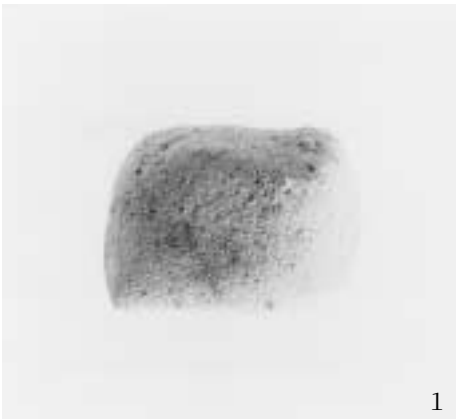
26

27

28

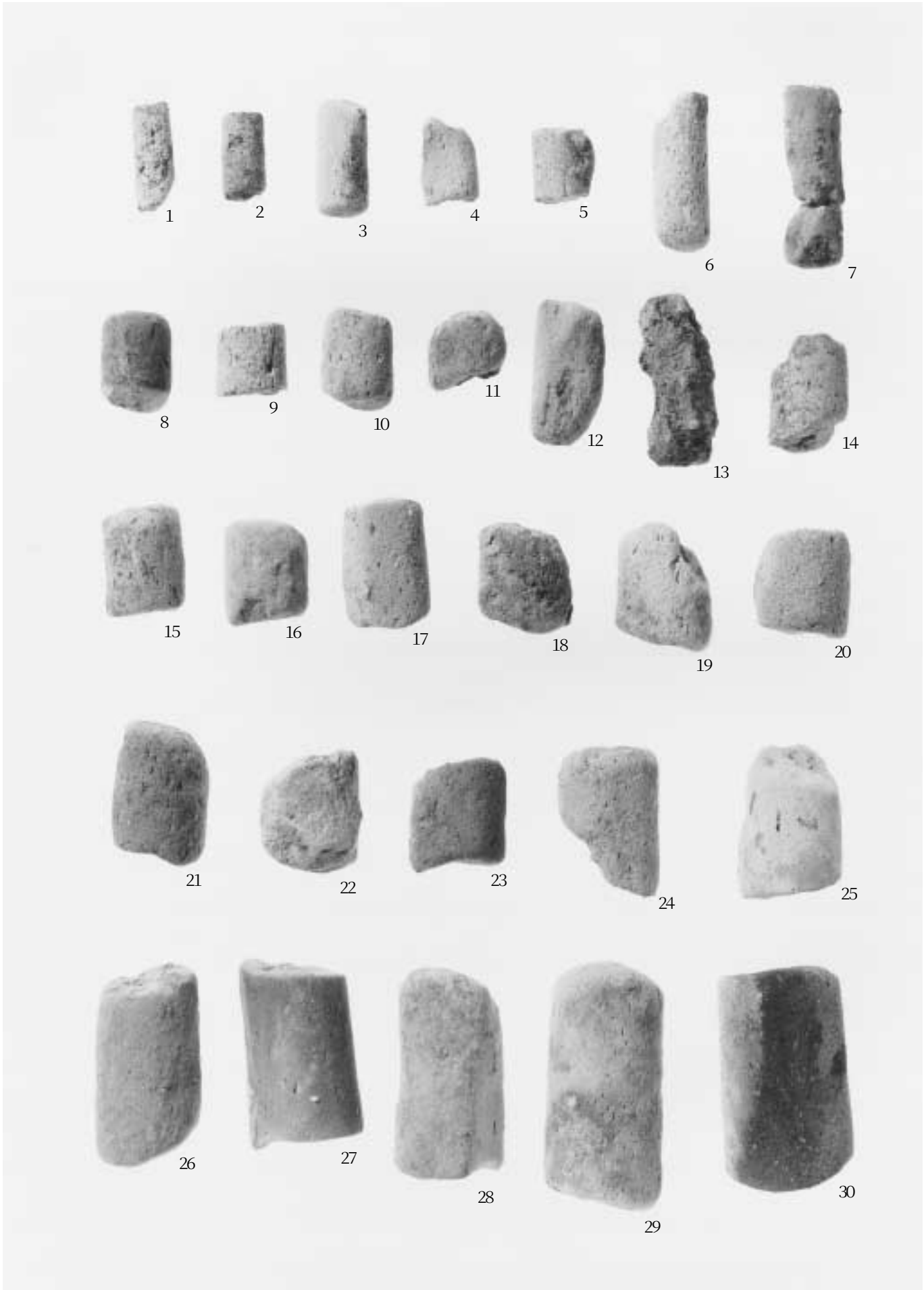
29

（1） 石製鋳型等④


1

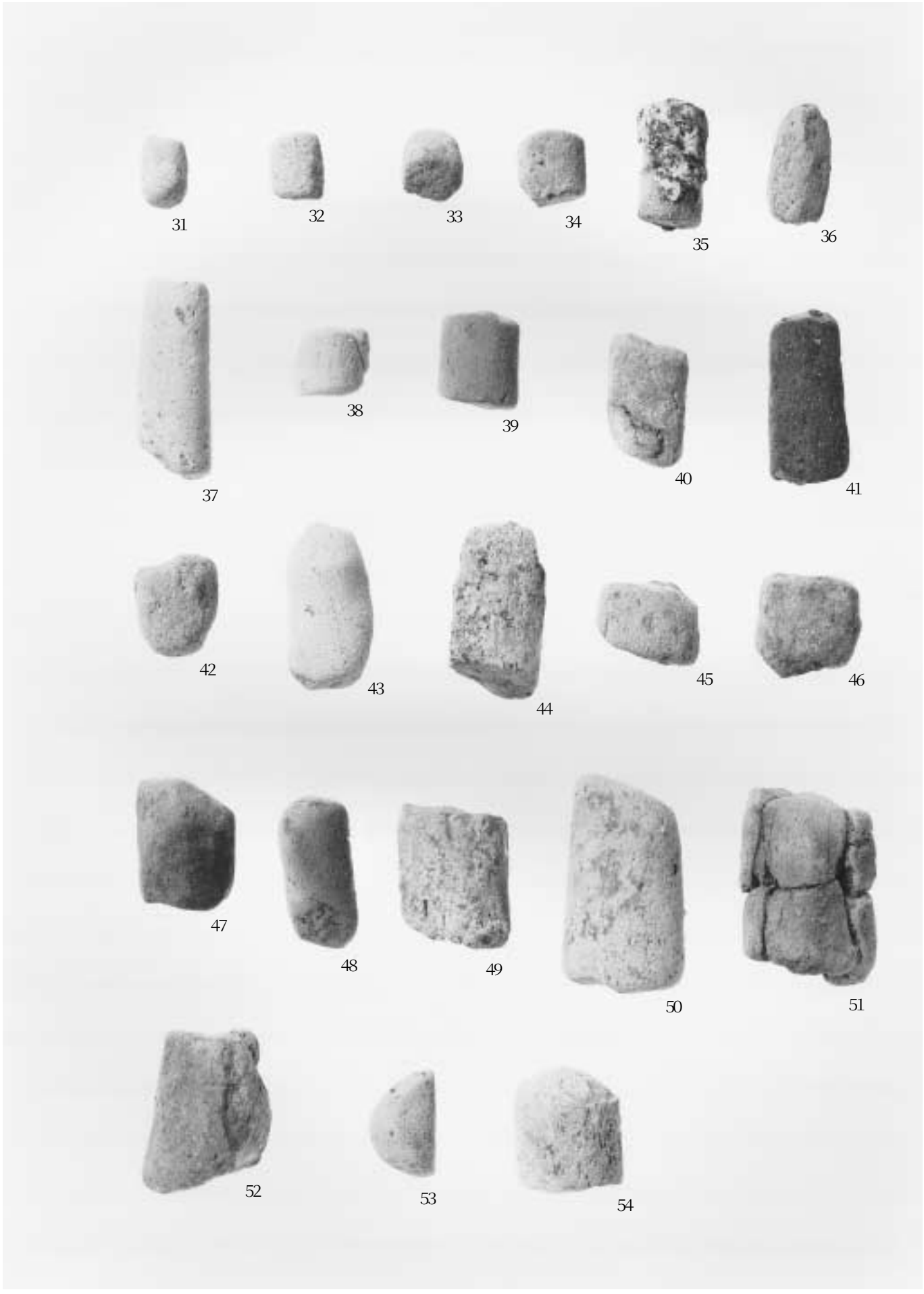
2

（2） 真土質土製品

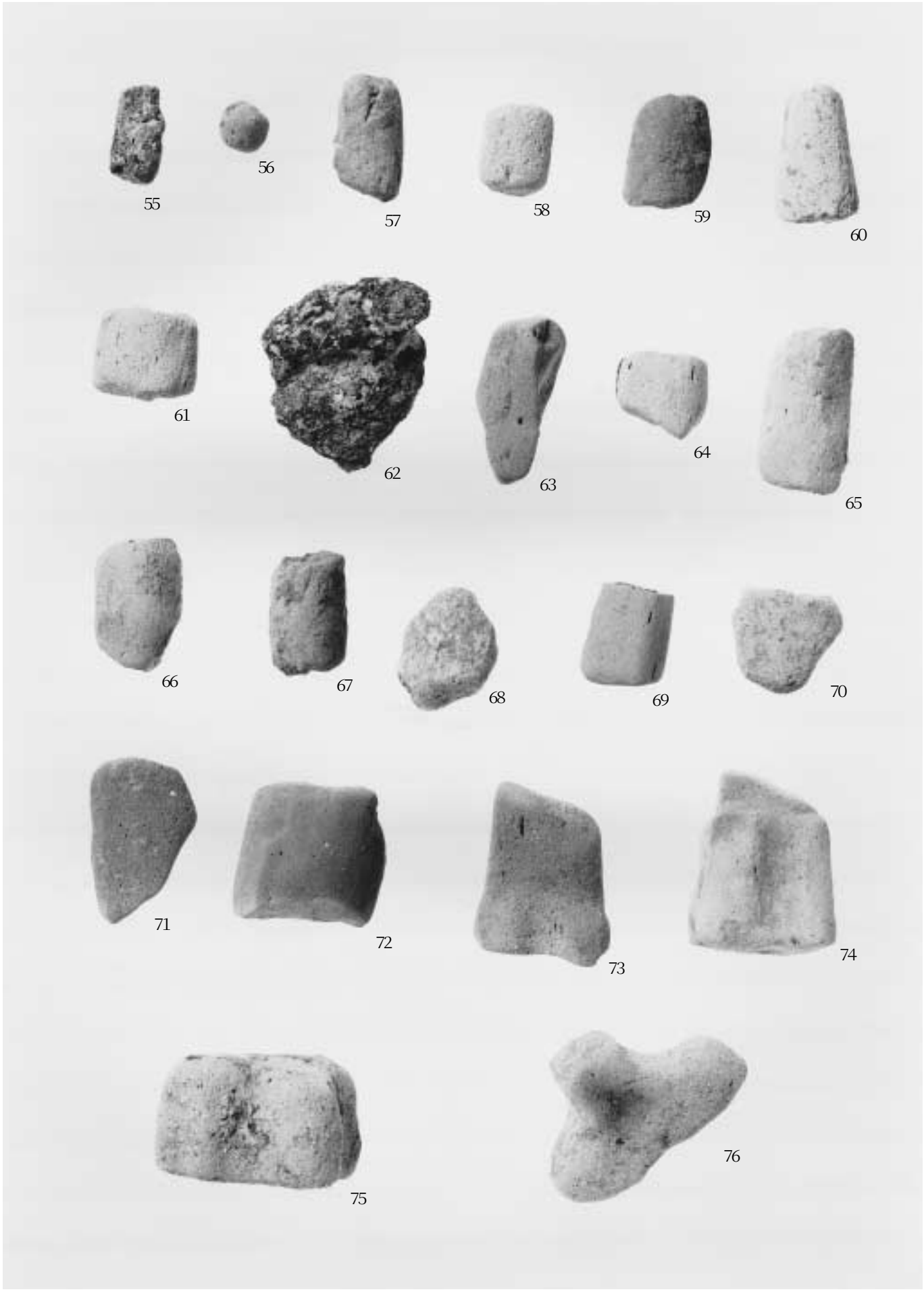

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30

中　型①

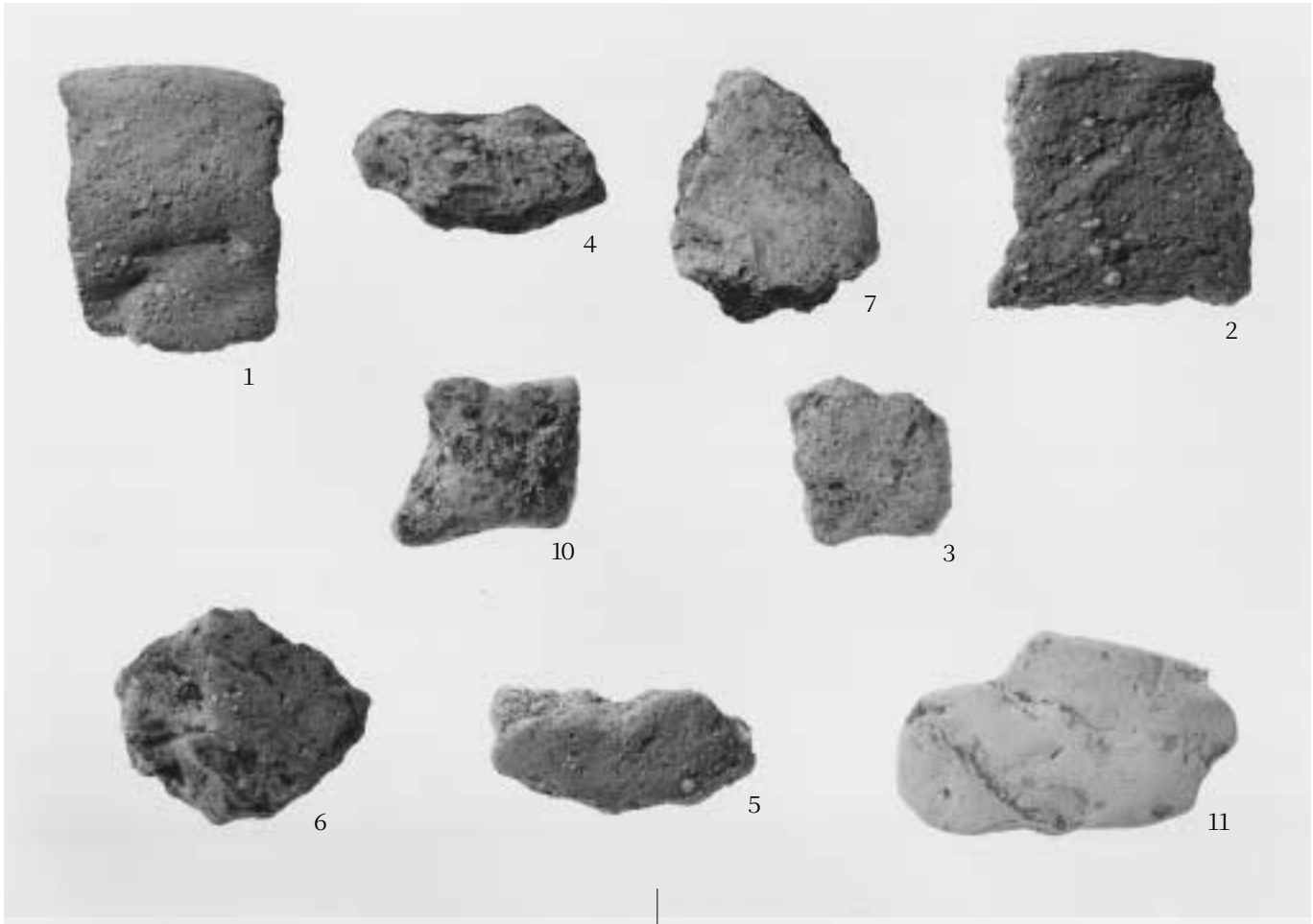
図版58

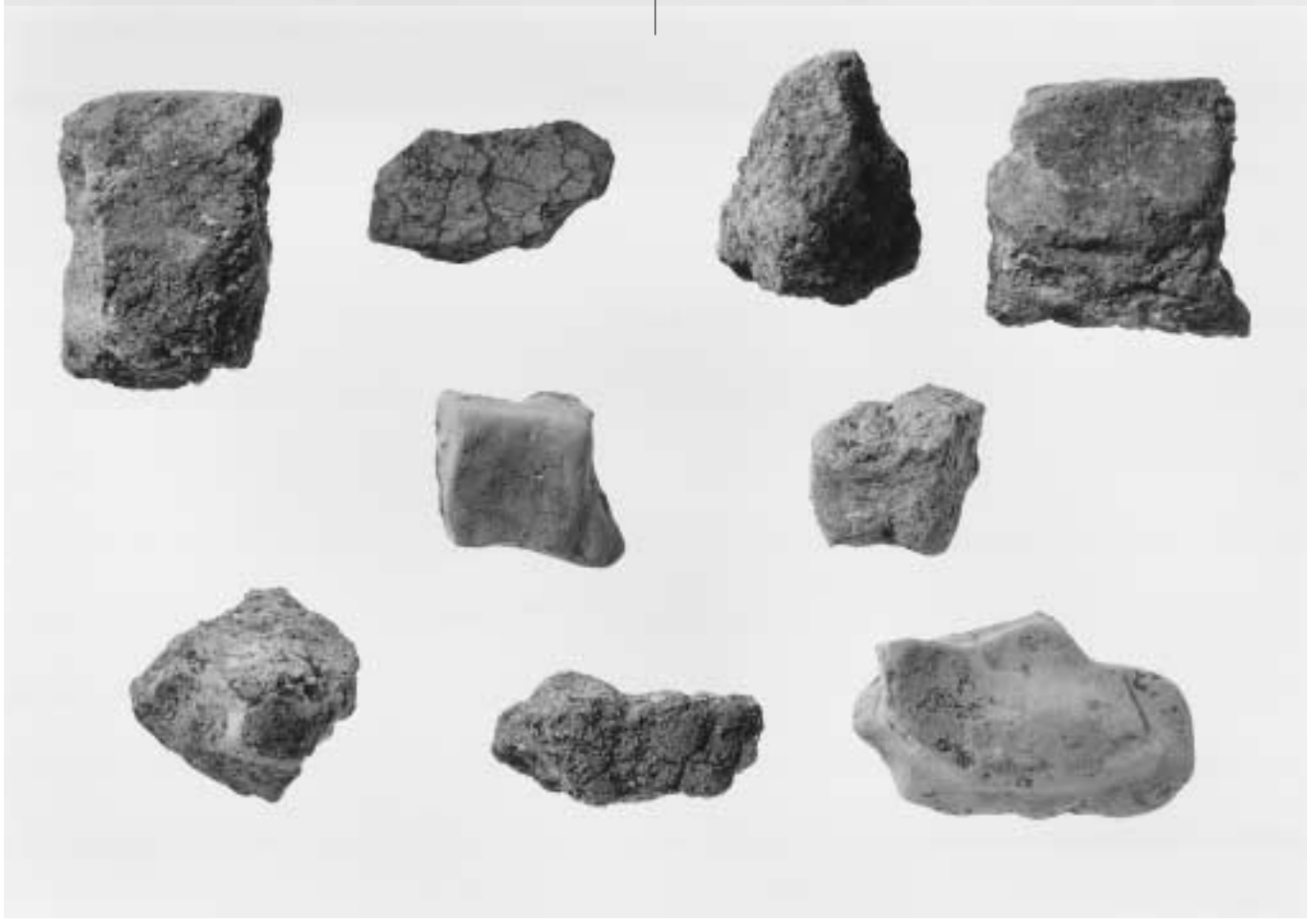


中　型②

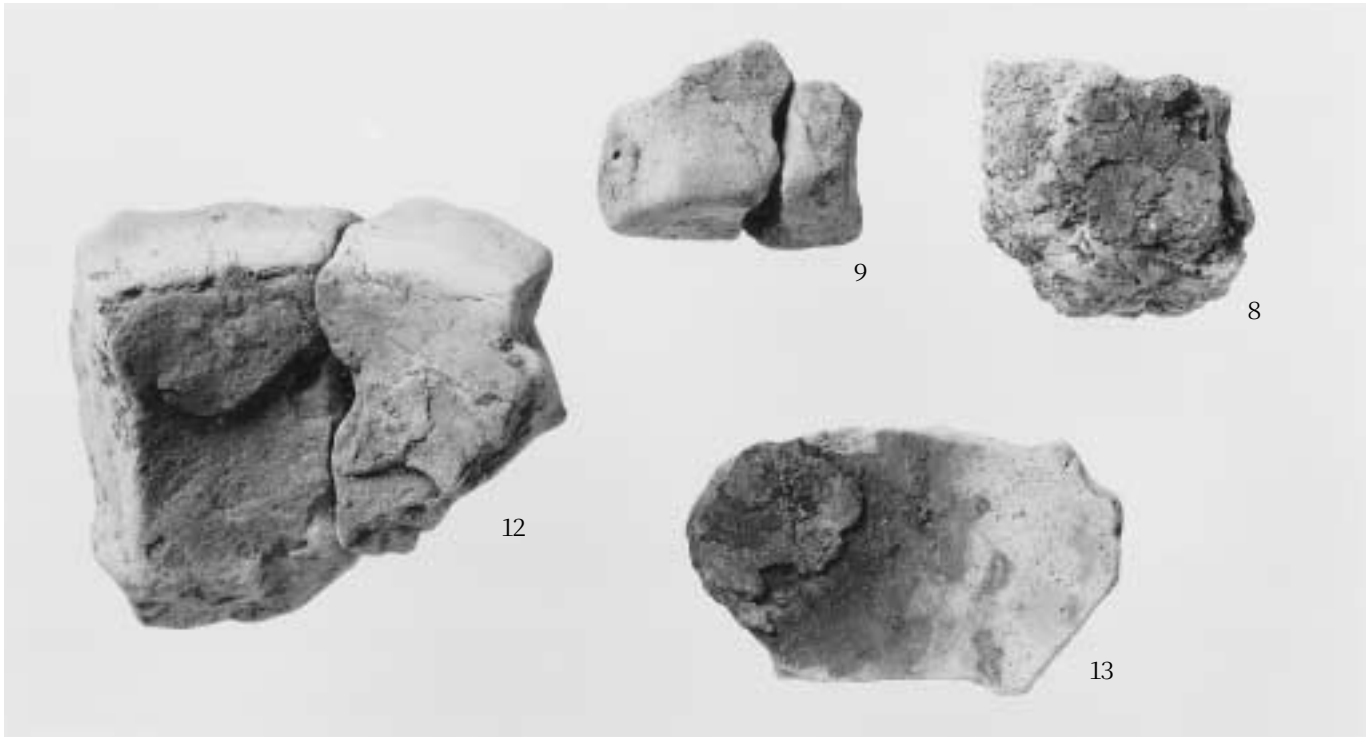


中　型③

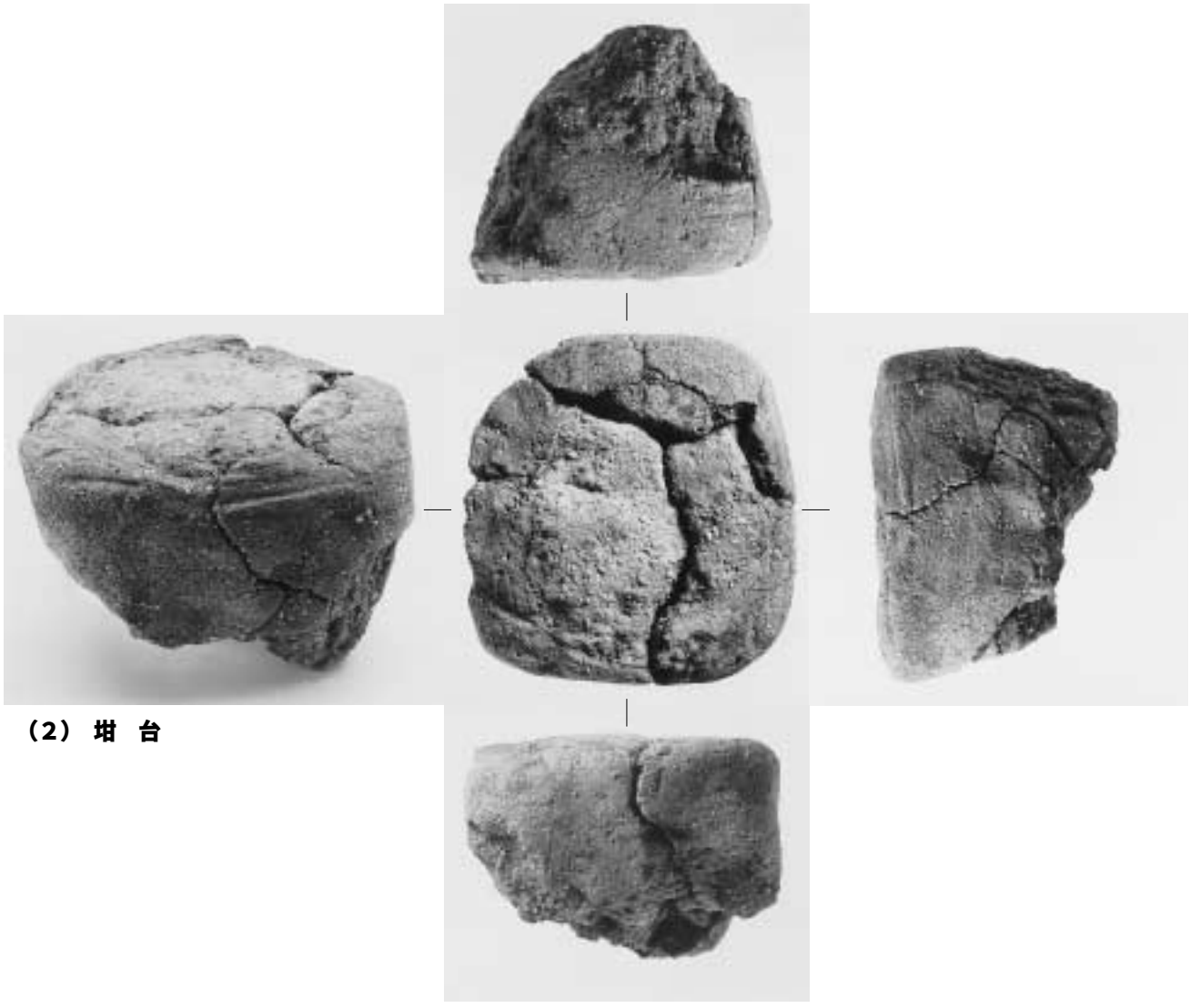




坩堝／取瓶等①

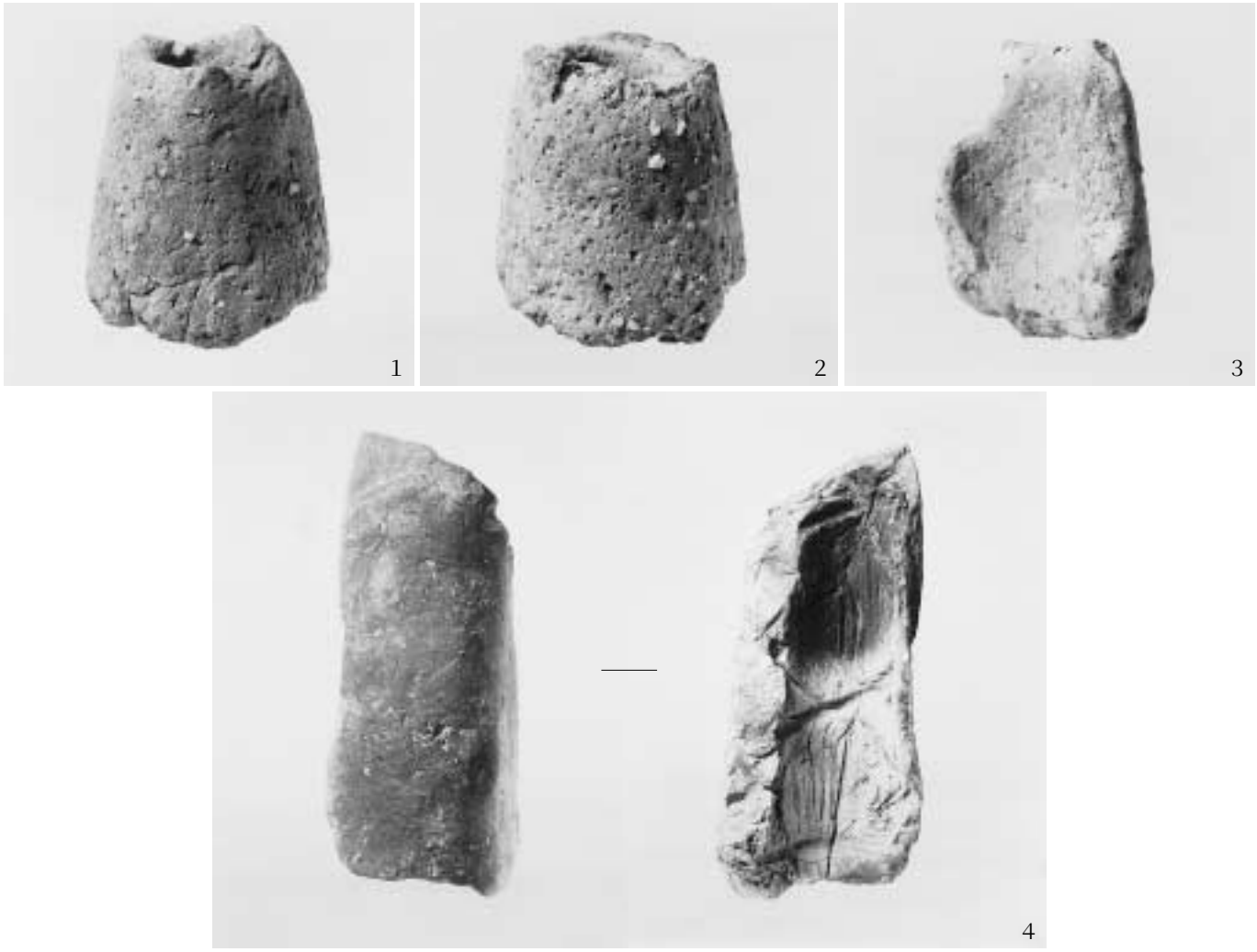


（1） 坩堝／取瓶等②

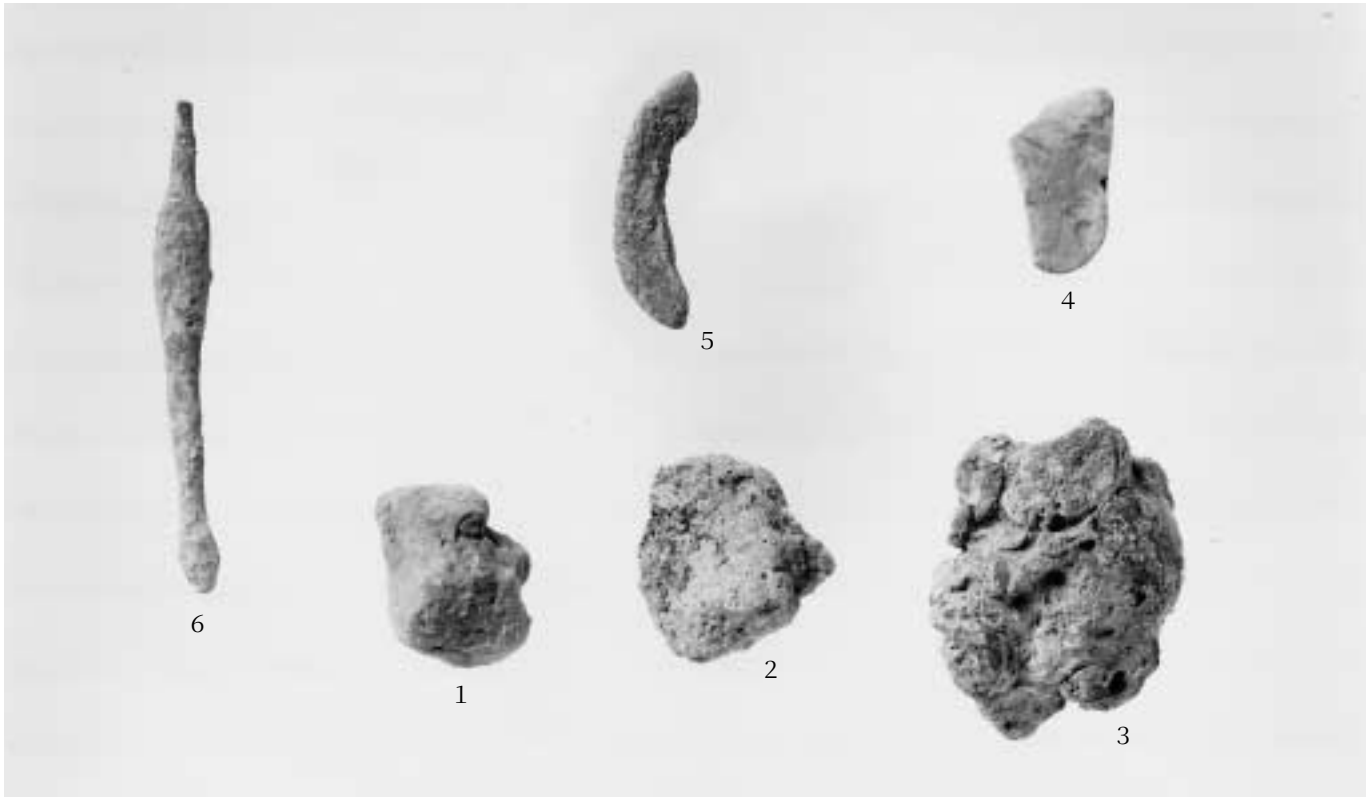


（2） 坩　台

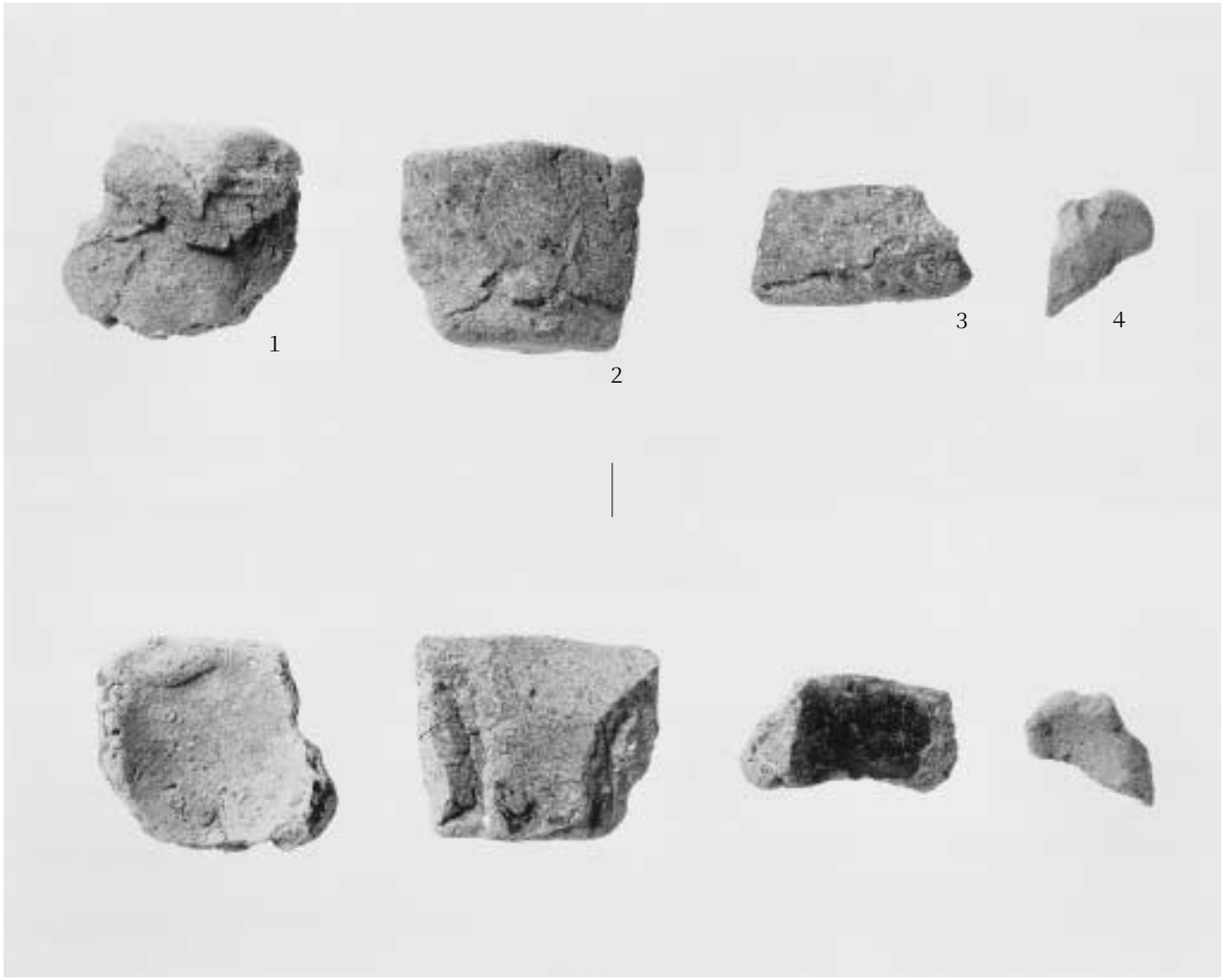
図版62



（1） 鞴送風管



（2） 銅滓・銅片

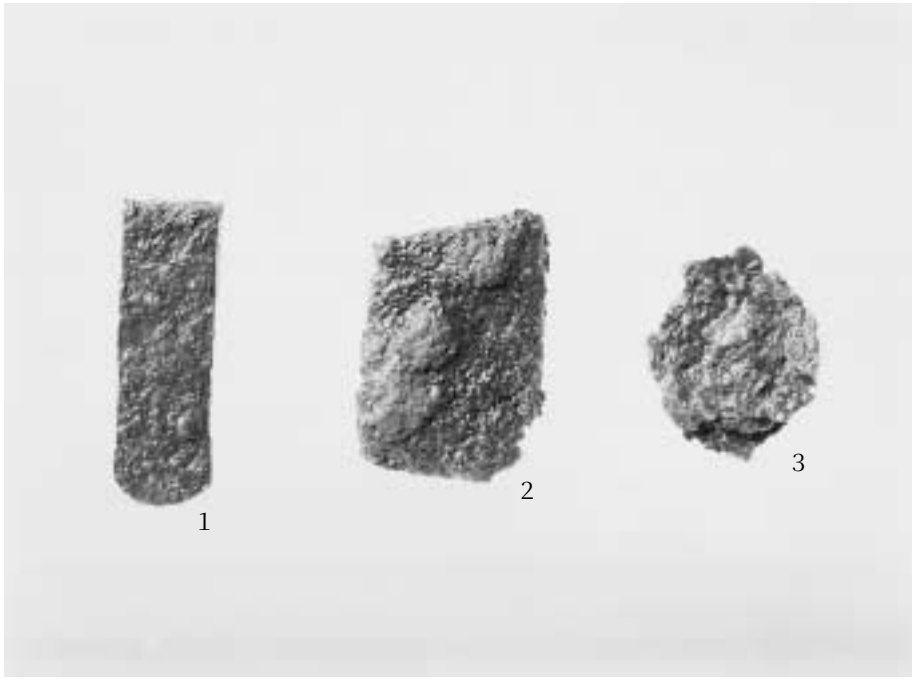


（1） ガラス製品生産関連遺物

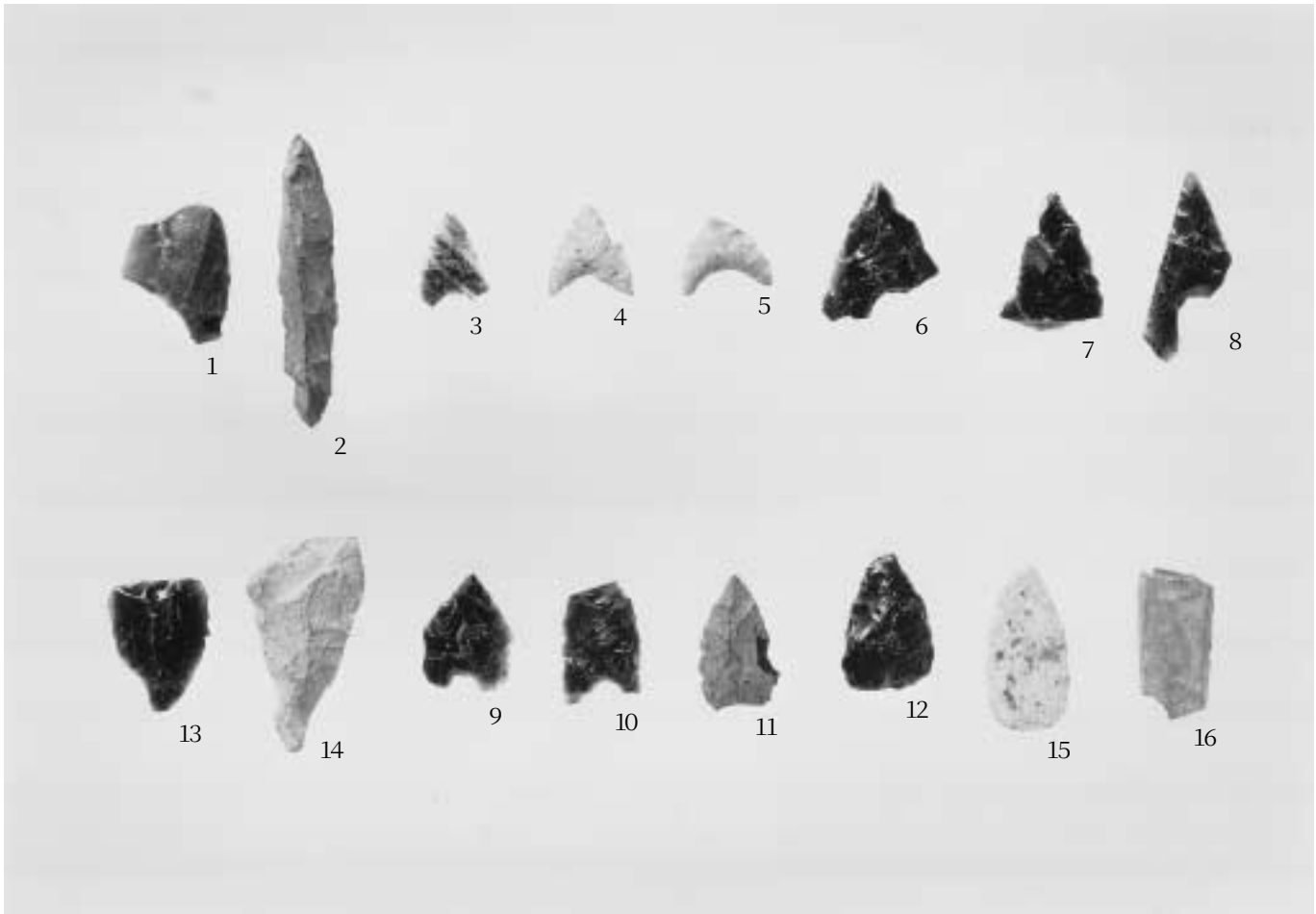
（2） 鏡　片

（3） 小　玉

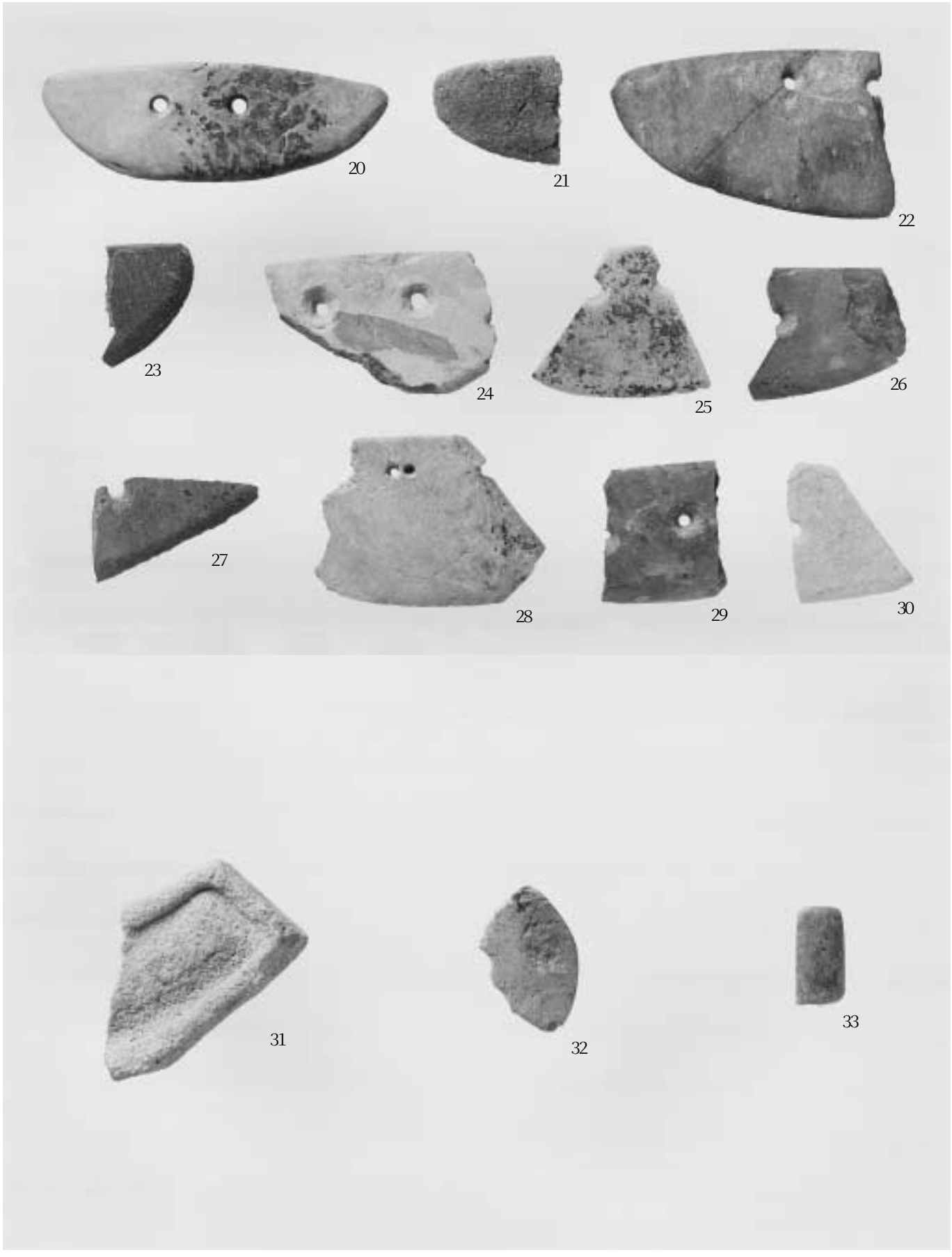
図版64



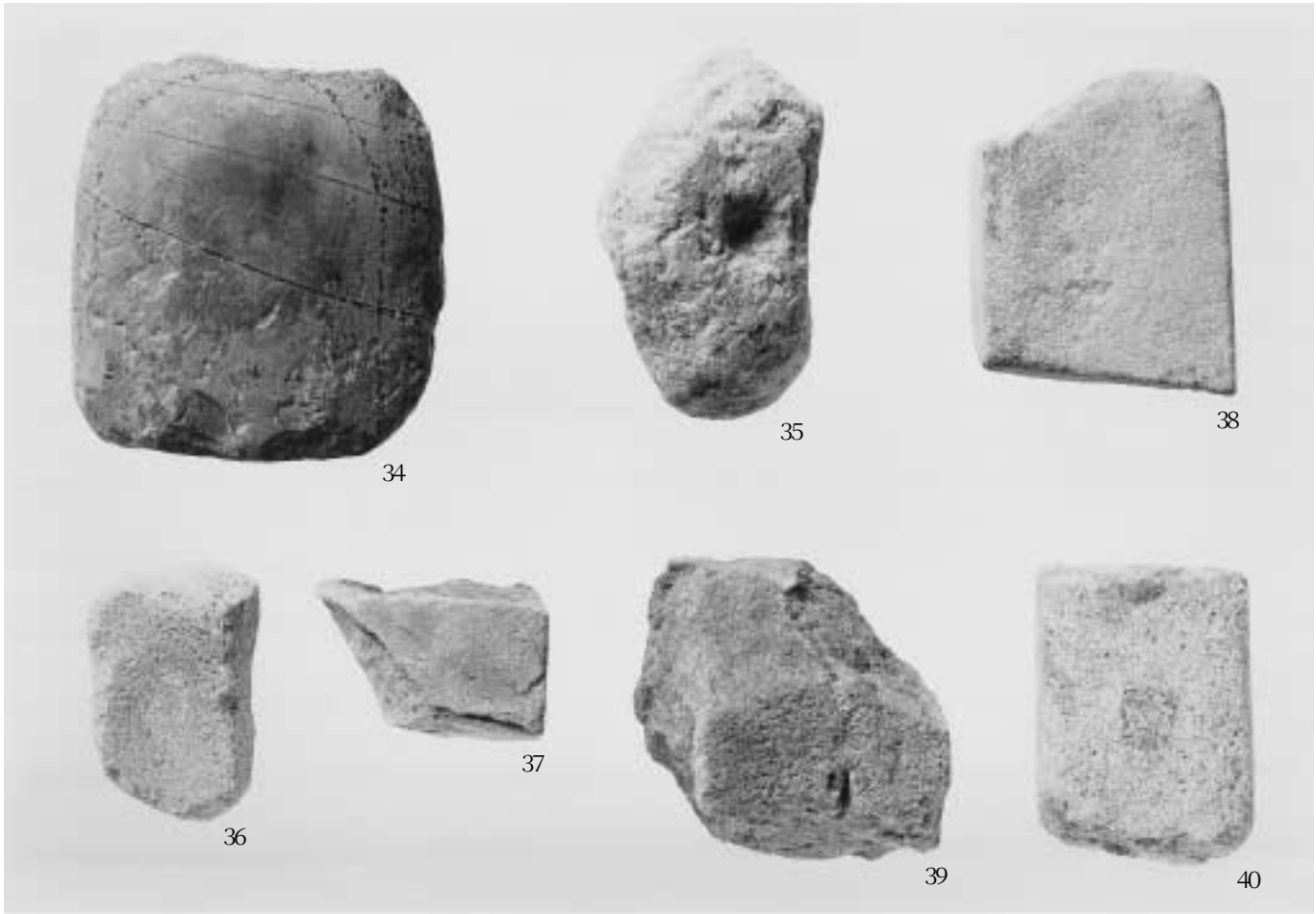
（1） 鉄　器

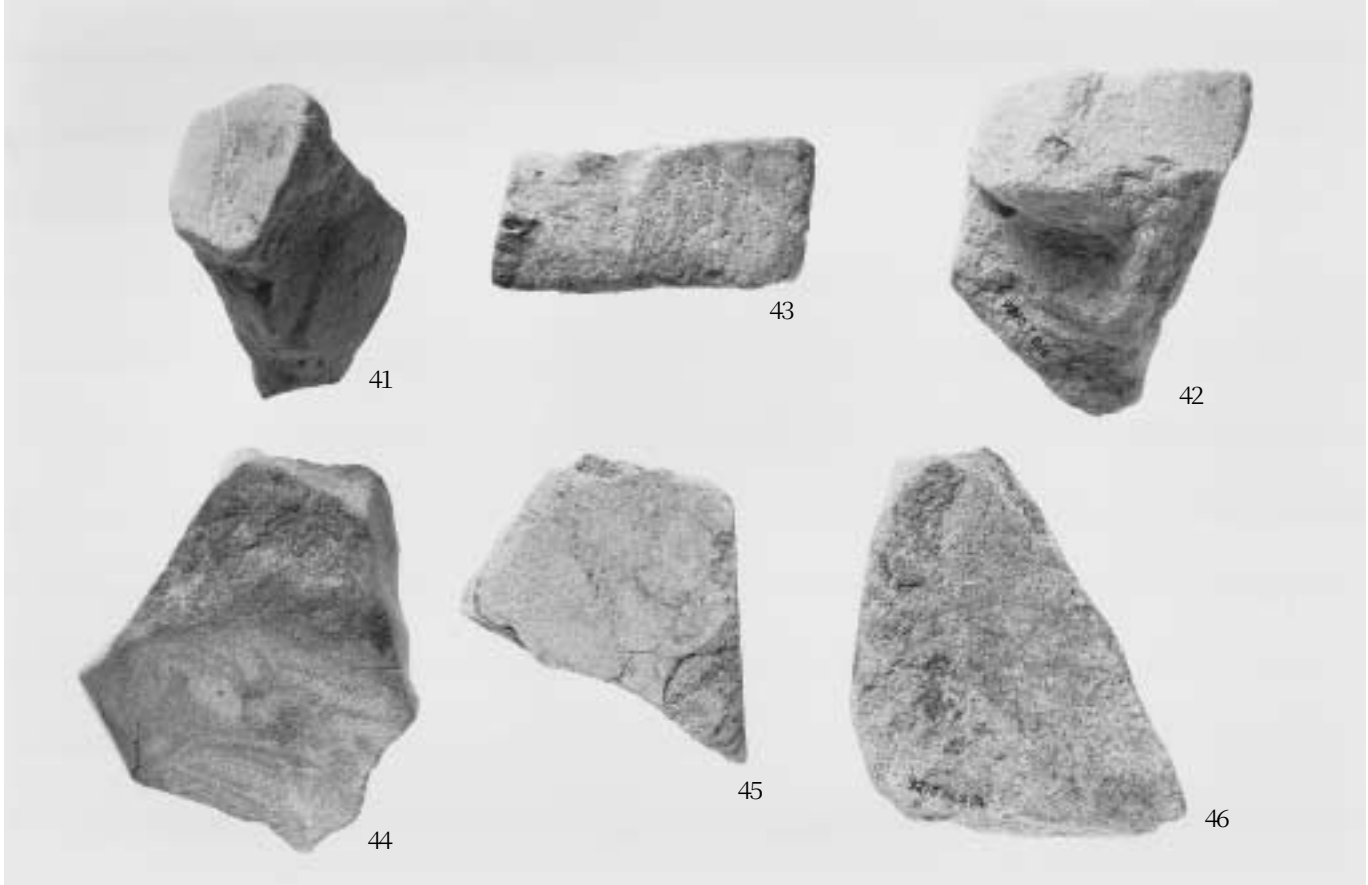


（2） 石　器①

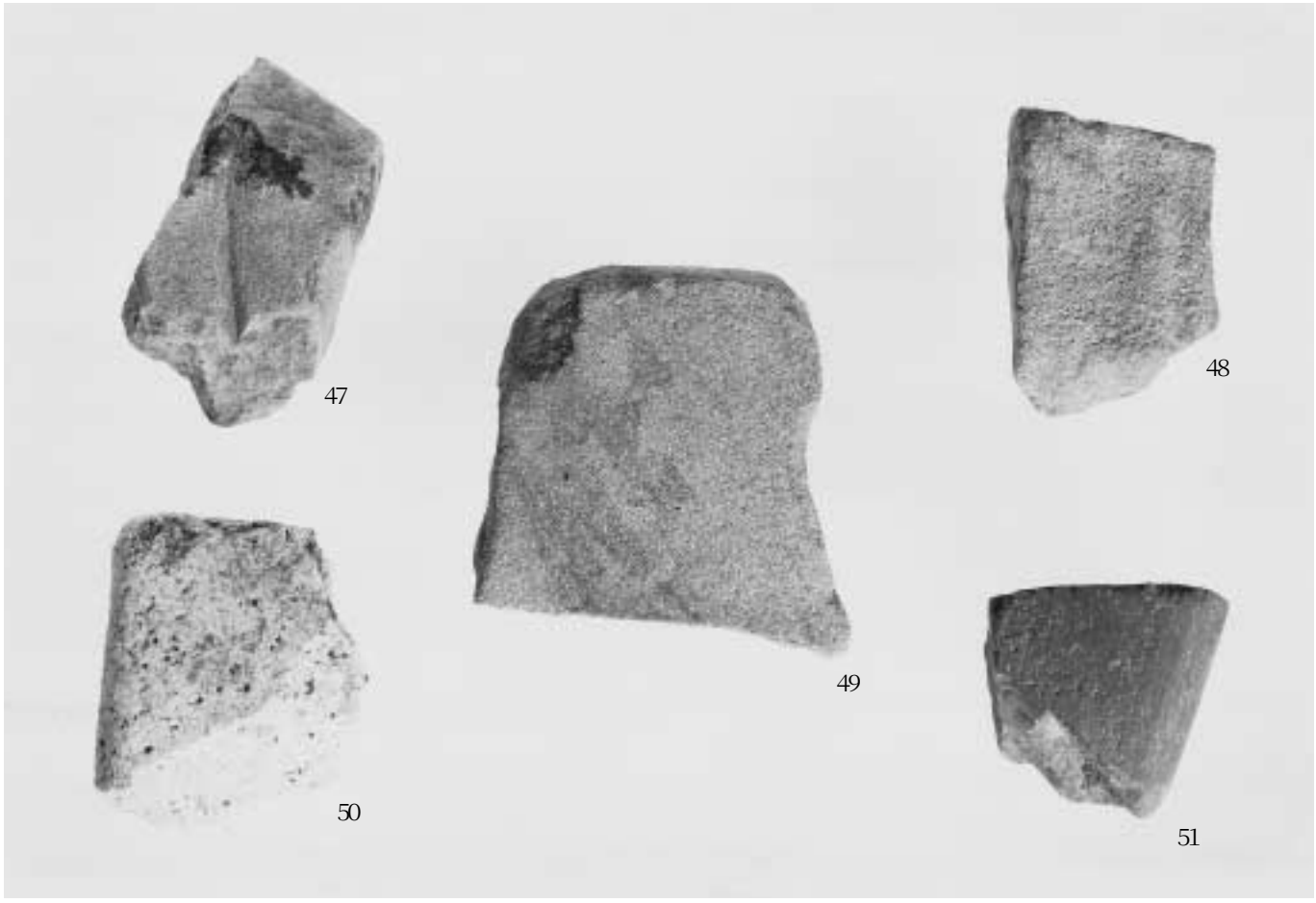


石　器②





石　器③



石　器④

報 告 書 抄 録

ふ り が な	すぐおかもといせき
書　　名	須玖岡本遺跡４
副 書 名	福岡県春日市岡本所在遺跡の調査
巻　　次	
シ リ ー ズ 名	春日市文化財調査報告書
シリーズ番号	第61集
編 著 者 名	平田定幸　吉田佳広　井上義也
編 集 機 関	春日市教育委員会
所　　在　　地	〒816－8501　福岡県春日市原町３丁目１番地５　　℡　092－584－1111
発 行 年 月 日	2011年３月31日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
須玖岡本遺跡（すぐおかもといせき）坂本地区（さかもとちく）	福岡県春日市岡本（ふくおかけんかすがしおかもと）１丁目（ちょうめ）77番（ばん）（３次（じ））・79番（ばん）（４次（じ））	40218		33°32′26″	130°26′59″	（３次）'92.1.10～'92.3.17 （４次）'92.9.21～'93.1.6	（３次）196㎡ （４次）530㎡	（３次）重要遺跡確認緊急調査 （４次）共同住宅建設に伴う緊急発掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
須玖岡本遺跡 坂本地区 ３・４次調査	青銅器工房跡	弥生	（３次） 土坑　１基 溝　16条 掘立柱建物跡　４棟 （４次） 土坑　４基 竪穴状遺構　２基 溝　７条 掘立柱建物跡　７棟	青銅器鋳型 中型 銅滓 坩堝／取瓶 弥生土器	弥生時代最大規模の青銅器工房跡。青銅器の各種鋳型をはじめ夥しい量の青銅器生産関連遺物が出土。

要　約

須玖岡本遺跡は、福岡平野南部に位置し、春日丘陵の北端付近に立地する。奴国の中心地であったとされる須玖遺跡群の中核的な遺跡で、坂本地区は当遺跡の北部を占める。

平成２年度の調査で、弥生時代後期を中心とする遺構から多量の青銅器生産関連遺物が出土したことによって青銅器工房跡と特定された。坂本地区の調査はこれまで都合６次に及ぶ調査を実施しており、本書は３・４次調査の報告である。

３・４次調査では、竪穴状遺構や溝など青銅器工房跡と推定される遺構を中心として多量の青銅器生産関連遺物が出土した。４次調査では中期末前後の土器に伴って青銅器生産関連遺物が出土しており、当遺跡における青銅器生産は中期に始まっていたものと推定される。

須玖岡本遺跡４

― 坂本地区３・４次調査の報告 ―

春日市文化財調査報告書第61集

2011年３月31日

発　行　春日市教育委員会
福岡県春日市原町３丁目１番地５

印　刷　株式会社　昭和堂　九州支店
福岡県福岡市博多区東比恵４-２-10